市会議員、神奈川県会議員等のほか、横浜商業会議所会頭、蚕糸貿易商組合頭取、正金銀行頭取、横浜電気鉄道(株)取締役等となる○在任(明43・2―大7・9)○大正8年9月18日死去

尾崎元次郎 おざきもとじろう　正七位　勲三等　同和会

明治3年9月生、本籍静岡県、同23年静岡中学校卒○同38年陸軍歩兵大尉となり、退役後静岡銀行監査役、静岡県地方森林会議員等となる、同45年衆議院議員当選、その後静岡市教育会長、大日本山林会評議員、静岡盲唖学校理事長、富士製茶(株)社長、静岡貯蓄銀行頭取、静岡電力(株)監査役、茶業中央会議所議員等となる○当選(衆)3回(11・12・13)○在任(貴)(大14・9―昭7・9)○昭和20年1月9日死去

大坂金助 おおさかきんすけ　勲四等　交友倶楽部

弘化2年10月生、本籍青森県○明治20年以降青森県会議員、衆議院議員、青森市会議長、青森市長等のほか、青森商業会議所会頭、青森商業銀行、青森貯蓄銀行の各頭取、青森瓦斯、青森電燈、青森倉庫、青森歌舞伎座の各会社社長等となる○当選(衆)2回(10・12)○在任(貴)(大7・12―9・8)○昭和23年9月21日死去

大澤徳太郎 おおさわとくたろう　正六位　勲三等　研究会

明治9年2月生、本籍京都府、同25年京都同志社卒○同年以降時計製造業を経営、(株)大沢商会、相互運輸(株)の各社長、日本レース(株)会長、大洋自動車(株)監査役、京都電燈(株)、高島屋各取締役、京都商業会議所会頭、同志社大学理事、百貨店委員会委員等となる○同38年及び大正14年欧米視察○在任(昭7・9―17・5)○昭和17年5月20日死去

大城兼義 おおしろかねよし　勲四等　交友倶楽部

明治4年6月生、本籍沖縄県、同29年長崎鎮西学院神学部沖縄支部卒○同42年以降沖縄県会議員、小禄村会議員等のほか、沖縄実業銀行重役、沖縄書籍(株)社長、沖縄書籍雑誌商組合長、大城無尽商会主等となる○在任(大14・9―昭7・9)○昭和26年11月11日死去

大寳陣 おおたからじん

明治4年11月生本籍愛知県○愛知開墾(株)取締役、大宝農林部(株)、旭産業(資)各代表となる○在任(明41・2―41・2)昭和29年12月17日死去

大谷嘉兵衛 おおたにかへえ　従四位　勲三等　茶話会

弘化元年12月生、本籍神奈川県○明治12年以降神奈川県会議員、横浜市会議員、同議長、横浜商業会議所会頭、茶業組合中央会議所会頭、横浜貿易商組合総理等のほか、第七十四銀行頭取、日本製茶(株)、日本紅茶(株)の各社長、東洋製茶(株)相談役、横浜取引所理事長等となる○同42年横浜商業会議所を代表して米国出張○在任(明40・10―42・11、大7・9―14・9)○昭和8年2月3日死去

大塚永蔵 おおつかえいぞう

嘉永2年1月生、本籍栃木県○明治5年以降同県下都賀郡卒島村副戸長、同郡豊田村長等のほか、(株)小山銀行頭取等となる○在任(明28・11―30・9)○大正8年4月30日死去

大西虎之助 おおにしとらのすけ　従六位　勲三等　交友倶楽部

明治23年2月生、本籍香川県、大正6年東京帝国大学法学部卒○同13年以降高松百十四銀行、琴平電鉄(株)、四国水力電気(株)各取締役、屋島登山鉄道(株)社長等となり、また小運送制度、医薬制度各調査会委員、拓務、大東亜各省委員等となる○在任(昭6・5―20・2)○昭和20年2月9日死去

大野木秀次郎 おおのぎひでじろう　交友倶楽部

明治28年11月生、本籍京都府、大正8年京都立命館卒○同10年以降(株)大野木紡織布工場取締役、洛東

織物合資会社代表社員、泊紡績(株)監査役、(株)大野木製作所社長、立命館大学理事、都新聞理事等となる、昭和22年以降参議院議員当選○当選(参)3回(1・2・4)在任(昭21・7―22・5)

大庭長九郎 おおばちょうくろう

天保11年6月生、本籍宮城県○明治22年以降栗原郡志波姫村長、栗原郡会議員、宮城県会議員、衆議院議員等のほか、宮城商業銀行監査役等となる○当選(衆)2回(3・5)在任(貴)(明41・10―42・7)○明治42年11月15日死去

大橋理祐 おおはしりすけ　従七位　勲四等　研究会

明治32年10月生、本籍京都府、同志社大学経済科修○大正12年陸軍歩兵少尉となり、のち同中尉に昇進、退役後京都商工会議所副会頭、西陣織物工業組合理事長、全日本絹織物工業組合連合会理事、綾部製作所社長、(株)三星、京和商事(株)各取締役等となり、また厚生省委員となる○在任(昭17・9―21・2)○昭和29年4月4日死去

大村彦太郎 おおむらひこたろう　正六位　研究会

明治2年3月生、本籍京都府、同20年英国留学○同28年以降東京日本橋において呉服太物業を経営、日本織物(株)、東京銀行の各監査役、京都府博覧会幹事長、東京商業会議所議員、同常議員等となる○在任(大7・9―14・9)○昭和2年12月13日死去

大森慶次郎 おおもりけいじろう

明治4年10月生、本籍山梨県○同29年以降大森銀行統理のほか、山梨県東八代郡会議員、同郡南八代村会議員等となる○在任(大7・9―8・7)

大矢馬太郎 おおやうまたろう

明治3年6月生、本籍岩手県○同34年以降盛岡市名誉職参事会員、盛岡市会議員、同議長等のほか、岩手県会議員、同議長、岩手県農工銀行、盛岡電気(株)各取締役となる、大正9年衆議院議員当選○当選(衆)1回(14)在任(大5・12―7・9)○昭和14年7月11日死去

大谷五平 おおたにごへい　正五位　勲四等　同成会

明治24年7月27日生、本籍福島県、大正2年明治大学商科卒○同5年以降白河実業銀行取締役、同頭取、郡山商業銀行、大谷醸造(株)、白河電燈(株)各取締役等のほか、五箇村会議員、五箇村長、白河町長等となり、また司法省委員となる○在任(昭14・9―21・4)○昭和33年4月26日死去

大家七平 おおやしちへい

慶応元年10月生、本籍石川県○明治29年以降日本海上保険(株)取締役、大阪瓦斯(株)社長、大家商船(資)代表社員、日本海運業同盟会阪神支部委員、大阪商工協会名誉会員等となる○在任(明44・9―45・5)○昭和4年1月29日死去

大藪守治 おおやぶもりじ　従六位　勲三等　研究会

明治16年10月生、本籍福岡県、早稲田大学修○同42年以降筑後水力電気(株)社長、九州水力電気(株)、筑後電気(株)、昭和電燈(株)各取締役、九州電気協会評議員、久留米商工会議所顧問等となる○在任(昭7・9―20・10)○昭和20年10月15日死去

大和田健三郎 おおわだけんざぶろう　勲四等　同成会

明治17年12月生、本籍茨城県、慶応義塾大学理財科修○大正6年以降石岡町町会議員のほか、新筑酒造、同醤油醸造の各組合長、鹿島参宮鉄道(株)、北総電気(株)、茨城電気(株)の各取締役等となる○在任(昭7・9―14・9)○昭和18年8月4日死去

太田清蔵 おおたせいぞう　正六位　交友倶楽部

文久3年8月生、本籍福岡県、漢学を修める○明治22年以降福岡市会議員、衆議院議員のほか、博多商業会議所会頭、福岡貯蓄銀行頭取、博多絹綿紡績(株)、博多湾鉄道汽船(株)各社長、東京湾土地(株)取締役等となる○当選(衆)1回(10)在任(貴)(大14・9―昭11・9)○昭和21年4月4日死去

太田平次 勲四等
天保11年9月生、本籍大阪府○明治22年以降堺附州煉化、堺倉庫各会社社長、泉州紡績、高野鉄道各会社取締役、堺銀行頭取、堺市商業会議所議員等となる。○在任(明33・12―37・9)○明治43年2月23日死去

岡崎藤吉 正六位 勲三等 研究会
安政3年3月生、本籍兵庫県、佐賀藩弘道館卒、東京工部大学予備門修、明治7年清国留学○同19年以降摂州灘興業会社取締役、岡崎汽船、神戸運送火災保険、神栄生糸、兵庫電気軌道各会社社長、岡崎銀行頭取等となる○大正2年欧米視察○在任(大14・9―昭2・11)○昭和2年11月26日死去

岡田太平治 勲四等
慶応元年7月生、本籍奈良県○明治25年以降奈良県会議員、同県平群郡安堵村会議員等となる○在任(明30・9―37・9)○大正5年10月26日死去

岡野是保
安政元年3月生、本籍石川県○明治12年以降石川県会議員、同常置委員、羽咋郡柏崎村会議員等となる○在任(明23・9―30・9)○大正4年9月28日死去

岡部勇作
安政6年4月生、本籍石川県、金沢市変則中学校修○明治19年以降石川県会議員、羽咋郡樋川村会議員、同郡会議員等となる○在任(明30・9―32・3)○明治32年3月24日死去

岡村喜萬太 勲四等
万延元年8月生、本籍熊本県○明治29年以降熊本県会議員、玉名郡会議員等となる○在任(明34・9―37・9)○大正10年9月3日死去

岡本榮吉 研究会
慶応2年6月生、本籍愛媛県○明治41年以降愛媛県新居郡大町村会議員、相続税審査、所得税調査各委員等となる○在任(大7・9―14・9)○昭和3年5月7日死去

岡谷惣助 勲四等
嘉永4年2月生、本籍愛知県○明治12年以降愛知県会議員、名古屋区会議員、同市会議員等のほか名古屋商業会議所副会頭、名古屋博物館副長等となり、また韓国銀行設立委員となる○在任(明42・1―44・9)○昭和2年2月8日死去

奥圭一郎 交友倶楽部
明治27年9月生、本籍京都府、大正8年慶応義塾大学理財科卒○昭和3年以降京都倉庫(株)社長、(株)丸物百貨店、愛宕山鉄道(株)各取締役、京都取引所理事長、京都府商工経済会評議員、(財)国民工業学院理事、日本証券取引所評議員等となる、昭和22年参議院議員当選○当選(参)1回(1)在任(昭17・5―22・5)

奥田榮之進 勲三等 研究会
元治元年2月生、本籍鹿児島県○明治31年以降鹿児島県会議員、同議長、同参事会員、衆議院議員等のほか、同県農会長、南薩鉄道(株)取締役、鹿児島新聞社社長等となる○当選(衆)4回(10 11 12 13)在任(貴)(大14・9―昭7・9)

奥田龜造 勲四等 研究会
明治5年3月生、本籍鳥取県、漢学を修める○同37年以降水産業に従事し、「オッター・トロール」業を開始、帝国水産会特別議員、角輪組社長等となり、また衆議院議員となる○当選(衆)1回(13)在任(貴)(大14・9―昭7・9)○昭和19年3月24日死去

奥村嘉藏 正八位 勲四等 研究会
明治18年12月生、本籍徳島県、同35年徳島県立徳島

中学校卒○徳島県板野郡藍園村会議員、同県会議員等のほか、阿波国共同汽船(株)、阿波製紙(株)の各取締役等となる○在任(昭16・2―22・5)

加藤宇兵衛 勲四等
文久元年12月生、本籍青森県○明治23年以降青森県会議員、同参事員、衆議院議員等のほか、同県農会名誉会員、黒石銀行頭取、津軽鉄道会社社長、津軽銀行、東北水産(株)、東北生命保険(株)、青森県農工銀行各取締役等となる○当選(衆)3回(7 8 12)在任(貴)(明40・1―44・9)○昭和4年8月22日死去

加藤正恵 正八位 勲四等
嘉永4年5月生、本籍愛媛県○明治15年以降多喜浜村黒島村戸長、多喜浜村郵便局長、同村会議員等となる○在任(明37・9―44・9)○昭和6年2月25日死去

河西豊太郎 従四位 勲三等 同成会
明治7年2月生、本籍山梨県、成器学舎卒○大正6年以降、衆議院議員のほか、東京商工会議所議員、日本実業協会、根津育英会の各常任理事、山梨開発協会顧問、東京電燈(株)、東京地下鉄道(株)各取締役、日本殖産興業(株)会長等となり、また中央経済再建整備委員会、教育刷新委員会の各委員となる○当選(衆)3回(13 16 17)在任(貴)(昭16・10―22・5)○昭和34年6月27日死去

河路重平 勲四等
嘉永6年7月生、本籍滋賀県○明治7年以降坂田郡第十六区戸長、長浜町会議員、同町長等のほか、第二十一、第六十四各国立銀行頭取、日本精米(株)、日本汽船(株)各取締役、近江製糸(株)、長浜生糸米穀取引所各監査役等となる○在任(明34・9―37・7)○明治37年7月13日死去

河田與惣左衛門
明治8年2月生、本籍秋田県○同35年以降(株)秋田銀行取締役となる○在任(明39・12―44・9)○昭和20年3月1日死去

海江田準一郎 正八位 勲四等
明治14年10月生、本籍鹿児島県、同39年慶応義塾大学法律科卒○同年一年志願兵となり、のち陸軍歩兵少尉となる、退役後日置郡西市来村会議員のほか、同郡米穀商同業組合長、海江田銀行頭取等となる、大正9年衆議院議員当選○当選(衆)1回(14)在任(大3・9―7・9)○昭和10年12月22日死去

海江田平治 勲四等
嘉永5年6月生、本籍鹿児島県○明治29年以降鹿児島県日置郡西市来村長となる○在任(明30・9―37・9)○大正2年7月22日死去

鹿毛信盛
嘉永3年1月生、本籍福岡県○明治11年以降福岡第十七国立銀行取締役、甘泉社社長、大阪第十七国立銀行、金島銀行各頭取等のほか、福岡県会議員、御井郡農業組合長、両筑十二郡精藍組組長等となる○在任(明23・9―30・9)○大正3年9月9日死去

風間八左衛門 勲四等 研究会
明治12年6月生、本籍京都府○大正6年以降京都府桂村会議員、衆議院議員等のほか、日本活動写真(株)、桜セメント(株)、帝国工業(株)の各取締役、(株)嶸峨銀行監査役等となり、またセメント製造業改善委員会、国家総動員審議会各委員等となる○当選(衆)1回(14)在任(貴)(大14・9―昭17・2)○昭和17年10月21日死去

片倉兼太郎 勲四等 同成会
明治17年9月生、本籍長野県○同35年以降製糸事業に従事、松本、岡谷各商工会議所会頭、大日本蚕糸会評議員、長野県製糸同業組合長、松本女子実業学校理事長、明道館館長、八十二銀行頭取、片倉製糸紡績(株)会長、太陽商事(株)社長等となり、また蚕

糸委員会、蚕糸調査会各委員等となる○在任(昭14・9―22・1)○昭和22年1月15日死去

勝田銀次郎 勲四等 茶話会

明治6年10月生、本籍兵庫県、東京英和学校高等科卒○大正6年以降神戸市会議員、同市参事会員、同学務委員、戦時船舶管理局評議員等となり、また臨時財政経済調査会、臨時委員、海事委員会委員等となる、昭和5年衆議院議員当選○当選(衆)1回(17)在任(大7・9―14・9)○昭和27年4月24日死去

金岡又左衛門 正五位 勲四等 同成会

明治17年2月生、本籍富山県、同39年金沢第四高等学校薬学部卒○大正6年以降富山商業会議所議員、同会頭、同米穀取引所理事、同県薬剤師会長、中越無尽(株)社長等となり、また医薬制度調査会委員等となる○在任(昭7・9―14・9)○昭和32年11月4日死去

金子元三郎 勲二等 研究会

明治2年4月生、本籍北海道○同22年以降漁業、海運業、海陸産物販売業に従事、金子(資)、定山渓鉄道(株)、北海道造林(資)各社長、豊山銀行、丁酉銀行各頭取、小樽商業会議所特別議員等のほか、小樽区長となり、また北海道拓殖計画調査会委員となる○当選(衆)3回(9 12 13)在任(貴)(大14・9―昭14・9)○昭和27年4月11日死去

金澤松右衛門

嘉永3年3月生、本籍秋田県○明治16年以降南秋田郡学務委員、同郡看町ほか連合町会議員、南秋田、河辺両郡連合町村会議員、南秋田郡会議員等となる○在任(明25・6―30・9)○大正13年9月18日死去

金須松三郎 従六位

天保14年12月生、本籍宮城県○明治22年以降仙台市名誉職参事会員、宮城県県会議員等となる○在任(明23・9―27・3)○明治27年3月20日死去

金成通 勲四等 研究会

明治12年6月生、本籍福島県○同44年以降福島県会議員、同参事会員、錦村村長等のほか、鮫南中堅農民学校校長、東部電力(株)顧問、植田水力電気(株)社長、盤東銀行、福島県農工銀行各取締役等となる○在任(昭7・9―14・9)○昭和26年8月10日死去

蟹江史郎

文政10年3月生、本籍愛知県○明治6年以降藤島、伊福部両社祠官、郷村社祠官掌取締等となる○在任(明23・9―30・9)○明治36年12月12日死去

鏑木忠正 正六位 研究会

明治21年8月生、本籍東京都、大正2年東京帝国大学農学部、同9年同法学部卒○同10年以降岐阜県属、同警視、群馬県理事官、商工省鉱山監督局書記官、衆議院議員等のほか、昭和医学専門学校理事長、荏原自動車(株)社長、帝国図書(株)、三伸商事(株)の各会長、地方事務官、東京財務局管内不動産評価委員会委員等となる○当選(衆)2回(17 19)在任(貴)(昭21・9―22・5)

鎌田勝太郎 従五位 勲三等 交友倶楽部

文久2年正月生、本籍香川県○明治16年以降塩産会社、讃岐紡績(株)各社長、坂出銀行頭取、讃岐鉄道(株)、高松銀行各取締役等のほか、香川県会議員、同議長、同県教育会長、塩業調査委員等となる○当選(衆)1回(4)在任(貴)(明30・9―37・10、38・1―大14・9)○昭和17年3月28日死去

神野金之助 勲四等

嘉永2年4月生、本籍愛知県○明治6年以降海西郡江西村ほか九カ村戸長、塩業調査会委員等のほか、愛知県農会常議員、(株)明治銀行頭取、尾三農工銀

行取締役等となる○在任(明37・9―39・9)○大正11年2月20日死去

神戸政次

嘉永2年9月生、本籍宮崎県○明治11年以降南那珂郡都井村大納村戸長、同西方村連合村会議員、宮崎県会議員等となる○在任(明26・10―30・9)○大正14年7月27日死去

川崎正蔵

天保8年7月生、本籍兵庫県○明治6年以降日本郵便汽船会社副頭取、西洋形造船所を経営のほか、東京商法会議所議員、共同運輸会社発起人等となる○在任(明23・9―30・9)○大正元年12月30日死去

川本泉

明治28年9月生、本籍広島県、大正8年明治大学法科卒○昭和8年以降広島市会議員、同副議長等となる○在任(昭22・3―22・5)

木村誓太郎 勲三等

弘化4年1月生、本籍三重県○明治12年以降三重県会議員、同副議長、同議長、衆議院議員等となり、また米価調節調査会委員となる○当選(衆)5回(3 4 5 6 7)在任(貴)(明37・9―大7・9)○大正8年7月25日死去

木村利右衛門

天保5年11月生、本籍神奈川県○明治12年以降神奈川県会議員、横浜市会議員、同参事会員、同参事会員、横浜株式取引所理事長等のほか、横浜共同電燈、電線製造、横浜貿易倉庫各会社社長、正金銀行、東京瓦斯紡績会社の各取締役等となる○在任(明35・7―36・6)○昭和3年5月31日死去

木本源吉 従六位 勲四等

明治5年5月生、本籍奈良県○同28年以降奈良県勧業諮問会員、大阪税務管理局名誉税務顧問、奈良県組合銀行集会所委員長、衆議院議員、奈良市参事会員、同市会議員、同市長、同教育会長等となり、また衆議院議員選挙法改正調査会委員となる○当選(衆)2回(7 8)在任(貴)(明44・9―大7・9)○昭和19年1月5日死去

菊地三郎

安政5年7月生、本籍栃木県○明治20年以降河内郡所得税調査委員、栃木県勧業諮問会員等となる○在任(明23・9―28・7)○明治28年7月25日死去

菊池長四郎 勲四等

嘉永5年12月生、本籍東京都○明治21年以降日本橋区会議員、東京府会議員、東京商業会議所議員等となる○在任(明30・9―40・8)○大正9年8月28日死去

岸本豊太郎

万延元年2月生、本籍兵庫県○明治21年以降神戸市湊西区会議員、同市会議員、兵庫県会議員、神戸商業会議所議員、同会頭、兵庫県防疫、済生会各評議員等となる○在任(明44・9―44・12)○明治44年12月31日死去

北村宗四郎 勲四等 研究会

明治3年10月生、本籍奈良県○同25年第三高等中学校予科卒○同34年以降上市町会議員、大日本山林会評議員、帝国森林会理事等のほか、吉野銀行、同鉄道(株)各取締役等となる○在任(大14・9―昭7・9)○昭和10年9月23日死去

清末新郎治

安政2年5月生、本籍大分県○明治13年以降高田村会議員、西国東郡会議員、同参事会員、同高田郵便電信局長、大分県木蠟業組合長、西国東郡農会長等のほか、共立高田銀行頭取、豊州製蠟(株)社長、(株)宇佐参宮鉄道取締役等となる○在任(大7・7―7・9)○昭和3年9月17日死去

清瀬善三 勲四等
天保4年5月生、本籍大分県○明治12年以降四日市村会議員、同町会議員、宇佐郡会議員等のほか、共立四日市銀行取締役となる○在任(明37・9—44・9)○明治45年7月4日死去

工藤八之助 従六位 交友倶楽部
明治4年2月生、本籍山形県、漢学を修める○同33年以降西村山郡高松村会議員、同郡会議員、同議長、同農会長、同村長、山形県会議員、同参事会員等のほか、羽前製糸(株)社長等となる○在任(大14・9—昭3・8)○昭和3年8月21日死去

工藤寛得
嘉永元年12月生、本籍岩手県○明治12年以降北岩手郡会議員、同郡各村連合会議員等となる○在任(明23・9—24・6)○明治44年12月17日死去

久保市三郎 従四位 勲四等 研究会
慶応3年7月生、本籍栃木県、明治26年慶応義塾大学理財科卒○同33年以降久下田銀行、栃木県農工銀行の各頭取、下野新聞(株)会長、日光登山鉄道(株)相談役、宇都宮商工会議所顧問、栃木県銀行同盟会長、同社会事業協会副会長、芳賀郡教育会会長、栃木地方森林会議員等のほか、芳賀郡中村村会議員、同村長等となる○在任(明40・9—44・9、昭7・9—14・9)○昭和31年3月1日死去

久保田眞吾
天保11年10月生、本籍大阪府○明治6年以降河内国第二大区四小区区長、同学務委員、高安郡府会議員、中高安村村長等となる○在任(明23・9—30・9)○大正6年7月1日死去

久米唯次
天保14年10月生、本籍愛媛県○農業○在任(明30・9—31・6)○大正4年4月25日死去

久米田新太郎 勲四等 研究会
明治3年8月生、本籍鹿児島県○同31年以降鹿児島市米穀商同業組合評議員、鹿児島商工会議所会頭、同商工会連合会会長、鹿児島県米穀、肥料、木炭各同業組合長、鹿児島郵船(株)、大隅鉄道(株)各社長等となる○在任(昭7・9—14・9)○昭和15年8月3日死去

熊谷三太郎 勲四等 同成会
明治4年10月生、本籍福井県、福井県立中学校修○大正14年以降福井市会議員、同議長、福井県会議員等のほか、熊谷組社長、同会長、第五十七銀行、中越銀行各頭取、敦賀セメント(株)社長等となる○在任(明40・9—44・9、昭7・9—14・9)○昭和31年3月1日死去

栗林徳一 勲四等 研究会
明治29年3月生、本籍北海道、大正7年小樽高等商業学校卒○同年以降栗林合名会社社員、(株)栗林商会、栗林商船(株)各社長、室蘭船渠(株)、南洋興発(株)各取締役、室蘭商工会議所会頭、胆振縦貫鉄道(株)会長等となり、また北海道地方電力調整委員会委員等となる○昭和7年欧米視察○在任(昭14・9—21・5) S56.12.27 死

黒澤富次郎 同成会
明治24年4月生、本籍長野県、同44年長野県立野沢中学校卒○昭和17年以降佐久通運(株)、南佐久木材(株)各社長、長野電鉄(株)取締役等となる○在任(昭21・12—22・5) S47.8.29. 死

桑田熊蔵 正五位 勲三等
明治元年11月生、本籍鳥取県、帝国大学法科大学卒、法学博士○文部省参政官のほか、東京帝国大学講師、臨時博覧会評議員、教育調査会会員、経済調査会委員等となる○露国視察○在任(明37・9—大7・9)○昭和7年12月10日死去

桑田藤十郎
嘉永5年5月生、本籍鳥取県○明治15年以降鳥取県会議員、久米郡会議員、所得税調査委員等となる○在任(明23・9—30・9)○明治38年8月25日死去

桑原善吉 研究会
安政5年8月生、本籍岐阜県○明治10年以降岐阜県会議員、同市会議員等のほか、同商業会議所会頭、同県地方森林会議員、岐阜材木同業組合会頭、十六銀行頭取等となる○在任(大10・10—14・9)○昭和9年4月30日死去

見目清 勲四等 研究会
明治16年11月生、本籍栃木県、早稲田大学政治経済科修○同43年以降北高根津村会議員、栃木県会議員、同副議長、同県地方森林会議員等のほか、宝積寺、下野実業、下野中央各銀行頭取、下野新聞社監査役、東野鉄道(株)、宇都宮瓦斯(株)各取締役等となる○在任(昭4・11—7・9)

小暮英三郎
天保14年9月生、本籍群馬県○明治4年以降佐波郡太田村正心学校頭取、群馬県会議員、所得税調査委員、三郷村長等のほか、伊勢崎町製糸所共研会社、伊勢崎銀行の各頭取等となる○在任(明30・1—30・9)○大正15・年1月24日死去

小坂梅吉 勲四等 同成会
明治6年11月生、本籍東京都、同25年工学院採鉱冶金科卒○大正2年以降京橋区会議員、同議長、東京市会議員、同参事会員、同学務委員長、同区画整理委員会委員長、京橋区教育会長、衆議院議員等のほか、(株)新橋演舞場取締役、(資)大松閣社長等となる○昭和9年欧米視察○当選(衆)1回(19)在任(貴)(昭14・9—19・12)○昭和19年12月2日死去

小坂順造 正五位 勲二等 同成会
明治14年3月生、本籍長野県、同37年東京高等商業学校卒○同年以降日本銀行書記、信濃毎日新聞(株)信越化学工業(株)各社長、信濃銀行、矢作水力(株)、各取締役等のほか、長野商業会議所会頭となり、衆議院議員当選後、農商務大臣秘書官、同省参事官、拓務政務次官等となり、また枢密顧問官のほか、電力審議会委員、鉄道会議議員等となる○欧米視察○当選(衆)6回(11 12 14 16 17 18)、在任(貴)(昭7・9—21・9)○昭和35年10月16日死去

小鹽八郎右衛門 勲四等 交友倶楽部
慶応元年11月生、本籍神奈川県、漢学を修める○明治22年以降相川村収入役、同村長、同農会長、同村会議員、地方森林会議員、神奈川県会議員、同農会副会長、衆議院議員等のほか、神奈川県農工銀行頭取等となる○当選(衆)2回(13 14)在任(貴)(大14・9—昭7・9)○昭和22年1月17日死去

小林嘉平治 正六位 勲二等 同和会
明治9年1月生、本籍三重県、同34年東京帝国大学文科大学卒○同44年以降三重県会議員、衆議院議員、三重県農会特別議員、同評議員等のほか、三重県農工銀行頭取、三重合同電気(株)監査役、朝熊登山鉄道(株)取締役等となる○当選(衆)2回(12 13)在任(貴)(大14・9—昭15・12)○昭和15年12月28日死去

小林小太郎
弘化3年7月生、本籍山梨県○明治5年以降巨摩郡第三十区、同郡増穂村の各戸長、増穂村長、巨摩郡参事会員、南巨摩郡所得税調査委員等となる○在任(明27・12—30・9)○明治34年2月4日死去

小林暢 従六位 勲四等 研究会
明治12年10月生、本籍長野県、私塾にて経済学を修める○同36年以降信濃電気(株)取締役、六十三銀行、長野農工銀行各頭取等のほか、更級郡信田郵便局長、同村会議員、長野商業会議所特別議員、信濃

山林会副会長、長野地方森林会議員等となる○在任(大14・9―昭7・9)○昭和10年1月2日死去

小林八右衛門(こばやし はちえもん) 同成会

明治2年7月生、本籍山梨県、東京専門学校政治科修○同33年以降増穂村学務委員、同村会議員、山梨県会議員、南巨摩郡立第一養蚕伝習所長等のほか、小林銀行頭取、山梨農工銀行、有信銀行各監査役等となる○在任(大12・12―14・9)○昭和14年1月1日死去

五藤正形(ごとう まさき) 勲四等

慶応2年8月生、本籍高知県○明治25年以降高知市会議員、同県会議員等のほか、土佐貯金銀行頭取等となる○在任(明37・9―39・9)○昭和11年12月17日死去

上郎清助(こうろう せいすけ) 従六位 勲四等 研究会

文久3年10月生、本籍神奈川県、明治23年帝国大学政治理財科卒○横浜中央銀行、上信銀行各頭取、横浜信託(株)、東神冷蔵製氷(株)各社長等のほか、横浜商工会議所議員、同市会議員、神奈川県会議員、裁判所調停委員等となる○在任(昭2・8―13・2)○昭和13年2月18日死去

合田健吉(ごうだ けんきち) 正八位 交友倶楽部

明治30年6月生、本籍香川県、早稲田大学商科修○昭和3年以降屋島登山鉄道(株)取締役、協和鉄工所社長、多度津銀行監査役、早稲田大学評議員等のほか、多度津町社会教育委員、同農業会監事等となる○大正11年欧米視察○在任(昭20・6―22・5)

荒野由次郎(こうの よしじろう) 勲四等

安政5年4月生、本籍茨城県○農業○在任(明31・7―32・1、32・4―37・9)○明治44年5月9日死去

左右田喜一郎(さうだ きいちろう) 研究会

明治14年2月生、本籍神奈川県、同37年東京高等商業学校専攻部卒、同年英、独、仏留学、法学博士○大正2年以降東京商科大学、京都帝国大学文学部各講師、横浜商業会議所議員、同社会館長、同社会問題研究所長等のほか、左右田銀行頭取、(株)横浜商品倉庫、京浜土地(株)各社長等となる○在任(大14・9―昭2・3)○昭和2年8月11日死去

左右田金作(さうだ きんさく)

嘉永2年10月生、本籍神奈川県○明治23年以降横浜市会議員、同区会議員、神奈川県会議員、横浜商業会議所常務委員等のほか、左右田銀行頭取、左右田貯蓄銀行、利根運河(株)各取締役等となる○在任(明39・9―40・7)○大正2年3月26日死去

佐々木嘉太郎(ささき かたろう) 勲四等

天保12年6月生、本籍青森県○明治22年以降北津軽郡会議員、県税調査委員等のほか、五所川原銀行頭取、青森県農工銀行取締役等となる○在任(明37・9―39・10)○大正3年12月3日死去

佐々木嘉太郎(ささき かたろう) 勲四等 研究会

明治12年5月生、本籍青森県○大正4年以降五所川原町会議員、青森司法保護常設委員会参与等のほか、佐々木、青森各銀行頭取、(株)佐々木倉庫社長、津軽酒造(株)、同鉄道(株)、青森臨港倉庫(株)各取締役等となる○在任(昭14・9―22・5)

佐々木志賀二(ささき しかじ) 正六位 勲四等 研究会

明治15年2月生、本籍岡山県、同42年東京帝国大学法科大学卒○同43年以降朝鮮総督府試補、同事務官、京畿道第二部長等を歴任ののち衆議院議員となる○当選(衆)1回(14)在任(貴)(大14・9―昭7・9)○昭和9年9月18日死去

佐々木長治(ささき ちょうじ) 勲四等 研究会

明治27年2月生、本籍愛媛県、大正5年東京高等商業学校卒○同6年以降西南銀行、予州銀行各頭取、日ノ出産業(株)社長、聖居金山(株)取締役、伊予鉄道電気(株)監査役等のほか、八幡浜商工会議所、愛媛県商工経済会各会頭、伊方郵便局長、西宇和郡会議員、同郡農会長、衆議院議員等となり、また外務省委員のほか八幡浜市長等となる○当選(衆)2回(15・16)在任(貴)(昭14・9―22・5)

佐々木八十八(ささき やそはち) 従七位 勲三等 同和会

明治7年5月生、本籍大阪府○大正12年以降大阪市東区会議員、同市船場教育会評議員等のほか、台湾移出同盟会長、大阪雑貨倶楽部社長、昭和繊維製品(株)相談役、(株)佐々木営業部、レナウンメリヤス工業(株)各監査役等となり、また少年保護司事務嘱託となる○在任(昭6・8―22・5)○昭和32年9月19日死去

佐々田懋(ささだ すすむ) 勲四等

安政2年11月生、本籍島根県○明治7年以降那賀郡会議員、島根県会議員、同議長、衆議院議員等となる○当選(衆)3回(1・2・3)在任(貴)(明44・9―大7・9)○昭和10年3月27日死去

佐藤伊左衛門(さとう いざえもん) 勲四等

安政5年3月生、本籍新潟県○農業○在任(明37・9―41・10)○明治41年10月10日死去

佐藤龜八郎(さとう かめはちろう) 従六位 勲四等 研究会

明治4年10月生、本籍宮城県、同22年宮城県立農学校卒○同36年以降宮城県会議員、同県中田村会議員、同県農会長、同県産米改良協会会頭、帝国農会議員、同県販売購買組合連合会理事長、仙台商工会議所議員等のほか、宮城県農工銀行頭取となる○在任(昭7・9―11・7)○昭和11年7月15日死去

佐藤喜八郎(さとう きはちろう)

弘化2年7月生、本籍島根県○明治6年以降島根県第六区戸長、松江市会議員、同市所得税調査委員、同市名誉参事会員、臨時世界博覧会委員、松江市会議長等となる○在任(明30・9―33・7)○大正9年3月6日死去

佐藤國彦(さとう くにひこ) 勲四等

文政11年6月生、本籍大分県○明治17年以降同県岩崎村外九カ村戸長となる○在任(明32・7―37・9)○明治44年2月19日死去

佐藤源蔵(さとう げんぞう)

安政4年10月生、本籍青森県○明治40年以降同県田舎館村会議員、田舎館信用組合長等のほか、黒石銀行、津軽銀行各取締役等となる○在任(明44・9―大2・10)○昭和12年1月16日死去

佐藤信古(さとう しんこ) 勲四等 交友倶楽部

明治6年2月生、本籍山形県、二松学舎、哲学館修○同38年以降北洋漁業(株)取締役、共益倉庫(株)社長等のほか、栄村会議員、東田川郡会議員、衆議院議員、栄村長、東田川郡育英会理事長、同教育会理事等となる○当選(衆)1回(11)在任(貴)(昭3・12―7・9)○昭和17年9月7日死去

佐藤助九郎(さとう すけくろう) 従六位 勲七等

明治3年8月生、本籍富山県○同36年以降東砺波郡柳瀬村長、同郡会議員、同議長等のほか、戸出貯金銀行、中越銀行各取締役、富山県農工銀行、高岡共立銀行各監査役等となる○在任(明44・9―大3・8)○昭和6年10月30日死去

佐藤助九郎(さとう すけくろう) 勲四等 同成会

明治29年10月生、本籍富山県、大正7年早稲田大学専門部政治経済科卒○同8年以降中越銀行勤務、富山県スキー連盟会長、富山鉄道(株)、佐藤工業(株)の各社長、高岡新聞社、(株)高岡劇場の各取締役、中越無尽(株)監査役等のほか、柳瀬村長、同村産業組合長、同村農会長等となる○在任(昭14・9―22・5)

業学校卒○同6年以降西南銀行、予州銀行各頭取、日ノ出産業(株)社長、聖居金山(株)取締役、伊予鉄道電気(株)監査役等のほか、八幡浜商工会議所、愛媛県商工経済会各会頭、伊方郵便局長、西宇和郡会議員、同郡農会長、衆議院議員等となり、また外務省委員のほか八幡浜市長等となる○当選(衆)2回(15・16)在任(貴)(昭14・9―22・5)

佐々木八十八(ささき やそはち) 従七位 勲三等 同和会

明治7年5月生、本籍大阪府○大正12年以降大阪市東区会議員、同市船場教育会評議員等のほか、台湾移出同盟会長、大阪雑貨倶楽部社長、昭和繊維製品(株)相談役、(株)佐々木営業部、レナウンメリヤス工業(株)各監査役等となり、また少年保護司事務嘱託となる○在任(昭6・8―22・5)○昭和32年9月19日死去

佐々田懋(ささだ すすむ) 勲四等

安政2年11月生、本籍島根県○明治7年以降那賀郡会議員、島根県会議員、同議長、衆議院議員等となる○当選(衆)3回(1・2・3)在任(貴)(明44・9―大7・9)○昭和10年3月27日死去

佐藤伊左衛門(さとう いざえもん) 勲四等

安政5年3月生、本籍新潟県○農業○在任(明37・9―41・10)○明治41年10月10日死去

佐藤龜八郎(さとう かめはちろう) 従六位 勲四等 研究会

明治4年10月生、本籍宮城県、同22年宮城県立農学校卒○同36年以降宮城県会議員、同県中田村会議員、同県農会長、同県産米改良協会会頭、帝国農会議員、同県販売購買組合連合会理事長、仙台商工会議所議員等のほか、宮城県農工銀行頭取となる○在任(昭7・9―11・7)○昭和11年7月15日死去

佐藤喜八郎(さとう きはちろう)

弘化2年7月生、本籍島根県○明治6年以降島根県第六区戸長、松江市会議員、同市所得税調査委員、同市名誉参事会員、臨時世界博覧会委員、松江市会議長等となる○在任(明30・9―33・7)○大正9年3月6日死去

佐藤國彦(さとう くにひこ) 勲四等

文政11年6月生、本籍大分県○明治17年以降同県岩崎村外九カ村戸長となる○在任(明32・7―37・9)○明治44年2月19日死去

佐藤源蔵(さとう げんぞう)

安政4年10月生、本籍青森県○明治40年以降同県田舎館村会議員、田舎館信用組合長等のほか、黒石銀行、津軽銀行各取締役等となる○在任(明44・9―大2・10)○昭和12年1月16日死去

佐藤信古(さとう しんこ) 勲四等 交友倶楽部

明治6年2月生、本籍山形県、二松学舎、哲学館修○同38年以降北洋漁業(株)取締役、共益倉庫(株)社長等のほか、栄村会議員、東田川郡会議員、衆議院議員、栄村長、東田川郡育英会理事長、同教育会理事等となる○当選(衆)1回(11)在任(貴)(昭3・12―7・9)○昭和17年9月7日死去

佐藤助九郎(さとう すけくろう) 従六位 勲七等

明治3年8月生、本籍富山県○同36年以降東砺波郡柳瀬村長、同郡会議員、同議長等のほか、戸出貯金銀行、中越銀行各取締役、富山県農工銀行、高岡共立銀行各監査役等となる○在任(明44・9―大3・8)○昭和6年10月30日死去

佐藤助九郎(さとう すけくろう) 勲四等 同成会

明治29年10月生、本籍富山県、大正7年早稲田大学専門部政治経済科卒○同8年以降中越銀行勤務、富山県スキー連盟会長、富山鉄道(株)、佐藤工業(株)の各社長、高岡新聞社、(株)高岡劇場の各取締役、中越無尽(株)監査役等のほか、柳瀬村長、同村産業組合長、同村農会長等となる○在任(昭14・9―22・5)

佐藤 清右衛門
弘化3年5月生、本籍岩手県○在任(明25・6―30・9)○昭和4年2月5日死去

佐藤 惣之助 正七位 同成会
明治28年5月生、本籍宮城県○大正10年北海道帝国大学農学部卒○同年以降農商務省嘱託、同技手、商工技師等を歴任のほか、宮城県中田村助役、同村会議員、宮城県会議員、同農会特別議員等となり、また宮城県農工銀行監査役、北上無線(株)取締役、宮城化学肥料(株)理事等となる○昭和4年欧米出張○在任(昭21・9―22・5)

佐藤 傳兵衛 研究会
嘉永6年12月生、本籍福島県○明治17年以降同県郡山村会議員、同町会議員、安積郡会議員、郡山本町郵便局長等のほか、郡山電気(株)取締役、郡山絹糸紡績(株)、郡山カーバイド(株)、大日本紡績(株)各監査役等となる○在任(大7・9―14・9)○昭和13年8月11日死去

佐藤 友右衛門 正六位 勲三等 交友倶楽部
安政3年7月生、本籍新潟県○農業、議員就任後、小作制度調査委員となる○在任(明44・9―大14・9)○昭和8年8月20日死去

佐藤 秀蔵
嘉永4年3月生、本籍岩手県○明治31年以降同県摺沢村会議員、東磐井郡会議員、所得税調査委員等のほか、八十八銀行取締役、横尾(株)社長、陸中国東山製糸組合長等となる○在任(明42・5―44・9)○昭和9年3月27日死去

相良 安之助 勲四等 交友倶楽部
明治5年2月生、本籍鹿児島県、明治法律学校修○同30年以降鹿児島市柳町衛生組合組長、県衛生組合連合会会長、鹿児島市会議員、同市商業会議所議員、同県会議員等のほか、鹿児島肥料(株)、鹿児島銀行、鹿児島朝日新聞社各取締役等となる○在任(昭6・7―7・9)○昭和23年6月8日死去

齋藤 喜十郎 勲四等 研究会
元治元年7月生、本籍新潟県、明治法律学校修○大正4年衆議院議員となるほか、新潟商業会議所特別議員、都市計画新潟地方委員会委員、所得税調査委員等となり、また新潟銀行頭取、新潟貯蓄銀行、新潟汽船(株)各取締役、越後鉄道(株)、新潟水力電気(株)社長等となる○当選(衆)1回(12)在任(貴)(大14・9―昭7・9)○昭和16年1月13日死去

齋藤 善八 勲四等 同成会
慶応2年5月生、本籍埼玉県○明治36年以降埼玉農工銀行、岩槻電気軌道(株)、岩槻自動車(株)、埼玉電灯(株)、武刕銀行各取締役等のほか、宅地貸貸価格調査委員、営業税審査委員等となる○在任(大11・9―昭7・9)○昭和19年11月13日死去

齋藤 萬壽雄 勲四等 研究会
明治22年5月生、本籍千葉県、同42年大多喜中学校卒○大正6年以降西畑村会議員、同村長、千葉県会議員、地方森林会議員等のほか、西畑酒造(株)、西畑水電(株)、千葉地方木材(株)各社長、桜組工業(株)監査役等となる○在任(昭14・9―22・5)○昭和29年3月26日死去

齋藤 安雄 従五位 勲三等
慶応元年6月生、本籍埼玉県、明治18年埼玉県立師範学校卒○同27年以降埼玉県会議員、衆議院議員等のほか、(株)深谷銀行、埼玉農工銀行の各頭取、武州銀行取締役、中瀬信用購買販売生産組合理事長等となる○当選(衆)5回(5・6・11・12・13)在任(貴)(大14・9―昭6・1)○昭和6年1月28日死去

坂口 平兵衛 勲四等
安政元年6月生、本籍鳥取県○明治21年以降米子魚商、米子汽船、米子製糸各会社社長、米子銀行頭取、山陰生命保険会社監査役等のほか、米子米綿取引所理事、米子商工会会頭等となる○在任(明30・9―37・9)○昭和8年7月31日死去

坂田 貞 勲四等 交友倶楽部
文久3年8月生、本籍熊本県○明治24年以降八代郡植柳村会議員、同村農会長、熊本県会議員、同県農会議員、八代郡会議員、郡参事会員、同農会評議員、帝国農会議員等のほか、九州商業銀行取締役、九州新聞社監査役等となる○在任(大14・9―昭7・9)○昭和12年9月25日死去

坂野 鐵次郎 正四位 勲二等 同成会
明治6年11月生、本籍岡山県、同31年東京帝国大学政治科卒○同年逓信省通信書記となり、のち東京郵便局長、逓信官吏練習所長、逓信局長等を歴任のほか、片上鉄道(株)、中国水力電気(株)各社長等となる○明治45年ロンドンにおける第2回国際無線電信会議出席、欧米視察○在任(昭7・9―22・5)○昭和27年6月5日死去

坂本 理一郎
文久元年3月生、本籍秋田県○明治24年以降仙北郡会議員、秋田県会議員、衆議院議員、秋田県教育会会長、秋田地方森林会議員等となる○当選(衆)3回(2・3・4)在任(貴)(明37・9―39・9)○大正6年4月3日死去

櫻井 伊兵衛 交友倶楽部
安政元年3月生、本籍群馬県○明治14年以降高崎町会議員、高崎連合町村会議員、高崎町所得税調査委員等となる○在任(明23・9―29・10)○明治29年10月7日死去

櫻井 伊兵衛 交友倶楽部
明治20年11月生、本籍群馬県、同38年東京開成中学校卒○同43年以降(株)高崎銀行監査役、上毛貯蓄銀行相談役、高崎紙(株)、高崎製飴(株)、群馬紡績(株)各取締役等となる○在任(大7・9―14・9)

櫻井三郎右衛門 勲四等
嘉永2年6月生、本籍島根県○明治18年以降仁多郡上阿井村外二村連合会議員、同郡勧業会員、島根県農事試験委員、阿井村会議員、仁多郡参事会員等のほか、島根県農工銀行、八雲銀行各取締役、島根県実業会幹事長等となる○在任(明33・11―37・9)○明治41年1月27日死去

櫻木 嘉右衛門
天保元年7月生、本籍高知県○明治19年以降高知市所得税調査委員、同市参事会員、高知商業会議所議員、同商業学校商議員等のほか、第七国立銀行取締役、土佐銀行、高知貯蓄銀行各監査役、運漕業天佑社社長等となる○在任(明39・12―44・9)○大正3年1月8日死去

澤田 喜彦 勲四等 同成会
明治7年1月生、本籍熊本県○同40年吉野製糸合名会社代表社員となり、のち同社(株)社長、益南銀行取締役等となるほか、熊本県会議員となる○在任(大14・9―昭7・9)○昭和19年11月12日死去

澤原 精一 勲四等 交友倶楽部
明治4年8月生、本籍広島県○同29年以降呉貯蓄銀行取締役、呉陽倉庫(株)、瀬戸内海横断電力(株)、呉製氷(株)各社長、沢原銀行取締役等のほか、呉商業会議所会頭、呉市会議長、日本放送協会理事、広島県商工団体連合会顧問、呉市信用組合長等となる○在任(昭7・6―7・9)○昭和28年7月1日死去

澤原爲綱

天保10年7月生、本籍広島県○明治11年以降安芸郡長、同郡所得税調査委員等となる○在任(明23・9―30・9)○大正12年4月8日死去

澤原俊雄 勲四等

慶応元年4月生、本籍広島県○明治24年以降県勧業諮問会員、呉衛生会副会長、呉私立教育会長等のほか、呉貯蓄銀行頭取となる○在任(明37・9―44・9)○昭和17年7月29日死去

澤山精八郎 勲四等 研究会

安政2年11月生、本籍長崎県、長崎広運館にて英学を修める○明治32年以降長崎市名誉参事会員、同市会議員、同県会議員、商業会議所副会頭等のほか、遠洋漁業(株)、沢山汽船(株)、九州汽船(株)各社長、長崎銀行頭取、長崎製鉄所取締役等となる○在任(大14・9―昭7・9)○昭和9年3月21日死去

斯波與七郎 勲四等

慶応元年5月生、本籍兵庫県○明治28年以降加東郡所得税調査委員、兵庫県会議員、加東郡会議員、第5回内国勧業博覧会評議員等となる○在任(明30・9―37・9)○昭和7年5月8日死去

鹽田團平 勲四等 同成会

明治14年4月生、本籍秋田県、同36年東京高等商業学校卒、同専攻部修○大正2年以降平鹿郡沼館名誉町長、秋田県会議員、衆議院議員等のほか、羽後銀行監査役、沼館酒造(株)社長、秋田魁新報社、横荘鉄道(株)各取締役等となる○当選(衆)2回(15・17)在任(貴)(昭14・9―22・5)○昭和24年9月11日死去

柴垣伴三

天保12年11月生、本籍熊本県○明治20年以降下益城郡所得税調査委員、同郡守富村会議員、同村長、熊本県会議員、同常置委員、衆議院議員等となる○当選(衆)1回(4)在任(貴)(明28・11―30・9)○明治45年6月12日死去

柴田兵一郎 勲四等 同和会

明治32年6月生、本籍岩手県、大正13年慶応義塾大学経済学部卒○同14年以降第一銀行勤務、盛岡銀行、盛岡電灯(株)各取締役、沼宮内信用組合長、同農会長等のほか、沼宮内町長、盛岡地方裁判所人事調停委員等となり、また逓信、運輸通信両省委員、運輸省行政委員等となる○在任(昭14・9―21・4)

澁澤金藏 従五位 勲二等 交友倶楽部

明治23年8月生、本籍群馬県、大正6年東京帝国大学法科大学経済学科卒○同7年以降太田織布(株)社長、新田銀行、上毛実業銀行、群馬県中央銀行、太田建物(株)等の各取締役等のほか、太田町会議員となり、また鉄道大臣秘書官となる○大正12年欧米視察○在任(昭7・9―22・5)○昭和24年9月11日死去

島定治郎 同成会

明治10年3月生、本籍大阪府、慶応義塾修○同35年福島紡績会社勤務、のち日米板硝子(株)、日本硝子工業(株)各社長、大日本炭鉱(株)取締役、日露漁業(株)監査役等となる○大正4年欧州、同7年米国視察○在任(大7・9―14・9)

島内武重

安政4年9月生、本籍高知県、和漢学を修める○明治12年以降香美郡物部村外三十五ヵ村連合町村会議員、同郡所得税調査委員、県会議員等のほか、高知農益商会社長となる○在任(明23・9―26・1)○明治26年1月22日死去

島津珍彦

(男爵議員島津珍彦参照)

下出民義 正五位 勲三等 交友倶楽部

文久元年12月生、本籍愛知県○明治38年以降名古屋商業会議所議員、名古屋市会議員、同市参事会員、衆議院議員等のほか、東邦商業学校理事長、名古屋信託(株)社長、大同電力(株)、愛知電気鉄道(株)、白山水力(株)、名古屋紡績(株)各取締役等となる○当選(衆)1回(14)在任(貴)(昭3・9―22・5)○昭和27年8月16日死去

下郷傳平 従七位

天保13年12月生、本籍滋賀県○明治9年以降南新町副戸長、同戸長、長浜町会議員等のほか、大阪製紙抄造場、近江製糸所等を経営○在任(明23・9―30・9)○明治31年5月19日死去

下郷傳平 勲四等

明治5年3月生、本籍滋賀県、慶応義塾修○同29年以降近江製糸(株)社長、長浜銀行頭取、長浜生糸米穀取引所理事長、大坂生命保険(株)社長等のほか、長浜町会議員、同町長、滋賀県出獄者保護院評議員等となる○在任(明37・9―44・9)○昭和21年1月15日死去

下田幸三郎

弘化2年1月生、本籍熊本県○明治22年以降熊本県所得税調査委員、同県商工業諮問会員、同県下益城郡会議員等となる○在任(明30・9―33・6)○大正4年5月19日死去

下村辰右衛門 勲四等

明治6年2月生、本籍佐賀県○同35年以降佐賀貯蓄銀行、佐賀第百六銀行の各監査役、佐賀馬車鉄道会社社長等のほか、佐賀商業会議所議員、同市参事会員等となる○在任(明37・9―44・9)○昭和8年8月25日死去

白勢春三 勲三等 研究会

文久2年12月生、本籍新潟県○明治25年以降新潟市会議員、同議長、新潟商業会議所会頭、衆議院議員等のほか、第四銀行、新潟貯蓄銀行各頭取、新潟信託(株)、白勢合名会社、二葉社、新潟倉庫(株)、日本石油(株)各取締役等の各社長、新潟水力電気(株)等となる○当選(衆)1回(9)在任(貴)(昭7・9―14・9)○昭和16年5月25日死去

菅澤重雄 勲二等 研究会

明治3年4月生、本籍千葉県○同29年以降千葉県会議員、衆議院議員、県山林会評議員、久賀村長等のほか、東京成徳高等女学校長、多古銀行、佐原興業銀行の各頭取、日本畜産商事(株)、渋谷急行電気(株)各社長等となる○当選(衆)1回(9)在任(貴)(大15・5―昭7・9、14・9―22・5)○昭和31年1月7日死去

菅野傳右衛門

安政6年3月生、本籍富山県○明治22年以降高岡市参事会員、同学務委員、富山県会議員、高岡商業会議所会頭等となる○在任(明30・9―33・3)○明治33年10月10日死去

杉下太郎右衛門

慶応3年9月生、本籍岐阜県○明治26年以降吉城郡国府村学務委員、同郡会議員、衆議院議員等のほか、農飛農工銀行監査役となる○同年米国視察○当選(衆)2回(5・6)在任(貴)(明40・10―44・9)○大正7年5月4日死去

杉山茂

交友倶楽部

明治23年5月生、本籍神奈川県○同43年明治学院卒○大正12年以降神奈川県須賀郵便局長、中郡須馬町会議員、同学務委員、平塚町会議員、同市会議員等のほか、神奈川県醤油工業組合理事長、同醤油統制(株)、湘南鉄工所、米善醸造(株)各社長等となる○在任(昭21・9―22・5)

鈴木幸作 従六位 勲三等 研究会

明治6年4月生、本籍静岡県○大正8年以降浜名石

材(株)、西遠印刷(株)、浜松養魚(株)各社長、浜松貯蓄銀行監査役等のほか、浜松市会議長、浜松商工会議所会頭、都市計画静岡地方委員会委員等となる○在任(昭7・9―20・11)○昭和20年11月21日死去

鈴木周三郎 勲四等

明治9年9月生、本籍福島県○同39年以降福島信託(株)、福島商業銀行、福島瓦斯(株)各取締役等のほか、信夫郡杉妻村長、同村会議員等となる○在任(明44・9―大7・9)○昭和15年12月16日死去

鈴木摠兵衛 正六位 勲三等 茶話会

安政3年2月生、本籍愛知県○明治22年以降名古屋市会議員、同議長、名古屋商業会議所会頭、愛知県会議員、衆議院議員等のほか、愛知時計電機(株)、愛知材木(株)、名古屋生命保険(株)各社長等となり、また臨時国民経済調査会委員、名古屋地方都市計画委員等となる○同43年実業団に参加して韓、清両国視察○当選(衆)5回(5・6・8・9・10)在任(貴)(大5・10―14・9)○大正14年12月23日死去

鈴木傳五郎

安政4年11月生、本籍香川県○明治18年以降愛媛県勧業諮問会員、同県山田、香川両郡所得税調査委員、高松市会議員等となる○在任(明23・9―30・9)○明治43年11月1日死去

鈴木與平 従六位 研究会

明治16年2月生、本籍静岡県、同37年東京高等商業学校、同39年同専攻部卒○大正6年以降清水町会議員、静岡県会議員、同議長、清水市会議長、清水商工会議所会頭、駿遠塩業(株)、清水木材倉庫(株)、同運送(株)、鈴與商店等の各社長、駿州銀行、静第三十五銀行、清水瓦斯(株)、清水合板(株)、清水海運(株)、日本軽金属(株)等諸会社の重役、静岡県石炭商組合、同県缶詰工業組合等諸組合の組合長、理事長等となる○在任(昭14・9―15・5)○昭和15年5月2日死去

住友吉左衛門 男爵 従五位

元治元年12月生、本籍大阪府○住友本家として各種事業を経営○在任(明30・9―33・8)○大正15年3月2日死去

瀬川彌右衛門 勲四等 同和会

明治26年11月生、本籍岩手県、早稲田大学修○大正11年以降花巻銀行頭取、服飾興業(株)社長、盛岡銀行、岩手軽便鉄道(株)、五菱海運(株)、日本製塩化学工業(株)等の重役、花巻町会議員等となる○在任(大14・9―昭14・9、21・9―22・5)

瀬谷勇次郎 勲四等 交友倶楽部

明治3年3月生、本籍茨城県○同27年以降茨城県茶業組合連合会議員、同県煙草耕作連合会副会長、同県山林会評議員、同県会議員、参事会員等のほか、石塚米穀市場、常盤砂利(株)、石塚繭糸市場各社長、常陸銀行、千代田肥料(株)、茨城鉄道(株)等の取締役等となる○在任(大15・7―昭7・9)○昭和13年2月26日死去

關口彌五

嘉永元年2月生、本籍埼玉県○明治12年以降埼玉県会議員、同常置委員等となる○在任(明23・9―27・7)○大正9年8月31日死去

關田可通

安政元年4月生、本籍高知県○王子市朝倉町長、高知県会議員等となる○在任(明26・10―30・9)○明治42年3月2日死去

相馬哲平

天保4年5月生、本籍北海道○明治10年以降函館相場会所、商事通信、函館港改良工事の各委員等のほか、日本赤十字社北海道支部商議員、済生会評議員、百十三銀行、函館貯蓄銀行各頭取等となる○在任(大7・9―9・3)○大正10年6月6日死去

田嶋竹之助 勲三等

慶応2年12月生、本籍埼玉県○明治29年以降主猟官、臨時治水調査会委員等となる○在任(明37・9―大7・9)○昭和14年7月14日死去

田代保之 勲四等

慶応2年2月生、本籍熊本県○明治29年以降玉名郡会議員、熊本県会議員、同参事会員等となる○在任(明37・9―40・9)○昭和16年7月12日死去

田中清文 正六位 勲四等 研究会

明治5年10月生、本籍富山県、中央大学卒○同36年以降富山県会議員、同副議長等のほか、田中銀行、田中貯金銀行各頭取、北陸タイムス社長等となる○当選(衆)1回(11)在任(貴)(大7・9―14・9)○昭和26年10月3日死去

田中源太郎 正五位 勲三等 交友倶楽部

安政5年12月生、本籍埼玉県○明治39年以降埼玉県会議員となる○在任(大7・9―11・6)○大正12年2月9日死去

田中源太郎 勲四等 公正会

明治10年1月生、本籍京都府、同36年東京高等商業学校卒○同40年以降京都工商(株)、亀岡銀行、伏見銀行、京都織物(株)、京都電燈各社長、京都商工会議所議員、京都取引所理事等となる○在任(大14・9―昭7・9)

田中一馬 勲四等 公正会

明治10年1月生、本籍京都府、同36年東京高等商業学校卒○同40年以降京都工商(株)、亀岡銀行、伏見銀行、京都織物(株)、京都電燈各社長、京都商工会議所議員、京都取引所理事等となる○在任(大14・9―昭7・9)○昭和22年7月30日死去

田中源太郎

安政5年12月生、本籍埼玉県○明治39年以降埼玉県会議員となる○在任(大7・9―11・6)○大正12年2月9日死去

田中清文 正六位 勲四等 研究会

明治5年10月生、本籍富山県、中央大学卒○同36年以降富山県会議員、同副議長等のほか、田中銀行、田中貯金銀行各頭取、北陸タイムス社長等となる○当選(衆)1回(11)在任(貴)(大7・9―14・9)○昭和26年10月3日死去

田中源太郎 正五位 勲三等 交友倶楽部

安政5年12月生、本籍埼玉県○明治39年以降埼玉県会議員となる○在任(大7・9―11・6)○大正12年2月9日死去

田中徳兵衛 勲四等 交友倶楽部

明治8年5月生、本籍埼玉県○同27年以降味噌醸造業を経営、埼玉味噌醸造組合長、帝国実業協会幹事、東京共立銀行、東京紡績(株)各監査役等のほか、南平柳村会議員、同村長、埼玉県会議員、同副議長等となり、また医薬制度調査会委員となる○在任(昭7・9―14・9)○昭和22年7月30日死去

田中一馬 勲四等 公正会

明治10年1月生、本籍京都府、同36年東京高等商業学校卒○同40年以降京都工商(株)、亀岡銀行、伏見銀行、京都織物(株)、京都電燈各社長、京都商工会議所議員、京都取引所理事等となる○在任(大14・9―昭7・9)

田部長右衛門 勲四等 研究会

嘉永3年9月生、本籍島根県○明治12年以降農事試験委員、勧業諮問会員、吉田村名誉村長等となり、また臨時製鉄事業調査委員会委員となる○在任(明23・9―30・9)○昭和17年2月14日死去

田部長右衛門 勲四等 研究会

明治11年1月生、本籍島根県、同36年早稲田大学政治科卒○大正6年以降島根県農会副会長、日本勧業銀行地方顧問、島根地方森林会議員、松江銀行取締役、大日本山林会評議員等となる○在任(昭14・9―22・5)○昭和31年6月11日死去

田村耕平

嘉永元年1月生、本籍栃木県○明治8年以降旗川村会議員、同村助役兼収入役、安蘇郡会議員等となる○在任(明30・9―34・2)○明治34年2月4日死去

田村駒治郎 従六位 研究会

慶応2年6月生、本籍大阪府○(株)田村駒商店社長、毛斯綸紡織(株)取締役、和歌山染工(株)監査役、日本共立生命保険(株)取締役、大阪商業会議所議員、大阪織物同業組合副組長等のほか、大阪市会議員となる○在任(大14・9―昭6・3)○昭和6年3月31日死去

田村新吉 従五位 勲三等 同成会

文久3年12月生、本籍兵庫県、明治17年米国留学○

神戸商業会議所会頭、神戸輸出協会会長、日加合同貯蓄社長等となり、また臨時国民経済調査会、都市計画兵庫地方委員会各委員、衆議院議員、関税調査委員会委員、神戸高等工業学校商議委員等となる○大正8年ワシントンにおける第1回国際労働会議に資本家代表顧問として出席、大正15年第12回万国議院商事会議（ロンドン）出席○当選（衆）1回（12）在任（貴）（大14・9―昭11・11）○昭和11年11月9日死去

多木久米次郎　勲三等　交友倶楽部

安政6年5月生、本籍兵庫県○明治18年以降化学肥料製造業を経営、多木農工具（株）、別府軽便鉄道（株）各社長となり、また兵庫県農会長、加古郡会議長、兵庫県会議員、同参事会員、衆議院議員、日本肥料（株）理事等となる○同41年欧州各国、同42年日本渡米実業団員として米国視察○当選（衆）6回（10 12 14 15 17 18）在任（貴）（昭14・9―17・3）○昭和17年3月15日死去

多勢龜五郎

嘉永2年7月生、本籍山形県○明治22年以降山形県東置賜郡漆山村会議員、同村長、同郡会議員、同議長、同県会議員等となる○在任（大7・9―8・6）○大正8年6月9日死去

高倉　虎　交友倶楽部

文久2年11月生、本籍茨城県○所得税調査委員等となる○在任（大10・8―13・1）○大正13年1月27日死去

高崎三重郎　勲四等

明治10年9月生、本籍茨城県○茨城県行方郡麻生町会議員、同郡会議員、同郡教育会副会長、同町労務委員等となる○在任（明44・9―大7・9）

高鳥順作　正四位　勲二等　研究会

明治元年4月生、本籍新潟県○大正3年以降新潟県西頸城郡能生町長、同郡会議員、同議長、新潟県山林会評議員等のほか、能生銀行頭取、中央電気（株）、公益銀行等の各取締役、西頸城郡養蚕同業組合長等となり、また衆議院議員となる○大正14年、昭和2年列国議会同盟会議出席○当選（衆）4回（12 13 15 16）在任（貴）（昭7・9―14・9）○昭和33年2月8日死去

高橋喜惣治　勲四等

嘉永3年6月生、本籍千葉県○明治12年以降千葉県会議員、衆議院議員、長生郡会議員等のほか、千葉県勧業諮問会員、同県農会名誉会員、禅徒生命保険（株）副社長となる○当選（衆）1回（3）在任（貴）（明30・9―37・9）○大正7年4月15日死去

高橋源次郎　勲四等　研究会

慶応3年11月生、本籍宮崎県○明治30年以降宮崎県会議員、同参事会員、南那珂郡会議員、飫肥町会議員等のほか、飫肥銀行、宮崎農工銀行各取締役、宮崎県飫肥鉄道評議員、同県地方森林会議員等となる○在任（大7・9―昭7・9）○昭和18年4月28日死去

高橋德右衛門　勲四等

弘化2年5月生、本籍宮城県○明治17年以降宮城県栗原郡若柳村会議員、同県会議員、栗原郡会議員、同参事会員等のほか、栗原郡岩ヶ崎製糸会社社長、塩釜水産（株）、第八十八銀行各取締役、第七十七銀行監査役等となる○在任（明33・11―37・9）○大正4年4月28日死去

高橋　直治　勲四等　研究会

安政3年1月生、本籍北海道○明治24年以降小樽町総代、同区会議員、北海道庁港湾調査会員、衆議院議員等のほか、小樽取引所理事長、同海陸物産商組合会長、同商業会議所会頭等となる○当選（衆）3回（7 10 11）在任（大14・9―15・2）○大正15年2月18日死去

高橋隆一　勲七等　同成会

明治8年10月生、本籍島根県、松江修道館修○同37年以降稗原郵便局長、簸川郡稗原村会議員、同村区会議員、同村農会長、同村学務委員、島根県地方森林会議員等のほか、出雲電気（株）社長、簸上鉄道（株）、簸川銀行各取締役等となる○在任（大7・9―14・9）○昭和18年2月7日死去

高廣次平　勲四等　同成会

安政6年1月生、本籍富山県○明治22年以降西砺波郡福岡町会議員、福岡町長等のほか、北陸海上保険（株）社長、福岡同盟銀行頭取、広通（株）、高岡共立銀行、中越鉄道（株）各取締役等となる○在任（明33・6―36・2）○大正9年8月26日死去

高廣次平　勲四等　同成会

明治18年8月生、本籍富山県、早稲田大学政治経済科修○大正8年以降西砺波郡会議員、福岡町会議員、同農会長等のほか、山又機業（株）社長、北陸信託（株）、中越鉄道（株）、富山県農工銀行、富山日報社各監査役等となる○昭和2年万国議院商事会議出席○在任（大14・9―昭7・9）○昭和25年9月25日死去

高谷豊之助　交友倶楽部

明治12年1月生、本籍青森県○同28年以降高谷銀行頭取となる○在任（大9・12―10・10）○昭和18年7月13日死去

高柳淳之助

明治15年10月生、本籍茨城県○大正9年衆議院議員当選、その後鹿島参宮鉄道（株）、池上電気鉄道（株）筑波鋼索鉄道（株）、日本農工債券（株）、京浜土地（株）、日比谷ビルデイング（株）各社長等となる○当選（衆）1回（14）在任（貴）（大14・9―15・3）

瀧　兵右衛門　勲四等

天保14年5月生、本籍愛知県○明治15年以降名古屋銀行頭取、愛知織物（株）、帝国撚糸（株）各社長、尾張紡績（株）取締役、関西鉄道監査役等のほか、名古屋市参事会員、同市会議員等となる○在任（明30・9―37・9）○大正7年1月27日死去

瀧　作儀　正六位　勲四等　研究会

明治7年12月生、本籍兵庫県、同29年市立大阪商業学校卒○同31年以降燐寸製造業を経営、東洋燐寸、大同燐寸各会社社長、神戸商業会議所会頭、神戸日華実業協会会頭、ボリビヤ国名誉領事、滝川中学理事等のほか、都市計画神戸地方委員会委員、帝国経済会議議員、歪糸委員会委員、神戸高等工業学校商議委員等となる○明治36年以後欧米、中国、印度等へ十数回出張○在住（昭12・3―22・5）

瀧川弁三　勲四等

嘉永4年11月生、本籍兵庫県、大阪開成学校、工部省電信学校修○明治20年以降兵庫県燐寸製造組合検査役、大阪兵庫燐寸製造組合連合会、神戸商業会議所、神戸実業協会各会頭、日本燐寸軸木（株）、帝国水産（株）各社長等のほか、神戸市会議員、同市参事会員等となる○在住（大4・1―7・9）○大正14年1月死去

瀧口吉良　従五位

安政5年10月生、本籍山口県、明治19年慶応義塾卒○山口県阿武郡明木村会議員、同県会議員、明木村長等となる、同37年以降衆議院議員当選○当選（衆）2回（9 12）在住（明23・9―30・9）○昭和10年8月18日死去

瀧澤喜平治　勲四等

弘化3年2月生、本籍栃木県○明治12年以降栃木県会議員、同塩谷郡会議員等のほか、第四十一国立銀行、氏家銀行各頭取、鹿沼町製麻（株）、下野綿布、

下野紡績、下野銀行、栃木県農工銀行各取締役、東海、鹿沼、黒羽、今市、白河商業各銀行監査役等となる○在任(明34・5―37・9)○大正5年7月16日死去

竹内權兵衛(たけうちごんべえ) 交友倶楽部

明治8年10月生、本籍茨城県○大正3年以降茨城県農工銀行監査役、日本赤十字社茨城支部商議員等となる○在任(大7・9―10・5)○昭和20年8月10日死去

竹下豊次(たけしたとよじ) 従四位 勲三等 交友倶楽部

明治20年2月生、本籍宮崎県、同44年東京帝国大学法科大学卒○大正2年以降福岡県属、同県警視、製鉄所参事、農商務省工場監督官、長野県警察部長、台湾総督府事務官、台中州知事、関東州長官等となり、また内務省参事官、教育刷新委員会委員等となる、昭和22年以降参議院議員当選○大正11、12、13年ジュネーブにおける国際労働会議に政府代表の随員または顧問として出席○当選(参)2回(13)在任(昭14・9―22・5) S53.4.25 BL

竹村與右衛門(たけむらよえもん) 従六位 勲三等 研究会

文久元年12月生、本籍高知県○明治22年以降高知市区会議員、同市会議員、同市参事会員、所得税、相続税各調査委員等となる○在任(明44・9―大14・9)○昭和13年9月11日死去

武井覺太郎(たけいかくたろう) 勲四等 同成会

明治元年9月生、本籍長野県○同34年以降製糸業を経営、上伊那郡生糸同業組合長、上伊那銀行頭取、片倉製糸紡績(株)取締役、片倉生命保険(株)、富国火災海上保険(株)監査役、横浜取引所理事等のほか、伊那富村長、長野県会議員等となる○大正8年絹業視察団に参加して米国出張以来数回欧米、南洋諸島視察○在任(昭9・2―14・9)○昭和19年4月6日死去

武石橘次(たけいしきつじ) 勲四等

嘉永6年2月生、本籍大分県○明治21年以降大分県会議員、玖珠郡万年村会議員、同郡会議員等のほか、万田銀行頭取、大分県農工銀行、大分共立貯金銀行、豊州瓦斯(株)各取締役等となる○在任(明44・9―大7・3)○大正7年3月30日死去

橘清治郎(たちばなせいじろう) 勲四等

嘉永3年5月生、本籍富山県○明治22年以降射水郡守山村会議員、同村学務委員等となる○在任(大3・11―7・9)○昭和3年5月30日死去

辰馬吉左衛門(たつまきちざえもん)

明治元年5月生、本籍兵庫県○同45年以降西宮酒造組合評議員、醸造協会名誉会員、神戸海上運送火災保険(株)、日清火災保険(株)各取締役等のほか、西宮町会議員となる○在任(明45・4―大3・10)○昭和18年10月13日死去

辰巳楢太郎(たつみならたろう) 勲四等

慶応元年2月生、本籍奈良県、明治19年府立大阪師範学校中等師範学科卒○同28年以降法隆寺村会議員、生駒郡会議員、同議長、奈良県会議員、所得税調査委員会会長等のほか、西和銀行頭取となる○在任(明37・9―44・9)○昭和15年4月30日死去

谷新助(たにしんすけ)

弘化4年7月生、本籍大阪府○明治23年以降大阪市東区会議員、同市会議員、同府会議員等のほか、大阪商業会議所会員、大阪私立衛生会評議員、同監事、大阪府立高等商業学校商議員等となる○在任(明39・12―44・9)○大正7年8月15日死去

谷口良一(たにぐちりょういち)

安政4年1月生、本籍和歌山県○明治12年以降里村ほか十カ村村会議員、山口村会議員、山口村長、海草郡会議員、同参事員、山口村農会長等となる○在任(明37・6―37・9)○明治42年5月19日死去

近岡理三郎(ちかおかりさぶろう) 勲五等 交友倶楽部

明治4年7月生、本籍山形県○同31年以降山形県最上郡金山村学務委員、同村会議員、同助役、最上郡会議員、同議長、山形県会議員、山形地方森林会議員、同県治水会副会長等となる○在任(大8・10―14・9)○昭和23年3月4日死去

津久居彦七(つくいひこしち) 従六位 同成会

安政元年3月生、本籍栃木県○明治16年以降佐野町会議員、同町区長、同町名誉町長、衆議院議員等のほか、佐野織物同業組合長、佐野機業信用組合理事長、佐野銀行頭取、下野紡績、下野印刷各取締役、栃木県農工銀行、下野新聞(株)各監査役、日本綿織製織(株)社長等となる○当選(衆)1回(10)在任(貴)(大14・9―昭4・6)○昭和4年6月29日死去

津島源右衛門(つしまげんえもん) 勲四等 交友倶楽部

明治4年6月生、本籍青森県、西津軽郡中学校修○農業に従事のほか、青森県会議員、同参事会員、衆議院議員等となる○当選(衆)1回(11)在任(貴)(大11・12―12・3)○大正12年3月4日死去

津村紀陵(つむらきりょう) 交友倶楽部

文久3年2月生、本籍和歌山県○明治41年以降和歌山水力電気(株)、和歌山倉庫銀行各取締役、野上軽便鉄道(株)社長等となる○在任(大7・9―14・9)○昭和8年12月16日死去

津村重舎(つむらじゅうや) 勲四等 研究会

明治4年7月生、本籍東京都、同25年東京商業学校卒○同32年以降東京市会議員、日本橋区会議員、市参事会員等のほか、江東製薬、第一製薬、東京計量器製作所、東亜公司各会社社長、日本売薬(株)取締役、東京府農工銀行、上海油脂工業(株)各監査役等となる○在任(大14・9―昭11・5)○昭和16年4月28日死去

辻兵吉(つじへいきち) 勲四等 研究会

明治8年11月生、本籍秋田県○大正5年以降秋田商業会議所、同商工会議所各会頭、秋田銀行、秋田貯蓄銀行各頭取、秋田鉱山専門学校商議員等のほか、秋田市会議員、同参事会員等となる○在任(昭7・9―14・9)○昭和26年2月23日死去

土田萬助(つちだまんすけ) 正六位 勲四等 同成会

明治2年1月生、本籍秋田県○同36年以降平鹿郡会議員、同議長、秋田県会議員、同議長、館合村長、同県町村長会長等のほか、平鹿郡農会長、秋田銀行監査役、横荘鉄道(株)取締役、秋田信託(株)社長等となり、また農林審議会委員等となる○在任(大7・9―昭7・9)○昭和17年6月15日死去

角田林兵衛(つのだりんべえ) 勲四等

安政2年1月生、本籍福島県○明治13年以降福島町第百七国立銀行取締役、同頭取等のほか桑折村会議員、桑折町会議員、福島県会議員等となる○在任(明23・9―37・9)○大正6年1月8日死去

土居通博(どいみちひろ) 勲四等

明治元年4月生、本籍岡山県、同23年明治法律学校卒○同35年以降土居銀行頭取、津山銀行、津山貯蓄銀行、中国鉄道(株)、津山製糸(資)各取締役等のほか、所得調査、相続税審査各委員等となる○在任(明39・12―大4・7)○昭和14年12月8日死去

戸口米次郎(とぐちよねじろう) 交友倶楽部

明治15年5月生、本籍奈良県○昭和11年以降郡山町長、生駒郡町村長会長、奈良県町村会副会長等のほか、郡山町農業会長、郡山莫大小組合長、奈良県輸出莫大小工業組合理事長等となる○在任(昭21・8―22・5) S42.6.24 BL

道源權治　勲四等

明治2年1月生、本籍山口県○同33年以降、山口県勧業諮問会員、都濃郡富田村会議員、同村長、山口県会議員等となる、昭和5年衆議院議員当選○当選(衆)1回(17)在任(明37・9―44・9)○昭和32年12月7日死去

當間重民　正八位　同成会

明治33年8月生、本籍沖縄県、大正14年早稲田大学高等師範部英語科卒○昭和14年以降沖縄県酒造組合連合会副会長、同県酒類販売(株)取締役等となる○在任(昭18・5―21・8)○昭和27年2月7日死去

飛嶋文吉　勲四等　研究会

明治9年11月生、本籍福井県○大正9年以降、(株)飛島組、日東電気(株)、弁天島埋立地(株)各社長、森田貯蓄銀行、福井信託(株)各取締役、福井銀行、福井人絹取引所各顧問等のほか、頴予防協会評議員となる○在任(昭7・9―11・7)○昭和14年3月10日死去

富永猿雄　茶話会

明治12年3月生、本籍熊本県○大正2年以降上益城郡白旗村会議員、同学務委員等となる○在任(大7・9―14・9)○昭和15年6月29日死去

富安保太郎　勲四等　研究会

元治元年5月生、本籍福岡県、明治22年明治学院高等科卒○同27年以降福岡県会議員、同副議長、同議長等のほか、博多商業会議所特別議員、九州製油(株)、博多築港(株)各社長、瀬高銀行頭取、九州電気軌道(株)、日本電報通信社各取締役等となり、衆議院議員当選、道路会議、鉄道会議各議員となる○当選(衆)4回(10 11 12 14)在任(貴)(大15・11―昭6・10)○昭和6年10月26日死去

鳥越貞敏　勲四等

慶応3年3月生、本籍福岡県、明治18年田主丸中学校卒○同20年以降生葉共同乗馬会社社長、吉井保全社取締役、吉井銀行頭取、大成銀行監査役等のほか福岡県会議員、浮羽郡会議員等となる○在任(明30・9―44・9)○大正14年2月9日死去

名古屋三吉　交友倶楽部

明治23年3月生、本籍埼玉県、大正5年東京帝国大学工科大学卒、同6年欧米各国留学○同5年以降(株)日本製鋼所勤務、また川口鋳物工業組合理事長、埼玉県鉄鋼製品工業組合連合会理事長、日本鋳物工業組合連合会常務理事、川口商工会議所副会頭、埼玉県商工経済会評議員等となる○在任(昭21・8―22・5)

名取忠愛　勲四等　研究会

慶応2年10月生、本籍山梨県、明治20年山梨県立徽典館中等師範科卒○同43年以降甲府市会議員、甲府市長等のほか同農会長、山梨県教育会長、甲府商業会議所会頭、同商工会議所顧問、山梨貯蓄銀行頭取、第十銀行取締役等となる○在任(昭4・8―16・6)○昭和23年8月21日死去

內藤宇兵衛　勲四等

安政6年1月生、本籍山梨県、漢学、英書を学ぶ○明治16年以降中巨摩郡常永村会議員、同村長、山梨県会議員等のほか、有信貯金銀行、山梨農工銀行、山梨馬車鉄道各取締役等となる○在任(明37・9―41・8)○大正15年4月6日死去

中島德太郎　正五位　勲三等　研究会

明治14年1月生、本籍石川県○大正14年以降金沢商業会議所議員、同商工会議所会頭、石川県商工団体連合会会長、大日本放送協会評議員、加賀製紙、北陸倉庫(株)、中島商店各社長等となる○在任(昭14・8―22・5)○昭和30年8月9日死去

中田清兵衛　勲四等

嘉永4年11月生、本籍富山県○明治12年以降第百二十三国立銀行取締役、第十二銀行、金沢貯蓄銀行各頭取、富山電燈(株)監査役、富山商業会議所特別会員、富山売薬同業組合組長等のほか、富山市会議員、同参事会員等となる○在任(明37・9―39・9)○大正5年11月12日死去

中西光三郎　従七位

弘化2年1月生、本籍和歌山県○明治12年以降和歌山県会議員、同副議長、同議長、同県伊都郡、那賀郡各郡長等となる、同37年衆議院議員当選○当選(衆)1回(9)在任(明30・9―37・3)○明治43年7月10日死去

中野敏雄　正五位　勲四等　交友倶楽部

明治31年11月生、本籍佐賀県、大正14年東京帝国大学文学部、昭和3年同法学部卒○同15年仁寿生命保険(株)勤務、のち同福岡支店長、西日本石炭(株)社長、西日本石炭統制組合理事長、日本石炭(株)参与、石炭統制会評議員等となり、また海軍参与官、西九州石炭統制(株)社長等となる○在任(昭14・9―21・1)

中村圓一郎　従六位　勲三等　研究会

慶応3年6月生、本籍静岡県○明治29年以降静岡県会議員、榛原郡会議員等のほか、茶業組合中央会議所、全国茶業連合会各会頭、静岡商工会議所特別議員、三十五銀行頭取、中村製茶、日本紅茶各社長等となり、また自作農創設維持委員等となる○同32年パリにおける万国博覧会に全国茶業組合代表として参加○在任(大7・9―昭14・9)○昭和20年2月23日死去

中村雅眞

安政元年3月生、本籍奈良県○明治6年以降添上郡奈良鳴川町小学校訓導、大和国一大区一小区副戸長、奈良役所部内第一連合戸長、大阪府会議員、奈良県会議員、添上郡奈良町長等となる○在任(明23・9―30・9)○昭和18年2月21日死去

中村治兵衛　勲四等

嘉永4年6月生、本籍岩手県○明治22年以降盛岡市会議員、同名誉職参事会員等のほか、盛岡織物商組合長、盛岡銀行副会長、盛岡電気(株)取締役等となる○在任(明44・9―大5・9)○昭和32年11月2日死去

中村艮謙

弘化元年10月生、本籍佐賀県○明治22年以降佐賀県藤津郡七浦村名誉職村長、同県金庫出納役等のほか、鹿島銀行頭取等となる○在任(明28・2―30・9)○大正10年11月6日死去

中山嘉兵衛　交友倶楽部

明治10年2月生、本籍鹿児島県○同40年以降贈唹郡米穀商同業組合長、鹿児島県酒造組合連合会長等のほか、岩川村村会議員、贈唹郡会議員、所得税調査委員等となる○在任(大7・9―11・9)○大正12年9月27日死去

中山太一　正五位　勲三等　研究会

明治14年11月生、本籍大阪府○同36年以降中山太陽堂、中山文化研究所、太陽堂薬品製造(株)等を経営、大阪商工会議所副会頭、大阪実業倶楽部理事長、大阪化粧品同業組合組長、同化粧品工業組合理事長等となり、また産業科学研究所商議員、内閣委員、復興金融委員会委員等となる○在任(昭14・9―22・5)○昭和31年10月18日死去

中山文樹　勲四等

文久2年4月生、本籍長崎県○明治24年以降(株)嶋原銀行頭取、(株)嶋原貯金銀行頭取、長崎県農工銀行取締役等のほか、嶋原町会議員、南高来郡会議員等となる○在任(明31・11―37・9)○大正12年12月21日死去

仲田傳之助　従六位　勲四等　研究会

明治4年1月生、本籍愛媛県○同37年以降松山貯蓄

銀行取締役、同頭取、愛媛慈恵会理事長、同県農工銀行、伊予貯蓄銀行各頭取、仲田銀行社長、松山商工会議所会頭、同顧問、(財)貯蓄銀行協会理事等となる○在任(昭7・9―14・9)○昭和16年4月20日死去

仲村清榮　交友倶楽部

明治37年10月生、本籍沖縄県、大正15年早稲田大学法律科卒○昭和10年以降沖縄酒造組合連合会代議員、同評議員、那覇商工会議所議員、首里無尽(株)社長等となる○在任(昭16・9―17・12)○昭和33年5月27日死去

永澤清之助　勲四等

安政2年4月生、本籍宮城県○明治22年以降宮城県志田郡古川町会議員、同郡会議員等のほか、宮城県農工銀行、同商業銀行、古川馬車鉄道(株)各取締役等となる○在任(明37・9―39・6)○明治39年6月28日死去

永瀬寅吉　交友倶楽部

明治23年11月生、本籍埼玉県、同42年浦和中学校卒、東京高等工業学校修○同45年以降永瀬鉄工所管理者、川口市商工会議所会頭、川口鋳物工業組合理事等のほか、川口市名誉市長、埼玉地方社会保険審査会委員等となる○在任(昭16・1―22・5)

長尾四郎右衛門　研究会

安政2年12月生、本籍岐阜県○明治17年以降岐阜県会議員、同常置委員、衆議院議員、武儀郡会議員、菅田町会議員等のほか、(株)濃飛農工銀行頭取等となる○当選(衆)2回(1・2)在任(貴)(37・9―40・5)○大正5年1月31日死去

長尾元太郎　従六位　勲三等　同成会

明治7年11月生、本籍岐阜県、東京高等商業学校修○同31年以降(株)美濃銀行、(株)濃飛農工銀行、岐阜不動産(株)各取締役、菅田町農会長、同町教育会長、岐阜県農事協会理事等となり、また菅田町会議員、同町長、衆議院議員となる○当選(衆)2回(12・13)在任(貴)(14・9―昭7・9)○昭和10年3月28日死去

長島銀藏　研究会

明治34年11月生、本籍静岡県○昭和8年以降長島化学製品所を経営、清水栄寿座、長島商事、横浜瓦斯化学工業各(株)社長、日本海獣化学工業有限会社代表取締役、清水商工会議所議員等となり、同25年参議院議員当選○当選(参)1回(2)在任(昭21・5―22・5)

長野忠次　勲四等　研究会

明治6年12月生、本籍熊本県、第五高等中学本科修○同31年以降合名会社長野製種組主宰、熊本商業会議所特別議員、蚕糸業同業組合中央会、熊本県農会各議員、同県実業団体連合会会長、熊本製糸(株)、九州新聞社の各取締役となり、また糸価安定委員会委員等となる○在任(昭7・9―14・9)○昭和29年12月12日死去

並木和一　勲四等

慶応2年2月生、本籍長野県○明治25年以降長野県南佐久郡野沢町会議員、同郡会議員、同郡参事会員、同県会議員等となる○在任(明37・9―44・9)○昭和28年12月7日死去

成清信愛　交友倶楽部

明治19年1月生、本籍大分県、同39年福岡県立伝習館卒、早稲田大学修○同44年以降金鉱業を経営、(株)両豊銀行、宇佐参宮鉄道(株)各取締役等のほか、福岡県山門郡会議員となる○在任(大7・9―14・9)○昭和21年10月10日死去

鳴海周次郎　勲四等　交友倶楽部

明治20年3月生、本籍青森県、東京主計学校修○西

津軽郡会議員、車力村会議員等のほか、青森県山林会、同県産馬畜産組合連合会各評議員、西北産馬組合副組長、鳴海銀行頭取、青森貯蓄銀行監査役等となる○在任(大14・9―昭7・9)

二階堂三郎左衛門　研究会

慶応2年12月生、本籍広島県○商業を経営○在任(大7・5―14・9)○昭和19年4月16日死去

二瓶泰次郎　研究会

明治20年10月生、本籍宮城県、同40年角田中学校卒○大正14年以降丸森信用組合監査役、丸森町長、伊具郡養蚕業組合長、同農会長、宮城県信用組合連合会理事、同県農業会長、全国農業会東北支部長等となる○在任(昭15・8―21・4)

西川甚五郎　勲三等　同成会

明治3年6月生、本籍滋賀県○明治35年以降八幡町長、滋賀県会議員、大日本蚕糸会滋賀支会副会頭、同評議員等となる○在任(明44・9―大14・9)○昭和17年11月17日死去

西野嘉右衛門　従七位　勲五等　研究会

明治11年1月生、本籍徳島県、同33年専修大学理財科卒○同41年以降阿波共同汽船(株)、日本製飴(株)金陵西野商店、阿波商業銀行等の各重役、阿波藍同業組合評議員等となる○在任(昭13・10―15・10)

西宗元次郎　勲七等

安政元年9月生、本籍広島県○明治25年以降広島県会議員のほか、広島県農工銀行、忠海商業、備後船渠等の各重役、豊田貯蓄銀行、豊田銀行各頭取等となる○在任(大5・8―7・1)○大正7年1月1日死去

西本健次郎　勲四等　研究会

慶応2年8月生、本籍和歌山県○大正13年以降和歌山市商業会議所議員、同商工会議所顧問、同信用組合長等のほか、湯崎土地(株)、和歌山銀行、南海信託(株)等の重役等となる○在任(大14・9―昭14・9)○昭和25年6月死去

根岸武香

天保10年5月生、本籍埼玉県○明治17年以降埼玉県名主、埼玉県属、埼玉県会議員、同副議長、同議長となるほか、所得税調査委員等となる○在任(明27・10―30・9)○明治35年12月3日死去

根津啓吉　茶話会

明治7年2月生、本籍山梨県、同29年京都同志社理須理化学校大学部卒○同35年以降茨城県立下妻中学校教諭、東山梨郡平等村会議員、同郡会議員、山梨県会議員、同地方森林会議員等となる○在任(大10・11―12・9)○昭和29年12月4日死去

根本祐太郎　勲四等　交友倶楽部

明治4年3月生、本籍福島県○同31年以降郡山町会議員、同市会議長、福島県会議員等のほか、同県薬剤師会長、郡山商業会議所議員、郡山電気(株)副社長、(名)根本商店代表社員、郡山銀行、只見川水力電気(株)各取締役等となる○大正12年中国方面視察○在任(昭4・2―7・9)○昭和21年3月1日死去

野口褧　勲四等

安政5年11月生、本籍埼玉県○明治17年以降埼玉県会議員、所得税調査委員、衆議院議員等となる○当選(衆)4回(1・2・3・4)在任(貴)(明30・9―37・9)○明治38年12月27日死去

野崎武吉郎　従五位

嘉永元年8月生、本籍岡山県○明治4年以降岡山県会計署出仕、同県庁出仕等となるほか、製塩業を経営、また第2回水産博覧会評議員、塩業調査委員等となる○在任(明23・9―39・9)○大正14年10月25日

死去

野田　六左衛門　勲四等

明治27年8月生、本籍滋賀県、大正4年県立八幡商業学校卒、慶応義塾大学修○同13年以降野田酒造(株)代表取締役、滋賀県地方木材(株)社長、日野町土耕地整理組合長等のほか日野町会議員、同学務委員等となる○在任(昭14・9―22・5)○昭和35年2月11日死去

野々村　久次郎　同成会

弘化3年5月生、本籍岐阜県○明治12年以降下西郷村戸長、同衛生委員、本巣郡会議員等のほか、国立第九十五銀行取締役、野々村銀行頭取等となる○在任(大7・9―10・7)○大正14年11月4日死去

野村　恒造　従六位　勲四等

嘉永3年9月生、本籍山口県○明治10年以降山口県都濃郡徳山村会議員、同村長、同県会議員、同郡会議員、同郡参事会員、衆議院議員等となる○当選(衆)1回(1)在任(貴)(明30・9―37・9)○大正9年1月4日死去

野村　治三郎

文政11年11月生、本籍青森県○明治6年以降青森県陸運会社、上北郡雲雀牧場各頭取等のほか同県会議員となる○在任(明23・9―30・9)○明治33年9月8日死去

野村　茂久馬　従四位　勲三等　研究会

明治2年12月生、本籍高知県、早稲田専門学校修○大正7年以降(株)野村組、土佐商船(株)、野村自動車(株)、高知鉄道(株)各社長、土佐交通協会会長、土佐船主会会長等となり、また海事審議会委員等となる○在任(昭7・9―22・5)○昭和35年2月11日死去

芳賀　茂元　勲四等　交友倶楽部

明治20年12月生、本籍福岡県、県立東筑中学校卒○同42年以降八幡市役所勤務、同市農会副会長、福岡県消防協会理事等のほか、九州土地(株)相談役等となる○昭和7年第28回列国議会同盟会議(ジュネーブ)、同年万国議院商事会議評議員会(オスタンド)出席○在任(昭7・3―7・9)○昭和23年5月18日死去

馬場　道久

弘化3年11月生、本籍富山県○明治13年以降上新川郡連合町村会議員、石川県会議員、富山県会議員、同常置委員、戸長、東岩瀬町長等のほか、貸金会社道益社社長となる○在任(明23・9―30・9)○大正5年5月20日死去

長谷川　赳夫　従三位　勲二等　無所属倶楽部

明治19年10月生、本籍新潟県、大正2年東京帝国大学法科大学卒、同大学院修○衆議院、貴族院、内閣各書記官、法制局参事官、内閣統計局長等歴任のほか、新潟県農業会長、国際統計協会正会員等となる○大正9年万国議院商事会議、昭和6年人口問題研究の国際会議、同5年、同6年、同11年国際統計協会会議出席○在任(昭14・9―22・5)

長谷川　直則

天保5年5月生、本籍山形県○明治13年以降山形県為換方、山形市会議員、所得税調査委員等のほか、第八十一国立銀行頭取、山形興業会社幹事、山形鉄道会社創立委員等となる○在任(明23・9―28・12)○明治29年5月4日死去

橋本　吉兵衛　勲四等

文久2年9月生、本籍広島県○塩業調査委員となる○在任(明30・9―37・9)○大正13年8月11日死去

橋本　辰二郎　正五位　勲二等　研究会

明治元年5月生、本籍長崎県、専修学校修○同39年以降長崎商業会議所会頭、長崎市会議員となるほか、橋本商事(株)、山下コークス(株)、日本タイプライター(株)、九州汽船(株)、長崎製鉄(株)各社長、長崎県商工経済会会頭等となる○昭和21年永年在職議員として表彰○在任(大3・3―14・9、昭7・9―22・5)○昭和26年4月12日死去

橋本　萬右衛門　勲四等　同成会

慶応2年6月生、本籍福島県○明治35年以降安積郡地主会長、郡山市会議員等のほか、二本松銀行、郡山橋本銀行、郡山銀行各頭取、東部電力、名古屋紡績(株)等の各社長等となる○在任(大14・9―昭7・9)○昭和10年4月12日死去

橋本　萬右衛門　同成会

明治25年6月生、本籍福島県、安積中学校修○昭和10年以降橋本(名)、(資)開成社、東北土地証券、郡山産業等の各社長、郡山ロータリー倶楽部会長のほか、郡山商工会議所会頭、福島県商工経済会顧問等となる、同22年以降参議院議員当選○当選(参)2回(1・2)在任(昭21・9―22・5)○昭和25年12月27日死去

橋本　雄造　勲四等

嘉永元年10月生、本籍長崎県○明治5年以降貿易商を経営、兼ねて運輸業に従事、また長崎県会議員、市会議員、商業会議所議員、衆議院議員等となる○当選(衆)1回(8)在任(貴)(明37・9―44・9)○大正5年9月24日死去

八馬　兼介　勲四等　研究会

明治27年12月生、本籍兵庫県、大正5年早稲田大学商学部卒○同6年以降日本船主協会、日伯協会各理事、西宮市会議員等のほか、八馬汽船(株)社長、武庫銀行、西宮銀行各頭取、日清火災海上保険(株)、日伯拓殖(株)、西宮酒造(株)、朝日海上火災保険(株)、阪神急行電鉄(株)等の重役となる○中国視察○在任(昭3・4―7・9)○昭和35年8月12日死去

濱　平右衛門　勲四等　同成会

明治15年4月生、本籍茨城県○同42年以降石岡銀行、土浦農商銀行、鹿島参宮鉄道(株)、石岡電気(株)、常盤銀行等の重役、茨城県醤油醸造組合、同信用組合等の組合長等のほか、石岡町会議員、同消防組頭、産業組合中央金庫評議員等となる○在任(大14・9―昭7・9)○昭和24年4月25日死去

濱口　吉右衛門　従六位　勲五等

文久2年5月生、本籍東京都、慶応義塾修○醤油醸造業及び植林業を経営するほか、富士瓦斯紡績(株)社長、豊国銀行相談役、朝鮮銀行監事、九州水力電気(株)取締役等となり、また衆議院議員のほか東洋拓殖(株)設立委員、広軌鉄道改築準備委員会委員、済生会評議員等となる○当選(衆)3回(4・5・6)在任(貴)(明40・12―大2・12)○大正2年12月11日死去

濱口　儀兵衛　勲四等　研究会

明治7年4月生、本籍千葉県、帝国大学理科修、英国にて化学専攻○醤油醸造業を経営するほか大正10年以降理化学研究所、日本醸造協会、日本工業倶楽部各評議員等となり、また貴族院制度調査会、議会制度審議会等の委員となる○明治28年頃欧米視察○在任(大14・5―昭14・9)

早川　周造　勲四等

文久3年8月生、本籍岐阜県○岐阜県会議員、南濃銀行頭取、土地家屋貸付会社社長、七十六銀行、真宗生命保険、大垣銀行、美濃商業銀行、竹鼻銀行、岐阜市貯蓄銀行、濃飛農工銀行、治水共同社等の取締役となる○在任(明30・9―37・9)○明治39年4月1日死去

林　七六　研究会

明治8年9月生、本籍長野県○大正8年以降諏訪郡会議員、同参事会員、長崎県会議員、衆議院議員等のほか、岡谷倉庫(株)、岡谷醸造(資)、南信日日新聞社各社長、伊那電気鉄道(株)、南信塩元売捌(名)

等の各重役、信濃海外協会評議員、日本醸造協会地方委員、岡谷連合商業会頭等となる○当選(衆)1回(17)在任(貴)(昭7・8―7・9)○昭和25年2月9日死去

林　宗右衛門（はやし　そうえもん）

弘化元年12月生、本籍三重県○明治元年以降林組大庄屋、楠平尾林中繩の三村戸長、三重県会議員等となるほか、農業及び酒造業経営○在任(明23・9―29・12)○明治29年12月30日死去

林　平四郎（はやし　へいしろう）　正六位　勲二等　交友倶楽部

安政4年11月生、本籍山口県○明治22年以降山口県会議員、下関市会議員、商業会議所議員、同会頭、衆議院議員等のほか、長州鉄道(株)、山陽電気軌道(株)、下関倉庫(株)、関門汽船(株)等の重役、下関米取引所理事長となる○当選(衆)2回(12・13)在任(貴)(大14・9―昭14・9)○昭和16年12月11日死去

林田　登（はやしだ　のぼる）

嘉永3年7月生、本籍熊本県○明治16年以降下益城郡旧廻江郷連合会議員、下宮地村会議員、隈庄町会議員、同町長、熊本県会議員、同農会議員等のほか、熊本県農工銀行設立委員、(株)肥後農工銀行監査役等となる○在任(明33・11―34・6)○明治44年1月8日死去

原　善三郎（はら　ぜんざぶろう）　従五位　勲四等

文政10年4月生、本籍神奈川県○安政6年以降横浜にて生糸貿易に従事、為換方、貸付方頭取、生糸改会所頭取、横浜商法会議所頭取、横浜市会議員、同議長、同参事会員、衆議院議員等となり、その後神奈川県蚕糸貿易商組合頭取、(株)横浜蚕糸ほか四品取引所理事長、横浜商業会議所会頭、農商工高等会議員、埼玉県児玉郡会議員等のほか東武鉄道(株)、東洋汽船(株)、富士紡績(株)各取締役等となる○当選(衆)3回(2・3・4)在任(貴)(明30・9―32・2)○明治32年2月6日死去

原　忠順（はら　ただゆき）　従五位

天保5年8月生、本籍佐賀県○鹿島藩大参事、東京府出仕等の諸職を経て、明治7年以降内務省補出仕、沖縄県小書記官、同大書記官等となる○在任(明23・9―27・10)○明治27年10月28日死去

原田　佐治郎（はらだ　さじろう）

嘉永3年3月生、本籍青森県○在任(大5・8―5・10)○大正5年10月16日死去

日向　三右衛門（ひうが　さんえもん）　勲四等

慶応元年1月生、本籍山形県○明治17年以降山形県東田川郡御用掛、日本赤十字社山形県委員等となる○在任(明30・9―37・9)○昭和15年1月5日死去

日高　榮三郎（ひだか　えいざぶろう）　勲三等

明治2年12月生、本籍宮崎県○日向国赤水浦において鰤漁業を経営○在任(明36・1―大7・9)○昭和18年3月18日死去

久恒　貞雄（ひさつね　さだお）　勲四等　交友倶楽部

明治3年4月生、本籍大分県○大正9年以降久恒鉱業(株)社長、下毛銀行、大分商業銀行各頭取、筑豊石炭鉱業組合理事等となり、また衆議院議員となる○当選(衆)1回(16)在任(貴)(昭7・9―14・9)○昭和25年5月10日死去

平井　六右衛門（ひらい　ろくえもん）　勲四等　交友倶楽部

慶応元年11月生、本籍岩手県○明治28年以降岩手県日詰町農会長、紫波郡参事会員、岩手県地方森林会議員、衆議院議員等となる○当選(衆)1回(12)在任(貴)(大8・8―10・10)○大正10年10月19日死去

平尾　喜一（ひらお　きいち）　交友倶楽部

明治26年12月生、本籍沖縄県、沖縄県立第一中学校修○昭和9年以降那覇市会議員、同商工会議所議員等となる○在任(昭14・9―16・5)

S 46. 5. 28 死

平尾　喜三郎（ひらお　きさぶろう）　勲四等　研究会

明治6年11月生、本籍沖縄県○同44年以降、那覇区会議員、沖縄県酒造組合長、同顧問、同連合会長、南陽酒造(株)社長のほか、都市計画沖縄地方委員会委員等となる○在任(大7・9―14・9、昭7・9―14・9)○昭和26年3月10日死去

平田　吉胤（ひらた　よしたね）　勲四等　同成会

慶応2年7月生、本籍大分県、同志社、早稲田専門学校修○明治33年以降城井村長、同村会議員、大分県会議員、同議長等となる○在任(大14・9―昭7・9)○昭和12年2月25日死去

平沼　專蔵（ひらぬま　せんぞう）　従五位

天保7年1月生、本籍神奈川県○慶応元年以降織物等の輸入販売業を経営、神奈川県会議員、横浜市会議員、参事会員等のほか、横浜株式取引所頭取、横浜銀行、金叶貯蓄銀行の各頭取、電線製造会社、東京瓦斯紡績(株)、横浜蚕糸銀行等の重役、横浜棉糸織物引取組合頭取等となる○在任(明33・11―34・9)○大正2年4月6日死去

平沼　亮三（ひらぬま　りょうぞう）　従三位　勲一等　同成会

明治12年2月生、本籍神奈川県、同31年慶応義塾大学卒○大正9年以降神奈川県会議員、横浜市会議長、大日本体育協会副会長、全日本陸上競技連盟、同体操連盟、同学生氷上競技連盟、東京大学野球連盟各会長、明治神宮体育会副会長等のほか、玉川電気鉄道(株)、(株)南進公司等の社長、古河電気工業(株)、麒麟麦酒(株)、帝国劇場(株)、(株)ホテルニューグランド等の重役等となり、また国民体力審議会委員、神奈川県商工経済会会頭等となる○国際オリンピック大会日本選手団長としてロスアンゼルス及びベルリンに渡航○当選(衆)2回(12・15)在任(貴)(昭7・9―21・5)○昭和34年2月13日死去

平山　浪三郎（ひらやま　なみさぶろう）

文久2年10月生、本籍青森県○明治30年以降(株)五所川原銀行取締役、同頭取、青森県農工銀行取締役、同県地方森林会議員等となる○在任(大6・1―7・9)○大正11年8月16日死去

廣海　二三郎（ひろうみ　にさぶろう）　勲四等

安政元年11月生、本籍石川県○明治31年以降農商工高等会議員、北海道拓殖銀行設立委員等となる○在任(明37・9―44・9)○昭和4年1月29日死去

廣瀬　滿正（ひろせ　みつまさ）　勲四等

安政6年12月生、本籍愛媛県○農業を経営○在任(明44・9―大7・9)○昭和3年12月5日死去

廣瀬　和育（ひろせ　わいく）

嘉永2年4月生、本籍山梨県○明治6年以降藤田村戸長、学区取締総理、山梨県会議員、藤田村長、中巨摩郡会議員、同議長代理、参事会員等となる○在任(明30・9―34・9)○大正14年4月29日死去

深田　武雄（ふかだ　たけお）　研究会

明治24年3月生、本籍鳥取県、同41年倉吉町私立研志塾卒○大正12年以降五千石村会議員、同村長、同村産業組合長、同農会長、鳥取県信購販利組合連合会理事、同県米子酒造組合理事長、同農地委員会委員、同酒類販売(株)社長等となる○在任(昭21・9―22・5)

S 45. 7. 30 死

福島　文右衛門（ふくしま　ぶんえもん）　勲四等

明治6年8月生、本籍福井県○商業を経営○在任(明44・9―大7・9)○昭和12年1月2日死去

藤武喜助　交友倶楽部

安政5年11月生、本籍鹿児島県○明治22年以降雑貨商、鹿児島商業会議所議員、鹿児島商弘銀行、鹿児島貯蓄銀行各取締役、薩摩製糸(株)、鹿児島紡織(株)各監査役等のほか、鹿児島市会議員となる○在任(大11・12―14・9)○昭和9年12月20日死去

藤本閑作　交友倶楽部

慶応3年11月生、本籍山口県、漢学を修める○明治29年以降石炭鉱業経営、宇部電気(株)、宇部銀行、宇部鉄工所各取締役、宇部村信用購買販売組合理事等のほか、同村会議員、都市計画山口地方委員会委員となる○在任(大7・9―14・9)○昭和11年12月12日死去

藤安辰次郎　従六位　交友倶楽部

文久2年3月生、本籍鹿児島県○明治26年以降鹿児島市区会議員、同市会議員、同県会議員等のほか、鹿児島商業会議所副会頭、鹿児島紡績(株)社長、(株)鹿児島朝日新聞社代表取締役、百四十七銀行監査役、大隅鉄道(株)取締役等となる○在任(大14・9―昭6・3)○昭和6年3月2日死去

古荘健次郎　勲四等　研究会

明治23年2月生、本籍熊本県、同42年熊本県立商業学校卒○大正7年以降古荘(株)、金貨莫大小(株)、肥後無尽(株)各取締役、大阿蘇観光道(株)、日清生命保険(株)各社長、熊本商工会議所顧問、熊本県商工経済会会頭等となる○在任(昭14・9―22・5)○昭和23年2月6日死去

保坂潤治　S38・4・4・死

明治8年6月生、本籍新潟県、東京専門学校政治科修○(株)直江津商業銀行頭取等となる○在任(明41・12―44・9)

星島謹一郎　勲四等　同成会

安政6年6月生、本籍岡山県○明治22年以降岡山県会議員等のほか、備前紡績(株)、岡山県農工銀行、東児銀行、星島銀行、児島養員(株)、正織(株)等の重役となる○在任(大4・11―12・8)○昭和17年2月2日死去

細田安兵衛　勲四等　研究会

明治4年10月生、本籍東京都、同17年東京高等商業学校予備門卒、築地サンマー塾英語修学○大正6年以降日本橋区会議員、東京市第十四地区区画整理委員会議長、東京地方裁判所商事調停委員等のほか、細田協佑社社長、日本橋区商工信用組合組合長等となる○在任(昭7・9―14・9)○昭和23年5月2日死去

細谷巖太郎　勲三等

弘化2年11月生、本籍山形県○明治13年以降山形県会議員、同副議長、同議長等のほか、山形県農工銀行を創立し、その頭取となる○在任(明37・9―大7・9)○大正8年11月16日死去

堀正一　勲四等

明治6年10月生、本籍山口県、東京帝国大学文科大学卒、同研究科修○同33年以降滋賀県立第二中学校教諭、日本大学、学習院等の講師、宮内省図書寮勤務等となり、同40年帰郷して農業を経営○在任(明44・9―大7・9)○大正9年4月3日死去

堀内半三郎　勲四等

嘉永5年2月生、本籍静岡県○明治16年以降静岡県会議員のほか、吉原銀行取締役、興業銀行頭取、原田製紙、富士電気、富士軌道(株)各社長等となる○在任(明44・9―大7・9)○昭和12年7月7日死去

堀之内庄右衛門

文久2年12月生、本籍鹿児島県○明治33年以降大洋商船(株)、曽木電気(株)等の重役となる○在任(明39・12―42・1)○明治42年1月30日死去

本多政樹　正四位　勲四等　公正会

(男爵議員本多政樹参照)

本間金之助　勲四等

弘化2年2月生、本籍秋田県○明治25年以降秋田県実業調査会、同山林会、秋田市教育会等の役員、秋田商業会議所議員のほか、第四十八銀行重役等となる○在任(明44・9―大7・9)○昭和4年1月14日死去

本間千代吉　勲四等

安政3年12月生、本籍群馬県○明治12年以降連合戸長、連合村会議員、群馬県会議員、佐波郡会議員、同参事会員等となる○在任(明30・9―44・9)○大正6年2月26日死去

本間千代吉　勲四等　研究会

明治21年6月生、本籍群馬県、同40年東京錦城中学校卒○大正6年以降上毛貯蓄銀行、群馬県農工銀行、伊勢崎銀行、群馬銀行、粕川水電(株)等の重役のほか、赤堀村農会長、同村会議員等となる○在任(大14・9―昭7・9)

S34・7・16死

前田謙祐

天保7年2月生、本籍和歌山県○明治3年以降那賀郡小倉郷長、那賀郡前田尼寺北山三カ村戸長、前田村戸長、貴志村村長等となる○在任(明23・9―24・6)○明治24年6月1日死去

松井貞太郎　勲四等

明治17年1月生、本籍奈良県、京都帝国大学修○同43年以降古梅園製墨業を経営、奈良製墨同業組合長のほか、奈良市長、奈良市農地委員会会長、奈良県商工経済会会頭、奈良地方社会保険審査会委員等となる○在任(昭14・9―21・4)○昭和27年9月3日死去

松尾嘉右ヱ門　同成会

S41・7・6死

明治24年11月生、本籍神奈川県○昭和16年以降神奈川県土木建築工業組合、同連合会、同木工工業組合連合会各理事長、同県中小商工業者共助会、関東土木建築統制組合各理事、神奈川商工経済会評議員、同県労務協働会会長等となる○在任(昭21・9―22・5)

松尾廣吉　勲四等

慶応2年12月生、本籍佐賀県、漢学を修める○明治29年以降(株)伊万里銀行、伊万里鉄道(株)各監査役、魚市合名社長のほか、伊万里町会議員、西松浦郡会議員等となる○在任(明44・9―大7・9)○昭和12年1月16日死去

松岡潤吉　正六位　勲三等　研究会

明治21年9月生、本籍兵庫県、同42年慶応義塾大学理財科卒○同43年以降大和田紡績(株)、松岡汽船(株)各社長、北海道松岡農場主、阪神急行電鉄(株)監査役、東洋鋼板(株)、北海道炭鉱汽船(株)、東宝(株)各取締役、日本海運協会顧問、日本体育協会評議員、神戸日伯協会理事、大阪駐在ポーランド国名誉領事等となる○在任(昭7・9―14・9、17・7―22・5)○昭和26年9月7日死去

松木彦右衛門

嘉永4年11月生、本籍青森県○慶応3年以降津軽藩御用達、松前商社頭取、合資会社弘前両益銀行頭取、(株)弘前銀行頭取等となる○在任(明32・11―35・6)○大正10年1月9日死去

松澤清次郎　勲四等　研究会

明治12年2月生、本籍愛知県○大正13年以降西春日井郡山田村村長、同郡町村長会長、愛知県町村長会長等のほか、愛知県農会長、大日本蚕糸会評議員、中村電気軌道(株)、名岐自動車(株)各取締役等となる○在任(昭8・8―12・7)○昭和12年7月3日死去

松永安彦　勲四等

万延元年3月生、本籍静岡県○明治13年以降富士郡

平垣村会議員、加島村会議員、静岡県会議員、加島村長、富士郡会議員等となる○在任(明30・9―37・9)○昭和6年2月1日死去

松原芳太郎 勲四等

文久元年12月生、本籍岐阜県○明治13年以降萩原村戸長、同村会議員、岐阜県会議員、衆議院議員等のほか、大野、池田郡農会副会頭、(株)大垣銀行、(株)大垣共立銀行各取締役等となる○当選(衆)1回(3)在任(貴)(明44・9―大4・7)○昭和3年11月4日死去

松村脩平 勲四等

安政元年10月生、本籍茨城県○明治22年以降宗道村会議員、同村長、茨城県会議員、結城郡会議員等のほか、石下銀行取締役等となる○在任(明30・9―31・7、37・9―44・9)○昭和2年10月7日死去

松村時次

安政2年2月生、本籍熊本県○明治25年以降熊本県会議員、衆議院議員、玉名郡会参事員、同郡会議長、同郡農会長等のほか、(株)玉名銀行頭取、(株)肥後農工銀行監査役、(株)日韓殖産取締役等となる、同45年衆議院議員当選○当選2回(8・11)在任(明40・12―44・9)○大正6年7月9日死去

松本勝太郎 正四位 勲二等 同和会

明治7年4月生、本籍広島県○大正5年以降(株)松本組、呉工業(株)、広島瓦斯電軌(株)、芸南電気軌道(株)各社長、京城商業会議所議員、朝鮮土木建築協会長等のほか、呉市長となり、また中央株式等評価委員会委員等となる○昭和3年万国議院商事会議、同年列国議会同盟会議出席○在任(大14・9―昭22・5)○昭和34年2月2日死去

松本眞平 従七位 勲四等 研究会

明治11年5月生、本籍埼玉県、同33年東京高等商業学校卒○大正3年以降松本米穀肥料(株)、日東製粉(株)、台湾興業(株)各社長、熊谷銀行頭取、全日本肥料商団体連合会会長等となり、また衆議院議員となる○昭和2年第24回列国議会同盟会議(パリ)出席○当選(衆)1回(15)在任(貴)(昭7・9―9・15・10)

三浦新七 正四位 勲二等

明治10年6月生、本籍山形県、同34年東京高等商業学校卒、同36年独国留学、法学博士○同44年以降東京高等商業学校教授、東京商科大学教授等のほか、両羽銀行頭取となり、また東京商科大学長、帝国学士院会員、日本銀行参与、山形県商工経済会会頭、内閣委員等となる○在任(昭7・9―22・5)○昭和22年8月14日死去

三木順治 勲四等

天保7年9月生、本籍徳島県○明治3年以降北海道開拓使御用達、徳島県会議員、同所得税調査委員等となる○在任(明23・9―37・9)○明治41年6月21日死去

三木與吉郎 正六位 勲二等 研究会

明治8年11月生、本籍徳島県○同41年以降板野郡松茂村会議員、徳島県会議員、衆議院議員、板野郡農会長等のほか、(株)三木商店社長、大同藍(株)、阿波製紙(株)各取締役、徳島県購買販売組合連合会特別議員等となる○当選(衆)1回(12)在任(貴)(大7・9―昭13・6)○昭和13年6月23日死去

三田義正 従六位 交友倶楽部

文久元年4月生、本籍岩手県、明治11年宮城英語学校卒○同19年以降岩手県蚕糸業組合取締所副頭取、同県会議員、盛岡市会議員、地方山林会議員等のほか、岩北軌道(株)、岩手林業会社各社長等となり、また鉄道会議議員となる○在任(大11・1―14・9)○昭和11年12月31日死去

三橋四郎次 従四位 勲三等 同成会

明治12年8月生、本籍静岡県、同34年早稲田大学英語政治科卒○大正4年以降静岡県会議員、衆議院議員、日本茶業会会頭、日本茶輸出組合理事長、静岡県製茶業組合長等のほか、(株)遠州銀行監査役、日本紅茶(株)、東亜製茶(株)、日本紅茶販売(株)等の各社長等となる、茶業に関し数次欧米、アフリカ、中国等へ出張○当選(衆)1回(15)在任(貴)(昭15・9―22・5)○昭和30年3月22日死去

三橋彌 勲四等 交友倶楽部

明治2年3月生、本籍千葉県、同27年東京帝国大学農科大学卒○同30年以降農場を経営、葛飾瓦斯(株)社長、総武鉄道(株)取締役等となる○在任(昭7・9―14・9)○昭和31年1月14日死去

三山近六

天保10年9月生、本籍長崎県○商業を経営○在任(明44・9―大2・12)○大正2年12月2日死去

美馬儀一郎 勲四等

慶応3年3月生、本籍徳島県○明治31年以降阿波商業銀行取締役、同頭取、徳島商業会議所会頭、阿波染織同業組合組長等となる○在任(明44・9―大7・9)○昭和14年8月19日死去

御木本幸吉 正四位 勲一等 同成会

安政5年1月生、本籍三重県○真珠貝養殖業を経営、明治13年以降大里、鳥羽の各町会議員、多徳島郵便局長等のほか、宮内省皇后宮職御用達となる○在任(大13・12―14・9)○昭和29年9月21日死去

水野甚次郎 勲三等 交友倶楽部

明治14年3月生、本籍広島県、東京物理学校修○同39年以降土木建築請負業を経営、水野土地(資)代表者、(名)水野組代表社員等のほか、呉市会議員、同議長となり、また呉市長となる○在任(昭7・9―21・12)○昭和33年8月12日死去

水之江浩

弘化2年5月生、本籍大分県○明治14年以降大分県学務委員となる○在任(明23・9―30・9)○大正11年4月11日死去

溝手保太郎 研究会

明治10年3月生、本籍岡山県○同29年以降中備銀行頭取、倉敷電灯(株)、備作電気(株)、合同貯蓄銀行、倉敷紡績(株)各取締役等となる○在任(大12・12―14・9)○昭和8年11月25日死去

宮川久一郎 交友倶楽部

明治4年11月生、本籍青森県○大正7年以降弘前商業銀行、弘前宮川銀行各頭取、弘前農具(株)、第五十九銀行各取締役、弘前商業会議所議員等のほか、同市会議員となる○在任(大10・12―11・10)○昭和24年8月5日死去

宮坂作衛 勲四等 研究会

明治20年7月生、本籍長野県○同44年慶応義塾大学理財科卒○大正元年以降上諏訪町会議員、長野県会議員、同副議長、上諏訪町長、諏訪郡町村長会長等のほか、上諏訪町農会長、上諏訪商工会議所会頭、長野農工銀行、諏訪電気(株)各取締役、諏訪建築(株)相談役等となる○在任(昭7・9―8・10)○昭和8年10月21日死去

宮崎喜久太郎 勲四等

明治2年10月生、本籍静岡県、静岡英学校、国民英学会、白文学院等にて英語、漢学を修める○同28年以降静岡実業、扶桑、駿南、長田貯蓄各銀行取締役等となる○在任(明37・9―44・9)○昭和4年5月7日死去

宮崎總五

文政11年8月生、本籍静岡県出身○明治9年以降静

岡県会議員、同県顧問、同県公立病院監事、有渡、安部両郡長等となる○在任(明23・9―30・9)○明治42年4月24日死去

宮本甚兵衛 勲四等

嘉永元年8月生、本籍青森県○明治15年以降中津軽郡町村連合会議員、弘前市会議員、同市参事会員、同市第四区会議員、同市所得税調査委員等となる○在任(明35・9―37・9)○昭和7年1月9日死去

宮本谷蔵 勲四等

弘化2年9月生、本籍徳島県○明治29年以降阿波紡績(株)社長、取締役等となる○在任(明37・9―44・9)○昭和7年3月20日死去

村井彌兵衛 勲四等

弘化元年6月生、本籍岩手県○明治8年以降小坂及び釜石鉱山御用達、北上(株)、岩手県農工銀行、盛岡電気(株)各取締役、盛岡銀行頭取となるほか、盛岡市会議員、同名誉職参事会員等となる○在任(明37・9―41・7)○明治44年2月17日死去

村岡淺右衛門 勲四等

嘉永6年4月生、本籍京都府○明治23年以降京都府会議員のほか、京都蚕糸外商品取引所理事、京都農商銀行、西陣貯蓄銀行各取締役等となる○在任(明37・9―44・9)○昭和2年8月26日死去

村上桂策

嘉永4年3月生、本籍愛媛県○明治14年以降愛媛県会議員等となる○在任(明23・9―30・9)○大正14年4月18日死去

最上廣胖 勲四等

弘化4年8月生、本籍秋田県○農業を経営○在任(明30・9―37・9)○昭和5年3月17日死去

森廣三郎 勲三等 研究会

明治3年11月生、本籍福井県○同36年以降福井県会議員、参事会員等のほか、越前電気(株)、日野川水力電気(株)各社長、福井銀行、第五十七銀行、福井倉庫(株)、福井新聞社、大同肥料(株)等の重役等となる○在任(明37・9―44・9、大14・9―昭7・9)○昭和14年7月13日死去

森平兵衛 従六位 勲四等 研究会

明治7年2月生、本籍大阪府、大阪共立薬学校卒○同27年以降大阪府会議員、大阪商工会議所会頭、大阪府薬剤師会会長、大阪薬学専門学校理事等のほか、丹平商会分店代表社員、日本売薬(株)、国光製薬(株)、日本ペイント(株)、日本染料製造(株)、共同信託(株)等の重役等となり、また百貨店委員会委員、医薬制度調査会委員、大阪高等工業学校商議委員等となる○在任(大14・9―昭14・9)○昭和27年5月2日死去

森田庄兵衛 勲四等

文久2年9月生、本籍和歌山県○商業を経営○在任(明44・9―大7・9)○大正13年11月5日死去

森田福市 交友倶楽部

明治23年6月生、本籍広島県○大正10年以降広島市会議員、同県会議員、同副議長、同県商工協会評議員、同県産業調査会委員、広島生糸(株)、蘆品製糸(株)、日本麻紡織(株)等の取締役等となる、昭和7年以降衆議院議員当選○当選(衆)3回(18 20 21)○在任(大14・9―昭7・2)○昭和20年8月6日死去

森本善七 従六位 同和会

安政2年2月生、本籍愛知県○明治14年以降愛知県会議員、名古屋市会議員、同市参事会員、名古屋商業会議所常議員、名古屋銀行頭取、名古屋株式取引所理事長、東海倉庫(株)、日本車輌(株)各社長、尾張紡績(株)、帝国撚糸(株)等の重役等となる○在任(大14・9―昭3・5)○昭和3年5月1日死去

諸橋久太郎 従七位 勲四等 交友倶楽部

明治26年5月生、本籍福島県、大正5年早稲田大学政治経済科卒○昭和6年以降福島県石城郡農会長、平市農会長、信用組合平庶民金庫理事長、諸橋合名会社代表、磐城水産工業(株)、片倉磐城製糸(株)、植田水力電気(株)、福島県農工銀行、相馬塩業(株)等の重役等となり、また保護観察所保護司職務嘱託となる○在任(昭14・9―22・5)

八木久兵衛 交友倶楽部

嘉永2年3月生、本籍宮城県○明治17年以降仙台味噌醸造所社長、宮城貯蓄銀行、七十七銀行の各頭取、仙台瓦斯(株)社長、仙台商業会議所会頭、宮城県工業会副会長等のほか、仙台市会議員となる○在任(大7・9―12・8)○大正12年11月29日死去

八木春樹 勲四等 同成会

明治4年6月生、本籍愛媛県○同37年以降越智郡酒造組合長、四国酒造連合会評議員、愛媛県酒造組合連合会長、同商工団体連合会副会長、今治商業銀行取締役、愛媛水力電気(株)監査役等のほか、愛媛県会議員、同県参事会員、今治市会議長等となる○在任(大14・9―昭7・9)○昭和18年1月25日死去

八坂甚八 勲四等

嘉永6年10月生、本籍佐賀県○明治6年以降真木村長、轟木村会議員、同村長、佐賀県会議員、三養基郡会議員等となる○在任(明30・9―37・9)○昭和4年3月29日死去

八田徳三郎 勲四等

明治4年4月生、本籍広島県○同37年以降広島地方森林会議員、郵便局長等となる○在任(明44・9―大5・4)○昭和10年1月3日死去

矢口長右衛門 茶話会

慶応3年6月生、本籍栃木県、明治20年早稲田大学卒○同32年以降宝積寺合資会社、塩原軌道(株)各社長、宝積寺銀行頭取、下野倉庫(株)、同新聞(株)、宇都宮米券倉庫(株)各取締役、早稲田大学評議員、塩谷郡醤油組合長等となり、また小作制度調査会委員となる○在任(大7・9―14・9)○昭和10年11月4日死去

矢島榮助 勲四等

明治2年2月生、本籍山梨県、東京共立学校、同専門学校修○同38年以降甲府市会議員、同市参事会員等のほか、甲府商業会議所議員、第十銀行監査役、矢島組組長、生糸同業組合長等となる○在任(明44・9―大4・1)○昭和22年9月16日死去

安田善三郎 勲三等 研究会

明治3年10月生、本籍東京都、同25年帝国大学独法科卒○大正2年以降東京商業会議所特別議員、安田銀行監督、合名会社保善社副総長、(株)百三十銀行、(株)日本商業銀行各頭取、帝国製麻(株)、中国鉄道(株)等の社長、安田商事(株)等の監督、横浜電気鉄道(株)会長等となり、また経済調査会委員となる○在任(大3・3―14・9)○昭和5年1月9日死去

山内左五兵衛 交友倶楽部

安政6年12月生、本籍青森県○明治16年以降西津軽郡会議員、青森県会議員、西津軽郡柏村長等のほか、西津軽郡農会顧問となる○在任(大12・7―14・9)○大正14年10月18日死去

山口玄洞 勲四等

文久3年10月生、本籍大阪府○第5回勧業博覧会審査嘱託となる○在任(明37・9―39・8)○昭和12年1月9日死去

山隈康 勲三等 研究会

明治2年5月生、本籍熊本県、同30年明治大学卒○同31年以降弁護士、熊本商工会議所顧問、同米穀取

引所理事長、熊本海産(株)社長等のほか、熊本市会議員、同議長、同市長等となり、また税制調査会委員、商工経済会設立委員等となる○在任(昭7・9―22・5)○昭和28年5月10日死去

山崎龜吉(やまざきかめきち) 勲四等 研究会

明治3年1月生、本籍東京都○同26年以降時計貴金属品商、東京実業組合連合会副会長、東京商業会議所議員等のほか、東京市会議員、中央職業紹介委員会委員等となる○同43年英国における日英博覧会、大正4年サンフランシスコにおける万国博覧会、大正12年ジュネーブにおける第5回国際労働総会参列のほか、同年視察実業団長として露国出張○在任(大14・9―昭7・9)○昭和19年7月14日死去

山崎愼三(やまざきしんぞう)

安政元年3月生、本籍茨城県、漢学を修める○馴馬村副戸長、同戸長、門倉村ほか五カ村連合戸長等となる○在任(明23・9―30・9)○明治45年2月8日死去

山下喜兵衛(やましたきへえ)

慶応3年1月生、本籍鹿児島県○明治31年以降鹿児島市会議員、同県会議員等のほか、鹿児島商業会議所議員、鹿児島郵船(株)取締役、鹿児島実業新聞社、鹿児島電気(株)、鹿児島貯蓄銀行各監査役等となる○在任(明44・9―大3・6)○昭和11年5月12日死去

山田敏(やまだおさむ) 正六位 勲八等 研究会

慶応元年8月生、本籍福井県、明治21年明治法律学校卒○同25年以降坂井郡高椋村会議員、坂井郡会議員等のほか、坂井郡農会長、福井県農会議員、福井銀行取締役等となり、また帝国経済会議議員、小作制度調査会委員等となる○在任(大7・9―14・9)○昭和16年12月20日死去

山田義三郎(やまだぎさぶろう)

文久元年1月生、本籍宮城県○明治27年以降登米郡会議員、登米町会議員、宮城県会議員、同県参事会員等のほか、登米汽船(株)、登米製糸(株)各社長、(株)宮城貯蓄銀行取締役、宮城県蠶糸同業組合長等となる○在任(明42・10―44・9)○大正13年3月21日死去

山田恵一(やまだけいいち) 交友倶楽部

明治6年11月生、本籍香川県、京都第三高等学校修○同34年以降讃岐電燈(株)、同農工銀行、高松電気軌道各取締役、木田郡農会長、大日本山林会特別議員、香川県製糸組合長、同県農会副会長、同県蚕糸業同業組合連合会組長等のほか、木田郡前田村会議員となる○在任(大14・9―昭5・12)○昭和5年12月13日死去

山田純精(やまだじゅんせい) 研究会

文久3年12月生、本籍奈良県○明治22年以降奈良県会議員、高市郡参事会員等のほか、奈良県地方森林会議員等となる○在任(大7・9―14・9)○大正14年10月1日死去

山田仙之助(やまだせんのすけ) 研究会

明治9年11月生、本籍福井県○大正9年以降山田織物(株)社長、福井染色(株)、南越酒造(株)各取締役、福井県織物同業組合長、日本人造絹織物工業組合連合会理事等のほか、福井県会議員、同副議長となる○在任(昭11・11―14・9)○昭和22年3月1日死去

山田荘左衛門(やまだそうざえもん)

嘉永4年4月生、本籍長野県○長野県会議員となる○在任(明23・9―30・9)○大正6年11月1日死去

山田卓介(やまだたくすけ) 正八位 勲四等

嘉永5年5月生、本籍福井県○明治11年以降石川県警部、福井県大野郡長、同県会議員、同議長、吉田郡会議員、福井市参事会員等となる○在任(明26・6―37・9)○昭和12年2月5日死去

山田穣(やまだみのる)

天保13年7月生、本籍福井県○明治13年以降石川県会議員、福井県会議員、同議長、同常置委員、坂井郡高椋村会議員等となる○在任(明23・9―25・5)○明治25年5月6日死去

山中幸義(やまなかゆきよし) 従五位 勲六等

嘉永2年2月生、本籍大分県○明治6年以降司法省出仕、新治、茨城、千葉各県属、内務属、三重県安濃郡長、山梨、和歌山、大分各県警部長等となる○在任(明30・9―32・3)○明治32年3月19日死去

山上岩二(やまのうえいわじ) 勲三等 交友倶楽部

明治18年6月生、本籍岡山県、同43年東京帝国大学独法科卒○大正8年以降岡山米取引所理事、同理事長、岡山商業会議所会頭等となる○在任(大14・9―昭22・5)

山本忠秀(やまもとただひで) 勲四等

文久2年11月生、本籍高知県、明治法律学校法律科修○高知県会議員のほか、土佐農工銀行頭取、土佐電気(株)社長、高知銀行、土佐木材(株)、土佐煉陶(株)各取締役、土佐物産(株)、芳谷炭坑(株)各監査役等となる○在任(明30・9―37・9)○昭和11年10月9日死去

山本米三(やまもとよねぞう) 勲四等 同成会

明治9年12月生、本籍奈良県、漢学を修める○同37年以降大和銀行、大和酒造(株)各監査役、奈良県農工銀行取締役、五条信用組合理事長、宇智郡酒造組合長、奈良県信用組合会理事、同県地方森林会議員等のほか、五条町会議員となる○在任(昭7・9―14・9)

谷井勘藏(やついかんぞう) 勲四等

嘉永6年1月生、本籍和歌山県○明治12年以降和歌山県会議員、関戸村会議員、海草郡会議員のほか、第四十三国立銀行、四十三銀行、南海絹糸紡績(株)等の重役、紀陽貯蓄銀行、和歌山県農工銀行各頭取等となる○在任(明37・9―44・9)○昭和5年1月25日死去

弓削和三(ゆげわさん)

明治4年5月生、本籍熊本県○同34年以降八代郡農会議員、八代町会議員、本派本願寺勧定方等となる○在任(明44・9―大4・3)○昭和31年11月30日死去

油井德藏(ゆいとくぞう) 勲四等 同成会

明治3年8月生、本籍福島県○同43年以降福島県輸出絹織物同業組合連合会議員、同同業組合長、福島商業会議所議員、副会頭、会頭、同市会議員等のほか、第一福島羽二重(株)社長、福島羽二重(株)、二本松羽二重(株)、福島商業銀行、川俣銀行、(株)九筬機業場、福島誠壱(株)等の重役等となる○在任(昭7・9―14・9)

結城安次(ゆうきやすじ) 勲四等 研究会

明治17年10月生、本籍茨城県、同44年東京帝国大学法科大学法律学科卒○大正元年以降三井物産(株)勤務、逓信大臣秘書官、早川電力(株)、東京電力(株)、大井川鉄道(株)等の重役、自動車鋳物(株)、大井川電力(株)各社長等となり、また鉄道省、運輸通信省、議会制度審議会各委員等となる、昭和22年参議院議員当選○当選(参)1回(1)在任(昭14・9―22・5)

横尾彌一(よこおやいち)

嘉永4年4月生、本籍山形県○明治20年以降東根村会議員、北村山郡会議員、同所得税調査委員、同学務委員等となる○在任(明29・3―30・9)○明治35年5月24日死去

横山章(よこやまあきら) 勲三等 研究会

明治7年1月生、本籍石川県、同28年東京物理学校卒○同年以降鉱業を経営、金沢商業会議所会頭、横

山鉱業(名)、ボルネオ護謨(株)各社長、日本タイプライター(株)相談役等のほか、石川県山林会副会長となり、また衆議院議員となる○当選(衆)1回(12)在任(貴)(大7・9―昭7・9)○昭和13年4月14日死去

横山久太郎(よこやまきゅうたろう)

安政3年10月生、本籍岩手県○明治9年以降田中長兵衛経営釜石鉱山鉱業代理人、後田中鉱山(株)専務取締役、釜石電燈(株)、三陸汽船(株)各社長、岩手軽便鉄道(株)顧問等のほか、釜石鈴子郵便局長、岩手県地方森林会議員等となる○在任(大7・9―8・4)○大正10年3月3日死去

由雄元太郎(よしおげんたろう) 勲四等

明治2年10月生、本籍石川県、同22年養蚕伝習所卒○同25年以降、合名会社由雄兄弟商会を経営、金沢実業協会評議員等のほか、河北郡津幡町学務委員、同郡宅地賃貸価格調査委員等となる○在任(大元・8―7・9)○昭和4年10月16日死去

吉田三右衛門(よしださんえもん)

弘化4年9月生、本籍京都府○明治19年以降福知山銀行頭取のほか、福知山町会議員、町長、京都府会議員等となる○在任(明23・9―30・9)○昭和18年8月23日死去

吉田羊治郎(よしだようじろう) 勲四等 交友倶楽部

明治4年2月生、本籍滋賀県、同23年滋賀県商業学校卒○同40年以降高宮村長、滋賀県会議員、衆議院議員、帝国農会議員等のほか、滋賀県農工銀行頭取、大正製綿(株)取締役、江若鉄道(株)監査役、滋賀県信用販売購買組合連合会特別議員等となる○当選(衆)1回(13)在任(貴)(大14・9―昭14・9)○昭和14年11月11日死去

吉野周太郎(よしのしゅうたろう) 勲四等

嘉永4年12月生、本籍福島県○同33年以降福島倉庫(資)、福島電燈(株)各社長、第百七銀行、福島貯蓄銀行の各頭取等のほか、福島県購買組合連合会、同信用組合連合会各理事長等となる○在任(大14・9―昭3・10)○昭和12年5月22日死去

吉原正隆(よしはらまさたか) 正五位 勲三等 研究会

明治14年11月生、本籍福岡県、同39年京都帝国大学経済科卒、衆議院議員当選後、逓信大臣秘書官となる○当選(衆)4回(11 12 13 14)在任(貴)(大14・9―15・6)○大正15年6月24日死去

吉村角次郎(よしむらかくじろう)

弘化元年9月生、本籍和歌山県○元治元年以降那賀郡畑毛村ほか三カ村庄屋、戸長、同郡山崎村長等となる○在任(明25・6―30・9)○大正10年10月8日死去

吉村友之進(よしむらとものしん) 勲四等 交友倶楽部

明治6年2月生、本籍和歌山県、同24年東京法学院卒○大正7年以降吉村製糸(株)社長、和歌山紡績(株)取締役等となる○在任(昭14・9―22・5)○昭和26年4月13日死去

米谷半平(よねたにはんぺい) 勲四等

嘉永4年12月生、本籍石川県○農業及び商業○在任(明32・7―37・9)○昭和2年5月27日死去

米原章三(よねはらしょうぞう) 勲三等 研究会

明治16年11月生、本籍鳥取県、同39年早稲田大学政治経済科卒○同43年以降智頭町会議員、鳥取県会議員、同議長、智頭報徳社副社長、鳥取県木炭同業組合連合会理事会長等のほか、八頭木材(株)、(株)木

綿屋商店、智頭運送(株)等の社長、(株)雲陽実業銀行、山陽水力電気(株)、(株)鳥取貯蓄銀行等の重役等となり、また鳥取県商工経済会会頭、農林省委員等となる○在任(昭7・9―21・4)

依田仙右衛門(よりたせんえもん) 勲四等

安政2年6月生、本籍長野県○明治7年以降北佐久郡第四大区五小区副戸長、同八幡村戸長、同南御牧村長、同郡会議員、所得税調査委員等となる○在任(明44・9―大7・9)○大正10年5月死去

若尾幾造(わかおいくぞう)

安政4年12月生、本籍神奈川県○明治10年以降横浜蚕糸貿易商同業組合副組長、(株)横浜蚕糸ほか四品取引所理事長、横浜商業会議所議員、東京電燈(株)監査役、横浜若尾銀行、横浜蚕糸銀行各頭取等のほか、横浜市参事会員等となる○在任(明38・8―39・7)○昭和3年4月29日死去

若尾逸平(わかおいっぺい)

文政3年12月生、本籍山梨県○万延元年以降生糸商、生糸改会社社長、第十国立銀行取締役、甲信鉄道会社常議員、横浜正金銀行取締役等のほか、山梨県会議員、甲府市会議員、甲府市長等となり、また鉄道会議議員となる○在任(明23・9―27・8)○大正2年9月7日死去

若尾謹之助(わかおきんのすけ) 研究会

明治15年10月生、本籍山梨県、同44年東京帝国大学法科大学卒○同43年以降若尾銀行支配人、同頭取、若尾保全(株)社長、東京電燈(株)取締役、東京瓦斯(株)監査役、甲府商業会議所常議員、甲府市商業学校商議員等となる○在任(大14・9―昭4・4)○昭和8年1月25日死去

渡邉覺造(わたなべかくぞう) 同成会

明治24年6月生、本籍茨城県、大正15年愛知医科大学卒、医学博士○昭和4年以降水戸市に医院を開業、大貫町に結核療養所を設立、また水戸市長、茨城県医師会長、日本医療団顧問、日本医師会設立委員、厚生省委員等となる○在任(昭17・1―22・5)

渡邉治右衛門(わたなべじえもん) 従六位

弘化4年11月生、本籍東京府○明治10年以降第二十七国立銀行頭取、四日市組魚問屋頭取、東京府商法会議所議員、同商工会会員、水産伝習所参事員等のほか、東京府会議員、日本橋区会議員等となる○在任(明23・9―30・9)○明治42年12月15日死去

渡邊甚吉(わたなべじんきち) 勲四等

安政3年11月生、本籍岐阜県○明治23年以降土木会、貨幣制度調査会各委員となり、また岐阜市会議長、同商業会議所会頭のほか、第十六国立銀行、岐阜貯蓄銀行各頭取、濃飛農工銀行、北海道炭鉱鉄道会社各取締役等となる、同35年衆議院議員当選○清国上海視察○当選(衆)1回(7)在任(明23・9―30・9)○大正14年11月10日死去

渡邊福三郎(わたなべふくさぶろう) 従六位 勲四等

安政2年1月生、本籍神奈川県○明治9年以降二十七銀行取締役、海産乾物貿易商組合頭取、水産伝習所参事員等のほか、神奈川県会議員、横浜市会議員、同参事会員、同市会議長等となる○在任(明37・9―38・5)○昭和9年5月10日死去

参議院議員名鑑

朝鮮・台湾勅選議員

伊東致昊
元治元年12月生、本籍朝鮮○在任(昭20・4—21・7)

金田明 従四位
明治3年10月生、本籍朝鮮京城府○在任(昭20・4—21・7)

韓相龍 従四位
明治13年10月生、本籍朝鮮○在任(昭20・4—21・7)

許丙
明治24年11月生、本籍台湾、明治44年台湾総督府国語学校卒○大正8年以降台湾興業信託監査役、台湾公益会評議員及び幹事、台北市協議会員、同市学務、同市土木、同所得税調査の各委員、台湾総督府評議会委員等となる○在任(昭20・4—21・7)

野田鐘憲 伯爵 朝鮮貴族 従三位
明治9年10月生、本籍朝鮮○在任(昭20・4—21・7)

朴澤相駿
本籍朝鮮○在任(昭20・4—20・9)○昭和20年9月2日死去

朴忠重陽 従三位 勲一等
明治7年5月生、本籍朝鮮○在任(昭20・4—21・7)

綠野竹二郎 勲六等
明治5年5月生、本籍台湾新竹州、書房等修○明治27年桃園街庄約束処副長となり、その後桃仔園街庄公所長、台北県第二区庄長、第一区街長、保甲局長、埔仔区長、桃園街長、新竹州協議会員、台湾総督府評議会員、桃園軌道(株)社長等となる○在任(昭20・4—21・7)

李埼鎔 子爵 朝鮮貴族 従四位
明治22年11月生、本籍朝鮮京城府○在任(昭20・4—21・7)

林獻堂
明治14年10月生、本籍台湾、霧峰公学校修○同35年以降台湾霧峰区街庄長、霧峰公学校学務委員、霧峰区区長、台中庁参事、台中州協議会員、台湾総督府評議会員等歴任のほか、台湾製麻(株)、大東信託(株)、台湾新民報社各社長、南洋倉庫(株)総理等となる○在任(昭20・4—21・7)○昭和31年9月8日死去

あの部……二一三
いの部……二一七
うの部……二三四
えの部……二三六
おの部……二三七
かの部……二四四
きの部……二四九
くの部……二五二
けの部……二五四
この部……二五四
さの部……二五九
しの部……二六三
すの部……二六七
せの部……二六九
その部……二六九
たの部……二七〇
ちの部……二七六
つの部……二七六
ての部……二七八
との部……二七九
なの部……二八一
にの部……二八四
のの部……二八六
はの部……二八七
ひの部……二九〇
ふの部……二九二
ほの部……二九四
まの部……二九六
みの部……三〇〇
むの部……三〇三
もの部……三〇四
やの部……三〇六
ゆの部……三一〇
よの部……三一〇
わの部……三一三

あの部

安達良助（あだちりょうすけ）　全国選出　国民民主党

明治41年9月生、山形県出身○昭和8年山形県履物組合(連)理事となり、その後同県桐樹奨励会、同県木履工業組合、同県桐材統制組合、山形市体育会、同市体育協会、山形商工会議所各理事、山形県桐材(株)監事、同県下駄統制組合、同県桐紙工業組合各理事長、日本木履製造組合(連)常任理事、山形県バスケットボール協会長、山形商工会議所、山形市会各議員、山形県履物商工業協同組合理事長等となる○当選(参)1回(1)

安部キミ子（あべきみこ）　山口県選出　日本社会党

明治40年7月生、山口県出身、昭和13年東京共立女子専門学校卒○同年防府市立実践女学校教諭となり、その後山口県立深川高女教諭、私立長門文化服装学院院長、私立深川保育園長、山口県教育委員、日中友好協会理事、原水爆禁止日本協議会幹事、日本アジア連帯委員会常任理事、日朝協会副会長等となる○同30年アジア諸国会議に国会議員代表として出席、中国、北鮮視察、同33年欧米各国議院運営実情等視察○当選(参)1回(3)

安部清美（あべきよみ）　福岡県選出　自由民主党

明治33年9月生、福岡県出身、大正9年福岡師範学校卒○同年神興小学校訓導となり、その後脇山小学校長、県視学、筑紫高女校長、香椎高校校長を歴任、昭和23年福岡県教育委員当選、同27年同再選、その間委員長を勤め、同年博多高校を創立同校長、明林高校名誉校長、博多商業高校顧問、岩見沢商業高校名誉校長等となる○(著)「村の教育」「教育道」等○当選(参)1回(4)

安部定（あべさだむ）　全国選出　緑風会

明治41年5月生、大分県出身、昭和3年大分師範学校卒○同年大分県速見郡杵築尋常高等小学校訓導となり、その後大阪府各小学校訓導、大分県教員組合長、教員組合全国連盟副委員長等となる○当選(参)1回(1)

阿具根登（あぐねのぼる）　全国選出　日本社会党

明治45年3月生、福岡県出身、三池専門夜学商科卒○大正15年三池鉱業所に入社、その後三池炭鉱労働組合長(7選)、大牟田市議会議員、福岡県議会議員等を歴任、昭和28年以降参議院議員となり、参議院社会労働委員長、日本社会党中央執行委員、炭労政治局員等となる○昭和26年国際自由労連世界大会に出席、MRA世界大会及び米、仏、独、伊、スイス等の労働事情視察○当選(参)2回(35)

阿竹齋次郎（あたけさいじろう）　三重県選出　緑風会

明治25年2月生、三重県出身○大正15年宇治山田市会議員となり、その後三重県会議員、宇治山田市長等となる○当選(参)1回(1)

阿部竹松（あべたけまつ）　全国選出　日本社会党

明治45年3月生、秋田県出身、大正2年北海道和寒尋常高等小学校卒○昭和12年三菱鉱業(株)入社、その後夕張市会議員、日本炭鉱労働組合中央執行委員長等となる○同25年5月ILO会議日本労働者側代表となり、また同34年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察○当選(参)1回(4)

相澤重明（あいざわしげあき）　神奈川県選出　日本社会党

明治43年3月生、神奈川県出身、昭和9年東京鉄道局教習所専修部卒○同4年3月鉄道省東京鉄道局に奉職、その後鉄道官補、南方派遣軍軍属、鉄道事務官、同28年1月年末闘争の責任を問われ解雇通告を受ける、その間東京鉄道局内第一区現業委員、国鉄労組横浜支部委員長、本部副委員長、神奈川県地評議長、官公労本部、総評本部副議長、国会共闘事務局長、神奈川県労働金庫理事長等となる○同29年欧

州、中国、ソ連、同33年北朝鮮視察、同34年東南アジア各国の政治経済事情等視察○(著)「心の花」「同志と共に」○当選(参)1回(4)

愛知揆一 (あいちきいち) 全国選出 自由党

明治40年10月生、宮城県出身、昭和6年東京帝国大学法学部政治学科卒○同年大蔵省に入り、英仏駐在、米国出張、税務署長、大蔵大臣秘書官、中華民国駐在、理財局外事課長、大東亜省経済課長、大蔵省文書課長、同官房長、同銀行局長等歴任、参議院議員当選、自由党政務調査会副会長、第4次、第5次吉田内閣の大蔵政務次官、第5次吉田内閣の通商産業大臣兼経済審議庁長官等となる、昭和30年以降衆議院議員当選第1次岸内閣の法務大臣となる○米国政府の招きにより渡米、米連邦議会制度を研究○(著)「これからの金融」「政治には筋道を」○当選(衆)2回(27 28)(参)1回(2)

鮎川金次郎 (あいかわきんじろう) 東京都選出 自由民主党

昭和4年3月生、東京都出身、同27年新制成蹊大学政治経済学部卒、米ジョージタウン英オックスフォード各大学大学院政治経済学部修○同27年中小企業助成会に入り、その後日本中小企業政治連盟、日本農林漁業政治連盟各常任総務及び東洋大学講師等となる○外務省調査員として欧米、中近東、東南アジア視察○(著)「世界ぶつかりある記」「新日本の役割」○当選(参)1回(5)

鮎川義介 (あいかわよしすけ) 全国選出 第十七控室

明治13年11月生、東京都出身、同36年東京帝国大学工科大学機械科卒○同年(株)芝浦製作所入社、その後満州重工業開発(株)総裁、貴族院議員、内閣顧問、戦後帝国石油(株)及び石油資源開発(株)各会長、日本中小企業政治連盟、日本農林漁業政治連盟各総裁、全国中小企業団体中央会、(株)中小企業助成会各会長、岸内閣総理大臣経済最高顧問、東洋大学名誉総長等となる○外遊11回、各国の産業実情を調査○(著)「物の見方考え方」○在任(貴)(昭18・1―20・12)当選(参)2回(3 5)

青木一男 (あおきかずお) 全国選出 自由民主党

明治22年11月生、長野県出身、大正5年東京帝国大学法科大学法律学科卒○同年大蔵省に入り、その後外国為替管理部長、理財局長、対満事務局次長、企画院次長、同総裁等を経て貴族院議員(勅選)、阿部内閣の大蔵大臣兼企画院総裁、外務省外交顧問及び南京政府最高経済顧問、東条内閣の国務大臣、大東亜大臣等歴任、弁護士登録、また参議院予算、大蔵、内閣各委員長、参議院自由党国会対策委員長、自由民主党治安対策特別委員長、党紀委員長、経済調査会長等となる○(著)「ひまらや杉」「聖山随想」等○在任(貴)(昭14・8―21・1)当選(参)2回(3 5)

青田源太郎 (あおたげんたろう) 兵庫県選出 自由民主党

明治34年8月生、兵庫県出身、帰一学館卒○南満に渡り撫順南海火工品工廠に入社、昭和9年帰国、(株)元田商店、(有)神崎縫工各取締役、船津消防団長、同村長、神崎郡商工会長、(株)青田鋳造所、(株)岡製材所各社長、船津農業協同組合長、兵庫県会議員(2回)、同県信用農業協同組合連合会理事、同県農業協同組合中央会理事、同県農協信用基金協会長、同県共済農業協同組合(連)会長、同県農業会館理事長、農林中央金庫理事等となる○当選(参)1回(5)

青柳秀夫 (あおやぎひでお) 愛知県選出 自由民主党

明治30年7月生、群馬県出身、大正11年東京帝国大学法学部卒○同年横浜正金銀行入社、その後安田銀行勤務、昭和2年官界に転じ、内務省に入り、北海道、大阪府各事務官、厚生書記官(その間道府県の部課長歴任)、愛知県知事となり、初代公選愛知県知事に当選、参議院外務委員長、愛知県福利協会長等となる○同32年欧米各国の議院運営の実情等視察○当選(参)2回(3 5)

青山正一 (あおやましょういち) 全国選出 自由民主党

明治38年2月生、石川県出身、中央大学法学部修、農林省嘱託、京都水産業会、同漁業組合(連)各会長、同商工会議所参与、全国漁村同盟委員長、(財)水産研究会理事、京都水産(株)会長、(社)大日本水産会、日本定置網漁業協会各理事、日本旋網漁業協会、日ソ漁業対策協議会副会長、北海道開発政務次官、参議院法務委員長等となる○昭和29年東南アジア各国の政治経済事情視察、同30年ソ連及び中国等視察○当選(参)2回(1 3)

赤木正雄 (あかぎまさお) 兵庫県選出 緑風会

明治20年3月生、兵庫県出身、大正3年東京帝国大学農科大学林学科卒、農学博士○同年内務省に入りその後内務技師兼農林技師、京都帝大農学部農林工学科講師、貴族院議員等歴任、参議院議員当選、第2次吉田内閣の建設政務次官、参議院国土計画、建設各委員長、同立太子の礼及び成年式につきたてまつる賀詞案起草特別委員長、全国治水砂防協会常務理事等となる○欧米視察、オーストリア国立工科大学及び国立水理研究所にて砂防工学研究○在任(貴)(昭21・7―22・5)当選(参)2回(1 2)

赤澤與仁 (あかざわよじん) 徳島県選出 緑風会

明治38年10月生、徳島県出身、昭和5年九州帝国大学法文学部法科卒○同8年徳島県産組支会主事補となり、その後徳島県農業会長、全国農業会理事、徳島県信用農協(連)会長、農林中央金庫評議員、全国農業共済協会理事、徳島民報社監査役、日本ショップガイド(株)社長、石岡電機(株)顧問等となる○当選(参)1回(1)○昭和35年2月13日死去

赤間文三 (あかまぶんぞう) 大阪府選出 自由民主党

明治32年5月生、東京都出身、大正14年東京帝国大学法学部独法科卒○同15年岡山県属となり、その後沖縄、山梨、愛知各県課長、大阪府土木部都市計画、学務部学務各課長、徳島県経済部長、商工省化学局長、同省石炭局長、近畿地方商工局長、同商工局長、初代大阪府公選知事(当選3回)、日本赤十字社大阪支部長、地方制度調査会委員等となる○MRA大会出席のため欧米視察、米国務省の招きにより渡米視察○当選(参)1回(5)

赤松常子 (あかまつつねこ) 全国選出 民主社会党

明治30年8月生、山口県出身、京都女子大学英文科卒○日本労働総同盟婦人部長、全国繊維産業労働組合副会長を経て、参議院議員当選、芦田内閣の厚生政務次官、参議院労働委員長、社会党中央執行委員及び婦人部長を歴任、また社会保障制度審議会委員、民主社会党顧問、世界連邦建設同盟副会長、全繊同盟政治顧問、全日本仏教婦人連盟常務理事等となる○アメリカ政府の招きにより米国労働事情視察、ヨーロッパ社会主義政党実情及び国民福祉事情視察、ネパールにおける第4回世界仏教徒会議出席○当選(参)3回(1 3 5)

秋山俊一郎 (あきやましゅんいちろう) 長崎県選出 自由民主党

明治25年10月生、高知県出身、大正5年農商務省水産講習所漁撈科卒○高知県、佐賀県各水産課長、長崎県水産試験場長、太洋漁業(株)常務取締役、長崎商工会議所理事、同県電力協議会、同県経営者協会各会長、参議院水産委員長、第5次吉田内閣の外務政務次官、参議院農林水産委員長、漁船保険中央会会長、都貿易(株)取締役等となる○賠償協定及び平和条約調印のため全権代理としてビルマ国に出張○当選(参)2回(2 4)

秋山長造 (あきやまちょうぞう) 岡山県選出 日本社会党

大正6年3月生、岡山県出身、昭和15年東京帝国大学法学部政治学科卒○同年朝日新聞記者となり、その後岡山二中教諭、岡山県教員組合中央委員、同県地方労働委員、同県監査委員、同県議会議員(当選2回)等歴任、同21年日本社会党に入党し、岡山県

連青年部長、同政治局長、同書記長を経て同執行委員長となり、また参議院文教委員長となる○同32年中華人民共和国を訪問○当選(参)2回(35)

浅井一郎　千葉県選出　国民民主党

明治16年1月生、千葉県出身、日本法律学校修、コロンビア大学において法律学を修める○インターナショナル活動会社副社長、ヴァキュームオイル・レファイニング会社重役、千葉県君津郡大貫町長、千葉新聞社、新千葉新聞社、日本製塩(株)、日本国民食糧(株)、木更津自動車(株)、木更津ホテル、木更津合同タクシー(株)、木更津木工(株)、木更津印刷(株)各顧問等となる○当選(参)1回(1)

浅岡信夫　全国選出　自由党

明治32年12月生、東京都出身、早稲田大学商学部卒○昭和8年文化映画研究所代表者となり、その後日本活動写真幹部、(財)東京多摩帝国美術学校監事、杭州造紙廠経営者、日華製紙(連)、上海日本人劇場協会各理事、華中日本紙業統制会理事長、杭州居留民団民会議長、海外戦災同胞引揚者同盟委員長、東急電鉄(株)嘱託、(株)東急ベースボール倶楽部、国際工業(株)、(株)東方興業会各取締役、引揚者団体全国(連)顧問、同胞救援議員連盟帰還促進部長、松竹(株)監査役、第3次吉田内閣の厚生政務次官等となる○当選(参)1回(1)

東隆　北海道選出　民主社会党

明治35年3月生、北海道出身、大正15年北海道帝国大学農学部農業経済学科卒○同年北海道庁勤務、農林主事として経済更生、金融、産業組合主任官歴任、北海道農会幹事、同農業会専務理事、日本輸出農産物会社理事、札幌支店長、肥料配給公団札幌支部長、北海道農業復興会議副議長等歴任、また衆議院議員当選、日本協同党、国民協同党、農民協同党を経て昭和27年日本社会党(右)入党、統一社会党を経て民主社会党所属、参議院決算委員長となり、また札幌桑園生協組合長となる○同29年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(衆)1回(22)(参)2回(24)

天田勝正　埼玉県選出　民主社会党

明治39年3月生、埼玉県出身、東京物理学校別科修○日本大衆党埼玉県(連)、関東金属産業労働組合等の常任委員、日本農民組合中央委員、全国農民組合主事、副会長、会計、顧問等となり、また日本社会党中央執行委員、宣伝部長、遊説部長、出版宣伝部長、首都圏整備審議会委員長、全日本農民組合(連)教育宣伝部長等となる○昭和31年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察○(著)「新税制早わかり」○当選(参)3回(135)

天埜良吉　全国選出　自由民主党

明治37年7月生、愛知県出身、昭和4年東京帝国大学工学部土木科卒、工学博士○同年内務省土木局に入り青森港修築事務所長、仙台土木出張所工務部長、同18年官制改正により運輸省勤務、日本学術振興会委員、第三港湾建設局長、港湾審議会委員、国土総合開発審議会専門委員、首都圏整備審議会幹事、日本港湾協会理事、港湾荷役機械化協会顧問、海上保安協会評議員、日本倉庫協会顧問、日大講師等となる○同31年アメリカ合衆国へ出張○当選(参)1回(5)

雨森常夫　全国選出　自由民主党

明治37年6月生、東京都出身、大正15年東京帝国大学農学部卒○同年農林省嘱託となり、その後農林技師、農地開発営団企画部調査課長、経済安定本部建設局次長、農林省農地局建設部長、京都農地事務局長等となる○国際会議出席のためインドへ出張、昭和33年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)1回(3)

荒井八郎　全国選出　民主自由党

明治21年5月生、埼玉県出身、同40年関直彦私塾卒

○大正6年足袋製造業を始め、その後忍町町会、埼玉県会各議員、行田足袋被服工業組合理事長、全日本足袋工業組合(連)理事、日本足袋共同販売(株)、日本足袋製造統制(株)各取締役、日本足袋統制(株)理事、忍町農業会長、忍町被服製造(株)取締役会長、行田足袋元売販売(株)社長、行田足袋工業会理事長、日本足袋配給(株)理事、忍商工会議所会頭、全日本足袋卸商業協同組合理事長等となる○当選(参)1回(1)○昭和25年1月11日死去

荒木正三郎　全国選出　日本社会党

明治39年9月生、大阪府出身、昭和2年池田師範学校専攻科卒○同年大阪府豊能郡箕面小学校訓導となり、その後秦野、北豊島各小学校訓導、池田市北豊島小学校長、日教組中央執行委員長、日本教育会長等歴任、また参議院内閣、農林水産各委員長、日本社会党国会対策副委員長、日本民主教育政治連盟会長等となる○同24年ロンドンにおける自由世界労連結成大会に日本代表として出席、同28年ラングーンにおけるアジア社会党結成大会に日本社会党外交部長として出席、同34年親善使節議員団として、ユーゴスラビア訪問及び欧米各国の議院運営の実情等視察○当選(参)2回(24)

有馬英二　北海道選出　自由民主党

明治16年5月生、東京都出身、同41年東京帝国大学医学科卒、医学博士○大正10年北海道帝大医学部教授となり、その後初代付属医院長、日本学術研究会議員、文部省教育刷新委員会委員、厚生省医薬審議会委員、北海道総合開発委員会委員、衆議院議員、北大名誉教授、(財)中央結核研究会会頭、学校法人北星女学園理事長、参議院外務委員長等となる○大正10年、昭和8年欧米出張、同31年欧米各国の議院運営の実情等視察○当選(衆)1回(22)(参)2回(1補3)

井川伊平　北海道選出　自由民主党

明治28年3月生、徳島県出身(本籍北海道)、大正10年明治大学法科卒○同12年札幌市において弁護士開業(北海道弁護士(連)会長1期)、札幌市議会議員(当選3回)、北海道議会議員(当選6回、道議会副議長1期)、海外同胞引揚北海道(連)会長、自民党北海道(連)副会長、道連合遺族会副会長、道家畜商協会顧問、全国農地解放者同盟顧問等となる○当選(参)1回(5)

井野碩哉　三重県選出　自由民主党

明治24年12月生、三重県出身、大正6年東京帝国大学法学部独法科卒○同年農商務省に入り米穀、水産、会計、文書各課長、蚕糸局長、企画庁次長、農林次官、日本水産専務等を経て第2次、第3次近衛内閣の農林大臣、東条内閣の農林大臣、拓務大臣(兼)歴任、衆議院議員当選、のち参議院議員当選、緑風会選挙対策委員長となり昭和32年緑風会脱会、自民党入党、農林省顧問、参議院予算委員長、自民党三重県支部(連)会長、第2次岸内閣の法務大臣等となる○当選(衆)1回(21)(参)2回(35)

井上清一　京都府選出　自由民主党

明治38年7月生、富山県出身、昭和5年東京帝国大学法学部政治学科卒○同年内務省に入り社会局、東京都に在勤、その後香川、和歌山、静岡、神奈川、秋田、岡山各県、内閣情報局、関東信越行政協議会、関東信越総監府、内務省等の各部課長、四国地方行政事務局次長、同物価事務局長、京都府警察部長、同府副知事、内閣官房副長官等歴任、失業対策審議会委員となり、参議院議員当選、石橋及び第1次岸内閣の外務政務次官、自由民主党副幹事長、総務、政策審議委員等となる○同27年日華平和条約締結日本全権団顧問として渡台○当選(参)2回(3 5)

井上知治　鹿児島県選出　自由民主党

明治19年7月生、鹿児島県出身、大正6年東京帝国大学法学部卒○同年神戸鈴木商店入社、その後読売新聞社を経て衆議院議員当選、皇室会議予備議員、同経済会議予備議員、衆議院副議長、第2次吉田内閣の国務大臣(賠償庁長官)、自由党、自由民主党各顧問等歴任のほか国会タバコの会会長、(株)アポロ商会、タバコ耕作組合(連)各顧問、東京歯科大学理事長等となる○当選(衆)7回(17 18 19 20 22 23 24)(参)1回(3)

井上なつゑ　全国選出　緑風会

明治31年7月生、兵庫県出身、津田英学塾修、昭和4年ロンドン大学ベットフォード女子専門学校公衆衛生看護学科卒○日赤大阪支部病院看護婦長、日赤中央病院看護婦養成部書記、公衆衛生院、厚生科学研究所各教務事務嘱託、同研究所、女子学習院、厚生省研究所各講師、日赤中央病院養成副部長兼看護婦監督、公衆衛生院講師、日赤女子専門学校主事、同理事、日本助産婦看護婦保健婦協会会長等となる○パリ、ブラッセル、ロンドンに開催の国際看護婦協会総会に出席○当選(参)1回(1) 昭和55.11.13 死去 82才

井村徳二　石川県選出　自由民主党

明治32年11月生、石川県出身、早稲田大学商科修○北陸鉄道(株)社長、石川県観光連盟、同県消防協会長、(株)大和社長、加越能鉄道(株)副社長、北日本放送(株)、北陸放送(株)各取締役、大市土地(株)社長等となり、また衆議院議員当選、民主党、国民民主党、改進党及び日本民主党の石川県支部(連)各会長、自由民主党総務、同党政調会政策審議会、同党石川県支部(連)各副会長、石橋及び第1次岸内閣の経済企画政務次官等となる○当選(衆)1回(23)(参)1回(3)○昭和33年10月27日死去

伊東隆治　全国選出　国民民主党

明治31年7月生、鹿児島県出身、大正11年東京帝国大学法学部政治学科卒○外交官補(フランス)、公使館書記官(スイス、スエーデン)、大使館書記官(アメリカ)、ハヴァナ領事、総領事(バンコック)、通商局第五課長兼農林書記官、漢口総領事、興亜院調査官、大使館参事官(中華民国)、日本製鉄会社顧問、芦田内閣の外務政務次官等となる○ジュネーブにおける国際連盟総会第6、8回会議及び国際連盟旅券会議日本代表委員随員となる、昭和30年衆議院議員当選○当選(衆)1回(27)(参)1回(1)

伊藤顕道　群馬県選出　日本社会党

明治33年6月生、群馬県出身、大正13年東京高等師範学校卒○同年神奈川県立湘南中学教諭、横浜高商嘱託となり、その後旧制各中等学校教諭、学校長、満鉄教学監等歴任、昭和25年以来全群馬教職員組合執行委員長、日教組関東地区協議会議長、群馬県労働金庫初代理事長、日本社会党憲法擁護特別委員会副委員長、日本社会党院内役員、国土総合開発審議会委員、畑地農業改良促進対策審議会委員等となる○当選(参)1回(4) 昭和57.4.26 死去 81才

伊藤修　岐阜県選出　日本社会党

明治29年3月生、岐阜県出身、大正10年日本大学法

科卒○同11年弁護士となり、その後中部日本農民組合、日本農民組合岐阜県(連)各常任顧問、岐阜市会議員、東亜興業(株)、旭炭鉱(株)、関東重工業(株)、(名)三富士製作所、朝日精機(株)、旭電機工業(株)、日本社会公論各社長、日本社会新聞岐阜県総局長、社会文化大学名誉学長、富田高等女学校理事、岐阜弁護士会会長、岐阜地方裁判所各種調停委員、参議院司法、法務各委員長等となる○当選(参)1回(1)

伊藤保平　全国選出　緑風会

明治15年8月生、兵庫県出身、同39年慶応大学理財科卒○同45年西宮酒造(株)社長となり、その後西宮銀行監査役、神戸銀行顧問、兵庫県及び近畿酒造組合(連)、酒造組合中央会各会長、大日本酒類販売(株)、日本酒造協会各相談役、中央酒類(株)会長、千代田生命保険(相)社員総代、慶応義塾評議員となり、また西宮市会議長、大阪財務局管内相続税審査委員会、中央物価委員会、酒類価格形成委員会、大蔵省煙草定価審議会各委員等となる○当選(参)1回(1)

伊能繁次郎　千葉県選出　自由民主党

明治34年3月生、千葉県出身、大正15年東京帝国大学法学部法律科卒○同年鉄道省に入り、鉄道局副参事等を経て門司鉄道局長、鉄道総局業務局長、鉄道総局長官、運輸次官となり衆議院議員当選のち参議院議員当選、党千葉県支部長、副幹事長、政調副会長、第3次鳩山内閣の運輸政務次官、参議院自民党幹事長、第2次岸内閣の国務大臣(防衛庁長官)等歴任、また(社)日本乗合自動車協会会長等となる○昭和33年列国議会同盟会議に参議院側団長として出席及び欧米各国の議会制度視察、親善使節議員団員として訪伯、また在官中中国、満州国へ出張○当選(衆)1回(25)(参)2回(2補4) 昭和56.6.12 死去 80才

伊能芳雄　群馬県選出　自由民主党

明治31年2月生、群馬県出身、大正14年東京帝国大学法学部政治学科卒○同年警視庁警部補となり、その後同警部、同警視、同事務官、同消防部長、千葉県警察部長、静岡県学務部長、厚生省労務官兼厚生書記官、青森県内政部長、北海道庁経済部長、長野県知事等歴任、群馬県知事当選、地方制度調査会委員、自民党選挙制度調査会副委員長、石橋、第1次岸内閣の労働政務次官、日本消防協会顧問等となる○地方行政視察のため渡英、帰途仏、伊視察○当選(参)1回(3) 昭和63.10.2 死去

猪飼清六　滋賀県選出　緑風会

明治11年4月生、滋賀県出身、同34年東京専門学校法律科卒○大正4年滋賀県会議員となり、その後伊香立村長、江君鉄道(株)取締役、(株)滋賀県農工銀行監査役、産業組合中央金庫評議員、滋賀県組合金庫統制団理事長、同県農業会副会長、全国農業会、農林中央金庫各監事等となる○当選(参)1回(1)

飯島連次郎　群馬県選出　緑風会

明治38年7月生、群馬県出身、昭和7年京都帝国大学農学部卒○同年渡満、大陸開拓移民の指導訓練及び研究に従事、同21年帰郷、その後村長、多々良村農業協同組合長、群馬県酪農業協同組合理事、同県生産農業協同組合(連)会長、同県信用農業協同組合(連)理事、同県農林統計協会長、全国指導農業協同組合(連)専務理事、農業電化協会副会長、全国厚生文化農業協同組合(連)理事、全国新聞情報農業協同組合(連)会長、参議院文教委員長等となる○同29年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)1回(2)

飯田精太郎　全国選出　緑風会

明治17年9月生、山口県出身、同40年京都帝国大学理工科大学電気工学科卒○同41年臨時台湾工事部嘱託となり、その後同技師、鉄道院、鉄道局各技師、新橋電力事務所長、東京鉄道局電気課長、鉄道省電気局長、貴族院議員、運輸通信次官等歴任、また鉄道電気工業(株)相談役、鉄道会議議員、帝都高速度

交通営団評議員、(社)鉄道電化協会長等となる○大正9年欧米各国へ出張○在任(貴)(昭10・12―22・5)当選(参)1回(1)○昭和27年3月7日死去

池田宇右衛門　長野県選出　自由民主党

明治27年5月生、長野県出身○養蚕組合長、農会評議員、長野県農業会常務理事、市会、県会各議員、全国都市農会常任幹事、同会副会長、県、市各参事会員、都市計画地方委員、長野県蚕糸会、同県園芸協会各副会長、市農業会会長、長野県花卉組合(連)、長野市農業協同養蚕組合(連)各会長となり、また第3次吉田内閣の農林政務次官、自由党総務、参議院郵政委員長等となる○昭和28年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)2回(1補2)

池田七郎兵衛　福井県選出　自由党

明治15年6月生、福井県出身○大正3年福井県会議員当選、同県会副議長、議長、参事会員等歴任、昭和12年衆議院議員当選、村長、郡教育会、青年会、農業会、畜産組合会各会長、所得税調査委員、県経済審議会各委員等となり、また第九十一銀行頭取、福井紡績(株)、白山水力電気(株)、福井電力(株)、大正電気(株)各取締役、日本水力電気(株)監査役等となる○当選(衆)1回(20)(参)1回(1)

池田恒雄　茨城県選出　労働者農民党

明治42年4月生、宮城県出身、帝国農会技術訓練所卒○昭和6年全国農民組合宮城県(連)書記となり、その後、同組合総本部、大日本農民組合福島県(連)各書記、福島消費組合主事、帝国農会嘱託、中央農業会主事補、全国農業会職員、日本農民組合茨城県(連)執行委員、日本農民組合中央委員等となる○当選(参)1回(1)

石井桂　東京都選出　自由民主党

明治31年8月生、埼玉県出身、大正12年東京帝国大学工学部建築学科卒、工学博士○警視庁建築課長、戦災復興院東京建築出張所長、東京都建築局長等歴任、また日大、都立大、早大各講師、埼玉県建築士会、日本建築士(連)、東京都建築士会、日本建築協会各会長、東大生産技術研究所第3期協議員、中央工学校名誉校長、第2次岸内閣科学技術政務次官等となる○昭和27年第21回国際住宅都市計画会議出席○(著)「防空建築と待避施設」等○当選(参)1回(3)

石川栄一　全国選出　自由民主党

明治22年5月生、埼玉県出身、同38年群馬県立伊勢崎工業学校卒○埼玉県会議員、同県会副議長、民主党同県支部幹事長、自由党同県支部副支部長、利根川治水同盟常任副会長、中川荒川総合開発期成連盟常任顧問、埼玉県水防管理者団体連絡協議会長、利根川総合開発議員連盟理事、埼玉県共同募金会、同県社会福祉協議会各会長、三光蚕糸(株)取締役、(株)石川農産加工所社長、自由党本部総務、参議院建設委員長等となる○当選(参)1回(2)

石川一衛　埼玉県選出　国民民主党

明治19年9月生、埼玉県出身、熊谷中学校修○日本蹄鉄(株)社長、民主党埼玉県副支部長、釜潤木材工業(株)、同産業(株)各取締役、日米工業(株)会長等となる○当選(参)1回(1)○昭和35年9月1日死去

石川準吉　秋田県選出　国民民主党

明治31年11月生、秋田県出身、昭和2年東北帝国大学法文学部法科卒○大正11年広島県福山師範教授となり、その後産業組合事務官兼農林事務官、農林事務官兼水産講習所教授、大阪、東京各営林局庶務部長、水産局水産課長、米穀局外地課長、大使館一等書記官、食糧管理局第一部長、地方総監府参事官、東北地方行政事務局次長、農林省総務局長、食糧対策審議会幹事、中央企業経理調査委員会委員、農林中央金庫評議員、同監事等となる○当選(参)1回(1)

石川清一　全国選出　無所属クラブ

明治39年7月生、北海道出身、大正11年上富良野村東中尋常高等小学校高等科卒○昭和21年上富良野村農業会理事となり、その後上富良野農協組合長、同農地委員会長、同農業共済組合長、上川生産農業協同組合(連)会長、北海道信連代表監事、同販連発起人代表、同指導連理事、同共済連監事、北海道農業復興会議副議長、同農民同盟委員長、道議会議員、全国農青連副委員長、改進党参議院副会長、米価審議会委員、参議院建設、懲罰各委員長等歴任、また上富通運(株)取締役会長等となる○当選(参)1回(2)

石黒忠篤　全国選出　参議院同志会

明治17年1月生、東京都出身、同41年東京帝国大学法科大学法学科卒○農商務省に入り農務、蚕糸各局長、農林次官、近衛内閣の農林大臣、鈴木内閣の農商大臣、貴族院議員、産業組合中央金庫理事長等歴任、参議院緑風会議員総会議長、参議院図書館運営、外務各委員長、憲法調査会委員、農村更生協会、国際農友会、農業労務者派米協議会、シルクロード・ソサエティ各会長等となる○昭和28年FAOインド会議、同29年国際小農同盟総会、同33年南米日本移民50年祭等参列○在任(貴)(昭18・1―21・2)当選(参)2回(2補4)○昭和35年3月10日死去

石川清一　全国選出　無所属クラブ

明治39年7月生、北海道出身、大正11年上富良野村東中尋常高等小学校高等科卒○昭和21年上富良野村農業会理事となり、その後上富良野農協組合長、同農地委員会長、同農業共済組合長、上川生産農業協同組合(連)会長、北海道信連代表監事、同販連発起人代表、同指導連理事、同共済連監事、北海道農業復興会議副議長、同農民同盟委員長、道議会議員、全国農青連副委員長、改進党参議院副会長、米価審議会委員、参議院建設、懲罰各委員長等歴任、また上富通運(株)取締役会長等となる○当選(参)1回(2)

石黒忠篤　全国選出　参議院同志会

明治17年1月生、東京都出身、同41年東京帝国大学法科大学法学科卒○農商務省に入り農務、蚕糸各局長、農林次官、近衛内閣の農林大臣、鈴木内閣の農商大臣、貴族院議員、産業組合中央金庫理事長等歴任、参議院緑風会議員総会議長、参議院図書館運営、外務各委員長、憲法調査会委員、農村更生協会、国際農友会、農業労務者派米協議会、シルクロード・ソサエティ各会長等となる○昭和28年FAOインド会議、同29年国際小農同盟総会、同33年南米日本移民50年祭等参列○在任(貴)(昭18・1―21・2)当選(参)2回(2補4)○昭和35年3月10日死去

石坂豊一　富山県選出　自由民主党

明治7年5月生、富山県出身、同志社大学修○富山県庶務課長兼社寺兵事課長、同県婦負郡長、同県理事官、猟場監、樺太庁長官官房主事兼内務部地方課長、財務課長、文部参与官等歴任、また立憲政友会総務、富山市長、衆議院議員、参議院建設、懲罰各委員長、衆議院副議長、同共済連監事、北海道農業復興会議副議長、同農民同盟委員長、道議会議員、全国農青連副委員長、改進党参議院副会長、米価審議会委員、参議院建設、懲罰各委員長等歴任、また上富通運(株)取締役会長等となる○当選(参)1回(2)

石坂豊一　富山県選出　自由民主党

明治7年5月生、富山県出身、同志社大学修○富山県庶務課長兼社寺兵事課長、同県婦負郡長、同県理事官、猟場監、樺太庁長官官房主事兼内務部地方課長、財務課長、文部参与官等歴任、また立憲政友会総務、富山市長、衆議院議員、参議院建設相談役等となるほか(株)魚津精氷冷蔵社長等となる○満蒙、中華民国、南米各地視察、昭和3年列国議会同盟会議出席、同29年東南アジア各国の政治経済事情等視察○同33年永年在職議員として表彰○当選(衆)5回(15 16 18 19 20補)(参)2回(1 3)

石田次男　全国選出　無所属クラブ

大正14年2月生、東京都出身、昭和24年芝浦工業専門学校電気科卒○同26年聖教新聞社入社、編集長主幹となり同34年編集長を辞任、主幹となる○当選(参)1回(5)

石谷憲男　全国選出　自由民主党

明治41年1月生、鳥取県出身、昭和6年東京帝国大学農学部卒○同年秋田営林局に入り、その後鳥取営林署長、経済安定本部林産課長、林野庁計画課長、林野庁長官等歴任、国立公園審議会、鳥獣審議会各委員、日本林業技術協会顧問等となる○在官中アジア太平洋地域林業会議出席のためインドネシア国に出張○当選(参)1回(5)

石原幹市郎　福島県選出　自由民主党

明治36年4月生、福島県出身、大正15年東京帝国大学法学部卒○厚生省国民健康保険課長、北海道、大阪府各経済部長、東京都経済局長、福島県知事(2期、官選、公選)等歴任、参議院懲罰、通産、議院運営各委員長、第2次吉田内閣の外務政務次官、参議院自由民主党政策審議会長、同国会対策委員長、自由民主党党紀委員長、第2次岸内閣の国務大臣(自治庁長官、国家公安委員長)、自治大臣、日赤常任理事、全国国保団体中央会副会長、福島県果樹園芸協会会長、会社役員等となる○昭和28年列国議会同盟会議に出席及び欧米各国の議会制度視察○(著)「国民健康保険法詳解」○当選(参)3回(1補3・5)

石村幸作　神奈川県選出　自由民主党

明治24年4月生、神奈川県出身、同44年早稲田実業学校卒○同年大倉鉱業(株)入社その後商弁本渓湖煤鉄有限公司勤務、関東都県町村会、神奈川県町村会各会長、同県湯本町長、同県国家地方警察協力会、同県観光審議会、大箱根観光協会各会長、箱根登山

鉄道、(株)徳和紡績(株)、神奈川県観光(株)各取締役、(株)箱根三味荘社長等となり、また参議院自由党副幹事長、国会対策委員、地方制度調査会委員、第5次吉田内閣の自治政務次官等となる○昭和30年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)1回(2)

泉山三六 全国選出 自由民主党

明治29年3月生、山形県出身(本籍東京都)、大正10年東京帝国大学政治科卒○同年三井銀行に奉職、昭和22年衆議院議員当選、第2次吉田内閣の大蔵大臣となり経済安定本部長官、物価庁長官、経済調査庁長官兼任、参議院議員当選後、参議院予算委員長、参議院自由党最高顧問となる○(著)「トラ大臣になるまで」○当選(衆)1回(23)(参)2回(24)

板野勝次 岡山県選出 日本共産党

明治36年1月生、岡山県出身、大正9年岡山県第一商業学校卒○岡山県労働組合執行委員、同県労働学校講師、日本労働組合評議会中央委員、同評議会神戸地方評議会常任執行委員、神戸労働大学講師、日本共産党神戸地方委員長、同党岡山地方教育宣伝部長、日本農民組合岡山県農民同盟教育部長、岡山県清涼飲料工業統制組合、同県滋養飲料工業協同組合、同県蒟蒻工業統制組合、同県冷凍菓商工業協同組合各理事長、同県藤野町太陽食品(株)取締役、全国清涼飲料工業協同組合(連)理事等となる○当選(参)1回(1)

板谷順助 北海道選出 民主自由党

明治10年3月生、北海道出身、慶応義塾卒○昭和2年衆議院議員当選その後鉄道参与官、貴族院議員歴任、参議院運輸及び交通、運輸各委員長等となるほか渡島海岸鉄道会社、沙流鉄道会社、洞爺湖電気鉄道会社、帝国自動車工業会社各社長、板谷生命保険会社、十合百貨店、日本電気冶金会社、羽田精機会社各取締役、板谷商事会社副社長等となる○在任(貴)(昭21・5—22・5)当選(衆)6回(15補16 17 18 19補20)(参)1回(1)○昭和24年12月20日死去

市川房枝 東京都選出 無所属クラブ

明治26年5月生、愛知県出身、大正2年愛知女子師範学校卒○小学校教員、新聞記者を経て上京、労働総同盟の前身友愛会婦人部に参加、同8年新婦人協会を結成、婦人参政権運動開始、渡米、帰国後ILO東京支局に勤務しながら婦選獲得同盟結成、戦後新日本婦人同盟組織、婦人の政治教育運動開始、昭和22年から25年まで追放、また婦人問題研究所理事長、理想選挙普及会代表幹事となる○同27年文化使節として渡米、同34年英国総選挙見学のため渡英、婦人参政10周年記念行事、汎太平洋東南アジア婦人協会第8回大会に協力○当選(参)2回(35)

市来乙彦 全国選出 緑風会

明治5年4月生、鹿児島県出身、同29年東京帝国大学政治学科卒○同年大蔵属となり、その後大阪、松本各税務管理局司税官補、熊本税務管理局司税官、横浜税関、台湾総督府各事務官、那覇税務管理局長、臨時沖縄県土地整理事務局次長、大蔵省、専売局各書記官、大蔵省参事官、同主計局長、大蔵次官、加藤(友)内閣の大蔵大臣、日本銀行総裁、東京市長、貴族院議員等となる○在任(貴)(大7・9—昭22・5)当選(参)1回(1)○昭和29年2月19日死去

稲浦鹿藏 全国選出 自由民主党

明治27年10月生、兵庫県出身、大正13年京都帝国大学工学部土木工学科卒○同年内務省内務工手となり、その後、内務技師、大阪府土木部河港課長、兵庫県土木部長、建設省技監、建設省事務次官、日本学術会議会員、日本土木学会会長、参議院建設委員長等となり、また青島埠頭(株)常務取締役、日本河川、全国海岸、浚渫治水、日本港湾各協会副会長、国際技術協力協会理事、日本道路協会評議員等となる○在官中土木事業研究調査のため中華民国及びアメリカ合衆国に出張○当選(参)1回(4)

稲垣平太郎 全国選出 民主クラブ

明治21年7月生、東京都出身、大正2年慶応義塾大学理財科卒○同年古河(合)入社、その後富士電気製造(株)経理部長、(株)時事新報社常務取締役、横須賀自動車(株)、日本特殊鋼管(株)各専務取締役、湘南電気鉄道(株)取締役、日本飛行機(株)監査役、横浜ゴム製造(株)社長、同取締役会長、慶応義塾、交詢社各理事となり、また民主党政務調査会長、同党幹事長、参議院鉱工業、商工各委員長、第3次吉田内閣の通商産業大臣、国民民主党最高顧問等となる○当選(参)1回(1)

今泉政喜 佐賀県選出 自由党

明治19年10月生、佐賀県出身、大正元年長崎医科大学薬学専門部卒○同10年今泉製薬会社代表社員となり、その後、佐賀県薬品配給(株)社長、全国薬品配給協会監事、佐賀県薬剤師会会長等となる○当選(参)1回(1)

入交太藏 高知県選出 自由民主党

明治29年8月生、高知県出身、大正3年高知商業学校卒○共同石炭鉱業(株)社長、高知ロータリー倶楽部、(株)高知大丸各会長、入交産業(株)、高知汽船(株)、高知セメント販売(株)各社長、土佐電気鉄道(株)取締役、四国電力(株)監査役、高知県商工会議所会頭、同県森林組合(連)、同県体育協会、同県貿易協会、同県猟友会各会長、大日本猟友会、日本商工会議所各理事、自由党総務、第3次吉田内閣の賠償、外資各政務次官、第3次、第4次吉田内閣の北海道開発政務次官等となる○昭和29年欧米各国の議院運営の実情等視察○当選(参)2回(12)

岩男仁藏 大分県選出 改進党

明治21年9月生、大分県出身、同42年大分師範学校卒○同年大分県小学校訓導となり、その後、校長、郡視学、県視学、地方事務官、大分県知事官房主事、同県内務部商工水産課長、満州国理事官、文教部庶務科長、大分県農業会長、同県農業保険組合(連)会長、同県青果物荷受組合(連)理事長、同県食糧営団理事、(有)大分県農機具修理工場取締役会長、九州種苗殖産(株)社長、同取締役会長、参議院決算委員長等となる○当選(参)1回(1)

岩木哲夫 大阪府選出 改進党

明治34年4月生、大阪府出身、昭和12年大阪府米穀商業組合理事長となり、その後同府食糧営団専務理事、中央食糧営団理事、大阪食糧科学学校講師、大阪地方検事局及び裁判所経済委員、芦田内閣の文部政務次官、民主党大阪府(連)会長等となる○当選(参)1回(1)

岩崎正三郎 栃木県選出 日本社会党

明治34年1月生、東京都出身、大正13年拓殖大学卒○同年報知新聞記者となり、その後日本労農党関西事務局書記長、全国労農青年同盟書記長、全国大衆党、日本大衆党、社会大衆党各中央委員、東京製鉄(株)社員、藤岡町農地委員会会長、日本社会党中央執行委員、参議院郵政委員長等となる○当選(参)1回(1)

岩沢忠恭 全国選出 自由民主党

明治25年6月生、広島県出身、大正7年京都大学土木工学科卒○内務省国土局道路課長、同局長兼内務技監、建設院技監、建設省事務次官兼技監等歴任、議員当選後自由党政策審議会会長、参議院予算、建設各委員長、自民党相談役、国土開発縦貫自動車道建設審議会委員、自民党会計監督、同広島県支部連会長等となり、また日本道路協会、全国治水期成同盟会(連)、日本測量協会、日本蛇籠協会各会長、日本河川協会副会長、高速道路調査会理事等となる○在官中土木行政、技術を研究調査のため欧米各国に出張○(著)「道路の構造と鋪装」○当選(参)2回(24)

岩間正男（いわまま・お）　全国選出　日本共産党

明治38年11月生、宮城県出身、昭和2年宮城師範学校専攻科卒○宮城県及び東京都にて10数年間教員をつとめ、終戦後東京都教育労働組合執行委員長、日本教育労働組合執行委員長、全日本教員組合闘争委員長、民主主義教育協会副会長、機関紙協会会長、日本平和委員会平和委員、日ソ協会常任理事、日中友好協会理事、新日本文学会会員、文化人会議会員、日本歌人クラブ会員等となる○(著)「社会主義教育論」歌集「炎群」(ほむら)「母子像」「ひとり愚かに」随筆集「この子らを」編著「教員組合運動史」「日本伝承童謡集成」(雑の部)等○当選(参)2回(1・4)

平成元年十一月一日死

岩本月渕（いわもと・つきふち）　広島県選出　自由党

明治34年7月生、京都府出身、昭和5年竜谷大学卒○同7年京都女子高等専門学校講師となり、その後、広島高師、同文理大各講師、仏教学研究所員、宗教文化研究所長等となる○当選(参)1回(1)

うの部

宇垣一成（うがき・かずしげ）　全国選出　緑風会

明治元年6月生、岡山県出身、陸軍大学校卒、独国留学○同24年陸軍歩兵少尉となり、のち陸軍大将となる、この間、陸軍大学校長、第十師団長、陸軍次官、陸軍省軍務局軍事課長、参謀本部第一部長、陸軍大学校長、第十師団長、陸軍次官、陸軍技術会議議長、軍事参議官浜口内閣の陸軍大臣、軍事参議官朝鮮総督、第1次近衛内閣の外務大臣、拓務大臣、内閣参議等となる○当選(参)1回(3)○昭和31年4月30日死去

宇都宮登（うつのみや・のぼる）　島根県選出　緑風会

明治31年2月生、広島県出身、広島明道中学校修○昭和6年片倉生命保険(株)松江支社長となり、その後交易営団松江駐在員、俵松林材工業(株)取締役、島根竹材貿易(株)社長、山陰酸素工業(株)取締役、出雲造船(株)社長、広島水産(株)社長、島根県木材組合(連)会長、全国木材組合(連)理事、みずほ文化(株)社長、島根県一般用材林産組合長、同県坑木林産組合(連)会長等となる○当選(参)1回(1)

上野喜左衛門（うえの・きざえもん）　鹿児島県選出　緑風会

明治34年8月生、鹿児島県出身、昭和2年商科大学卒○大正14年川内川電気(株)社長となり、その後、日本水電(株)副社長、西鑛殖産銀行監査役、笠砂電気(株)社長、宮崎ガス(株)、鹿児島郵船(株)、鹿児島朝日新聞社各監査役、貴族院議員等となる○在任(貴)(昭7・9―22・5)当選(参)1回(1)

上原正吉（うえはら・しょうきち）　埼玉県選出　自由民主党

明治30年12月生、埼玉県出身、明治薬学校修○昭和25年以降参議院議員となり、第3次吉田内閣の物価、経済調査、首都建設各政務次官、参議院郵政、決算各委員長等歴任、また自由党政務調査会理事、参議院自由党副幹事長(2回)、自由民主党総務、同党全国組織委員会副委員長、参議院自民党政策審議会副会長、同政策審議会内閣部長、自民党埼玉県支部相談役となるほか六合印刷(株)代表取締役、大正製薬(株)社長、埼玉県遺族(連)顧問等となる○昭和32年視察団団長として欧米各国の議院運営の実情等視察○当選(参)2回(2・4)

植垣弥一郎（うえがき・やいちろう）　全国選出　自由民主党

明治18年6月生、京都府出身○明治製菓(株)、明治商事(株)各専務、明治乳業(株)、東京牛乳乳製品統制(株)、明治飼料(株)、明治糖業(株)、明治パン工業(株)各社長、日本乳製品協会、全国飲用牛乳協会、日本酪農講習所各理事長、飼料需給安定審議会、恩賜財団母子愛育会、栄養改善普及会各理事等となる○昭和12年食品工業視察のため欧米に出張○当選(参)1回(5)

植竹春彦（うえたけ・はるひこ）　栃木県選出　自由民主党

明治31年2月生、栃木県出身、大正13年東京商科大学本科卒○日大、明大各講師、東野鉄道(株)社長、同会長、帝国造林(株)社長等となり、議員当選後芦田内閣の運輸政務次官、民主党、自由党の各政務調査会副会長及び各総務、参議院運輸委員長、自民党相談役、同党副幹事長、同党参議院議員総会副会長、同党党紀委員長、第2次岸内閣の郵政大臣等歴任、また栃木県体育協会、同県音楽協会各会長、同県森林組合(連)顧問、全日本剣道連盟副会長等となる○昭和34年ジュネーブにおける電波、電気通信国際会議にわが国首席全権として派遣○当選(参)3回(124)

牛田寛（うしだ・ひろし）　全国選出　無所属クラブ

大正4年4月生、京都府出身、昭和11年横浜高等工業学校機械工学科卒○同年(株)東京計器製作所に入り、その後横浜工業専門学校嘱託、東京芝浦電気(株)嘱託、都立機械工業専門学校教授、東京都立大学工学部講師、創価学会統監部長となる○当選(参)1回(5)

内村清次（うちむら・せいじ）　全国選出　日本社会党

明治35年12月生、熊本県出身、大正7年熊本県鮎田中部高等小学校卒○同年熊本県機関庫試傭機関夫となり、その後熊本機関区助役、管理部機関車課員、国鉄転課員、熊本機関区機関手、熊本運輸事務所運労働組合熊本支部(連)会長、国鉄労働組合総連合会中央副執行委員長、内閣給与審議会委員等歴任、参議院議員当選、日本社会党熊本県(連)会長、党中央執行委員、参議院在外同胞引揚問題特別委員長、同地方行政委員長、鉄道建設審議会委員、日本社会党熊本県(連)顧問となる○昭和32年欧米各国の議院運営の実情等視察○当選(参)3回(124)

梅津錦一（うめづ・きんいち）　群馬県選出　日本社会党

明治31年12月生、群馬県出身、大正9年群馬県師範学校卒○同年群馬県桐生北小学校訓導となり、その後同県教員組合執行委員長、全日本教員組合関東地区協議会議長、群馬県全官公庁副斗争委員長、同県高崎市片岡中学校長、参議院厚生委員長等となる○当選(参)1回(1)

梅原眞隆（うめはら・しんりゅう）　全国選出　緑風会

明治18年11月生、富山県出身、大正3年仏教大学考究院卒○同年仏教大学講師となり、その後竜谷大学、臨済学院学部各教授、浄土真宗本願寺派執行、顕真学苑主幹、浄土真宗本願寺派勧学寮寮頭、高志塾綜理、参議院議院運営、文部各委員長等となる○(著)「浄土真宗」「歓異鈔講話」○当選(参)1回(1)

占部秀男（うらべ・ひでお）　全国選出　日本社会党

明治42年7月生、神奈川県出身、昭和4年日本大学商科卒○同年東京毎夕新聞社に入り、その後東京都主事、東京都職員労働組合委員長(7期)、全日本自治団体労働組合委員長(7期)、官公労議長等となる○同27年国際公務員連合大会(英国トルーケイ市)日本代表として訪英、同29年ILOアジア会議に日本代表団労働者側顧問として出席○当選(参)1回(4)

海野三朗（うんの・さぶろう）　山形県選出　日本社会党

明治22年9月生、山形県出身、大正5年東北帝国大学理学部卒、理学博士○同年米沢中学校教諭となりその後八幡製鉄所研究所勤務、日本製鉄理事、社会党山形県支部(連)会長、山形支部長、中央委員、衆議院議員、日本社会党山形県支部(連)、日本農民組合(連)、最上特定地域開発振興同盟各顧問、明善寺

住職、参議院懲罰委員長等となる○昭和27年第2回世界仏教徒会議に県代表として出席○(著)随筆「火と日本」等、論文「製鉄研究」(邦文)等その他欧文発表○当選(衆)2回(22 23)(参)1回(3)

え の部

江熊哲翁(えくまてつお) 全国選出 緑風会

明治26年4月生、大分県出身、大正5年水産講習所本科養殖科卒○同7年大分県水産技手となり、その後水産試験場技手、台湾総督府技手、滋賀県農林技手、地方技師、下関漁港事務所長事務取扱、山口県健民対策審議会専門委員、同水産業会長等となる○当選(参)1回(1)

江田三郎(えださぶろう) 岡山県選出 日本社会党

明治40年7月生、岡山県出身、東京商科大学本科修了○昭和5年以降社会主義政党、農民組合の運動に参加、小作争議指導と戦争反対のため2回投獄される、県会議員(2期)、日本社会党統制委員長等歴任、参議院議員当選後、日本農民組合書記長、参議院農林水産委員長、日本社会党組織局長を経て同党書記長となる○同31年親善使節議員団として訪英○(著)「これからの農民運動」等○当選(参)2回(2 4)

江藤智(えとうあきら) 全国選出 自由民主党

明治40年1月生、山口県出身、昭和4年京都帝国大学土木工学科卒、工学博士○鉄道省に入りその後札幌鉄道局長、日本国有鉄道理事施設局長、関西総支配人兼大阪鉄道管理局長等歴任、参議院議員当選、鉄道建設審議会委員、自民党国会対策副委員長、同党政調会交通部副部長等となり、また中央コンクリート(株)、日本基礎工業(株)、アキラ産業(株)各社長等となる○同27年日本学術会議代表として欧米出張、同34年内閣総理大臣随員として欧州出張、同年観光使節団員として欧米出張○(著)「鉄道操車場の設計と保線」○当選(参)1回(4)

遠藤柳作(えんどうりゅうさく) 埼玉県選出 自由民主党

明治19年3月生、埼玉県出身、同43年東京帝国大学法科大学法律学科卒○同年朝鮮総督府試補となり、その後同参事官、同秘書課長、東京府産業部長、千葉県内務部長、青森、三重、神奈川、愛知各県知事、衆議院議員、満州国国務院総務庁長、朝鮮総督府政務総監、貴族院議員、阿部内閣の内閣書記官長等歴任のほか東京新聞社長、武蔵野銀行頭取等となる○在任(貴)(昭11・4—21・2)当選(衆)1回(16)(参1)回(2補)

お の部

小笠原二三男(おがさわらふみお) 全国選出 日本社会党

明治43年4月生、岩手県出身、昭和5年岩手県師範学校専攻科卒○小学校教員(20年)、日本教職員組合書記長、同副委員長、日本教育会常務理事を歴任、教育刷新審議会、国土総合開発審議会、地方制度調査会、東北開発審議会等各委員、参議院地方行政委員長、社会党岩手県(連)会長等となり、また同24年以来日本社会党中央執行委員となる○同27年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察、同30年中国視察○当選(参)2回(2 4)

小川友三(おがわともぞう) 全国選出 各派に属しない議員

明治37年4月生、埼玉県出身、大正10年明治薬学専門学校卒○同13年製薬業を始め、その後古物商、機械製作業、農業等経営、埼玉県古物商(連)顧問、日支薬業(株)、(有)東武デパート各社長、政治結社親米博愛勤労党党首、宗教結社親米教教主等となる○当選(参)1回(1)

小川久義(おがわひさし) 全国選出 自由党

明治33年4月生、富山県出身、大正4年富山県新庄高等小学校卒○農耕業主、針原村青年団長、上新川郡連合青年団副団長、顧問、富山市農会主事、所得税調査員、不動産評価委員、富山県農業会副会長、富山市主事、同市針原農業会長、富山県農業会副会長、同県食糧調整委員、富山市針原農業協同組合長、富山県農業協同組合連絡協議会長、同県自家用自動車組合理事長、全国自家用自動車組合(連)顧問、参議院選挙法改正特別委員長等となる○当選(参)2回(1補)○昭和29年5月25日死去

小串清一(おぐしせいいち) 神奈川県選出 自由党

明治9年6月生、神奈川県出身○同39年戸塚町外三カ村の耕地組合長となり、その後神奈川県会議員、同県参事会員、同県農業会長、帝国農会議員、神奈川県会議長、同県養蚕業組合(連)、同県販売購買組合(連)各会長、衆議院議員、逓信省関東地方電力調整委員会委員、横浜市会議員、全国畜産組合(連)会長、神奈川県耕地協会会長、全国耕地協会副会長、参議院大蔵委員長、同選挙法改正特別委員長等となる○当選(衆)1回(20)(参)1回(1)

小沢久太郎(おざわきゅうたろう) 千葉県選出 自由民主党

明治33年12月生、千葉県出身、昭和2年東京帝国大学工学部土木工学科卒○同年内務省土木局に入り、戦後特別調達庁促進局次長、近畿地方建設局長、経済安定本部建設交通局長、経済審議庁審議官等歴任、同28年以降自民党政調会建設部長(2期)、同顧問、第1次岸内閣の建設政務次官、自民党副幹事長(2期)、同党参議院副幹事長を経て自民党総務、首都圏整備特別委員会副委員長、東京湾開発特別委員会副委員長等となり、また(社)国際建設技術協会、(社)全日本建設技術協会、(財)国土計画協会各理事長等となる○同32年岸首相東南アジア訪問に随行○当選(参)2回(3 5)

小野哲(おのさとる) 千葉県選出 緑風会

明治33年4月生、京都府出身、大正13年東京帝国大学法学部法律学科卒○同年鉄道属となり、その後鉄道局副参事、鉄道事務官、在外研究員、門司鉄道局鳥栖運輸事務所長、東京鉄道局運輸部庶務課長、鉄道省陸運監理官、東京鉄道局運輸部長、門司鉄道局長、運輸通信省鉄道総局勤労局長、運輸省自動車局長、同企画局長、千葉県知事、第3次吉田内閣の地方自治政務次官等歴任、また日本トラック協会長等となる○当選(参)1回(1)

小野光洋(おのこうよう) 全国選出 自由党

明治31年4月生、山梨県出身、昭和3年立正大学本科卒○大正13年大正新修大蔵経刊行会に入り、その後立正学園石川台高等女学校長兼教諭、妙油寺住

職、(財)立正安国団理事、東京司法保護委員会嘱託、日蓮宗戦災寺院復興局委員、(財)立正学園、(財)錦華学院各理事長、東京都私立中等学校協会常任委員渉外部長、日本私学団体総連合会理事、東京都私学振興協議会委員嘱託、第2次吉田内閣の文部政務次官等となる○当選(参)1回(1)

小野義夫　全国選出　自由民主党

明治13年10月生、東京都出身、同38年早稲田大学法科卒○同40年古河鉱業入社、その後本社課長、大阪製錬、ラサ島燐鉱等各会社重役、ラサ工業、田川炭礦各会社取締役会長、東洋鉱山、日本鑿泉採鉱、昭和木材工業、茶路炭礦等各会社社長、肥料協会会長、東京商工会議所、日本鉱業協会、日本経営者連盟、日本関税協会各理事、経団連評議員、燐酸肥料協会、全国肥料商業組合(連)各顧問等となり、また自由党総務、参議院法務委員長、弾劾裁判所裁判員、自由党参議院副会長等となる○当選(参)2回(2・4)○昭和31年10月13日死去

小幡治和　福井県選出　自由民主党

明治38年1月生、福井県出身、昭和3年東京帝国大学法学部卒○内務省警保局事務官、奈良県、栃木県各警察部長、防空総本部指導課長、内務省文書課長、中部地方総監府首席参事官、大阪府経済、内務各部長、近畿行政事務局次長、福井県知事、続いて同公選知事(2期)等歴任、議員当選後、自民党政策審議会副会長、党副幹事長、党広報委員会副委員長、第2次岸内閣の防衛政務次官となり、また福井紡績、福井放送、福井駅ビル等の各株式会社取締役就任○(著)「素顔の欧米」「欧米百句」○当選(参)2回(2補4)

尾形六郎兵衛　山形県選出　自由党

明治34年3月生、山形県出身、大正9年山形県立庄内中学校卒○米穀取引所理事、貯蓄銀行監査役、山形造船(株)取締役、山形県水産業会会長、日本海水産(株)社長、太平水産(株)社長等となる○当選(参)1回(1)

尾崎行輝　全国選出　緑風会

明治21年1月生、三重県出身、同45年京都帝国大学理科修○大正4年帝国飛行協会航空局技師となり、その後大日本航空会社等勤務、大正から昭和にかけ家父尋堂の政界革正運動に参加○当選(参)1回(1)

尾山三郎　富山県選出　自由党

明治21年12月生、富山県出身、同38年県立富山商業学校卒○富山市会議員、同市会議長、富山県会議員、富山消防組頭、同警防団長、同消防団長、富山市消防長、富山市長、富山青果食品市場(株)社長、日本消防協会理事、富山消防協会会長等となる○当選(参)1回(2)○昭和26年10月3日死去

大川光三　大阪府選出　自由民主党

明治32年3月生、大阪府出身、大正12年関西大学専門部経済科卒○同年以降大阪において弁護士開業、その間大阪府会議員当選(4回)、同府会副議長に就任、衆議院議員当選、参議院議員当選後、参議院法務委員長となり、また全大阪釣友会連盟会長等となる○昭和33年東南アジア各国の政治経済事情等視察○(著)釣の随筆「みつちやん」○当選(衆)2回(21・25)(参)2回(3補4補)

大河原一次　福島県選出　日本社会党

明治36年9月生、福島県出身、早稲田大学高等師範英文科修○昭和2年古河鉱業(株)好間鉱業所就職、同5年労働運動により退社、農民運動及び労働運動に入る、同20年終戦と同時に常磐地方における社会党の支部及び労働組合の結成に尽力、古河鉱業好間炭鉱労働組合長、日本炭鉱労働組合常磐地方本部執行委員長、福島県労働対策審議会委員、日本社会党福島県連副会長、党中央委員、日本農民組合県連顧問等となる○同29年国際労働会議に日本労働者側代表として出席、スイス、西ドイツ、イタリー、ベルギー、イギリス等視察○当選(参)1回(4)　昭和36・7死去

大隈信幸　全国選出　民主クラブ

明治43年5月生、東京都出身、昭和10年東京帝国大学経済学部卒○同13年(株)日立製作所入社その後、同社人事課長、日本航空機(株)勤労部長、貴族院議員、参議院外務委員長、平和条約及び日米安全保障条約特別委員長等となる○同26年講和会議調印状況視察○在任(貴)(昭22・2―22・5)当選(参)1回(1)

大倉精一　全国選出　日本社会党

明治38年12月生、三重県出身、昭和6年早稲田大学商学部卒○同7年運搬合資会社入社(同16年統合により日本通運(株))、全日通労働組合中央執行委員長、中央労働基準委員、中央職業安定委員等歴任、議員当選後、裁判官訴追委員、アジア・オリンピック組織委員、参議院運輸委員長、日本社会党党内役員、綱紀粛正特別委員会副委員長、財務副委員長、政策審議会運輸部長、全日通労組、全交通労組協議会、社会党三重県(連)、愛知県(連)各顧問等となる○同27年第35回ILO総会に労働者代表顧問として出席、同31年訪中使節団員として中国に出張○当選(参)3回(3・3再5)

大沢雄一　埼玉県選出　自由民主党

明治35年12月生、埼玉県出身、昭和4年中央大学法科卒○同年内務省に入り、その後佐賀、鹿児島、熊本、群馬各県課長、拓務省、大東亜省各課長、開封総領事、新潟県教育民生部長、埼玉県教育、内務各部長等を経て埼玉県知事当選、全国知事会副会長、地方職員共済組合運営審議会長、内閣地方制度調査会委員、参議院自由民主党副幹事長、第2次岸内閣の建設政務次官、日本赤十字社埼玉県支部長等となる○当選(参)1回(4)

大島定吉　栃木県選出　自由党

明治20年10月生、栃木県出身、栃木県立足利工業学校修○昭和10年栃木県煙草小売人(連)会長となり、その後同県木工業(連)専務理事、同県印袢纏施設組合理事長、栃木木工(株)社長、同県懐炉灰製造統制組合理事長、栃木町会議員、同市会議員、同県会議員、栃木市長、衆議院議員等となり、参議院議員当選後参議院逓信、電気通信、郵政各委員長等歴任、また渡良瀬紙業(株)監査役、東京合成化学(株)取締役会長等となる○当選(衆)1回(22)(参)1回(1)

大隅憲二　神奈川県選出　自由党

明治26年11月生、千葉県出身、同42年平岡尋常高等小学校高等補習科卒○(資)泰運送店代表社員、逗子町会議員、横須賀市会議員、(資)隅田組代表社員等となる○当選(参)1回(1)

大竹平八郎　全国選出　参議院同志会

明治37年2月生、群馬県出身、独学○大正15年帝国通信社入社(無産政党、労働運動担当)、大阪帝国通信社東京支社長を経て文部省嘱託、長江産業貿易開発協会創立とともに常務理事就任、昭和20年同協会を日華経済協会と改称理事長に就任、この間東京都港区立白金小学校PTA会長(7年)、東京都港区立高松中学校PTA会長、学校法人広池学園理事、裁判官弾劾裁判所裁判員等となる○産業貿易実情調査のため中華民国に渡航(10余回)、終戦後中華民国より国賓として招かれ渡台○当選(参)1回(4)　昭和60・5・17歿　81才

大達茂雄　島根県選出　自由党

明治25年1月生、島根県出身、大正5年東京帝国大学法科大学政治科卒○同年宮城県属として内務省に入り、その後福井県知事、満州国国務院法制局長、同総務長官、陸軍嘱託北支派遣軍顧問、内務次官、昭南市長(陸軍司政長官)、東京都長官、小磯内閣の内務大臣、第5次吉田内閣の文部大臣等となる○当選(参)1回(3)昭和30年9月25日死去

大谷瑩潤　全国選出　参議院同志会

明治23年1月生、京都府出身、大正8年大谷大学卒○真宗大谷派函館別院住職、函館大谷高女校長、全

日本仏教青年会連盟理事長、真宗大谷派宗務総長、更生保護東京自立会会長、横浜修道会会長等となり、また衆議院議員当選、参議院議員当選、社会保障制度審議委員、皇室経済会議予備委員、参議院在外同胞引揚問題、同中共地域からの帰還者援護各特別委員長、自由党本部総務、第3次鳩山内閣の国家公安政務次官等となる○昭和2年欧米各国視察、同28年東南アジア各国の政治経済事情等視察○(著)「正信謁講和」「連如上人」等○当選(衆)1回(22)(参)2回(24)

大谷藤之助(おおたにとうのすけ)　全国選出　自由民主党

明治39年12月生、島根県出身(本籍東京都)、昭和11年海軍大学校卒、東京外語選科卒○艦隊の参謀として大東亜戦争緒次の戦闘に参加、終戦前後海軍省副官として米内光政海軍大臣の下に終戦処理にあたり海軍中佐で退官、復員省事務官を経て靖国神社事務総長、同奉賛会理事事務総長、日本遺族厚生連盟顧問、水交会理事、軍人恩給連盟理事、日本宗教政治連盟理事、水交会評議員、戦友団体(連)参与、日本写真文化協会顧問、池田内閣の科学技術政務次官等となる○当選(参)1回(4)　平成元年二月八日

大谷贇雄(おおたによしお)　全国区選出　自由民主党

明治33年11月生、愛知県出身、大正14年慶応義塾大学文学部卒○同15年桜花高等女学校主事となり、その後同校校長、女子商業学校及び名古屋短期大学創立、(学)桜花学園理事長、名古屋市会議員(10カ年)、初代愛知県教育委員長、東海毎日新聞社創設、同社監査役、愛知トヨタKK嘱託、日本国際連合協会理事、全国私立中等高等学校(連)、東本願寺各顧問、(学)大谷学園理事長等となり、また参議院懲罰委員長等となる○欧米各国歴訪、昭和32年カンボジア王国に国賓として招かれる、東南アジア各国視察○(著)「詩集」等○当選(参)3回(33再5)

大西十寸男(おおにしとすお)　全国選出　無所属懇談会

明治29年8月生、東京都出身○大正12年日本農民組合書記となり、その後同組合三重県(連)書記長、同組合書記長、中央農地委員会委員等となる○当選(参)1回(1)昭和22年7月29日死去

大野幸一(おおのこういち)　全国選出　日本社会党

明治38年7月生、岐阜県出身、昭和8年日本大学法文学部法律科卒○同年弁護士開業、その後日本社会党常任中央執行委員会書記兼憲法改正委員会書記、片山中央執行委員長秘書、日本社会党統制委員、同党岐阜県連顧問、参議院郵政委員長等となる、昭和33年衆議院議員当選○当選(衆)1回(28)(参)1回(1)

大野木秀次郎(おおのぎひでじろう)　京都府選出　自由民主党

明治28年11月生、京都府出身、立命館大学修○大野木製作所、洛東織物社長、貴族院議員等となり、参議院議員当選、第3次、第4次、第5次吉田内閣の国務大臣、サンフランシスコ講和会議首席全権代理、吉田内閣五長老常任総務、参議院自由党議員総会長(5期)、自由民主党顧問、同党京都府(連)会長、皇室会議予備委員、皇居造営審議委員等歴任、また日本染弘(株)社長、京都外国語大学理事長、京都薬大理事、京都商工倶楽部会長、妙心寺、智恩院総代、鞍馬寺会長等となる○第1回渡米議員団としてアメリカ政治視察○在任(貴)(昭21・7―22・5)当選(参)3回(124)

大畠農夫雄(おおはたのぶお)　茨城県選出　日本社会党

明治32年4月生、茨城県出身、大正9年中央大学法科卒○同年鉄道省経理局職員となり、その後東京都目黒区会議員、(株)東京製鋼所取締役、弁護士等となる○当選(参)1回(1)

大森創造(おおもりそうぞう)　茨城県選出　日本社会党

大正7年5月生、茨城県出身、昭和16年上海東亜同文書院卒○同18年大阪市又一貿易株式会社に入り上海支店、杭州支店に勤務、同21年郷里圷村長(現桂村)に就任、同22年以降茨城県会議員に当選(連続3期)、県連書記長、組織部長、茨城県軍事基地反対県民会議議長等となる○当選1回(5)

大矢正(おおやただし)　北海道選出　日本社会党

大正14年1月生、北海道出身、日本大学修○北海道炭鉱汽船(株)入社、戦後労働運動に入り炭礦労働組合道本部委員長、社会党道(連)顧問、北海道開発審議会委員等となる○西欧諸国及びソ同盟、中国等視察○当選(参)1回(4)　昭和58・1・1死去　57才

大矢半次郎(おおやはんじろう)　全国選出　自由党

明治25年1月生、岩手県出身、大正7年東京帝国大学法学部卒○同年大蔵属となりその後富山、品川、永代各税務署長、仙台、大阪各税務監督局直税部長、銀行検査官、主税局国税課長兼主税局臨時土地調査課長、東京税務監督局長、大蔵省主税局長、醸造試験所長、日本勧業銀行理事、農林中央金庫副理事長、弁護士等となり、また参議院大蔵委員長となる○当選(参)1回(2)

大屋晋三(おおやしんぞう)　大阪府選出　自由民主党

明治27年7月生、群馬県出身、大正7年東京高等商業学校卒○同年神戸鈴木商店に入社(欧米、中華民国、アフリカ在勤)、帝国人造絹糸(株)社長、同取締役会長となり、議員当選後第2次吉田内閣の商工大臣、大蔵大臣臨時代理、第3次吉田内閣の運輸大臣等となる○昭和28年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察○当選(参)2回(12)

大山郁夫(おおやまいくお)　京都府選出　無所属クラブ

明治13年9月生、兵庫県出身、同38年早稲田大学政治科卒、シカゴ大学及びミュンヘン大学に留学○同39年早大講師となり、その後同大学教授、大阪朝日新聞論説記者、労働農民党及び労農党中央執行委員長、衆議院議員となり、昭和7年から同22年までアメリカに滞在、その間ノースウェスタン大学研究嘱託、帰国後早大教授、平和擁護日本委員会会長等となる、同26年スターリン国際平和賞受賞○(著)「政治の社会的基礎」等○当選(衆)1回(17)(参)1回(2)○昭和30年11月30日死去

大山安(おおやまやすし)　全国選出　緑風会

明治24年4月生、茨城県出身、東京市立浅草工業専修学校高等科卒○農業、土建請負業等に従事○当選(参)1回(1)

太田敏兄(おおたびんけい)　岡山県選出　各派に属しない議員

明治23年1月生、岡山県出身、同43年明治大学法科卒○大正13年大原社会問題研究所員となり、その後岡山県農業会調査室長、日本協同組合同盟岡山県支部長、日本社会党岡山県支部(連)調査室長、民主主義科学者協会岡山支部長、岡山県民主主義文化連盟常任理事、明治農業専門学校長、参議院懲罰委員長等となる○当選(参)1回(1)

太田正孝(おおたまさたか)　静岡県選出　自由民主党

明治19年11月生、静岡県出身、同45年東京帝国大学法科大学経済学科卒、経済学博士○同年大蔵省に入り、その後旧報知新聞副社長、中大、早大、神奈川大(横浜専門学校)、東京家政学院各教授、講師、昭和5年以来衆議院議員等となり、その間大蔵参与官、近衛内閣の大蔵政務次官、大蔵省顧問、衆議院予算委員長、第3次鳩山内閣の国務大臣(自治庁長官)等となる○欧米外遊3回(経済学研究及び税制視察)○(著)「保税制度論」(学位論文)「太田経済辞典」「国民予算論」「経済読本」「関税行政論」「資本主義の修正」「人情亡国論」「町人論吉」等○当選(衆)7回(17 18 19 20 21 25 27)(参)1回(5)　昭和57・7・10死去　95才

岡三郎(おかさぶろう)　全国選出　日本社会党

大正3年3月生、山梨県出身、昭和8年山梨県師範学校卒○山梨、神奈川の各校に勤務、神奈川教組、教全連各副委員長、日教組副委員長(2選)、同委員長(3選)、官公労初代議長(4選)、参議院社会労

働、文教各委員長、日本社会党中央執行委員、同党科学技術調査特別委員会副委員長、同党教育制度調査特別委員長、同党神奈川県(連)会長、同党参議院副会長、国会対策副委員長となる○同25年英国政府の招きにより渡英、同26年世界教員総連合総会日本代表、同27年ILO総会日本労働者席代表、世界教員連合執行委員となる、同35年欧南米諸国における議院運営の実情及び政治経済事情等視察○(著)「英国の教育制度」○当選(参)2回(3・5)

岡崎真一(おかざきしんいち)　兵庫県選出　自由民主党

明治40年5月生、兵庫県出身、昭和7年慶応義塾大学法学部卒○鐘紡、岡崎汽船、神戸海上保険(株)社長歴任、のち同和火災、東京衡器、日豊海運、神戸国際会館各社長、日本航空、日本テレビ、東洋パルプ各取締役、神戸商工会議所会頭、日本商工会議所副会頭等となり、その間参議院大蔵委員長、外交調査会副会長等歴任○同26年サンフランシスコ会議に参加、同27・29年政府親善使節として東南アジアへ出張、同30年世界仏教徒大会日本代表として東南アジア諸国へ出張○(著)「新しき欧米を行く」「褐色の肌」○当選(参)3回(1補3・5)

岡田喜久治(おかだきくじ)　栃木県選出　自由党

明治22年7月生、東京都出身、大正3年東京帝国大学政治学科卒○同年内務属となり、その後衆議院議員当選、米内内閣の農林政務次官等となる○昭和9年列国議会同盟会議出席、同年万国議院商事会議出席○当選(衆)3回(18・19・20)(参)1回(1補)○昭和34年2月3日死去

岡田信次(おかだしんじ)　全国選出　自由民主党

明治31年12月生、東京都出身、大正12年京都帝国大学土木工学科卒、工学博士、昭和7年から同9年まで在外研究員として欧米各国に留学○大正12年鉄道省に入り同技師、工務局計画課長、運輸省鉄道総局施設局長、運輸審議会委員、土木学会長、日本鉄道技術協会理事長、小田急電鉄顧問、第5次吉田内閣の運輸政務次官等となる○昭和28年欧米各国における議院運営の実情等視察○(著)「鉄道工学」「鉄道と自然との闘い」等○当選(参)2回(2)

岡田宗司(おかだそうじ)　東京都選出　日本社会党

明治35年8月生、東京都出身、大正15年東京帝国大学経済学部卒○学生時代から社会運動に関係、大学卒業後労農党に入党、以来無産政党、労働組合、農民組合の運動に従事、昭和12年いわゆる人民戦線事件で検挙投獄され、戦後日本社会党、日本農民組合の創立に参画、日本社会党中央執行委員、同党参議院議員会長、参議院農林委員長等となる○当選(参)2回(13)

岡部常(おかべつね)　全国選出　緑風会

明治21年8月生、東京都出身、大正3年東京帝国大学法律学科卒○同4年司法属となり、その後同書記官、滋賀、千葉、巣鴨、府中、大阪、小菅の各刑務所長、九州行刑管区司令、関東行刑管区長、弁護士、刑務協会顧問、講道館理事、参議院法務委員長等となる○大正14年ロンドンにおける第9回万国刑務会議に日本代表として出席、欧米各国視察○(著)「一枚の切手」「東北院の聖」等○当選(参)1回(1)

岡村文四郎(おかむらぶんしろう)　全国選出　自由民主党

明治23年9月生、北海道出身、高知県高岡郡赤木尋常小学校卒○大正元年北海道に赴き、紋別市上渚滑立牛で開拓に挺身、昭和4年下立牛産業組合長となり、その後北海道信販購利(連)専務理事、北海道農業会、同信用農業協同組合(連)各会長、農林中央金庫評議員、全国組合金融協会、北海道農業会議、全国共済農業協同組合(連)各会長、全国農業会議所、全国農業協同組合中央会、(社)家の光協会各理事、共栄火災海上保険相互会社取締役、雪印乳業(株)取締役、農林放送事業団理事、参議院懲罰委員長等となる○(著)「組合運動の思い出」○当選(参)2回(15)

岡元義人(おかもとよしと)　鹿児島県選出　緑風会

明治43年9月生、鹿児島県出身、大正12年宮崎県立小林中学校卒○昭和4年大阪川西内燃機関研究所員となり、その後朝鮮水力電気(株)機関庫主任、国際運輸(株)自動車部主任、承徳及び天津市において華北運輸公司を経営、北京市において北支工廠を経営、鹿児島県姶良郡隼人連合青年会長、同県引揚者厚生連盟理事、同県体育協会、同県牛馬飼育協会各顧問、日南殖産(株)社長等となる○当選(参)1回(1補)○昭和33年11月17日死去

岡本愛祐(おかもとあいすけ)　全国選出　緑風会

明治27年9月生、京都府出身、大正9年東京帝国大学法学部法律学科卒○同年埼玉県属となり、その後同県警視、東宮侍従兼侍従兼東宮事務官兼内大臣秘書官兼宮内書記官、皇后宮事務官兼侍従兼宮内事務官、宮内参事官兼式部官、帝室林野局監理部長、宮内大臣官房主管、内匠頭兼宮内省警衛局長、帝室林野局長官、林政調査会委員等歴任、また参議院地方行政委員長、(社)林野会会長等となる○当選(参)1回(1)

奥主一郎(おくしゅいちろう)　京都府選出　国民民主党

明治27年9月生、京都府出身、大正8年慶応義塾大学理財科卒○同年三井銀行社員となり、その後京都瓦斯(株)副社長、愛宕山鉄道(株)監査役、(株)京都取引所理事長、渡良瀬水電(株)監査役、(社)帝国瓦斯協会参事、(株)丸物百貨店、山城八幡銀行、安田火災保険(株)各取締役、日本倉業会監事、大日本政治会京都支部幹事長、貴族院議員、日本証券取引所評議員、立命館大学理事、京都商工会議所常議員、参議院決算委員長等となる○在任(貴)(昭17・5―22・5)、当選(参)1回(1)

奥むめお(おくむめお)　全国選出　参議院同志会

明治28年10月生、福井県出身(本籍東京都)、大正5年日本女子大学卒○同11年治安警察法第五条を改正し政談集会に会同する婦人の自由を得、その後婦人セツルメントと働く婦人の家を経営、議員当選後、参議院決算委員長となるほか、主婦連会長、日本生活協同組合(連)副会長、日本タイピスト協会会長、主婦会館理事長等となる○昭和26年英国政府の招きで渡英、同30年中国、ソ連より招かれ協同組合視察、同33年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察、親善使節議員団として訪伯、同35年消費者教育専門視察団員として渡米○著書多数○当選(参)3回(135)

鬼丸義斉(おにまるぎさい)　全国選出　改進党

明治19年9月生、大分県出身、大正8年明治大学法科卒○同年弁護士を開業、その後名古屋弁護士会長、衆議院議員、中部日本弁護士協会、(財)宏潤社各理事長、(株)大森製陶所取締役会長等となり、また国民民主党参議院議員会長、同総務会長、同党最高委員、参議院懲罰委員長、講和全権委員代理等となる○当選(衆)1回(16)、(参)1回(1)○昭和29年11月13日死去

かの部

カニエ邦彦　京都府選出　日本社会党

明治39年4月生、京都府出身、大正12年京都市稲荷自動車学校卒○京都市において貨物、旅客、自動車修理事業等経営、京都市電気局自動車課勤務、全京都自動車消費組合常務理事、京都高級タクシー(株)、興亜自動車工業(有)、三光自動車工業(有)各重役、日本国際航空工業(株)、日国工業(株)京都工場各社員、全京都金属労働組合(連)委員長、京都府労働委員、同府公職適否審査委員、参議院人事委員長等となる○当選(参)1回(1)

加賀操　北海道選出　緑風会

明治32年7月生、岡山県出身、大正13年北海道帝国大学農学部卒○同年北海道庁技手となり、その後技師、北海道信用購買販売組合(連)、北海道農業会、全農政協会各理事、北海道薬農工業会社社長、上川生果物出荷組合長、日本除虫菊協会理事長等となり、また北海道開発審議会委員等となる○当選(参)1回(1)　昭和61・2・3死去　82才

加賀山之雄　全国選出　参議院同志会

明治35年12月生、福井県出身、昭和2年東京帝国大学法学部卒、○同年鉄道省に入り、その後広島鉄道局長、運輸省業務局長、同鉄道総局長官、日本国有鉄道副総裁、同総裁、参議院文教委員長等歴任、また(財)交通道徳協会副会長、(学)成城学園評議員、日本レクリエーション協会会長、全国通運(株)社長等となる○同11年欧州に留学在外研究員として欧米各国鉄道事情視察、同26年パリにおける万国鉄道会議に日本代表として出席、同31年親善使節議員団の一員として訪英、同34年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)2回(35)

加瀬完　千葉県選出　日本社会党

明治43年1月生、千葉県出身、昭和5年千葉県師範学校卒○千葉県小学校訓導となり、その後同県小中学校長、同県議会議員、同県教職員組合委員長、教育財政研究会理事等となる○同32年欧米各国の議院運営の実情等視察○当選(参)2回(35)

加藤シヅエ　全国選出　日本社会党

明治30年3月生、東京都出身、大正3年女子学習院卒、ニューヨークバラードスクール修○婦人参政権獲得同盟、日本産児調節同盟各役員、衆議院議員、同院憲法制定特別委員、参議院厚生、運輸各委員長等歴任、また社会党外交政策委員会委員長、国際及び日本家族計画連盟副会長、人口問題調査会委員、人口問題研究会理事、全国飲用牛乳協会顧問、婦人問題研究会会長等となる○渡欧5回渡米9回、東南ア、中近東視察、サンガー夫人研究所で受胎調節問題研究、昭和33年列国議会同盟春季会議出席○(著)英文「岐路に立ちて」翻訳「日本女性史」○当選(衆)2回(22・23)、(参)2回(24)

加藤常太郎　香川県選出　自由党

明治38年4月生、香川県出身、大正12年県立高松商業学校卒、奉天外国語学堂支那語科卒○香川県海運業者連盟会長、香川地区機帆船海運組合理事長、全国機帆船海運組合(連)理事、日本近海汽船(株)代表取締役、香川木造船組合理事長、船舶運営会評議員、神戸市加藤海運(株)代表取締役、香川県海運(株)、香川造船造機(株)各社長、日本機船(株)、海上交通社、糸崎造船(株)各取締役、第2次吉田内閣の運輸政務次官等となる昭和27年以降衆議院議員当選○当選(衆)4回(25・26・27・28)(参)1回(1)

加藤武徳　岡山県選出　自由民主党

大正4年11月生、岡山県出身、昭和17年中央大学法学部卒○内務省に入り警視庁、新潟県、防空総本部勤務、陸軍軍法会議法務官、佐賀県学務、社会教育、地方各課長、岡山県厚生、商工各課長等を勤め、民主自由党青年部長、自由党副幹事長、自由民主党副幹事長、医療問題特別委員会副会長、参議院社会労働委員長となり、また同和物産社長、山陽放送取締役、岡山電波専門学校名誉校長、全国授産事業連盟会長、友愛青年同志会岡山県(連)会長、中大評議員、岡山県人会長等となる○同30年欧米各国の議院運営の実情等視察、同35年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)2回(25)

加藤正人　全国選出　参議院同志会

明治19年8月生、兵庫県出身、同43年慶応義塾大学理財科卒○大正2年鐘渕紡績(株)に入り、以来鐘華紡績(株)社長を経て昭和16年大和紡績(株)を設立、取締役社長となり、また日本経営者団体連盟代表常任理事、関西経営者協会顧問、関西経済(連)常任理事、日本紡績協会委員、参議院大蔵委員長等となる○大正11・12年欧米各国の工業視察、昭和24年第32回ILO総会、同32年国際綿連総会にそれぞれ出席のため渡欧○当選(参)2回(24)

加納金助　千葉県選出　自由党

明治16年9月生、千葉県出身、大正4年日本大学法学部卒○同13年日本大学商工学校長となり、その後同大学商業学校長、同大学常務理事、同理事副会頭、日本第一学園理事長等となる、その間千葉県選挙管理委員長、千葉市長、自由党千葉県支部長、千葉県遺族(連)会長等となる○当選(参)1回(2)○昭和28年12月5日死去

鹿島俊雄　全国選出　自由民主党

明治40年5月生、東京都出身、昭和8年東京歯科医学専門学校卒、医学博士○江戸川区において歯科医院経営、精密工作機械製作工業代表取締役、東京歯科大講師及び評議員、(学)日出学園理事、アジア太平洋歯科会議副議長、鹿島社会保障研究会長、日本歯科医師政治連盟理事長、米国リトルロック市名誉市民、国際歯科学士院会員等となり、また社会保障制度審議会委員となる○日本歯科使節団長として東南アジア各国訪問、フィリピンにおける第2回アジア太平洋歯科会議に副議長として出席○当選(参)1回(5)

鹿島守之助　全国選出　自由民主党

明治29年2月生、東京都出身、法学博士、大正9年東京帝国大学法学部政治科卒○同年外務省に入り独・伊大使館勤務、同13年鹿島建設(株)社長、同32年同社会長、その間土木工業協会、電力建設協力会各会長、海外建設協力会副会長、全国社会保険協会(連)会長、拓大教授等となり、議員当選後第1次岸内閣の国務大臣(北海道開発庁長官)、厚生大臣臨時代理、自民党相談役、同党外交調査会副会長、参議院外務委員長、国土総合開発審議会委員等歴任○同29年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察○(著)「日本外交政策の史的考察」「日英外交史」○当選(参)2回(35)

柏木庫治　全国選出　緑風会

明治21年8月生、東京都出身、中津中学校修○昭和10年天理教校講師となり、その後天理教本部教学審議会委員長、同教集会予算委員長、同教東京教務支庁主事、同教東中央分教会長、同文教部理事、参議院図書館運営委員長等となる○同27年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察○当選3回(12補3再)

柏原ヤス　東京都選出　無所属クラブ

大正6年1月生、長野県出身(本籍東京都)、昭和11年埼玉女子師範学校本科第二部卒○同年埼玉県川口第三尋常高等小学校訓導となり、その後東京都柳元、明徳、桃井第三、杉並第五各小学校教諭等歴任、また創価学会理事、同本部婦人部長等となる○当選(参)1回(5)

梶原茂嘉　全国選出　自由民主党

明治33年2月生、兵庫県出身、大正12年東京帝国大学独法科卒○商工省、農林省の繊維、物価、農政各

局長、馬政局長官等歴任、昭和21年農地開発営団理事長、食糧配給公団総裁を経て、全国食糧事業協同組合(連)会長、全国食糧信用協会理事長に就任、米価審議会、飼料需給安定審議会、社会保障制度審議会、憲法調査会、裁判官訴追委員会等の各委員、参議院外務委員長、自由民主党政務調査会審議委員、参議院自由民主党政策審議会副会長等となる○同30年バンドンにおけるアジア・アフリカ会議出席○当選(参)2回(35)

片岡文重　千葉県選出　日本社会党

明治38年9月生、千葉県出身、昭和4年日本大学専門部法律科卒○大正13年国鉄大井工場に入り、戦後労働運動に専念、国鉄労働組合東京地方評議会議長、同本部書記長、全交運、全官公労等の各役員を経て参議院運輸委員長、鉄道建設審議会委員、裁判官訴追委員、日本社会党労働部長、同党政策審議会、選挙対策、国会対策各委員、同党千葉県(連)執行委員長、国鉄労働組合顧問等となる○昭和17年満州国に出張、同35年欧南米諸国における議院運営の実情及び政治経済事情等視察○当選(参)2回(2補4)

片柳真吉　全国選出　緑風会

明治38年3月生、東京都出身、昭和3年東京帝国大学法学部政治科卒○同年農林省に入り、その後食糧管理局次長、貿易庁輸入局長、農林省畜産局長、水産庁長官事務取扱、食糧管理局長官、農林次官等を歴任、参議院農林委員長、米価審議会委員、緑風会政務調査会副会長等となる○在官中国際食糧農業会議に出席のため米国に出張、同29年欧米各国の議院運営の実情等視察○当選(参)1回(2)

勝俣稔　全国選出　自由民主党

明治24年9月生、長野県出身、大正8年東京帝国大学医学部医学科卒○大正9年慶大医学部助手となり、その後内務省防疫官、特許局、伝染病研究所、厚生各技師、厚生省予防局長、同衛生局長、厚生技監、平和条約実施委員、国立公園中央審議会、社会保障制度審議会、結核予防審議会等各委員、結核予防会理事長等歴任、衆議院議員、参議院自由民主党政策審議会社会部長、池田内閣の外務政務次官等となり、また結核予防会副会長、日本食品衛生協会副会長、(恩)済生会監事等となる○在官中パリにおける国際衛生会議出席○当選(衆)1回(25)(参)1回(2補)

門田定蔵　鳥取県選出　日本社会党

明治19年7月生、鳥取県出身○同36年以来農民運動にたずさわり、その間上北条小作会、上日連合小作会、東伯小作(連)、中国振農会各会長、鳥取県農民組合、同県農民総同盟各執行委員長、日本農民組合鳥取県支部執行委員長、同最高顧問、上北条村会議員、同農地委員会長、鳥取県会議員、県参事会員、鳥取農地委員、同副会長、参議院人事委員長等となる○当選(参)1回(1)

門屋盛一　長崎県選出　国民民主党

明治29年4月生、大分県出身○大分県大分郡戊申溜池普通水利組合書記、鉄道工業(資)桂事務所現場主任、(株)梅林組支配人、(株)星野組専務取締役、同社長、佐世保高等美術工芸学校長、佐世保復興建設協会理事、日本建設工業会長崎県部長、佐世保海外引揚者後援会副理事長、佐世保商工会議所、九州女子専門学校各監事、佐世保時事新報社長等となる○当選(参)1回(1補)

金丸富夫　全国選出　自由民主党

明治29年2月生、大分県出身、大正13年京都帝国大学法学部英法科卒○同年鉄道省に入り、徳山駅長、熊本、鳥栖各運輸事務所長、札鉄総務部長、鉄道調査部第二課長、陸運監理官等歴任、昭和15年退官、日本通運(株)入社、理事、門司支社長、総務局長、常務取締役、専務取締役、取締役副社長等歴任、同30年代表取締役社長となる○同26・31年欧米各地、同33年東南アジア視察○(著)「運輸人の見た欧米」「フ

イリピンから台湾へ」○当選(参)1回(5)

金子洋文　全国選出　日本社会党

明治27年4月生、秋田県出身、大正2年秋田県立工業学校卒○昭和6年労農芸術家連盟執行委員長となり、その後(社)日本文学報国会劇作部常任幹事、日本劇作家組合常任委員、参議院図書館運営委員長等となる○同26年講和会議調印状況視察○(著)「父と子」「狐」等○当選(参)1回(1)

兼岩傳一　全国選出　日本共産党

明治32年2月生、愛知県出身、大正14年東京帝国大学土木工学科卒○帝都復興局雇となり、その後愛知県都市計画課を経て三重県都市計画課長、東京府道路課長、埼玉県土木課長、内務省国土局技官となり、また、昭和21年全日本建設技術協会を結成、同協会運営委員長に、民主技術協会を結成、同協会理事にそれぞれ選任され同24年全建委員長を辞任日本共産党に入党、民主技術協会理事、日本科学技術連盟参与、中日貿易促進議員連盟委員等となる○当選(参)1回(1)

鎌田逸郎　全国選出　緑風会

明治30年10月生、岩手県出身○岩手製綿(株)、下台土地建物(株)、岩手被服工業(株)各社長、盛岡商工会議所常議員、岩手県商工経済会評議員、同県製綿工業組合、全国製綿工業協同組合(連)各理事長、花巻電気鉄道(株)、東北振興燐寸(株)各取締役等となる○当選(参)1回(1)

上條愛一　全国選出　日本社会党

明治27年10月生、長野県出身、大正9年早稲田大学政経科卒○同年読売新聞記者となり、その後大日本労働総同盟友愛会書記、日本労働組合会議書記長、総同盟全繊同盟版部長、日本労働組合会議書記長、総同盟全繊同盟総主事、中央労働委員会労働者側委員、全繊同盟政治顧問、参議院厚生委員長等となる○第7回国際労働総会日本労働代表随員として渡欧、国際繊維工業技術会議日本労働代表顧問として渡米、第23回国際労働総会日本労働代表顧問として渡欧○(著)「英国労働党発達史」「無産党の戦術」等○当選(参)2回(2補)

上林忠次　全国選出　自由民主党

明治39年2月生、京都府出身、昭和5年九州帝国大学農学部卒○同年大蔵省に入り専売局たばこ生産課長、同技術課長を経て日本専売公社理事、生産部長等歴任、同28年政界に入り、緑風会政調会副会長、参議院建設委員長、同33年自由民主党に入党、同党政審副会長等となり、また国会たばこの会副会長、たばこ耕作組合中央会顧問、たばこ輸出促進協議会理事等となる○在官中比国、米国に出張、同30年中共視察、同32年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察○当選(参)2回(35)

亀田得治　大阪府選出　日本社会党

大正元年8月生、石川県出身、昭和10年東京帝国大学法学部卒○同年弁護士となり、その後参議院法務、内閣各委員長、日本社会党中央執行委員農民部長、憲法擁護特別委員長、全日本農民組合(連)書記長、総評法律顧問、日中友好協会理事、憲法擁護国民連合理事等となる○同28年第1回アジア社会党会議(ビルマ)出席、同30年訪ソ議員団に参加、ソ連、中国等共産圏諸国歴訪○当選(参)2回(35)

川上嘉市　静岡県選出　緑風会

明治18年3月生、静岡県出身、同42年東京帝国大学工科卒○同年東京ガス(株)入社その後住友電線製造所取締役、久留米市つちや足袋(株)相談役等となりまた中央労働委員会、復興金融委員会各委員、貴族院議員等歴任のほか日本楽器製造(株)社長、日本管楽器(株)会長、理研電化工業(株)取締役、日本工業倶楽部、日本産業協議会、経済団体(連)各理事、日本博物館協会理事長、東海北陸地方経済再建整備委

員、静岡県商工会議所(連)会長等となる○昭和8年欧米に出張○(著)「人間教育」「人生の唄」○在任(貴)(昭21・8―22・5)当選(参)1回(1)

川上為治　全国選出　自由民主党

明治40年10月生、鹿児島県出身、昭和9年東京帝国大学経済学部卒○商工事務官、北京大使館商工課長、石炭庁石炭課長、物価庁第三部、工業技術院調整部各部長、通産省鉱山局、公益事業局各局長、中小企業庁長官等歴任また自民党全国組織委員会中小企業組織部長、参議院自民党幹事のほか党の貿易為替自由化特別委員会理事、国会対策、中小企業対策、政調商工部、石炭産業税制調査会、経済調査会、基本問題調査会各委員、九州開発、中国開発、重要産業各特別委員、たばこ事業専門委員等となる○(著)「中小企業団体組織法の解説」「中小企業対策の話」等○当選(参)1回(5)

川上嘉　全国選出　各派に属しない議員

明治42年5月生、鹿児島県出身、中央大学法科修○昭和8年鹿児島県大島支庁財務課事務員となりその後東京都淀橋税務署雇、同属、大蔵事務官、東京財務局国有財産部事務官、全国財務労働組合中央執行委員長、同組合顧問等となる○当選(参)1回(1)

川口為之助　千葉県選出　自由民主党

明治14年12月生、千葉県出身、同35年千葉県立千葉中学校卒○千葉県会議員(4期)、同県会議長、公選総代、治山治水議員連盟顧問等となる○在任(貴)(昭13・1―22・5)当選(参)2回(12)○昭和35年7月21日死去

川村松助　岩手県選出　自由民主党

明治23年9月生、岩手県出身○盛岡市会議員、盛岡商工会議所会頭、東北六県織物商業組合理事長、同日本繊維商業協同組合、盛岡観光協会、岩手県貿易振興協会各会長、東北貿易振興協会理事、花巻温泉電鉄(株)、花巻電鉄(株)、百貨店(株)盛岡松屋各社長、自由党総務、参議院自由党国会対策委員長、同幹事長、参議院自民党副会長、第3次吉田内閣の外務政務次官、参議院議院運営、文部各委員長、第1次岸内閣の国務大臣(北海道開発庁長官)等となる○東南アジア視察○当選2回(1補3)

河井彌八　静岡県選出　緑風会

明治10年10月生、静岡県出身、同37年東京帝国大学法科大学政治学科卒○同年文部属となり、その後佐賀県事務官、同県内務部長代理、貴族院書記官、同書記官長、営繕管財局参与、内大臣秘書官長、皇后宮太夫兼侍従次長、帝室会計審査局長官、貴族院議員、鉄道会議議員、参議院内閣委員長、参議院議長等歴任のほか中央林業協力会副会長、大日本報徳社社長、(社)全国治水砂防協会理事、林業議員懇話会長、千葉県知事、自由党千葉県支部長、日赤千葉県支部長、千葉県森林組合(連)、同県林道協会各会長等となる○当選(参)1回(3)

河合義一　兵庫県選出　日本社会党

明治15年3月生、兵庫県出身、同37年東京外国語学校仏語科卒○同年日本銀行に入り、その後農民組合運動に参加、小作争議指導のため投獄される、衆議院議員当選、また参議院懲罰委員長等となる○当選(衆)2回(20・23)(参)1回(3)

河崎ナツ　全国選出　日本社会党

明治20年4月生、東京都出身、同45年東京女子高等師範学校文科卒○同年北海道庁立小樽高女教諭となり、その後東京女高師講師、私立東京女子大教授、私立文化学院主事、津田女子英学塾教授、逓信省簡易保険局清修女学校長、私立国民生活学院校長、参議院厚生委員長等となる○当選(参)1回(1)

き の 部

木内キヤウ　全国選出　民主クラブ

明治17年2月生、東京都出身、昭和2年東京府女子師範学校専攻科卒○明治36年南葛飾郡隅田尋常小学校訓導となり、その後東京市城東、十思各小学校訓導、志村第一小学校長、東京婦人愛市協会理事、婦人標準服研究会委員、大日本婦人会審議員及び企画委員、大日本教育会女子教育者委員会常任委員長、東京都結核予防委員会常任委員、木内学園鴫の家園長、(社)発明協会東京支部理事、手芸教育研究会副会長等となる○(著)「教育一路」○当選(参)1回(1)

木内四郎　長野県選出　自由民主党

明治29年7月生、長野県出身、大正9年東京帝国大学法学部英法科卒○同年大蔵省に入り大蔵属、財務書記(英仏駐在)、横須賀、京橋各税務署長、銀行検査官、大蔵事務官(英仏駐在)、主計局決算、同調査各課長、理財局国債課長、国民貯蓄奨励局次長、海外駐在財務官(中華民国駐在)、大蔵省主計局長、預金部、専売局各長官、幣原内閣の内閣副書記官長、貴族院議員(勅選)等歴任、また参議院議院運営、大蔵、外務各委員長、自由民主党政務調査会政策審議委員となるほか、弁護士、太陽火災海上保険(株)社長等となる○在任(貴)(昭21・6―22・5)当選(参)3回(135)

木島虎藏　全国選出　自由民主党

明治34年12月生、鳥取県出身、昭和5年東京帝国大学経済学部経済科卒○同年鉄道局技手となり、その後金沢運輸事務所長、鉄道総局業務局保安、運転局運行各課長、札幌鉄道局長、総裁室勤務、運輸総局輸送局長、日本国有鉄道理事等歴任のほか、日ノ丸自動車(株)取締役、興亜林産(株)、大東京観光自動車(株)各社長となり、また第2次岸内閣の法務政務次官となる○在官中欧米各国へ出張、同32年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)1回(3)

木下源吾　北海道選出　日本社会党

明治24年8月生、北海道出身○大正12年以来労働組合、農民組合など社会運動に従事、旭川市会議員、旧労農党、社会大衆党中央委員、社会党中央執行委員、日本社会党北海道(連)顧問、社会党両院議員会長、参議院人事委員長等となる○当選(参)2回(12)

木下辰雄　全国選出　緑風会

明治21年4月生、熊本県出身、同42年水産講習所本科漁撈科卒○同年高知水産試験場技手となり、その後大日本水産会常務理事、全国漁業組合(連)副会長、中央水産業会会長、鉄道会議員、日本肥料(株)理事、東京水上消防協会長、農林中央金庫理事、京栄水産(株)取締役会長、漁村経済協会顧問、参議院水産委員長等となる○当選(参)1回(1)○昭和31年1月26日死去

木下盛雄　長野県選出　日本自由党

明治37年9月生、長野県出身、大正6年松尾尋常小学校卒○長野県絹メリヤス工業組合連合会、日本軽金属鋳造組合各理事長、日本産業協議会評議員、経済団体連合会、東京都工業振興協議会各評議員、東京商工会議所代議員等となる○当選(参)1回(1)○昭和22年12月18日死去

木下友敬　山口県選出　日本社会党

明治28年10月生、山口県出身、大正10年九州帝国大学医学部卒、医学博士○同年九大医学部助手その後九州歯科医専教授、昭和2年下関市で結核専門医開業、医療法人愛の会理事長、光風園療養所等経営、山口県医師会会長、日本医師会代議員会副議長、結核予防会山口県支部長、同県山岳連盟会長、山口相互銀行監査役等となり、また裁判官弾劾裁判所裁判員、社会党院内幹事、同党政審厚生部長、同党山口

県連顧問等となる○同30年日本医学代表として中国訪問、同35年列国議会同盟アテネ会議出席○(著)「臨床的尿診断」「旬集聴診器」等○当選(参)1回(4)

木村禧八郎　全国選出　日本社会党

明治34年2月生、東京都出身、大正13年慶応義塾大学経済学部卒○同年時事新報経済部記者となり、その後経済雑誌エコノミスト同人、外務省嘱託、北海道新聞論説委員長、同参与、日本社会党政調会副会長、労働者農民党中央執行委員、同政策委員会委員長、日本社会党長期政策委員長、日本労働組合総評議会顧問、地方自治研究所理事長等となる○第1回通商視察議員団として中国に渡り日中貿易協定に当る○(著)「インフレーション」「紙幣の運命」「金融経済論」「基地経済」等○当選(参)3回(125)

木村篤太郎　奈良県選出　自由民主党

明治19年2月生、奈良県出身、同44年東京帝国大学英法科卒○同年弁護士登録、帝国弁護士会理事長、第一東京弁護士会長、検事総長、第1次、第3次、第4次、第5次吉田内閣の司法大臣、国務大臣(法務総裁)、法務大臣、行政管理庁長官、保安庁長官、防衛庁長官等歴任、昭和28年以降参議院議員となり、自由民主党党紀委員長、治安対策特別委員長、自由民主党顧問、全日本剣道連盟会長、日本更生保護協会長等となる○当選(参)2回(35)

菊川孝夫　全国選出　日本社会党

明治42年12月生、三重県出身、昭和2年名古屋鉄道局教習所普通部業務科卒○同年北陸線糸魚川駅貨物掛となり、のち国鉄労働組合総(連)準備委員長、初代中央執行副委員長等となり、その間全国官公庁労働組合連絡協議会副議長、国会闘争共同委員会事務局長、日本社会党中央執行委員等歴任また日本社会党国会対策委員等となる○同28年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察○(著)「組合側から見た公共企業体労働関係法」○当選(参)1回(2)

菊田七平　茨城県選出　自由民主党

明治30年8月生、茨城県出身、大正元年県立土浦中学校卒○土浦市会議長、土浦商工会議所会頭、県農業会長、消防団長、茨城県会議員、同県会議長、同県教育委員、同県蚕種協同組合長、養蚕(連)、観光連盟各会長、湖南通運(株)、環産業(株)各社長、関東銀行会長等となり、また第3次鳩山内閣の労働政務次官、参議院地方行政委員長等となる○昭和29年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)1回(2)

岸良一　全国選出　緑風会

明治23年5月生、東京都出身、大正4年東京帝国大学農科大学農学科卒、欧米留学○満州国林野司長、農林省畜産局長、同農政局長、同馬政局長官、満州国林産公社理事長、日本畜産協会、全国耕地協会、畜産技術連盟、日本緬羊協会各会長、日本緬羊(株)、(株)畜産会館各社長、全国酪農業協同組合(連)会長、農林資源調査所理事長、中央畜産会及び農林の会各副会長、その他畜産各種団体等の顧問、農林協会等の理事となる○当選(参)1回(3)

岸田幸雄　兵庫県選出　自由民主党

明治26年2月生、兵庫県出身、大正5年京都帝国大学法科政治科卒○同年大阪商船(株)入社、その後大阪海上火災保険(株)神戸、東京各支店長、日本電力(株)、因幡水力電気(株)、日電証券(株)各専務取締役、日本発送電(株)理事総務局長、発送電興業(株)、木曽発電(株)各社長、全国電気工事統制組合理事長、兵庫県知事、公選同知事(2期)、電源開発副総裁、国土総合開発審議会、中央建設審議会各委員、経済団体(連)、日本電気協会、日本原子力産業会議、国立公園協会各理事等となる○同9年国際労働会議に参列のため欧米出張、昭和25年MRA世界大会出席、欧米視察○当選(参)1回(4補)

岸野牧夫　徳島県選出　緑風会

明治15年1月生、徳島県出身、県立中学校卒○徳島県会議長、徳島物価協議会議長、徳島県森林組合会長等となる○当選(参)1回(1)

北勝太郎　北海道選出　緑風会

明治22年9月生、北海道出身、同44年北海道空知農学校農科卒○農業に従事、大正9年以来奈井江信用購買販売組合長理事となり、その間砂川町会議員、北海道会議員、衆議院議員、奈井江村長等となり、その後奈井江町農業協同組合長となる○昭和30年東南アジア各国の政治経済事情等視察、また欧州各国の農業事情視察○当選(衆)4回(19 20 21 22)(参)1回(3)

北畠教真　全国選出　自由民主党

明治37年8月生、山形県出身、昭和3年竜谷大学文学部卒、ベルリン、ライプチッヒ両大学(三カ年)修了○山形県天童市天童善行寺住職、西本願寺社会、教育、総務各部長を経て総務兼執行(2回)、東京出張所長、築地本願寺輪番(2回)、大阪教区教務所長兼津村別院輪番、全日本仏教会事務総長、西本願寺宗会議会長等となる○留学中国際社会事業会議出席、東南アジア仏教圏諸国訪問(2回)、ビルマにおける第3回世界仏教徒会議に日本代表として出席○当選(参)1回(5)

北村一男　新潟県選出　自由党

明治30年10月生、新潟県出身、大正9年中央大学商科卒○同年日魯漁業(株)秘書役となり、その後鶴見化学工業(株)、熱海ゴルフ(株)、東京測機(株)各代表取締役、新潟窯業(株)取締役等となり、また第2次吉田内閣の農林政務次官、国土総合開発審議会、米価審議会各委員、参議院法務委員長等となる○当選(参)2回(12)

北村暢　全国選出　日本社会党

大正4年4月生、北海道出身、昭和13年北海道帝国大学農学部林学実科卒○同年北海道庁雇となり、同庁拓殖部森林企画課勤務、同22年農林技官となり、農林省旭川営林局、林野庁計画課勤務、また同26年以降、全林野労働組合、全農林省労働組合各中央執行委員長、日本社会党政策審議会農林部会副部長、同林業小委員長、裁判官訴追委員等歴任○当選(参)1回(4)

清澤俊英　新潟県選出　日本社会党

明治23年8月生、新潟県出身、新潟県長岡中学校修○長岡市会議員、衆議院議員、参議院文教委員長、日本社会党中央委員、会計監査、同党新潟県連執行委員長、顧問等となり、また日本農民組合中央統制委員長、顧問、同組合新潟県連顧問、同組合中越協議会会長等となる○昭和30年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(衆)2回(22 23)(参)2回(24)

くの部

九鬼紋十郎　三重県選出　自由党

明治35年6月生、三重県出身、東京帝国大学文学部美術史科卒○昭和7年東海電線(株)監査役となり、その後四日市市会議長、三岐興業(株)社長、同鉄道(株)監査役、四日市築港(株)取締役、三重県肥料商組合理事、四日市採石(株)監査役、尾張時計(株)取締役、衆議院議員、四日市商工会議所会頭、三重県肥料商協会長、九鬼紋産業事業主等となる○当選(衆)1回(22)(参)1回(1)

工藤鉄男　青森県選出　自由党

明治8年8月生、東京都出身、日本大学修、英国ロンドン大学において法政学を修める○二六新報、日本新聞各記者、海外企業組合常務委員、大正水力組合理事、濃飛電力組合常務理事、日華実業協会主事、日大講師、東京歯科医専教授、共立女子薬大理事長等となり、また衆議院議員、文部参与官、第1次近衛内閣の厚生政務次官、鉄道会議々員、東北振興調査会委員等各種の委員、衆議院内閣委員長、第2次吉田内閣の国務大臣(行政管理庁長官)、参議院懲罰委員長等となる○当選(衆)7回(15 16 17 18 19 20 23)(参)1回(2)○昭和28年6月16日死去

久保等　全国選出　日本社会党

大正5年10月生、香川県出身、昭和16年中央大学法学部卒○同10年東京逓信局に入り、終戦後全逓中央委員、全逓信従業員組合中央本部書記長、全国電気通信労働組合初代中央執行委員長(3期)等歴任、また裁判官弾劾裁判所裁判員、参議院社会労働委員長、社会党本部統制委員、社会党香川県連、全電通労組、全逓労組各顧問等となる○同26年アメリカの労働事情視察、同31年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)2回(3 5)

草葉隆圓　愛知県選出　自由民主党

明治28年3月生、福岡県出身、大正9年大谷大学卒、欧米留学○同10年以降社会事業に従事、参議院議員当選、在外同胞引揚問題特別委員長、第3次吉田内閣の外務政務次官、参議院議院運営委員長、第5次吉田内閣の厚生大臣、参議院議員、参議院外務委員長、日米安全保障条約等特別委員長等歴任、その間党総務、国会対策委員長、参議院自民党政策審議会長、臨時恩給等審議会、皇居造営審議会各委員、社会保障制度審議会副会長等となる○講和会議にあたり全権顧問として米国に派遣される、昭和34年親善使節議員団長としてチェコスロバキア訪問○当選(参)3回(1 2 4)

楠瀬常猪　広島県選出　自由党

明治32年2月生、広島県出身、大正12年東京商科大学卒○同年農商務属となり、その後商工省の各課長、鉱山監督局長、燃料局長官、近畿地方副総監、広島県知事等となる○当選(参)1回(1補)

楠見義男　全国選出　緑風会

明治38年3月生、兵庫県出身、昭和3年東京帝国大学法学部政治科卒○同年農林省に入り、その後農林属等を経て農林大臣官房秘書、調査各課長、満州国産業部参事官、同国興農部農産、糧政各司長、総務庁企画処長、農林省総務、資材各局長、食糧管理局長官、農林次官等歴任、また緑風会会務委員、同会政務調査会副会長、参議院農林委員長等となる○同26年米国農政事情調査のため渡米、同29年列国議会同盟会議出席及び欧米各国議会制度視察○当選(参)2回(1 2補)

國井淳一　全国選出　国民民主党

明治35年9月生、栃木県出身、大正13年東洋大学卒○同14年本所キリスト教産業青年会内産業学院主事となり、その後親園村長、全国農村青年連盟委員長等となる○当選(参)1回(1)

栗山良夫　全国選出　日本社会党

明治42年11月生、岐阜県出身、昭和5年浜松高等工業学校電気科卒○元東邦電力入社、東京、名古屋、岐阜在勤、戦後中部配電労組初代委員長、電産協議会初代議長、参議院電力特別委員長(2回)、同労働委員長、日本社会党中央執行委員、統制委員、中小企業部長、貿易自由化対策特別委員長、岐阜及び愛知県(連)顧問、愛知県(連)会長、中部電力技師、愛知県ラジオテレビ商業協組顧問、名古屋電気学園評議員、日本電気技術者協会顧問、検察官適格審査会委員等となる○同32年列国議会同盟会議出席及び欧米各国議会制度視察○(著)「スト規制法と労働基本権」「けい肺法の解説」随想「ちび筆」○当選(参)3回(1 2 4)

栗栖赳夫　山口県選出　自由党

明治28年7月生、山口県出身、大正10年東京帝国大学法学部政治学科卒、法学博士○同年(株)日本興業銀行入社、その後同行証券部長、総務部長、理事等を経て同行総裁となり、その間中大教授、慶大講師、貴族院議員等となり、また参議院議員当選後、片山内閣の大蔵大臣、芦田内閣の国務大臣(経済安定本部総務長官、物価庁長官、中央経済調査庁長官)等歴任のほか、経済政策研究所会長、国立博物館顧問等となる○当選(参)1回(21・6―22・5)当選(参)1回(1)

来馬琢道　全国選出　緑風会

明治10年11月生、東京都出身、同34年曹洞宗大学林卒○同33年東京都台東区万隆寺住職となり、その後雑誌仏教主幹、大日本仏教徒大会専務委員、仏教青年伝道会理事、東京府第四曹洞宗教務所長心得、曹洞宗宗会議員、東京府曹洞宗務所副長、曹洞宗教学部長、同庶務部長、同内局顧問、大日本仏教会総務局長、東京地裁借地借家調停委員、土地賃貸価格調査委員、東京市浅草区会議員、司法保護委員、台東区行政委員等となる○東南アジア、欧州各国視察○当選(参)1回(1)

黒川武雄　東京都選出　自由民主党

明治26年3月生、東京都出身、大正6年東京帝国大学英法科卒○同年第一銀行員となり、その後虎屋店主、虎屋(株)取締役会長、東京生菓子工業組合、東京都菓子工業統制組合各理事長、東京和生菓子商工業協同組合理事長、全国生菓子協会会長、富士スレート(株)取締役、東京実業(連)会長、東京防犯協会(連)会長、日本女子経済短大学長等となり、また参議院議員当選、参議院予算委員長、第3次吉田内閣の厚生大臣等となる○世界保健機構第4回総会に日本首席代表、昭和31年国際連合総会に日本政府代表顧問として出席○(著)「空の旅」「母を憶ふ」等○当選(参)3回(1 3 5)

黒田英雄　岡山県選出　自由党

明治12年9月生、岡山県出身、同38年東京帝国大学法科大学法律学科卒○同年大蔵属となり、その後丸亀税務監督局長、大蔵省書記官、大蔵大臣秘書官、臨時議院建築局理事、国勢院事務官、大蔵省銀行局長、同主税局長、大蔵次官、大礼使参与官、金委員会委員、貴族院議員等歴任、また参議院財政及び金融委員長となるほか、酒販組合中央会会長、東洋火災海上保険(株)社長、(財)開成学園園長等となる○在任(貴)(昭7・12―22・5)当選(参)1回(1)○昭和31年11月1日死去

け の部

慶松勝左衛門　全国選出　日本自由党

明治9年9月生、東京都出身、同34年東京帝国大学医科大学薬学科卒、薬学博士○同年東京帝大医科大学助手となり、その後東京衛生試験所調査部長、関東都督府中央試験所長、満鉄中央試験所長、東京帝大教授、京都帝大講師、嘱託、貴族院議員等となる○在任(貴)(昭21・7―22・5)当選(参)1回(1)○昭和29年1月28日死去

劔木亨弘　福岡県選出　自由民主党

明治34年9月生、東京都出身、昭和2年東京帝国大学法学部卒○同4年文部省に入り、香川県学務課長、本省教学官、専門学務局学芸課長、監理課長、大学学術局長、文部事務次官(2回)、内閣官房副長官等歴任、自由民主党副幹事長(3期)、同総務、同政調会政策審議委員、同文教調査会副会長、参議院通信、商工各委員長等となり、また(財)産業教育振興中央会理事長、同国際学友会理事、国立競技場評議員、学徒援護会評議員等となる○昭和32年列国議会同盟会議出席及び欧米各国議会制度視察○当選(参)2回(35)

こ の部

小泉秀吉　全国選出　日本社会党

明治12年9月生、茨城県出身、同38年大阪私立梅花女学校卒○大正2年大阪市緒方病院に入り、その後同院産婆看護婦養成所監督、大阪梅花女子専門学校評議員、神戸市技手補、川西航空機(株)補導課教育係寮母等となる○(著)「生きる人」「霊肉の闘い」○当選(参)1回(1)

小杉繁安　山形県選出　自由党

明治17年10月生、山形県出身、大正8年東京帝国大学経済科卒○日本鉱業開発(株)、沢藤電機(株)各取締役、東北振興精密機械(株)専務取締役、北日本産業(株)、日生鉱業(株)各社長、東北農機(株)、協栄興業(株)各社長、大船産業(株)監査役等となる○当選(参)1回(1)

小平芳平　全国選出　無所属クラブ

大正10年9月生、長野県出身、昭和22年中央大学法学部卒○同年中央労働委員会事務局勤務、同28年創価学会教学部長となる○(著)「教学問題の解説」「現代宗教シリーズ創価学会」等○当選(参)1回(5)

小滝彬　島根県選出　自由民主党

明治37年7月生、島根県出身、東京帝国大学経済学部修○大使館書記官、領事、総領事、終戦連絡大阪事務局長、外務省情報部長、貿易庁渉外部長、同輸出局長、通商産業省通商監等歴任、議員当選後、外務政務次官、第1次岸内閣の国務大臣(防衛庁長官)、参議院外務委員長、自民党外交調査会副会長等となり、また電通顧問、国際捕鯨委員会日本常任代表等となる○ロンドン軍縮会議、国際連盟阿片会議、日印通商交渉、国際捕鯨会議、日独経済交渉、世界砂糖会議、日本スターリング地域通商交渉、日韓交渉等の国際会議出席○当選(参)2回(2補4)○昭和33年5月28日死去

小西英雄　全国選出　自由民主党

明治44年11月生、東京都出身、昭和2年自疆舎卒○康徳金属(株)社長、関東軍嘱託、軍需省生産隊本部長、日本重量挙協会長、日本商事(株)、東洋興業(株)各社長、東急航空(株)取締役、在外財産問題審議会委員、引揚者団体全国(連)顧問、在外財産補償確得期成同盟総本部副本部長、衆議院議員、同胞救援議員連盟副理事長、自由党院内総務、参議院決算委員長等となる○同26年アジアオリンピック大会に派遣され同27年欧米各地産業視察○当選(衆)1回(24)(参)2回(2補3補)

小畑哲夫　兵庫県選出　国民民主党

明治29年5月生、兵庫県出身、大正5年姫路師範学校卒○同年兵庫県の小学校訓導となり、その後阪神被覆電気熔接棒製造工業組合主事、同組合常務理事、西日本電極棒工業組合、日本熔接工業(株)各専務理事、日本熔接工業(株)代表取締役、兵庫県宍粟郡神戸村薪炭組合長、同郡薪炭組合(連)副会長、同県民主政治会宍粟郡支部長、参議院商工、通商産業各委員長等となる○当選(参)1回(1)

小林英三　埼玉県選出　自由民主党

明治25年11月生、埼玉県出身、大正6年東京高等工業学校(現東京工大)卒○埼玉県経営者協会会長、川口鋳物工業協組、川口工業健康保険組合各理事長歴任、日本鋳物工業会、埼玉県済生会、埼玉大学後援会、川口コークス(株)、国際重工業、(株)寿屋各会長、埼玉紡績(株)取締役となり、かつて埼玉県会議員、川口市会議長、自由党埼玉県支部長となりまた自由党常任総務、副幹事長、参議院自由党副会長、同国会対策委員長、自民党総務、参議院建設、予算、社会労働各委員長、商工、通産各政務次官、第3次鳩山内閣の厚生大臣等となる○米政府の招きで渡米対日平和会議参列○当選(参)3回(135)

小林勝馬　全国選出　民主党

明治39年11月生、福岡県出身、熊本逓信講習所、無線電信講習所各卒○大正11年通信事務員となり、その後警視庁技手、国際汽船(株)事務長、無線電信技士、山王工業(株)、日本光学兵機(株)各代表取締役、自家用自動車組合理事、官立無線同窓会長、日鉱連盟理事長等となる○当選(参)1回(1)

小林孝平　全国選出　日本社会党

明治41年7月生、新潟県出身、昭和8年東京帝国大学農学部農学科卒○同年農林省に入り、農務局、農政局勤務、農林技官兼総理庁技官等歴任、参議院水産委員長等となる○同28年第1回アジア社会党会議(ビルマ)出席、欧米視察、同33年列国議会同盟会議出席及び欧米各国議会制度視察、親善使節議員団員として訪伯○当選(参)2回(24)

小林武治　静岡県選出　自由民主党

明治32年8月生、静岡県出身、大正13年東京帝国大学法学部英法科卒○同年逓信省に入り、その後同省外国電信課長、逓信大臣秘書官、同官房秘書課長、熊本逓信局長、逓信省経理局長、逓信省総務局長、逓信院次長、官選及び公選静岡県知事、電波監理審議会会長代理等歴任、参議院地方行政委員長、自由民主党副幹事長、選挙制度調査会委員、地方制度調査会委員等となる○昭和5年国際連盟交通専門委員として渡欧、同9年日蘭会商日本代表顧問として蘭領印度に、同32年岸総理大臣随員として米国に各出

張○当選(参)2回(35) 昭和63・10・12死去

小林政夫（こばやしまさお） 全国選出 緑風会

大正3年2月生、広島県出身、昭和13年東京商科大学卒○同年西備綟網(株)入社その後綿漁網撚糸協会、日本漁網輸出協会、日本漁網協会各理事、水産資材協議会常任理事、産業合理化審議会専門委員、中国漁網協議会理事長、広島県漁網組合長、広島県政協議会経済顧問、漁網検査協会、日本繊維製品輸出組合各顧問、臨時金融制度懇談会委員、日本製網(株)社長等となりまた参議院経済安定委員長等となる○同28年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)1回(2)

小林亦治（こばやしまたじ） 山形県選出 日本社会党

明治40年5月生、山形県出身、昭和6年日本大学法科卒○同16年司法官試補その後判事(東京、仙台、青森各地方裁判所勤務となり)、昭和19年山形市で弁護士開業、山形県農地相談所長、山形新聞論説委員、労農救援会長、日本社会党山形県(連)会長、同顧問、参議院決算委員長等となる○(著)「憲法ノート」「社会断層」○当選(参)1回(2)

小林米三郎（こばやしよねさぶろう） 北海道選出 自由党

明治19年11月生、北海道出身、同36年新潟県柏崎中学校卒○酒造組合中央会常任評議員、北海道酒造組合理事長、北海道商工会(連)会頭、北海道商工経済会、北海道商工会議所各理事、北海道殖産銀行頭取、北海道銀行、札幌酒精工業(株)、日本電気冶金(株)、北海道酒類販売(株)、夕張鉄道(株)各取締役、(株)栗山運送社、北海道セメント販売(株)、空知酒類醸造(株)、北海道ヒューム管(株)各社長、札幌財務局管内所得審査委員、司法保護委員会常務委員等となる○当選(参)1回(1)

小松正雄（こまつまさお） 福岡県選出 日本社会党

明治35年5月生、福岡県出身○炭鉱労働、印刷業に従事、豊前時事新聞社社長となるほか小松鉱業所上正炭鉱を経営この間田川郡中、小学校長、田川教育研究所顧問、福岡学芸大学田川分校後援会副会長、町村会議員、川崎町公安委員長、日本社会党田川支部(連)顧問、同党福岡県(連)中小企業対策部長となり、また参議院決算委員長等となる○当選(参)1回(2)

小宮山常吉（こみやまつねきち） 山梨県選出 緑風会

明治15年10月生、東京都出身、同31年甲府市立小学校高等科卒○足立鋼管(株)、足立産業(株)、昭和鋼管(株)各社長、協同証券(株)、(株)小島特殊機械製作所、太洋観光(株)、(株)京浜ホテル、日本金銀糸工業(株)各重役等となる○当選(参)1回(1)

小柳勇（こやなぎいさむ） 福岡県選出 日本社会党

明治45年1月生、熊本県出身、昭和13年東京鉄道教習所専門部卒○同2年国鉄熊本機関区庫内手となり、その後鉄道局技手、鉄道教習所教官等歴任、国鉄労働組合門司地方本部委員長(6期)、同組合中央本部委員長(3期)、福岡県総評議長、日本官公労議長、日本社会党福岡県(連)顧問等となる○同29年西欧諸国、ソ連、中国等の労働事情視察○(著)「三角法講話」「図表と実験式」「機関車工学」等○当選1回(4補)

小柳牧衛（こやなぎまきえ） 新潟県選出 自由民主党

明治17年7月生、新潟県出身、同42年東京帝国大学政治学科卒○北海道庁理事官、青島守備軍民政部事務官、青森、山口、神奈川各県内務部長、青森、福島、長崎、兵庫各県知事、新潟市長、新潟県教育会長、衆議院議員、平沼内閣の文部政務次官、鉄道会議議員等歴任、参議院議員当選、民主党顧問、参議院内閣委員長等となり、また昭和石油(株)相談役、(株)小野鉄工所、北菱石油(株)各取締役、(財)曹洞宗檀信徒宗門護持会会長、(財)書壇院理事長等となる○昭和34年列国議会同盟会議出席及び欧米各国議会制度視察○当選(衆)3回(19 20 21)(参)2回(2補

4)

小山邦太郎（こやまくにたろう） 長野県選出 自由民主党

明治22年11月生、長野県出身、同39年県立長野商業学校卒○味噌醤油醸造業、製糸業、養鶏孵卵業に従事、長野県製糸協同組合理事長、同県養鶏協会会長、全国中小企業団体中央会理事、長野県中小企業団体中央会会長等となりまた長野県会議員(2期)、小諸町長(2期)、小諸市長、衆議院議員等歴任、蚕糸業振興審議会委員、全国治水砂防協会理事等となる○当選(衆)6回(16—21)(参)1回(4)

木暮武太夫（こぐれぶだゆう） 群馬県選出 自由民主党

明治26年2月生、群馬県出身、大正6年慶応大学理財科卒○同年(株)三井銀行入社、伊香保町会議員、衆議院議員当選、近衛及び幣原内閣の商工政務次官、重要産業各種委員、自由党政務調査会長、大蔵省、厚生省各顧問、経済審議庁参与、税制調査会会長、観光事業審議会委員、裁判官訴追委員、参議院予算委員長、自由民主党群馬県(連)会長、同党総務、憲法調査会委員等歴任、また群馬県観光協会長、関東いすず自動車(株)、群馬バス(株)各社長、群馬銀行、日本温泉協会、国際観光旅館連盟、群馬信用保証協会各会長、慶応義塾評議員等となる○昭和35年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(衆)8回(15 16 17 18 19 補 20 21 25)(参)1回(4)

木檜三四郎（こぐれさんしろう） 群馬県選出 国民民主党

明治元年8月生、群馬県出身、早稲田大学政治科修○群馬県会議員、原町長、吾妻郡会議員、同議長、同郡所得税調査委員、鉄道会議議員、簡易生命保険運用委員、衆議院議員等となるほか(株)原町銀行取締役、(株)利根ホテル各社長、(株)群馬バス取締役、群馬県森林組合(連)会長等となる○昭和3年列国議会同盟会議出席及び欧州各国視察○当選(衆)7回(14—20)(参)1回(1)○昭和34年8月14日死去

古池信三（こいけしんぞう） 岐阜県選出 自由民主党

明治36年4月生、岐阜県出身、昭和3年東京帝国大学法学部政治学科卒○運輸通信省官房会計課長、秘書課長、札幌通信局長、商工省電力局長、名古屋通商産業局長等歴任、自由党岐阜県(連)支部長、自由党総務、参議院自由党政策審議会長、自由民主党政務調査会副会長、政策審議委員、副幹事長、党紀委員、国土総合開発審議会委員、検察官適格審査会委員、第5次吉田内閣の通商産業政務次官、参議院法務委員長等となり、また(社)中部産業連盟理事長、揖斐川電気工業(株)監査役等となる○同31年列国議会同盟会議出席及び欧米各国議会制度視察○当選(参)2回(24)

後藤文夫（ごとうふみお） 大分県選出 緑風会

明治17年3月生、大分県出身、同41年東京帝国大学法科大学政治科卒○同年東京府属となり、その後地方事務官、内務書記官、内務省警保局長、台湾総督府総務長官、貴族院議員、斎藤内閣の農林大臣、岡田内閣の内務大臣、内閣総理大臣臨時代理、東条内閣の国務大臣等歴任、また日本青年館、大日本連合青年団各理事長等となる○在任(貴)(昭5・12—20・12)当選(参)1回(3) 昭40.5.13 死去 96才

後藤義隆（ごとうよしたか） 大分県選出 自由民主党

明治33年9月生、大分県出身、大正11年中央大学法律科卒○同12年大分市において弁護士開業その後大分弁護士会長、大分市議会議員、同市議会副議長、大分県議会議員、衆議院議員、自由民主党国会対策副委員長長を経て参議院自由民主党副幹事長、池田内閣の経済企画政務次官等となり、また大豊無尽(株)(現豊和相互銀行)を創立し社長となる○当選(衆)1回(25)(参)1回(4)

河野謙三（こうのけんぞう） 神奈川県選出 自由民主党

明治34年5月生、神奈川県出身、大正12年早稲田大学専門部商科卒○同年大日本人造肥料(株)に入りそ

の後日本肥料(株)、肥料配給公団各理事、鉄道輸送中央協議会幹事、平塚商工会議所会頭、肥料取締委員会委員、衆議院議員、米価審議会委員、参議院大蔵委員長、肥料審議会委員、新興海陸運輸(株)、湘南倉庫運送(株)各社長、平塚市体育協会会長等となる○昭和27年オリンピック派遣選手団顧問として渡欧、同34年日印経済協力使節団としてインドはじめ東南アジア歴訪○当選(衆)1回(24)(参)2回(35)

河野正夫(こうのまさお)　全国選出　日本社会党

明治35年8月生、千葉県出身、昭和4年東京帝国大学文学部哲学科卒○同年姫路市亀山高等女学校教諭となり、その後帝国女子専門学校附属日本高等女学校、東京都立第八中学校各教諭、教職員適格審査委員、東京都教職員組合協議会委員長、教員組合全国連盟委員長等となる○当選(参)1回(1)

紅露みつ(こうろみつ)　徳島県選出　自由民主党

明治26年5月生、徳島県出身、神田高等女学校卒○昭和21年衆議院議員、翌22年参議院議員当選、参議院在外同胞引揚問題特別委員長、第2次鳩山内閣の厚生政務次官、改進党婦人部長、民主党婦人局長、自由民主党婦人局長、同党全国組織委員会副委員長、同党参議院政策審議会婦人部長、中央青少年問題審議会委員、全国家庭科教育協会、徳島県立徳島学院(子供の森)各顧問、神田女学園評議員、女性問題研究会会長、世界連邦国会委員会常任理事等となる○同28年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(衆)1回(22)(参)3回(1補24)

高良とみ(富子)(こうらとみ)　全国選出　無所属クラブ

明治29年7月生、鹿児島県出身、大正6年日本女子大学英文科卒、米国留学、マスター・オブ・アーツ、ドクトル・オブ・フイロソフ○九州帝大医学部勤務、日本女子大、帝国女子医薬専各教授、家庭科学研究所長、呉市政務第一助役、米子医専講師、民主党総務、ガンジー平和連盟及び日本婦人団体(連)副会長、国際婦人心理学会理事等となる○昭和33年東南アジア各国の政治経済事情等視察、その他国際婦人平和自由連盟大会(ウィーン)、世界平和者会議(インド)等の国際会議出席○当選(参)2回(13)

郡祐一(こおりゆういち)　茨城県選出　自由民主党

明治35年3月生、茨城県出身、昭和4年東京帝国大学法学部卒○内務省に入り、振興、財政、人事各課長、地方局長、石川県知事、内閣官房副長官を歴任、第3次吉田内閣の物価政務次官、第1次岸内閣の国務大臣(自治庁長官)となり、参議院法務委員長、同議院運営委員長、同風水害対策特別委員長、自民党政務調査会副会長、参議院自由民主党政策審議会長、同自民党参議院議員会長、同党国会対策委員長、同自民党総務会長等となる○当選(衆)1回(22)(参)1回(1)

近藤信一(こんどうしんいち)　愛知県選出　日本社会党

明治40年6月生、愛知県出身、名古屋小碓尋常小学校卒、米ウ大学労働学校留学○社会運動に身を投じ、激しい弾圧の中に戦争反対運動を続け、昭和12年検挙投獄され、同16年出獄、終戦と同時に労働組合、政党の再建運動に参加、日本社会党本部統制委員、愛知県(連)会長、県労評事務局長、愛知県労働委員(連続5期)、名古屋地方専売公社、公共企業体

等各調停委員等となり、愛知労働金庫を創立(理事)、また参議院商工委員長、愛知県労働福祉協会理事等となる○(著)「現代アメリカ物語」「中小企業団体組織法とは何か」○当選(参)2回(35)

近藤鶴代(こんどうつるよ)　岡山県選出　自由民主党

明治34年11月生、岡山県出身、大正13年日本女子大学家政学部卒○岡山県山陽高女、同県第一岡山高女各教諭、日本女子大評議員、桜楓会理事、衆議院議員、地方制度調査会、家事審判制度調査委員会各委員、第2次、第3次吉田内閣の外務政務次官等歴任、また社会保障制度審議会委員、日本自由党幹事、同党婦人部長、同党総務、民主自由党政務調査会婦人対策委員長、自由党組織局婦人部長、自由民主党全国組織委員会副委員長、同党婦人局長、同党国会対策副委員長等となる○国際連合捕虜特別委員会に日本政府代表として出席、昭和35年欧米各国における議院運営の実情等視察○当選(衆)4回(22 23 24 25)(参)1回(4)

左藤義詮(さとうぎせん)　大阪府選出　自由民主党

明治32年6月生、大阪府出身、大正13年京都帝国大学文学部修了、欧米留学○同年真言宗京都大学、臨済宗大学、神戸高等商船各教授、大谷女子短大学長、大谷高中校長、東大谷高中校長、大阪府及び市仏教会長等となり、また衆議院議員当選、参議院議員当選、自由党副幹事長、同党総務、参議院議院運営、電気通信、運輸各委員長、第3次吉田内閣の文部政務次官、第2次岸内閣の国務大臣(防衛庁長官)等となる○当選(衆)1回(22)(参)3回(124)

佐伯卯四郎(さえきうしろう)　愛知県選出　緑風会

明治24年2月生、愛知県出身、同45年東京高等商業学校卒○大正3年森村商事(株)入社、その後日本陶器(株)営業部副部長、取締役等を経て同社社長、日本陶磁器交易(株)取締役、共立原料(株)社長、全国研削砥石工業組合(連)、名古屋陶磁器工業施設組合、日本陶磁器工業協議会、名古屋商工会議所各理事、商工省陶磁器物価専門委員、愛知県労働委員会委員、同県失業対策委員会副委員長等となる○アメリカ、インド、北支、満鮮出張○当選(参)1回(1)

佐佐弘雄(ささひろお)　全国選出　緑風会

明治30年1月生、東京都出身、大正9年東京帝国大学法学部政治科卒○同年東京帝大助手となり、その後外務省嘱託、九州帝大教授、同大付属図書館商議委員等歴任、大阪、東京朝日新聞社論説委員、東京朝日新聞社副主筆、同社論説委員室主幹、同社参与、熊本日々新聞社社長等となる○当選(参)1回(1)○昭和23年10月9日死去

佐々木鹿蔵(ささきしかぞう)　広島県選出　自由党

明治22年12月生、広島県出身、同30年呉市港町尋常小学校卒○東亜貿易(株)専務取締役、呉商工会議所副会頭、日本ブロック建築(株)社長、日本飼料協会会長、広島県米穀(連)会長、同県食糧営団、全国米穀(連)各理事長、広島食糧(株)社長等となり、また民主党議員総会長、同党副幹事長、同党総務会長等となる○当選(参)1回(1)○昭和25年11月2日死去

佐々木良作(ささきりょうさく)　全国選出　第一クラブ

大正4年1月生、兵庫県出身、昭和14年京都帝国大学法学部卒○同年日本発送電(株)に入社、その後同社調査係長、同社本店従業員組合書記長、同社全

従業員組合書記長、日本電気産業労働組合協議会常任協議員、同会中央共同闘争委員長、同会書記長、経済復興会議労働者側中央常任委員、参議院電気、経済安定各委員長等となる、昭和30年以降衆議院議員当選〇当選(衆)2回(27・28)(参)1回(1)

佐多忠隆(さたただたか) 鹿児島県選出 日本社会党

明治37年6月生、鹿児島県出身、昭和3年東京帝国大学経済学部卒〇翻訳、政治経済評論に従事、企画院調査官、日本放送協会庶務部長、経済安定本部金融局長、国民経済研究協議会理事、離島振興対策審議会委員、党政審副会長、参議院議員会長等歴任、また金融財政事情研究会理事、日本社会党国際局長、同鹿児島県(連)顧問等となる〇同27年アジア社会党会議結成準備会議(ビルマ)、社会主義インター(ロンドン)出席、英仏独米国視察、同28年アジア社会党会議(インド)出席、国会議員団として中国、ソ連訪問、同30年アジア・アフリカ会議出席〇当選(参)2回(24) 昭40.55.4.23死去 75才

佐藤清一郎(さとうせいいちろう) 栃木県選出 自由民主党

明治25年7月生、栃木県出身、同42年県立農学校卒〇昭和2年河内郡農会代議員となり、その後村会議員、消防組頭となる、満州国に在住し鉄路警護軍司令部勤務、栃木県農業会役員、同県農業共済組合(連)会長、同県農業調整委員会委員、同県蚕業技術員会会長、海外抑留者同胞救出国民運動栃木県本部長、栃木県定時制高校振興会、同県遺族(連)、同県土地改良協会各会長、栃木県議会議員、同県議会議長、第2次岸内閣の北海道開発政務次官等となる〇当選(参)1回(3)

佐藤尚武(さとうなおたけ) 青森県出身 参議院同志会

明治15年10月生、青森県出身、同37年東京高等商業学校本科卒〇同38年外交官補となり、その後大使館書記官、領事、総領事、大使館参事官、特命全権公使(ポーランド)、国際連盟帝国事務局長、特命全権大使(ベルギー、フランス)、林内閣の外務大臣、外務省外交顧問、特命全権大使(ソビエト連邦)、枢密顧問官、外務省官吏研修所長等歴任、参議院議員当選、参議院外務委員長等となる〇昭和31年第11回国連総会に政府代表として参列〇当選(参)3回(135)

佐藤芳男(さとうよしお) 新潟県選出 自由民主党

明治29年9月生、新潟県出身、大正9年早稲田大学政治経済科卒〇亀田町会議員、亀田町長、新潟県会議員、県町村会長、全国町村会長、国民健康保険団体全国県連会長、衆議院議員、改進党副幹事長、改進党社会保障対策特別委員長、日本民主党人事局長、総務、同党社会保障制度恩給制度特別委員会長、社会保障制度審議会委員長、自由民主党国会対策副委員長、参議院決算委員長等となる〇当選(衆)3回(21・25・26)(参)1回(5)

佐野廣(さのひろし) 島根県選出 自由民主党

明治37年9月生、島根県出身、昭和7年京都帝国大学法学部卒〇同8年出雲電気(株)入社、その後中国電力(株)島根支店長、同東京支社長、島根県農村電化協会長、同体育協会理事長、日本バレーボール協会参与、ラジオ山陰相談役等となり、また民主党島根県支部(連)幹事長、同党島根県支部(連)会長、自由民主党副幹事長、地方制度調査会委員、売春対策審議会委員、第2次岸内閣の大蔵政務次官等となる〇同31年日中貿易第3次協定締結のため中共、同32年岸首相に随行して東南アジア6カ国各訪問、同35年欧南米諸国における議院運営の実情及び政治経済事情等視察〇当選(参)2回(3補5) 昭和55.1.19死去 75才

西園寺公一(さいおんじきんかず) 全国選出 第一クラブ

明治39年11月生、神奈川県出身、大正13年東京高等師範学校付属中学校、昭和5年英オックスフォード大学各卒〇同9年外務省嘱託となり、その後日本太平洋問題調査会幹事、同会理事、日本国際問題調査会会長、内閣嘱託等となる〇当選(参)1回(1)

西川彌平治(さいかわやへいじ) 新潟県選出 自由民主党

明治31年12月生、新潟県出身、大正5年新潟県立工業学校機械科卒〇同年(株)新潟鉄工所柏崎工場入社、その後(株)西川鉄工所、(株)理研府屋木工所各代表取締役、理研電線(株)監査役等となり、また柏崎町会、柏崎市会各議員、新潟県議会議員、同県議会議長等となる〇当選(参)1回(3)〇昭和33年12月16日死去

西郷吉之助(さいごうきちのすけ) 鹿児島県選出 自由民主党

明治39年7月生、鹿児島県出身、昭和6年東北帝国大学法文学部卒〇日本興業銀行員、南方開発金庫参事、貴族院議員、参議院全国選出議員選挙管理委員長、地方財政政務次官、参議院地方行政、大蔵、予算各委員長、内閣地方制度調査会委員、参議院自由党国会対策委員長、自由民主党相談役、同党鹿児島県支部(連)会長、参議院自民党国会対策委員長、自民党九州総合開発特別委員会副委員長、台風常襲地帯対策審議会委員、日本空手協会会長、日本学生空手連盟会長、(財)日本消防協会顧問、拓大評議員、中越パルプ工業(株)顧問等となる〇在任(貴)〈昭11・7—22・3〉当選(参)3回(135)

齋武雄(さいたけお) 宮城県選出 日本社会党

明治29年2月生、宮城県出身、大正9年法政大学法律科卒〇同年弁護士開業、その後東京弁護士会、仙台弁護士会各会員、仙台弁護士会常議員会議長、東北弁護士会(連)幹事、日本農民組合宮城県(連)顧問、日本社会党宮城県(連)常任執行委員等となる〇当選(参)1回(1)

斎藤昇(さいとうのぼる) 三重県選出 自由民主党

明治36年1月生、三重県出身、昭和3年東京帝国大学法学部卒〇同2年内務省に入り内務属、地方事務官、社会局事務官、内務事務官、滋賀県警察部長、内務省地方局行政課長、同省文書課長、兵庫県経済部長、厚生省勤労局指導部長、防空総本部総務局長、神奈川県次長、山梨県知事、内務次官、警視総監、国家地方警察本部長官、警察庁長官等歴任、また参議院自民党国会対策委員長、参議院議員運営委員長等となる〇同33年列国議会同盟会議出席及び欧米各国議会制度視察、親善使節議員団として訪伯〇当選(参)2回(2補4)

坂本昭(さかもとあきら) 高知県選出 日本社会党

大正2年7月生、高知県出身、昭和12年東京帝国大学医学部卒、医学博士〇同年東大副手となり、その後国立高知療養所長、社会保障制度審議会委員、社会福祉法人本町健康相談診療所長、全医労顧問等となる〇同30年ヘルシンキ世界平和大会出席、同33年日中国交回復国民会議代表として訪中〇当選(参)1回(4)

酒井利雄(さかいとしお) 福井県選出 自由民主党

明治24年7月生、福井県出身〇昭和9年福井県坂井郡鳴鹿村村長となり、その後、福井県森林組合(連)会長、酒井建設工業(株)、桐生競艇施設(株)各社長、福井放送(株)、福井駅ビル(株)各取締役等となり、また福井県会議員、同県会議長、衆議院議員歴任、自由党党務委員、同党会計監督、同党福井県支部長、自由民主党福井県支部(連)会長、参議院逓信委員長等となる〇当選(衆)1回(21)(参)1回(3)

境野清雄(さかいのきよお) 群馬県選出 民主クラブ

明治33年1月生、群馬県出身、早稲田大学商学部卒〇輸出織物商店主、桐生絹人絹織物配給(株)常務取締役、群馬織物(株)、桐生布帛製品(株)各代表取締役、群馬県輸出織物(株)、三山物産(株)各社長、群馬県地方労働委員会委員、(社)桐生商工会議所会頭、参議院経済安定委員長等となる〇当選(参)1回(1補)

榊原亨(さかきばらとおる) 全国選出 自由民主党

明治32年11月生、岡山県出身、大正14年九州帝国大学医学部卒、医学博士〇昭和4年岡山医大助教授となり、その後、岡山市に外科病院開業、日本臨牀外

科医会副会長、日本医師会副会長等となり、衆議院議員当選、参議院議員当選、第1次岸内閣の行政管理政務次官等となる○同31年欧米各国の議院運営の実情等視察○(著)外科学、特に心臓外科に関する著書○当選(衆)1回(23)(参)1回(3)

櫻井三郎(さくらいさぶろう)　熊本県選出　自由民主党

明治32年12月生、熊本県出身、大正15年京都帝国大学法学部法律科卒○同年東京市事務員となり、その後東京府属、岩手県保安課長、北海道警務課長、宮城県農務課長、警保局事務官、警察講習所教授、島根県警察部長、警視庁消防部長、内務事務官兼外務事務官(ローマ駐在)、徳島県内政部長、東京都民政局監理課長、同財政課長、福岡県内政部長、関東信越地方行政連絡事務局次長、熊本県知事等となる○当選(参)1回(5)○昭和35年4月8日死去

櫻井志郎(さくらいしろう)　富山県選出　自由民主党

明治40年4月生、富山県出身、昭和6年東京帝国大学農学部農学科卒○同年農林省に入り、その後和歌山県部長、農林省土地改良課長、同設計課長、同建設部長、公団役員、東大講師等歴任、また富山県土地改良事業団体(連)、同山林協会各会長、治水砂防協会支部長、日本農業土木学会副会長等となる○在官中、国際灌漑排水会議に日本代表として出席、欧米、北アフリカ等出張(3回)○(著)「土・水・人」「北亜、西欧視察記」等○当選(参)1回(5)

櫻内辰郎(さくらうちたつろう)　東京都選出　改進党

明治19年3月生、東京都出身、早稲田大学政治経済学科修○同年愛知県亀崎銀行常務取締役となり、日本人造絹糸(株)常務取締役、日本共済銀行、日本紡ミルク(株)、桜組工業(株)、東邦石油(株)、日本興産(株)、東京都競馬(株)各取締役、東洋繊維工業(株)、織(株)、朝鮮産金(株)各社長、東洋紡績(株)入社、その後高ノ倉鉱東京発動機(株)各専務取締役、大連株式商品取引所理事長、衆議院議員等となり、また国民民主党最高委員、参議院予算、大蔵、外務各委員長等となる○当選(衆)2回(16・17)(参)1回(1)○昭和29年11月13日死去

櫻内義雄(さくらうちよしお)　島根県選出　国民民主党

明治45年5月生、東京都出身、昭和10年慶応義塾大学経済学部卒○鐘渕紡績(株)入社、その後高ノ倉鉱業(株)監査役、中島機城(株)、城東製鋼(株)各取締役、日本電化工業(株)専務取締役、三信興業(株)社長、日下部パルプ(株)常任監査役、日本貿易振興会、帝都高速度交通営団各評議員、衆議院議員、民主党政務調査会常任理事、貿易部会長、院内総務、中小企業部長、民主党副幹事長、国民民主党副幹事長、東京都港区支部長等となる、昭和27年以降衆議院議員当選○当選(衆)5回(23・25・26・27・28)(参)1回(2)

迫水久常(さこみずひさつね)　全国選出　自由民主党

明治35年8月生、鹿児島県出身、大正15年東京帝国大学法学部英法科卒○同年大蔵属となり、その後司税官、内閣総理大臣秘書官、銀行検査官、大蔵書記官兼企画院書記官等を経て大蔵省総務局長、内閣参事官、大蔵省銀行保険局長、内閣書記官長兼綜合計画局長官等歴任、貴族院議員、衆議院議員、自民党総務、同党党紀委員長、参議院自民党国会対策委員長、池田内閣の国務大臣(経済企画庁長官)等となり、また弁護士、東京ピアノ工業(株)会長、大阪製鋼(株)、新東宝(株)、(株)金冠堂各監査役等となる○欧米各国視察○在任(貴)(昭20・8―20・8)当選(衆)2回(25・26)(参)1回(4)

笹森順造(ささもりじゅんぞう)　青森県選出　自由民主党

明治19年5月生、青森県出身、同43年早稲田大学政経科卒、米国デンバー大学院卒、哲学博士○東京新公論主筆、米国南加中央日本人会書記長、東奥義塾長、青山学院長、日本経済専門学校長、国際基督教大学常任理事、東京神学大学理事、日米クラブ会長、全日本学生剣道連盟会長、護国館長、衆議院議

員、片山内閣の国務大臣(復員庁総裁、賠償庁長官)等歴任、参議院文教、外務各委員長等となる○欧米亜視察(5回)○(著)「在米日本人社会生活」(英文)、「剣道」○当選(衆)4回(22・23・24・25)(参)2回(2補・4)

し　の　部

清水武夫(しみずたけお)　長崎県選出　日本社会党

明治33年9月生、三菱工業学校卒○清水造船鉄工経営、長崎商議常議員、同県金属工業会監事、市会議員等となる○当選(参)1回(1)○昭和22年11月22日死去

椎井康雄(しいやすお)　宮崎県選出　日本社会党

明治39年1月生、宮崎県出身、大正9年宮崎商業学校卒○昭和12年昭和水産(資)常任理事となり、その後対満薬品工業(株)、ッシマ化粧品(株)各社長、宮崎県運搬業組合長、(社)華陽会理事会長等となる○当選(参)1回(1)

塩見俊二(しおみしゅんじ)　全国選出　自由民主党

明治40年5月生、高知県出身、昭和5年東京帝国大学法学部政治科卒○同年台湾総督府属となり、その後同主計課長、東京国税局直税部長、熊本財務局長、広島、大阪各国税局長等歴任、自民党副幹事長、同党政調財政副部長、池田内閣の防衛政務次官等となる○同30年租税制度研究のため欧米20数ヵ国に出張、同31年日中貿易促進議員団として中共視察、同34年親善使節団としてユーゴスラビア訪問及び欧米各国の議院運営の実情等視察○(著)「外から日本を見る」○当選(参)1回(4)

重成格(しげなりかく)　鹿児島県選出　自由民主党

明治34年7月生、岡山県出身、大正14年東京帝国大学法学部法律学科(英法)卒○同年福岡県属となり、その後各県課長等歴任、内務省警保局検閲課長、国土局計画課長、愛知県経済部長、大阪府官房長、同経済第二部長、兵庫県内政部長兼警察部長等を経て鹿児島県知事(官選、公選)となり、また特殊土じょう地帯対策、南九州地方総合開発各審議会会長、屋久島電気興業(株)取締役、同顧問、鹿児島遠洋漁業(株)会長等となる○ロンドンにおける世界厚生会議へ日本代表として出席○当選(参)1回(4)○昭和31年10月16日死去

重政庸徳(しげまつようとく)　全国選出　自由民主党

明治28年1月生、広島県出身、東京帝国大学農業経済学科卒○農林省開墾課長、同省岡山農地事務局長等歴任、在官中、日本学術会議議員となり、議員当選後自民党政策審議会委員、同党政務調査会副会長、同民情部長、参議院農林水産委員長等となり、また全国土地改良事業団体(連)副会長、全国開墾建設促進同盟会会長、広島県土地改良事業団体(連)会

長、全国農事用大型電力対策協議会会長等となる○昭和35年欧米各国における議院運営の実情等視察○当選(参)2回(35)

重宗雄三(しげむねゆうぞう)　全国選出　自由民主党

明治27年2月生、山口県出身(本籍東京都)、同45年東京高等工業学校附属工業学校電気科卒○同年(株)明電舎に入り、福島県棚倉電気(株)、特許権保有(株)、明電商事(株)、重宗産業(株)、(株)明雄社、明電水晶(株)、甲府明電舎(株)、(株)明電舎等の社長、貴族院議員等となり、また参議院議員当選後、参議院副議長、第2次岸内閣の運輸大臣、参議院自由民主党議員会長等となる○大正8年から同10年まで欧米各国の工業界視察、昭和29年米国連邦議会及び州議会運営状況視察○在任(貴)(昭21・8―22・5)当選(参)3回(124)

重盛壽治(しげもりとしはる)　東京都選出　日本社会党

明治34年4月生、長野県出身、大正8年蔵前工業専修学校建築科本科修了○同9年東京市電気局自動車課に奉職、東京交通労働組合中央執行委員長(3期)、東京都労働組合(連)執行委員長(4期)、日本労働組合総同盟東京都(連)会長(5期)、日本労働組合総同盟副会長(4期)、東京地方労働組合評議会議長(5期)、日本社会党統制委員長、同党中央執行委員、選挙対策副委員長、同党東京都(連)執行委員長、参議院社会労働委員長、首都圏整備審議会委員、オリンピック組織委員等となり、また参議院運営の実情等視察○国の政治経済事情等視察○当選(参)2回(24)

柴田栄(しばたさかえ)　全国選出　自由民主党

明治33年11月生、愛知県出身、昭和3年東京帝国大学農学部林学科卒○同年秋田営林局に入り白沢、真室川、青森各営林署長、熊本営林局作業課長、農林省技師、秋田営林局事業部長、同局長、農林省林野庁業務部長、林野庁長官等歴任、また学術会議会員、参議院通信委員長等となるほか全国木材組合(連)、全国森林組合(連)各顧問、愛知県森林組合(連)会長、日本林道協会副会長等となる○世界林業会議日本代表としてインド出張○当選(参)1回(4)

柴田政次(しばたまさじ)　茨城県選出　自由党

明治15年9月生、茨城県出身○大正14年茨城県多賀郡磯原町長となり、その後同県会議員、同県会議長、参議院建設委員長等となり、また茨城県木材(株)社長、同県木材生産組合(連)、同県林業会各会長等となる○当選(参)1回(1)○昭和25年9月15日死去

柴野和喜夫(しばのわきお)　石川県選出　自由民主党

明治35年7月生、東京都出身、昭和2年東京帝国大学法学部卒○同年農林省に入り畜産局、山林局、米穀局各課長、外務省書記官(パンコック駐在)、東海北陸地方総監府参事官、農林省食品局長、滋賀県知事、石川県知事等歴任、石川県自民党常任顧問、自民党地方制度調査特別委員会副委員長等となり、また弁護士、東亜食肉輸入協同組合理事長等となる○同30年東南アジア諸国歴訪(東南アジア食糧調査団副団長)○当選(参)1回(3補)

柴谷要(しばやかなめ)　全国選出　日本社会党

明治43年2月生、東京都出身、昭和15年東京鉄道教習所専習部機関助士科及び同電気科修了○大正14年東京鉄道局田端機関区に就職、国鉄労働組合総連合会結成準備委員及び上野全管労働組合準備委員長、上野全労働組合委員長、国鉄労組東京地方本部執行委員長、国鉄労組中央執行委員長、日本官公庁労働組合協議会議長、全日本交通運輸労働組合協議会議長等となる○昭和29年ジュネーブ国際労働機構交通運輸部会(ILO)に労働代表として出席副議長となる○(著)「手をつなぐ人々」○当選(参)1回(3補)

島清(しまきよし)　東京都選出　民主社会党

明治41年9月生、東京都出身、昭和12年法政大学法学部英法科卒○同5年学生時代より日本大衆党に参加、その後、全国大衆党、全国労農大衆党党員、社会大衆党、日本社会党各中央執行委員、遊説・宣伝各部長、参議院両院法規委員長、民主社会党結成準備委員、同党中央執行委員等歴任、その間洋品百貨店、新聞社、貿易会社等経営、日本中小企業団体連盟理事、(株)興南社役員等となる○同28年米国大統領就任式に招かれて参列、同33年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察、親善使節議員団として訪伯○当選(参)2回(14)

島田千壽(しまだせんじゅ)　福岡県選出　日本社会党

明治31年8月生、福岡県出身○昭和2年小倉市会議員となり、その後都市計画福岡地方委員、小倉商工会議所議員、福岡県土木建築工業組合企業整備委員、小倉土建工業(株)社長、小倉商工会議所理事、新日本建設連盟副会長、日本社会党北九州協議会長等となる○当選(参)1回(1)

島津忠彦(しまづただひこ)　鹿児島県選出　自由民主党

明治32年8月生、鹿児島県出身、大正12年成蹊実業専門学校本科卒○昭和10年三和電気(株)社長となり、その後鈴木商店代表者、鹿児島製紙興業(株)社長等となり、また大蔵省委員、貴族院議員、参議院電気通信委員長等となる○在任(貴)(昭14・7―22・5)当選(参)2回(12)

島村軍次(しまむらぐんじ)　岡山県選出　緑風会

明治28年4月生、岡山県出身、大正2年岡山県高松農学校卒○同年都窪郡農会技手となり、その後岡山県属、同県久米郡長、同県庶務課長、鳥取県経済部長、東京都食糧営団理事、岡山県農業会、同県経済農業協同組合(連)、同県たばこ耕作組合(連)、全国たばこ耕作組合中央会各会長、たばこ耕作組合中央会顧問、農機具公社取締役等となり、また第3次吉田内閣の農林政務次官等となる○昭和31年欧米各国の議院運営の実情等視察○当選(参)2回(13)

下條恭兵(しもじょうきょうへい)　新潟県選出　日本社会党

明治33年4月生、新潟県出身、大正11年早稲田工手学校卒○同年日本石油(株)入社、昭和精密機械(株)、(株)太田鉄工所、日本油機製造(株)各社長、米華貿易(株)取締役会長、(財)柏崎短期大学理事長等となり、また日本社会党会計、芦田内閣の逓信政務次官、参議院建設委員長等となる○当選(参)1回(1)

下條康麿(しもじょうやすまろ)　全国選出　自由民主党

明治18年1月生、東京都出身、同42年東京帝国大学法科大学政治学科卒、経済学博士○佐賀県事務官、内閣書記官、法制局参事官、内閣恩給、統計各局長、賞勲局総裁、貴族院議員等歴任、参議院議員当選後第2次吉田内閣の文部大臣、参議院決算、議院運営各委員長、裁判官弾劾裁判所裁判長、憲法調査会委員、自由民主党相談役等となり、また日大教授、郡山女子短大学長、在オランダ国際統計協会正会員、在米国国際人口学会会員等となる○昭和29年国連主催ローマの世界人口会議出席及び欧米各国視察、同35年欧米各国における議院運営の実情等視察○(著)「社会政策の理論と施設」「日本社会政策的施設史」○在任(貴)(昭15・12―22・5)当選(参)2回(14)

下村定(しもむらさだむ)　全国選出　自由民主党

明治20年9月生、東京都出身、大正5年陸軍大学校卒、フランス陸軍大学校卒○同7年参謀本部員となり、その後陸大兵学教官、ヨーロッパ駐在武官、陸大校長、西部軍司令官、北支那方面軍司令官、終戦後東久邇、幣原各内閣の陸軍大臣等歴任、日本郷友連盟相談役、旧軍人関係恩給権擁護全国(連)名誉会長、全国戦争犠牲者援護会、日本傷痍軍人会各顧問、偕行社理事等となる○国際軍縮会議、万国赤十字条約改正会議等に参加○当選(参)1回(5)

宿谷榮一(しゅくやえいいち)　全国選出　緑風会

明治27年4月生、東京都出身○東京府農機具工業組

合理事、日本農機具工業統制組合理事、同専務理事、農機具統制㈱評議員、日本農機具工業会副理事長、日本農機具工業協同組合専務理事、噴霧機製造㈱社長等となり、また第3次吉田内閣の労働政務次官等となる○当選(参)1回(1)

城　義臣　熊本県選出　自由党

明治37年10月生、熊本県出身、昭和3年法政大学文学部哲学科、同4年早稲田大学政経学部政治学科卒○法大社会学研究室助手及び講師、九州日報編集局員、日本ピアノ輸入㈱、帝国土地建物㈱、甲南航空工業㈱、天産航空部品㈱、城興産㈱、竜門木材工業㈱各重役、私塾城山学舎舎主、(財)福岡文化学園理事長兼校長等となり、また自由党熊本県(連)幹事長、同党政務調査会副会長、同顧問、参議院自由党政調会副会長、第3次吉田内閣の行政管理政務次官、参議院電気通信委員長等となる○当選(参)1回(1補)

白井　勇　山形県選出　自由民主党

明治31年6月生、山形県出身、大正14年東京帝国大学農学部農業経済科卒○同年農林省に入り、産業組合検査官、米穀事務所長、東京食糧事務所長、検査課長、勅任技師等歴任、産業組合運動の指導育成、食糧行政と農産物検査制度を確立、第1次岸内閣の大蔵政務次官、米価審議会、積寒地帯対策各委員、自民党政務調査会副会長、同通信部長、食生活改善協会、日本食糧協会、茶道淡交会各理事等となる○昭和12年欧米各国食糧政策調査、同6年台湾、同14年中華民国に出張、同31年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)2回(3・4補)

白川一雄　香川県選出　自由民主党

明治31年3月生、香川県出身、大正13年東京帝国大学法学部法律科卒○昭和5年㈱白川保善社専務取締役となり、その後、同社長、白川製陶(株)、名古屋合板(株)、白川商事(株)各社長、ベニヤ板工業組合理事長、下津井鉄道(株)、鞍山鋼材(株)各取締役、満州栗本鉄工(株)専務取締役、軍管理開灤礦務総局最高監督官、富士工業㈱、航空工業㈱各重役、日本経営者連盟航空審議会委員、航空工業会理事等となる○当選(参)1回(3)○昭和32年5月14日死去

白木義一郎　大阪府選出　無所属クラブ

大正8年9月生、東京都出身、昭和16年慶応義塾大学高等部卒○創価学会関西総支部長となる○当選(参)1回(4)

白波瀬米吉　全国選出　自由民主党

明治20年4月生、京都府出身、京都法政大学修○大正3年京都府農業技手となり、その後、郡是製糸(株)取締役、日本蚕糸統制(株)常務理事、日本中央蚕糸会議員、日本蚕糸製造(株)取締役、蚕糸調査会臨時委員、日本セルローズ工業(株)取締役、農林省生糸問屋審査会委員、日本殖産興業(株)取締役、岐阜紡績(株)社長等となり、また自由党総務、参議院自由党副会長、参議院両院法規委員長、第3次鳩山内閣の北海道開発政務次官等となる○米国の絹業事情視察○当選(参)1回(2)

新谷寅三郎　奈良県選出　自由民主党

明治35年10月生、奈良県出身、大正14年東京帝国大学法学部政治科卒○同年逓信局書記となり、その後逓信書記官管船局庶務課長兼高等海員審判所審判官、管船局監理課長兼外務書記官、管船局総務課長、航空局書記官監理部監督課長、灯台局長、海務院総務部長、運輸通信省海運局長、逓信院次長、逓信院総裁心得等歴任、また第3次吉田内閣の労働政務次官、鉄道建設審議会委員、参議院内閣、地方行政各委員長等となる○昭和26年米国のラジオ、テレビ及び電気通信事業視察、同30年欧米各国の議院運営の実情等視察○当選(参)3回(1・2・4)

昭和59・12・16死去　82才

す の 部

須藤五郎　全国選出　日本共産党

明治30年9月生、三重県出身、大正12年東京音楽学校本科卒○同年東洋音楽学校教授、その後、宝塚歌劇団作曲指揮担当、また裁判官弾劾裁判所裁判員予備員、日中貿易促進議員連盟常任理事、日ソ協会、日中友好協会、日朝協会各理事、大阪労音顧問等となる○昭和9年から同13年まで欧米、南米方面に音楽研究、劇界視察、宝塚歌劇団公演のため旅行(3回)、同28年日中貿易協定調印のため中国、ソ同盟訪問、中ソとの国交回復促進のため中国、ソ同盟訪問(3回)、○(著)「歌曲集しぐれ」「私は戦争に反対する」「平和の旅」「歌と革命」等○当選(参)2回(2・5)

昭和63・11・18(金)死去　91才

杉浦武雄　愛知県選出　自由民主党

明治23年5月生、愛知県出身、大正5年東京帝国大学法科大学法律科卒○同年司法官試補となり、その後東京地方裁判所検事代理、東京、前橋各地方裁判所判事、京城地方法院判事、京城覆審法院判事等歴任、弁護士となり、衆議院議員当選、拓務参与官、社会事業調査委員、臨時電気事業調査会、阿片委員会、裁判官適格審査会各委員、日本民主党総務、自由民主党相談役、弾劾裁判所裁判員等となる○朝鮮、満州、北支、欧米各国視察○当選(衆)6回(15・16・17・19・20・27)(参)1回(5)

杉原荒太　佐賀県選出　自由民主党

明治32年8月生、佐賀県出身、大正14年アメリカヴァーモント大学卒○在米大使館外交官補、上海領事、南京総領事、大使館参事官、外務省条約局第二課長、同第一課長、調査部第一課長、支那事務局長、総務局長、条約局長、文官高等試験委員等歴任、終戦とともに公職追放、弁護士となり参議院議員当選、民主党外交特別委員会長、自民党総務、第2次鳩山内閣の国務大臣(防衛庁長官)、参議院外務委員長等を経て参議院自民党政策審議会長となる○当選(参)2回(2・4)

昭和40・5・1・20死去　82才

杉山昌作　全国選出　参議院同志会

明治33年10月生、静岡県出身、大正14年京都帝国大学経済学部卒○同年専売局に入り専売局参事、大蔵調査官、専売局長官等歴任、また東北興業(株)副総裁、(社)専売事業協会会長、全国たばこ耕作組合中央会会長、参議院同志会議員総会議長、参議院図書館運営、大蔵各委員長等となる○昭和28年欧米各国の議院運営の実情等視察○当選(参)2回(2・4)

昭和57・1・20死去　82才

鈴木恭一　全国選出　自由民主党

明治31年12月生、神奈川県出身、大正14年東京帝国大学法学部政治学科卒○同年逓信省に入り、その後逓信局、本省各課長及び仙台、東京両逓信局長、陸軍司政長官、通信院業務局長、運輸通信省企画局長、逓信院総務局長、逓信次官、電気通信次官歴任、参議院電気通信、逓信各委員長となるほか、(財)通信文化振興会理事長、(財)日本無線通信協会会長、(株)深夜放送社長等○昭和10年通信事業研究のため一カ年米国留学○当選(参)2回(1補・5)

鈴木強平　群馬県選出　自由民主党

明治31年4月生、群馬県出身、大正7年慶応義塾大学理財科卒○群馬県木炭(連)会長、同県燃料林産組合長、全国燃料組合(連)副理事長、前橋商工会議所商業部長、(社)群馬県商工倶楽部理事長となり、また前橋市会議員、衆議院議員、日本進歩党、民主党、国民民主党各党総務、国民民主党両院議員総会長、農林参与官、衆議院災害対策特別委員長、第2次鳩山内閣首都建設政務次官等歴任のほか(学)前橋文化服装学院等の理事、日本燃料機(株)等の社長、(社)全国燃料会館副理事長、全国燃料団体(連)副会長等となる○当選(衆)2回(22・23)(参)1回(2)

鈴木憲一　神奈川県選出　国民民主党
明治31年8月生、神奈川県出身、大正8年神奈川県立師範学校卒○同年神奈川県訓導となり、その後川崎市住吉尋常高等小学校長、神奈川県視学、同県教員組合長、衆議院議員等となる○当選(衆)1回(22)(参)1回(1)

鈴木順一　群馬県選出　国民民主党
明治42年5月生、群馬県出身、昭和5年東京農業大学農学科卒○同17年群馬県利根郡赤城根村森林組合長となり、その後同県重点産業用材(株)常務取締役、司法省嘱託、群馬県利根区司法保護常務委員、鈴木工業(株)社長、関東少年保護団体連盟理事等となる○当選(参)1回(1)

鈴木清一　全国選出　労働者農民党
明治37年7月生、静岡県出身、攻玉社工学校土木科修○大正12年東京鉄道局新橋保線区線路工手となり、その後運輸技官、国鉄労組総連合会中央委員長等となる○当選(参)1回(1)

鈴木強　全国選出　日本社会党
大正3年2月生、山梨県出身、昭和14年逓信官吏練習所無線科卒○電気通信事務官、日本電信電話公社社員、全電通労組書記長、同中央執行委員長、全国電信協議会会長、日本社会党東京都(連)、同山梨県(連)各顧問、党政策審議会通信部会主査、参議院社会党院内役員、全電通、全逓及び国際電電労組、全日農山梨県(連)各顧問、ILO青少年委員会委員等となる○ジュネーブにおけるILO38回総会、バンコックにおけるアジア各国労組会議、アメリカミシガン州マキノ島におけるMRA世界大会に出席、欧米視察○(著)「世界の労働者に幸を」○当選(参)1回(4)

鈴木直人　全国選出　自由党
明治33年5月生、福島県出身、大正15年東京帝国大学法学部政治学科卒○同年東京市に入り、その後沖縄、山梨、広島、埼玉、東京各府県の課長、石川、広島、山口、愛知、熊本各県の部長、熊本県知事等を経て第2次吉田内閣の逓信政務次官、参議院両院法規委員長等となる昭和27年以降衆議院議員当選○昭和26年講和会議調印状況視察○当選(衆)2回25(1)○昭和32年9月20日死去

鈴木壽　秋田県選出　日本社会党
明治40年1月生、秋田県出身、大正15年秋田師範学校、昭和8年同校専攻科卒○大正15年小学校教員となり、その後小、中学校長歴任、昭和21年以降秋田県教職員組合委員長(4期)となり、また同22年以降秋田県議会議員当選(引き総き3選)○当選(参)1回(4)

鈴木一　秋田県選出　日本社会党
大正2年10月生、秋田県出身、昭和13年東京帝国大学文学部卒○同14年文部省嘱託となり、その後、全国購買農業協同組合(連)課長、部長、嘱託、農業復興会議幹事、農村電化協会顧問のほか労働組合委員長、会社社長及び顧問相談役等となる○同30年東南アジア各国の政治経済事情等視察、昭和33年衆議院議員当選○当選(衆)1回(28)(参)1回(3)

鈴木文四郎　全国選出　緑風会
明治23年3月生、東京都出身、大正2年東京外国語学校英語科卒○同6年東京朝日新聞社に入り、その後社会、整理各部長、編集総務、名古屋支社長、出版総局長、常務取締役等となり、その間、ベルサイユ会議ロンドン駐在特派員、国際労働会議(ワシントン、ゼノア)、ワシントン軍縮会議特派員等となり、またリーダースダイジェスト日本支社編集長、支社長等となる○当選(参)1回(2)○昭和26年2月23日死去

鈴木万平　静岡県選出　自由民主党
明治36年7月生、静岡県出身、大正15年東京帝国大学法学部卒○昭和3年東洋紡績(株)に入り、その後同社社長を経て三共、和光堂、佐野製紙、富士製粉等各社社長、経団連理事、日経連常任理事、化学工業協会常務理事、製薬団体(連)会長等各経済団体の役員、日本卓球協会会長等となり、また自由民主党静岡県支部(連)会長、参議院懲罰委員長等となる○同27、33年の両度欧州、南北アメリカ視察○当選(参)1回(4)

鈴木安孝　秋田県選出　自由党
明治10年9月生、秋田県出身、同36年和仏法律学校卒○同39年秋田地方裁判所判事となり、その後弁護士、秋田市会議員(7期)、同県会議員(3期)、同県会議長、同市長、同弁護士会長、衆議院議員、参議院郵政、法務各委員長等となる○当選(衆)3回(16 17 18)(参)1回(1)○昭和30年2月27日死去

せ の部

関根久蔵　全国選出　自由民主党
明治27年12月生、埼玉県出身、大正2年群馬県立富岡中学校卒○金屋村産業組合長、同村長、埼玉県信販購利用組合(連)専務理事、同県農業会常務理事、同会長、衆議院議員、参議院農林水産委員長等となるほか埼玉県信用農業協同組合(連)理事兼児玉郡支所長、同会長、同県農村工業(連)、同県農業共済組合(連)各会長、全国乾繭組合(連)副会長、全国共済協会副会長、同顧問、民主党埼玉県支部長等となる○当選(衆)2回(33再)

そ の部

曾祢益　神奈川県選出　民主社会党
明治36年12月生、東京都出身、大正15年東京帝国大学法学部政治学科卒○外務省に入り仏、中国在勤、同省通商局、政務局各課長を経て昭和20年以降終戦連絡中央事務局政治部長、同九州事務局長、内閣官房次長、連絡調整中央事務局長官等歴任、日本社会党中央執行委員、渉外部長、国際局長、党国民運動委員長、党神奈川県(連)会長、民主社会党書記長等となるほか神奈川中央交通(株)、ニュージャパンモーター(株)、江ノ島鎌倉観光(株)各役員となる○昭和30年アジア、アフリカ会議出席、同32年日本社会党訪米使節として渡米、同34年同党訪中使節として中共訪問○当選(参)2回(24)

相馬助治　栃木県選出　民主社会党
明治44年3月生、栃木県出身、昭和6年栃木師範学校本科卒○栃木県、東京都の各小学校教員となり文部省検定試験合格、高女・中学教諭歴任、同21年以降栃木県教員組合執行委員長、関東地方教職員組合協議会議長、栃木県地方労働委員、衆議院議員、日本社会党教育文化部長、同組織部長、本部統制委

員、内閣社会保障制度審議会委員、参議院文教委員長等となる○同28年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察、同30年訪中国会議員団として中共視察、同33年台湾各地の経済状況視察○(著)「母の読本」「日本教育の現状」等○当選(衆)1回(23)(参)2回(24)

た の部

田方 進(たかた すすむ) 熊本県選出 自由党

明治35年7月生、熊本県出身○林業、土木建築請負業田方組経営、民主党総務、民主党副政務調査会長等となる○当選(参)1回(1)

田上松衛(たがみ まつえ) 神奈川県選出 民主社会党

明治33年1月生、鹿児島県出身、大正6年鹿児島県大成実業補習高等部卒○同9年日本海員組合、昭和4年日本港湾従業員組合の各創立委員幹部、同年及び20年再建の総同盟役員兼任、社会民衆党、社会大衆党、日本社会党各創立委員、中央地方各種役員、同4年以来横浜地裁調停委員、同司法委員、横浜家裁創設以来裁判所委員会委員、同参与員、同調停委員、両裁判所調停協会長、顧問、日本調停協会(連)副会長、同11年以来神奈川県会、横浜市会各議員(5期、終身議員待遇)、横浜市教育委員会委員長、同市選挙管理委員長兼五大市同委員長会長等となる○当選(参)1回(5)

田口政五郎(たぐち まさごろう) 兵庫県選出 自由党

明治27年2月生、兵庫県出身、大正8年東京帝国大学経済学部卒○同12年兵庫県会議員となり、その後同県垂水村長、同町長(2期)、第3次吉田内閣の大蔵政務次官等歴任、また江井島酒造(株)取締役、同副社長等となる○当選(参)1回(1)

田中啓一(たなか けいいち) 岐阜県選出 自由民主党

明治29年1月生、岐阜県出身、大正14年京都帝国大学経済学部卒○京都師範学校教諭より農林省に入り、その後農林書記官、農林大臣秘書官(3期)、日本競馬会理事、農林省山林局木炭第一課長、食糧管理局第一部長、食品局長、地方参事官(九州地方行政協議会)、九州地方総監府第二部長、富山県知事、岐阜県副知事、衆議院議員、自由党政務調査会副会長、自由民主党農林漁業基本政策調査会副会長、参議院自由民主党政策審議会副会長、参議院地方行政委員長等となる○当選(衆)1回(24)(参)2回(35)

田中耕太郎(たなか こうたろう) 全国選出 緑風会

明治23年10月生、東京都出身、大正4年東京帝国大学法科大学法律学科卒、法学博士○同年内務属となり、その後東京帝大教授、同大学法学部長、帝国学士院会員、文部省学校教育局長、第1次吉田内閣の文部大臣、貴族院議員、参議院文教、文部各委員長等となる、昭和25年最高裁判所長官となる○在任(貴)(昭21・6—22・5)当選(参)1回(1)

田中茂穂(たなか しげほ) 鹿児島県選出 自由民主党

明治44年9月生、鹿児島県出身、昭和12年東京農業大学卒○鹿児島県議会議長(3期)、特殊土壌地帯対策審議会、南九州地方総合開発審議会各委員等歴任、全国組合金融協会副会長、全国農協中央会、全国農業会議所各理事、県農業会議、県農協中央会、県信用農協連各会長、自民党副幹事長、党農林漁業基本政策調査会副会長、九州総合開発審議会委員、同審議会屋久島部会長等となる○昭和30年米国ICA本部の招きにより農業視察のため渡米、同34年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度等視察○当選(参)1回(4補) 昭和57.10.11.死去

田中清一(たなか せいいち) 全国選出 自由民主党

明治25年9月生、福井県出身、日進尋常小学校四年卒○大正7年(株)富士製作所社長となり、その後(財)田中研究所理事長、国土建設推進連盟会長、国土建設一円会会長、静岡県沼津商工会議所会頭、国土開発縦貫自動車道建設審議会委員となる○当選(参)1回(5)

田中利勝(たなか としかつ) 福島県選出 日本社会党

明治30年3月生、栃木県出身○大正13年郡山電気(株)従業員組合長となり、その後、政治研究会郡山支部長、社会大衆党中央執行委員、同党福島県(連)会長、小作農民組合福島県(連)委員長、郡山市会議員、農村託児所経営主、郡山市、福島県各農地委員、日本有富機械農業協会主事、日本労働組合総同盟中央委員、同同盟福島県地方労働委員会等の各委員、全国農民組合常任中央委員等となる、昭和30年衆議院議員当選○当選(衆)1回(27)(参)1回(1)

田中信儀(たなか のぶよし) 鳥取県選出 国民民主党

明治22年3月生、鳥取県出身、大正3年東京帝国大学農学科卒○農林省農事試験場技手、鳥取県会議員、同県会議長、八頭郡国英村農業会理事、鳥取県農地委員会、同県地方労働委員会等の各委員、同県農業会監事、同県蚕糸業会、同県水産業会各会長、日の丸産業(株)、(株)鳥取青果卸売市場等の各取締役、日の丸自動車(株)、日本海新聞社、鳥取日産自動車販売(株)各監査役、鳥取地木商事(株)、鳥取水産(株)各社長等となる○当選(参)1回(1)○昭和35年4月11日死去

田中一(たなか はじめ) 全国選出 日本社会党

明治34年5月生、青森県出身○父祖よりキリスト教的訓育を受け、青森、東京、大阪で労働とキリスト教社会主義運動農民運動等に10数年参加、昭和3年より新聞雑誌建設図書出版を業とし、議員当選後、参議院決算委員長等歴任、また参議院建設委員会理事、国土総合開発審議会委員、日本社会党選挙対策副委員長、政策審議会建設部長、国土開発特別委員長、世田谷支部長、日本住宅協会常務理事、(医財)愛生会有馬病院会長、引揚者団体全国(連)、全国宅地建物取引業団体(連)各顧問、全日本建築士会相談役となる○同28年東南アジア各国の政治経済事情等視察、同30年中共、ソ同盟欧州諸国訪問○当選(参)2回(24)

田畑金光(たばた かねみつ) 福島県選出 民主社会党

大正3年1月生、鹿児島県出身(本籍福島県)、昭和14年東京帝国大学法学部法律学科卒○福島県議会議員、同県地方労働委員、日本労働組合総同盟福島県連、日本鉱山労働組合各会長、国会対策副委員長、全国石炭鉱業労働組合初代委員長、在外財産問題審議会、臨時恩給等調査会各委員、参議院商工委員長、日本社会党福島県連会長等歴任、民主社会党労働対策委員長、国会活動労組連絡会議長、石炭対策、職業病対策各特別委員会事務局長、引揚者団体福島県連会長、民主社会党福島県連、全炭礦各顧問、福島県労働金庫理事長等となる○同31年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)2回(35)

田村文吉(たむら ぶんきち) 新潟県選出 緑風会

明治19年9月生、新潟県出身、同43年東京高等商業

学校本科、同専攻部卒○越後鉄道(株)経理課長、北越製紙(株)社長、日本板紙(連)理事長、紙パルプ(連)会長、日本紙類輸出組合理事長、新潟県臨港開発(株)取締役、(株)新潟鉄工所監査役、新潟県商工経済会会頭、新潟県治山治水協会等の会長、新生活運動協会常務理事、日本経営者団体連盟常任理事、長岡市名誉市長等となり、議員当選後、緑風会政務調査会副会長、同会務委員会座長、第3次吉田内閣の郵政大臣兼電気通信大臣等となる○当選(参)2回(13)

伊達源一郎(だてげんいちろう)　島根県選出　緑風会

明治7年3月生、島根県出身、同32年同志社大学政治部卒、欧州留学○同34年国民新聞社に入り、その後同社編集局長、国際通信社ニュース部長、読売新聞社主事、東方通信社主幹、新聞連合社顧問、国民新聞社、ジャパンタイムス、島根新聞社各社長等となり、また参議院内閣委員長となる○ジュネーブの世界新聞専門家会議出席、パリ講和会議に特派される○当選(参)1回(1)

高木正夫(たかぎまさお)　全国選出　緑風会

明治23年1月生、和歌山県出身、大正11年京都帝国大学経済学部卒○同年鉄道省に入り、大阪鉄道局大阪運輸事務所長、門司鉄道局運輸部長、鉄道省陸軍監理官等歴任、また参議院運輸委員長となるほか、大阪豊国自動車(株)社長、ロータリークラブ会員等となる○在官中在外研究員として欧米諸国に出張○当選(参)1回(2)

高瀬荘太郎(たかせそうたろう)　全国選出　参議院同志会

明治25年3月生、静岡県出身、大正5年東京高等商業学校(現一橋大)専攻部卒、欧米留学、商学博士○東京商大(現一橋大)教授、学長を経て同名誉教授、日本学術会議会員、日本経営学会理事長、日本学術振興会理事、産業教育振興中央会長等となり、その間参議院議員当選、第1次吉田内閣の国務(経済安定本部長官)、第3次吉田内閣の文部、通産、第4次吉田内閣の郵政各大臣、緑風会政務調査会長等歴任○学術視察及び科学技術行政視察のため欧米出張(2回)、パリの国際経営会議出席○(著)「会計学」「企業財政論」「経営分析」「グッドウィルの研究」等○当選(参)3回(135)

高田寛(たかだひろし)　全国選出　緑風会

明治32年1月生、東京都出身、大正11年東京帝国大学法学部政治学科卒、米、独各国留学○同年鉄道省に入り、その後小郡駅長、鉄道局副参事、名古屋鉄道局運輸旅客掛長、逓信局事務官、鉄道事務官、国際観光局事業課長、運輸局総務課長、東京鉄道局長、国際観光局長等歴任、参議院議院運営委員長となるほか、全日本観光連盟理事、(財)日本交通公社会長、日本バスケットボール協会長等となる○昭和25年米国議会制度視察○当選(参)1回(1)

高田なほ子(たかだなほこ)　全国選出　日本社会党

明治38年1月生、福島県出身(本籍栃木県)、大正11年福島師範卒○昭和22年東京都品川区会議員、日教組中央執行委員婦人部長、労働省婦人少年問題審議員、ユネスコ国内委員、社会党婦人対策部長、国際民主婦人連盟日本代表等歴任、参議院法務委員長、中央青少年問題審議会委員、日中友好協会、日本アジア連帯委員会各常任理事、日政連東京支部長となる○昭和28、31、32、33年、世界婦人会議第1、2回総会に日本代表団長として出席、欧州各国、中国、ソビエト視察○(著)「母の願い」「嵐にたえて」○当選(参)2回(24)

高野一夫(たかのかずお)　全国選出　自由民主党

明治33年2月生、鹿児島県出身、大正13年東京帝国大学薬学部卒○満州稲畑産業専務、海南薬品工業、高野薬品各社長、九大、徳島大各講師等を経て社会保障制度審議会委員、自民党副幹事長、同国会対策副委員長、同政調会審議委員、同総務、同政調会副会長、同行政調査会副会長、参議院決算委員長、参

議院自民党政策審議会副会長、自民党鹿児島県連会長等歴任、また日本薬剤師協会長その他各種団体役員等となる○昭和32年議員団長として東南アジア各国の政治経済事情等視察、単独にて欧州視察○当選(参)2回(35)

高橋啓(たかはしけい)　宮城県選出　国民民主党

明治28年2月生、宮城県出身、大正9年早稲田大学専門部法律科卒○宮城県木材(株)取締役、同県地方木材(株)常務理事、拓北産業(株)社長、宮城県合板(株)専務取締役、同県林業会長、日本林業会理事等歴任、また参議院通商産業委員長となる○当選(参)1回(1)

高橋進太郎(たかはししんたろう)　宮城県選出　自由民主党

明治35年12月生、宮城県出身、昭和3年東北帝国大学法文学部卒○拓務書記官、内閣参事官、外務省参事官、宮城県副知事等を経て自由党総務、裁判官弾劾裁判長、参議院法務委員長、第3次鳩山内閣の法務政務次官、参議院自由民主党国会対策委員長、参議院議院運営委員長、池田内閣の国務大臣(行政管理庁長官)、等歴任、また弁護士、全国林業改良普及協会会長、宮城県連合遺族会会長、同国民健康保険組合理事長、同引揚連盟会長、多賀城製鋼(株)取締役会長、日本真珠貝採取(株)監査役、日本近海捕鯨(株)相談役等となる○同34年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察○当選(参)2回(24)

高橋衛(たかはしまもる)　福井県選出　自由民主党

明治36年2月生、福井県出身、昭和2年東京帝国大学経済学部経済学科卒○同年台湾に渡り、終戦までその間、財務局長、台北州知事等を勤め、戦後大蔵省に入り、神戸税関長、広島財務局長、国税庁長官等歴任、第2次岸内閣の農林政務次官となり、その間、自民党政務調査会副会長、日本税理士会(連)会長、焼酎酒造組合中央会会長等となる○同12年以降ニューヨーク駐在はじめ海外渡航(3回)、また同30年東南アジア各国、同34年欧州各国の政治経済事情等視察○当選(参)2回(35)

高橋道男(たかはしみちお)　全国選出　緑風会

明治38年2月生、熊本県出身、昭和3年京都帝国大学文学部卒○同年天理外国語学校講師となり、その後天理図書館主任、天理教東京出張所長、同総務長、(財)日本宗教連盟理事、天理教教会本部役員、(宗)天理教責任役員、(学)天理大学理事兼評議員、(株)天御津組監査役、共立出版(株)監査役等となり、また参議院図書館運営委員長となる○同28年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察○当選(参)1回(2)

高橋龍太郎(たかはしりゅうたろう)　全国選出　緑風会

明治8年7月生、愛媛県出身、同31年第三高等学校工学部卒、ドイツワイエンステファン農業大学、ミュンヘン工業大学修○大日本麦酒(株)社長、日本麦酒(株)相談役、日本商工会議所、東京商工会議所各会頭、国際商業会議所国内委員長、日本食品協会、日本消防協会各会長、日本銀行参与等歴任、また貴族院議員となり、参議院議員当選後、第3次吉田内閣の通商産業大臣等となる○在任(貴)(昭21・5―22・5)当選(参)1回(1)

滝井治三郎(たきいじさぶろう)　全国選出　自由民主党

明治23年5月生、京都府出身、明治41年京都市立第一商業学校修○タキイ種苗(株)、大東紙業(株)、タキイ農薬工業(株)各社長、大日本種苗協会理事、京都府種苗配給統制組合理事長、日本種苗生産業会長、京都府種苗協会長、日本開拓協会、京都貿易協会理事、京都商工会議所議員、理事等となり、その間、京都府会議員、京都府納税促進対策本部参与、京都地方裁判所調停委員、神宮評議員等歴任、また参議院通信委員長となる○昭和28年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)1回(2)

竹腰徳蔵(たけこしとくぞう)　群馬県選出　民主党

明治24年7月生、群馬県出身、明治45年早稲田大学

政治経済学部○昭和6年群馬県農業会長となり、その後同県会議員、同県農業保険組合(連)会長等となる○当選(参)1回(1)

竹下豊次（たけした とよじ） 宮崎県選出　緑風会

明治20年2月生、宮崎県出身、大正元年東京帝国大学法科卒○福岡県警視、八幡製鉄所工場課長、農商務省工場監督官、同工場課長、長野県警察部長、台中州知事、関東庁長官、貴族院議員、第2次吉田内閣の労働政務次官、参議院議院運営、両院法規、内閣、建設各委員長、在外財産問題審議会委員、裁判官弾劾裁判所裁判員等歴任のほか(社)日本林業協会等の理事となる○国際労働会議政府代表顧問として、ジュネーブ滞在、欧米労働事情視察○在任(貴)(昭14・9―22・5)当選(参)2回(13)

竹中勝男（たけなか かつお） 京都府選出　日本社会党

明治31年7月生、京都府出身、大正10年同志社大学卒、シカゴ大学、ローチェスタ神学校、東京帝国大学修、文学博士、M・A、B・D○同志社大学教授(文学部長)、同大学評議員兼務、日本社会学会、日本社会政策学会各理事、幹事、日本社会党教宣局教育部長、労働大学学監、社会党京都府連、総評京都地評各顧問、ユネスコ国内委員、参議院文教委員長等となる○昭和28年社会主義インターナショナル大会出席(ストックホルム)、同30年在日中国人殉難者遺骨送還団長として訪中○(著)「社会保障」「社会福祉研究」等○当選(参)1回(3)○昭和34年1月26日死去

竹中七郎（たけなか しちろう） 愛知県選出　自由党

明治28年4月生、愛知県出身、大正7年愛知県立医学専門学校卒○同年県立愛知病院に勤め同10年開業、のち愛知県会議員、刈谷町長、愛知県町村長会長、民主党総務、国民民主党両院議員会長、参議院通商産業委員長等歴任のほか(株)豊田自動織機製作所顧問、豊田製鋼(株)監査役等となる○当選(参)1回(1)○昭和34年7月23日死去

竹中恒夫（たけなか つねお） 全国選出　無所属クラブ

明治35年4月生、兵庫県出身、大正13年大阪歯科医学専門学校卒、医学博士○同年神戸市に歯科医院を開設、その後、兵庫県歯科医師会長、日本歯科医師会常務理事、同副会長、中央社会保険医療協議会委員、日本歯科医師政治連盟会長、兵庫県歯科医師会顧問、大阪歯科大学監事及び講師、社会保障制度研究会長等となる○第1回アジア歯科学術会議に代表者として出席、昭和34年親善使節議員団としてチェコスロバキア訪問○当選(参)1回(4)

武内五郎（たけうち ごろう） 新潟県選出　日本社会党

明治35年3月生、青森県出身(本籍新潟県)、大正15年早稲田大学専門部商科卒○在学中早大建設者同盟設立、日本社会主義同盟の結成に参加、その後、農民運動に従事、全国農民組合常任執行委員、日本労農党中央委員、青森県浦野館代理村長、日本農民組合新潟県連常任執行委員、日本社会党新潟県連書記長(3期)、同執行委員長(3期)、同党中央委員、新潟県民主労働組合協議会、新潟県労働組合協議会各幹事、新潟飛行場拡張反対期成同盟副議長、魚沼土建労働組合執行委員長、新潟県農業会議議員、土地収用委員等となる○当選(参)1回(5)

館哲二（たち てつじ） 富山県選出　自由民主党

明治22年8月生、富山県出身、大正3年東京帝国大学法科大学政治学科卒○同年岐阜県属となり、その後、内閣書記官兼法制局参事官、鳥取、石川各県知事、内務省神社局長、東京府知事、内務次官、軍人援護会理事長、同胞援護会副会長兼理事長を経て富山県知事当選また参議院予算、地方行政各委員長、地方制度調査会、憲法調査会各委員、自民党党紀委員、同党相談役、同党富山県支部(連)会長等歴任、その間、日本遺族会、日本消防協会各副会長等となる○当選(参)2回(2補4)

棚橋小虎（たなはし ことら） 長野県選出　民主社会党

明治22年1月生、長野県出身、大正6年東京帝国大学法科卒○同年司法官試補となり弁護士となる、同7年日本労働総同盟友愛会に入り労働運動、農民運動に従事、日本労農党を創立、日本大衆党、社会大衆党等の中央執行委員、日本社会党中央執行委員、同長野県支部(連)会長となり、昭和34年民主社会党創立とともに参加、同党参議院議員会長、同国会議員団副団長となり、また参議院農林水産委員長、弾劾裁判所裁判員等となる○大正12年ソ連、欧州各国視察、昭和28年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(衆)1回(22)(参)2回(24)

谷口慶吉（たにぐち けいきち） 鹿児島県選出　自由民主党

明治34年11月生、鹿児島県出身、大正7年県立川辺中学校卒○村会議員、村農会長、煙草耕作組合長等を経て昭和7年上京運輸事業に従事、終戦後鹿児島県食糧調整委員、吉田村北農協組合長、鹿児島県経済農業協同組合連合会長、全国販売農協連理事、全国運輸農協連監事、同会長、全国養蚕農協連理事、鹿児島県農業会議議員、同県茶業振興会、鹿児島茶輸出協会各会長、県農協中央会理事、県トラック協会、鉄道貨物協会各監事等となる○当選(参)1回(5)

谷口弥三郎（たにぐち やさぶろう） 全国選出　自由民主党

明治16年8月生、香川県出身、同35年熊本医学校卒、欧州留学、ドクトル・メジチーネ、医学博士○熊本医専教授、県立熊本病院婦人科、産科部長、熊本助産婦学校長、九州医師(連)会長、日本医師会長等を経て民主党参議院議員総会長、両院議員総会長、参議院民主クラブ会長、自由党総務、自由民主党相談役、同参議院議員総会副会長等歴任、その間、参議院決算委員長となり、また久留米大学学長、実験医学研究所長、谷口産科婦人科病院長、(社)日本母性保護医協会長等となる○(著)「妊娠悪阻及びその療法」「優生保護法詳解」○当選(参)3回(124)

玉置吉之丞（たまき きちのじょう） 和歌山県選出　緑風会

明治19年8月生、和歌山県出身、米国留学○和歌山県会議員(2回)、衆議院議員、昭南工業(株)社長、和歌山県社会教育協会、海外引揚援護協会各会長、和歌山県商工会議所会頭等となる○当選(衆)2回(18・19)(参)1回(1)

玉屋喜章（たまや よしあき） 千葉県選出　自由党

明治12年2月生、千葉県出身、同33年大阪市海士学館卒○総武銀行頭取、宮城電気(株)取締役、大興紡績(株)、共同生命保険(株)各社長、(株)蓬莱閣ホテル取締役会長、成田急行電鉄(株)常任監査役、玉屋産業海運商会、松田汽船(株)等の社長、(社)全国無尽協会特別委員会委員長、千葉銀行取締役、(社)千葉商工会議所会頭、千葉県商工(連)、同県経営者協会各会長、(財)経済政策研究所理事長、民主自由党顧問等となる○当選(参)1回(1)○昭和31年10月17日死去

玉柳實（たまやなぎ みのる） 愛媛県選出　自由党

明治36年10月生、愛媛県出身、大正12年大阪高等商業学校修○岩手県、北海道の各課長、愛媛県農地部長等となる○当選(参)1回(1補)

団伊能（だん いのう） 福岡県選出　日本民主党

明治25年2月生、東京都出身、大正6年東京帝国大学文学部卒、ハーバード大学、リオン大学修○同7年以降帝室博物館嘱託、東京帝大文学部講師、助教授、貴族院議員、(財)国際文化振興会、日語文化学校各理事、日本庭園協会会長、日本美術協会、日瑞協会各副会長、日本タイヤ(株)取締役、ブリヂストン自転車(株)、富士精密(株)各社長等となる○ロンドンの支那美術展覧会、パリ万国博覧会、ニューヨーク、サンフランシスコ万国博覧会出席○在任(貴)(昭21・5―22・5)当選(参)2回(12)

ち の部

千田 正　岩手県選出　無所属クラブ
明治32年4月生、岩手県出身、大正14年早稲田大学商学部卒、米国オハイオ州ハイドルバーグ大学卒、コロンビア大学大学院及び英国ロンドン大学大学院において経済学専攻○森友貿易上海支店長、国策会社中支那振興参事等歴任、参議院在外同胞引揚問題特別委員長、全国引揚者団体顧問、岩手県引揚者更生連盟理事長、同県海外残留同胞引揚促進同盟理事長等となる○昭和26年水産事情調査のため渡米、同年日、米、加三国漁業条約会議オブザーバーとして参加、同28年東南アジア各国の政治経済事情等視察、同33年親善使節議員団として訪豪○当選(参)3回(1・2・4)

千葉千代世　全国選出　日本社会党
明治40年4月生、千葉県出身(本籍秋田県)、昭和4年東京文化女学校専門部卒○同年東京都港区立赤羽小学校教員、その後、日本教職員組合婦人部長(7期)、総評婦人協議会長、労働省婦人少年問題審議委員等となる○第1回世界婦人大会、世界教員会議に日本代表として出席、欧州各国視察○当選(参)1回(5)

千葉 信　北海道選出　日本社会党
明治37年9月生、北海道出身、大正8年札幌通信養成所普通科卒○同年札幌電信局事務員となり同局主事を経て、その後全逓道地方委員長、北海道地方労組協議会議長、全逓全電通顧問となり、また参議院人事、決算、社会労働各委員長、左派社会党議員会長等歴任ののち社会党議員会長となる○昭和29年東南アジア各国の政治経済事情等視察、同33年党親善使節団として中共訪問○当選(参)3回(1・3・5)

中馬猪之吉　鹿児島県選出　緑風会
明治18年1月生、神戸高等商業学校修○鹿児島県会議員(5期)、同県農業、水産業各会長、同県煙草耕作組合(連)会長、同県会議長等となる○当選(参)1回(1)

つ の部

津島壽一　香川県選出　自由民主党
明治21年1月生、香川県出身、同45年東京帝国大学法学部卒○大蔵省に入り英米仏駐在財務官、理財局長、大蔵次官、日銀副総裁、北支開発総裁、小磯、東久邇両内閣の大蔵大臣、貴族院議員、外務省顧問、インドネシア、比律賓両共和国との賠償交渉全権、大蔵省顧問、戦前外債処理会議に政府代表大使等歴任、参議院議員当選、自由党外交調査会、参議院自由民主党政策審議会各会長、第1次岸内閣の国務大臣(防衛庁長官)、自民党電信電話拡充特別委員会、日本体育協会、オリンピック東京大会組織委員会、日本庭球協会各会長、(財)日本棋院総裁等となる○在任(貴)(昭20・10―21・2)当選(参)2回(3・5)

塚本重藏　全国選出　日本社会党
明治22年2月生、兵庫県出身、大正3年大阪府立西野田職工学校機械製図科、発動機科修○大阪鉄工所、舞鶴海軍工廠、汽車会社の旋盤工、川西航空機(株)嘱託、大阪青果魚介荷受翼旋組合長、大阪農産物荷受組合理事長、日本労働総同盟中央委員、同大阪(連)会長、内閣家計調査員、大阪府会議員、大阪府職業紹介委員等各種の委員、保険院専門委員、衆議院議員、参議院厚生委員長等となるほか大阪農産物(株)取締役会長となる○当選(衆)2回(19・20)(参)1回(1)

辻 武壽　全国選出　無所属クラブ
大正7年4月生、埼玉県出身、昭和13年東京府豊島師範卒○同年東京都大田区立南蒲小学校に勤務、その後、糀谷、矢口各小学校教諭を経て同31年退職、また(宗)創価学会青年部長、同会理事等となる○当選(参)1回(4)

辻 政信　全国選出　無所属クラブ
明治35年10月生、石川県出身、昭和6年陸軍大学校卒○大本営参謀、関東軍、支那派遣軍、第25軍(山下軍)、ビルマ、タイ派遣各軍参謀歴任、終戦後潜行三千里、同27年以降衆議院議員に当選、自由民主党所属、同34年自民党を除名、同年衆議院議員辞職○この間、中・ソ両国及び中近東、アジア諸国視察○(著)「潜行三千里」「十五対一」「ノモンハン」「シンガポール」「亜細亜の共感」「自衛中立」「ガダルカナル」「中ソ一人歩き」「世界の火薬庫」「動乱の眼」「これでよいのか」「ズバリ直言」○当選(衆)4回(25・26・27・28)(参)1回(5)

土田國太郎　全国選出　自由民主党
明治22年6月生、群馬県出身、前橋中学利根分校修○酒造業に従事、沼田町会議員、利根酒造組合長、群馬県酒造組合(連)会長、商業組合中央会群馬県副支部長、群馬県酒類販売(株)社長、大日本酒類販売(株)常務取締役、沼田商工会議所会頭、日本酒造協会会長、(財)醸酵協会等の理事、日本酒造組合中央会長、(社)日本中小企業団体連盟常任理事、日邦原材(株)社長、美峰酒類(株)取締役会長等となる○昭和35年東南アジア各国の政治経済事情等視察○(著)「中心を目ざして」「心のあしあと」「米ソを超えて」等○当選(参)2回(2・4)

土屋俊三　千葉県選出　自由党
明治16年4月生、千葉県出身、同39年千葉師範学校卒○同年松尾小学校教諭となり同45年退職後米穀肥料商経営、その間、松尾町長、千葉県会議員、米穀肥料同業組合長、千葉県食糧営団常任理事、同理事長、食糧配給公団千葉支局長、房総食糧輸送(株)重役等となる○当選(参)1回(2)○昭和25年11月6日死去

常岡一郎　全国選出　参議院同志会
明治32年1月生、福岡県出身、慶応大学理財科修○卒業を前にして病のため学を捨て、闘病と求道の生活に入り昭和10年修養団体中心社を創設、月刊誌「中心」を発刊、主幹となり、かたわら(社福)中心会会長として神奈川県海老名町に児童養護施設中心学園を経営、議員当選後、参議院在外同胞引揚問題特別委員長、緑風会総務委員を経て参議院同志会総務部長となる○昭和35年東南アジア各国の政治経済事情等視察○(著)「中心を目ざして」「心のあしあと」「米ソを超えて」等○当選(参)2回(2・4)

椿 繁夫　大阪府選出　日本社会党
明治43年5月生、鳥取県出身、昭和3年東京労働学校修○労働組合常任委員、大阪市会議員(昭和12―22年)、大阪地方労働委員、全国金属労働組合中央執行委員長、日本社会党大阪府(連)顧問、同大阪港支部長、同参議院議員総会副会長、参議院労働委員長等となる○同27年ILO総会労働者代表顧問として渡欧、同33年ソビエト同盟の労働事情視察○当選(参)2回(1補・4)

鶴園哲夫　全国選出　日本社会党
大正4年5月生、鹿児島県出身、昭和15年東京帝国大学農学部農業経済学科卒○同年農林省農政局農政課に入り、その後外務省に出向、外務主事兼農林技手として南京日本大使館に在勤、同大使館調査官、戦後農林省開拓局、農地局総務課勤務、同34年退職、

昭和64年1月2日死去

その間、全農林省労働組合中央副執行委員長（8選）、同中央執行委員長（3選）、日本官公庁労働組合協議会副議長（1期）、国家公務員組合共闘会議議長（2期）等となる ○同32年中国の農業労働事情視察○当選（参）1回（5）

鶴見祐輔（つるみゆうすけ） 全国選出 自由民主党

明治18年1月生、東京都出身、同43年東京帝国大学法学部政治科卒、メルボルン大学法学博士、インデリー大学文学博士○鉄道省文書課長等歴任ののち、衆議院議員当選、米内内閣の内務政務次官となり、また参議院議員当選後、第1次鳩山内閣の厚生大臣等となる○海外出張約40回、万国鉄道会議、太平洋会議、世界新教育会議等出席、大正13年以来欧米、豪州、インドの大学で講演約千回○（著）邦文約100巻、英文7巻○当選（衆）4回（16 19 20 21）（参）1回（3）

て の部

手島栄（てしまさかえ） 全国選出 自由民主党

明治29年12月生、鳥取県出身、大正11年東京帝国大学法学部法律科卒○同年逓信省に入り、その後福井郵便局長、仙台逓信局、簡易保険局、名古屋逓信局、大阪逓信局、東京逓信局の各課長、逓信省郵務局規画課長、経理局主計課長、大臣官房秘書課長、同監察課長、経理局長、管理局長、航空局長官、逓信次官等歴任、郵政審議会委員、参議院逓信委員長となり、また国際電信電話（株）社長、日本郵便逓送（株）、全国特定郵便局長会各顧問、全日本空輸（株）役員等となる○当選（参）1回（4）

出淵勝次（いずぶちかつじ） 岩手県選出 緑風会

明治17年7月生、東京都出身、同35年東京高等商業学校専攻部卒○同年外務省に入り、その後アジア局長、外務次官、アメリカ駐在特命全権大使、貴族院議員等となる○在任（貴）（昭11・4―22・5）（参）1回（1）○昭和22年8月19日死去

寺尾博（てらおひろし） 全国選出 緑風会

明治16年9月生、静岡県出身、同42年東京帝国大学農科大学卒、英米各国留学、農学博士○同年農事試験場技手となり、その後同技師、農商務技師、東北帝大講師、興亜院嘱託、農学研究所長、農事試験場長、貴族院議員等となる○中華民国、ジャワへ出張○在任（貴）（昭21・8―22・5）当選（参）1回（1）

寺尾豊（てらおゆたか） 高知県選出 自由民主党

明治31年1月生、高知県出身、立正大学高師部卒○高知県造船（株）社長、在東京土佐協会顧問等を経て衆議院議員当選、次いで参議院議員当選、党総務、国会対策委員長、相談役等となり、また第2次吉田内閣の地方財政政務次官、参議院電気通信、議院運営各委員長、参議院副議長、第2次岸内閣の郵政大臣等歴任、その間鉄道建設審議会委員、皇室会議、皇室経済会議各議員等となる○昭和26年北米の電気通信事業視察、同29年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察、同34年ジュネーブの国際電気通信連合会議出席○当選（衆）1回（22）（参）4回（1 1補3 5）

寺本廣作（てらもとこうさく） 熊本県選出 自由民主党

明治40年8月生、熊本県出身、昭和7年東京帝国大学法学部卒○茨城県、青森県各課長、内務大臣秘書官、山梨県部長、厚生省、労働省各課長、労働省労働基準局長、労働事務次官、第2次鳩山内閣の文部政務次官、参議院外務委員長等歴任のほか、保健体育、職業教育、経済復興計画等各種審議会の委員となる○米国及びスイスにおける国際労働会議出席、同32年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察○当選（参）1回（3）

天坊裕彦（てんぼうひろひこ） 全国選出 無所属クラブ

明治40年1月生、大阪府出身、昭和4年東京帝国大学法学部政治学科卒○同年鉄道省に入り本省課長、北海海運局長、運輸大臣官房長、大阪鉄道局長、日本国有鉄道理事、同副総裁等歴任、また憲法調査会委員、日本自動車会議所会長、日本トラック協会会長となる○ニューヨーク駐在1年のほかパリ国際鉄道連絡会議、ウィーン国際道路運送会議にそれぞれ出席、昭和35年欧米各国における議院運営の実情等視察○当選（参）1回（4）

と の部

戸叶武（とかのたけし） 栃木県選出 日本社会党

明治36年2月生、栃木県出身、早稲田大学政治経済科卒、ロンドン大学留学○大正11年早大在学中全国学生連合会を組織、同12年軍研事件指導、その後東京朝日新聞記者、大陸新報政治部長兼論説委員、宇都宮大学、東海大学各講師として政治学、経済学を講じ、日本社会党中央執行委員、県連会長、社会党参議院議員総会及び政策審議会副会長、参議院農林水産、運輸各委員長を経て日本社会党中央執行委員（政審担当）、社会党及び日中友好協会栃木県連会長、鉄道審議会委員等となる○西欧諸国、米国、東南アジア、ソ連、中国等視察○当選（参）2回（3 5）

堂森芳夫（どうもりよしお） 福井県選出 日本社会党

明治36年8月生、福井県出身、昭和4年金沢医科大学卒、医学博士○公立敦賀病院内科医長、開業医、衆議院議員、日本社会党県（連）会長、参議院厚生委員長等となる、昭和30年以降衆議院議員当選○当選（衆）3回（22 27 28）（参）1回（2）

遠山丙市（とおやまへいいち） 東京都選出 自由党

明治29年7月生、岐阜県出身、昭和4年中央大学法学部独法科卒○同6年弁護士となり、東京弁護士会常議員、東京市会議員、同市参事会員、東京府会議員、同府参事会員、東京都議会議員、万国博覧会評議員、国際オリンピック東京委員、第3次吉田内閣の法務政務次官等歴任のほか、（財）国際中学校、国際高等学校、国際外国語学校各校長、（社）日本昆布協会長、東京昆布海藻商業協同組合理事長等となる○当選（参）1回（1）

徳川宗敬（とくがわむねたか） 全国選出 緑風会

明治30年5月生、東京都出身、大正12年東京帝国大学農学部林学科卒、農学博士○同年帝室林野管理局技手となり、その後東京帝大農学部講師、日本木材（株）設立委員、文部省委員、司法参与官、華族世襲財産審議会会員、農林省林業委員、貴族院議員、同副議長、参議院図書館運営委員長等歴任、また（社）博物館協会、（財）国土計画協会各会長、日本山林会副会長等となる○在任（貴）（昭14・7―22・5）（参）1回（1）

徳川頼貞（とくがわよりさだ） 和歌山県選出 自由党

明治25年8月生、東京都出身、大正2年学習院高等科卒、英国ケンブリッジ大学修○貴族院議員、ユネスコ国会議員連盟会長、ユネスコ国内委員会委員、日本フイリピン協会、日本ペルギー協会、日本ギリ

シヤ協会、日本シヤム協会各会長、近畿日本鉄道(株)、松下電器産業(株)各相談役、自由党政調会外交部長、参議院外務委員長等となる○昭和4年万国議院商事会議、同5年列国議会同盟会議、万国音楽連盟、ユネスコ国際会議等出席○在任(貴)(大14・7―昭22・5)当選(参)2回(13)○昭和29年4月17日死去

徳永正利(とくながまさとし)　全国選出　自由民主党

大正2年8月生、山口県出身、昭和4年海軍通信学校卒○海軍中尉、民主新報社記者を経て日本遺族厚生連盟を設立、同事務局長、(財)日本遺族会事務局長、九段会館事務長等となる○当選(参)1回(5)

殿岡利助(とのおかりすけ)　栃木県選出　民主党

明治16年10月生、栃木県出身○織物製造業に従事、のち足利市会議員、同市会議長、栃木県繊維工業振興会理事長等となる○当選(参)1回(1)○昭和27年12月26日死去

苫米地義三(とまべちぎぞう)　全国選出　自由民主党

明治13年12月生、東京都出身、同36年東京高等工業学校応用化学科卒○日本硫安(株)専務取締役、東北興業(株)副総裁、(株)八戸銀行頭取、日産化学工業(株)、南部縦貫鉄道(株)各社長、日本油脂(株)取締役会長、全国肥料商業組合等の理事長、経済団体連合会理事となり、また衆議院議員当選、片山内閣の運輸大臣、芦田内閣の国務大臣、内閣官房長官、民主党最高委員長、講和会議全権委員、改進党顧問会長、参議院予算委員長等となる○当選(衆)3回(22・24)(参)1回(3)○昭和34年6月29日死去

苫米地英俊(とまべちひでとし)　北海道選出　自由民主党

明治17年12月生、北海道出身、同40年東京外語英語本科卒○東京外語講師、小樽高商講師、教授、校長歴任、自民党外交部長、裁判官弾劾裁判所裁判員、講道館理事、全日本柔道連盟評議員、北海道自動車短大学長、全日本各種学校(連)会長、小樽商工会議所顧問、自民党北海道(連)顧問、参議院懲罰委員長等となる○南ベトナム賠償条約調印全権顧問として出張、リベリア大統領就任式に特派大使として参列○(著)「商業英語通信軌範」「国際貿易話法」等○当選(衆)4回(22・23・24・26)(参)1回(4)

鳥畠徳次郎(とりばたけとくじろう)　石川県選出　自由民主党

明治26年1月生、石川県出身○金沢市議会議長、東海道路運送審議会副委員長、石川県議会議長、(財)白山観光協会、石川県身体障害者福祉協会(連)各会長、学校法人金城高等学校理事、金沢商工会議所常議員、石川県身体障害者雇傭促進協議会、玉川交通安全協会各会長、石川交通(株)、石川日産自動車販売(株)、朝日物産(株)、大阪光タクシー(株)、大阪尼ケ崎自動車工業(株)、石川定期運輸(株)各社長、大阪中央自動車工業(株)会長、大阪宝タクシー(株)、北国証券金融(株)、北陸放送(株)各取締役等となる○当選(参)1回(5)

豊瀬禎一(とよせていいち)　全国選出　日本社会党

大正6年4月生、福岡県出身、昭和12年福岡師範学校卒○同20年まで福岡市内の学校に勤務、終戦と同事に教職員組合の結成を提唱、福岡県教職員組合初代委員長(7期)に就任、その間福岡県教育会長、日本教育会副会長、九州地区協議会委員長等歴任、その後福岡市教育研究所員となり福岡市教育八十年史を編さん、九大教育学部研修生(教育学専攻)を経て福岡県総評事務局長(3期)、県総評副議長、社会主義協会九州支局幹事等となる○当選(参)1回(5)

豊田雅孝(とよだまさたか)　全国選出　緑風会

明治31年9月生、愛媛県出身、大正14年東京帝国大学法学部卒○商工次官、商工組合中央金庫理事長、商工協同組合中央会長、通商産業省顧問、全国中小企業等協同組合中央会会長、(社)日本中小企業団体連盟会長、(株)中小企業会館社長、中小企業国際貿易協議会会長、東京商工会議所顧問等となり、また

緑風会議員総会副議長、同政務調査会副会長、参議院大蔵委員長等歴任○ロンドンの万国工業所有権保護同盟条約会議出席、欧米各国の中小企業対策調査のため出張○(著)「日本経済の活路」「中小商工業の苦境打開策」等○当選(参)1回(3)

な　の　部

中井光次(なかいみつじ)　大阪府選出　国民民主党

明治25年10月生、静岡県出身、大正6年東京帝国大学英法科卒○同年内務省に入り、その後鳥取、千葉、新潟、三重、京都、大阪各府県の部長、島根県知事、大阪市助役、同市長、参議院人事委員長等歴任、また福泉醸造工業(株)取締役会長、日本生命相互保険会社監査役等となる○当選(参)1回(1)

中尾辰義(なかおたつよし)　全国選出　無所属クラブ

大正5年4月生、鹿児島県出身、昭和15年大阪歯科医学専門学校卒○大阪市で歯科医師会幹事、創価学会船場支部長等となり、また地方制度調査会委員等となる○当選(参)1回(5)

中川幸平(なかがわこうへい)　石川県選出　自由民主党

明治23年8月生、石川県出身、同43年石川県立工業学校卒○同年織物業を創業、その後京都府織物試験場技手、小松織物工業組合、石川県織物統制組合各理事長、石川県会議員、小松税務署所得税調査委員、参議院建設、懲罰各委員長、第4次吉田内閣の行政管理政務次官等歴任、また北日本観光自動車(株)代表取締役会長となる○昭和28年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)2回(12)

中川以良(なかがわもちよし)　山口県選出　自由民主党

明治33年1月生、東京都出身、大正13年東京農業大学卒、ベルリン農科大学修○朝鮮皮革(株)社長、皮革統制会理事長、皮革協会、皮革産業中央会各会長、第2次吉田内閣の経済安定政務次官、自由党政務調査会顧問、常任総務、参議院自由党幹事長、参議院大蔵、通商産業各委員長となるほか、大日本農会理事、日本中小企業連盟常任理事、皮革産業協同組合理事長、東京農大理事、新和産業等の社長等となる○昭和26年講和会議調印状況視察、同30年親善使節議員団として英国訪問○当選(参)2回(12)

中田吉雄(なかたよしお)　鳥取県選出　日本社会党

明治39年10月生、鳥取県出身、昭和8年京都帝国大学農学部農業経済学科卒○京大農経研究室、東亜研究所、鳥取県農業会理事、同県会議長、同県購買農業協同組合(連)会長、全国購買農業協同組合(連)理事、鳥取県八頭郡養蚕協同組合会長、同県養蚕協同組合(連)理事、日本農民組合鳥取県(連)顧問、日本社会党政策審議会副会長、同党鳥取県(連)会長等となり、その間地方制度調査会委員、海岸砂地地帯農業振興審議会委員、参議院地方行政委員長等歴任○

昭和29年中国視察、同33年欧米各国の議院運営の実情等視察○(著)「日本農業の将来」「わが国会活動の記録」等○当選(参)3回(23補5)

中西功　全国選出　各派に属しない議員

明治43年9月生、東京都出身、昭和7年東亜同文書院修○昭和8年大原社会問題研究所員となり、その後南満州鉄道(株)職員、民報社論説委員、中国研究所理事等となる○当選(参)1回(1)

中野重治　全国選出　日本共産党

明治35年1月生、福井県出身、昭和2年東京帝国大学文学部卒○同年日本プロレタリヤ芸術連盟中央委員となり、その後全日本無産者芸術団体協議会中央委員、日本プロレタリヤ文化連盟中央委員、東京市社会局調査課臨時雇等となる○当選(参)1回(1)

中野文門　兵庫県選出　自由民主党

明治34年3月生、兵庫県出身、昭和2年日本大学社会科卒○東京市社会局、東京少年審判所に勤務の後、全日本私設社会事業連盟常務理事、神戸市会議員(勤続18年)、兵庫県会議員(勤続17年)、神戸市会議長、兵庫県会議長等を経て、昭和31年参議院議員当選、以来自由民主党国会対策副委員長、参議院内閣委員長等歴任、また兵庫県仏教会長、兵庫県宗教連盟理事長、全日本仏教会参与、臨済宗教学部長兼海外布教総監、臨済宗南禅寺派宗議会議長及び審査局長、神戸市兵庫区西柳原町福海寺住職等となる○昭和35年欧南米諸国における議院運営の実情及び政治経済事情等視察○当選(参)1回(4)

中平常太郎　愛媛県選出　日本社会党

明治12年3月生、愛媛県出身○宇和島町会議員、愛媛県方面委員、宇和島市会副議長、愛媛県労働委員会会長、愛媛県民主委員、全日本民主委員連盟理事、日本社会事業協会理事等となる○当選(参)1回(1)

中村順造　全国選出　日本社会党

明治43年9月生、山口県出身○小学校卒業後国鉄機関士、運輸省教官等を経て国鉄機関士、華中鉄道機関士、運輸省教官等を経て国鉄機労中央執行副委員長、同委員長、機労政治連盟議長等となる○昭和31年生産性事情視察のため渡米○当選(参)1回(4補)

中村正雄　全国選出　民主社会党

大正3年2月生、岡山県出身、昭和11年関西大学専門部法律科卒○同13年鉄道省に入り、その後鉄道書記、国鉄労働組合大阪管理部(連)執行委員長、同組合総(連)中央委員、同組合本部顧問、大阪地方労働委員会委員、参議院労働委員長等となる○当選2回(14)

中山壽彦　全国選出　自由民主党

明治13年12月生、東京都出身、同40年東京帝国大学医学部卒○豊多摩病院長、東京府医師会附属下谷病院長、東京都医師会長、日本医師会長、東京市理事、東京市医務嘱託、警視庁防疫医務嘱託、日本医療団理事、同東京事務局長、公衆衛生院顧問、愛育会理事、貴族院議員等歴任、参議院議員当選、社会保障制度審議会副会長、鉄道建設審議会委員、第3次吉田内閣の国務大臣、参議院運輸委員長等となる○在任(貴)(昭21・7―22・5)当選(参)3回(1補3)○昭和32年11月26日死去

中山福藏　大阪府選出　自由民主党

明治20年6月生、大阪府出身、大正7年東京帝国大学法科卒○弁護士、衆議院議員、民政党総務、自由党大阪支部長、参議院法務、建設各委員長、裁判官弾劾裁判所裁判長等歴任のほか、石原産業(株)相談役、全日本薬業(連)会頭、(財)日本警察犬協会副会長、(社)防虫科学研究所、(社)日タイ協会、日本国連協力会各理事等となる○大正3年、同7年東南アジア各国視察、昭和15年満州朝鮮視察、同27年東南アジア諸国視察、同30年国民政府より招かれる○当選

(衆)3回(18 19 20)(参)2回(1補3)

仲子隆　全国選出　国民民主党

明治25年11月生、山口県出身○同42年山口県訓導となり、その後愛知県女子師範、同県第二高女の教諭、同附属小学校主事、地方視学官、山口県立徳山中学校長、衆議院議員等となる○学術研究のため欧米視察○当選(衆)1回(22)(参)1回(1)○昭和33年1月5日死去

仲原善一　鳥取県選出　自由民主党

明治38年11月生、鳥取県出身、昭和7年京都帝国大学農学部農林経済学科卒○農林省小作官、農林技師、海軍技師、鳥取県農地、農林、経済各部長等歴任、大東亜戦争当初第三艦隊司令部付、南西方面海軍民政府局員として海軍占領地の民政に当たる、自由民主党政調会水産部、同農林部各副部長、同党農林漁業基本政策調査会副会長、参議院自由民主党国会対策副委員長、同党副幹事長、同党鳥取県支部(連)幹事長、同顧問、積寒地帯振興対策審議会、畑地農業改良促進対策審議会各委員、鳥取県農協中央会会長、全国厚生農協連顧問、池田内閣の北海道開発政務次官等となる○当選(参)1回(4)

永井純一郎　和歌山県選出　日本社会党

明治40年12月生、宮崎県出身、昭和6年中央大学法科卒○同年農林省に入り、その後和歌山県総務、食糧、農林各部長、日本農民組合和歌山県(連)顧問、日本社会党政策審議会副会長等となる○昭和29年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察○当選(参)1回(2)

永岡光治　全国選出　日本社会党

大正2年6月生、大分県出身、昭和11年逓信官吏練習所第一部行政科卒○逓信属、同事務官、全逓信従業員組合結成と同時に本省支部長、中央本部書記長(3期)、全逓中央執行委員長(5期)、全逓信労働組合政治連盟会長、日本社会党国会対策副委員長、同党大分県支部(連)会長、裁判官訴追委員、臨時恩給等調査会委員、参議院内閣委員長等となる○同26年欧州労働政治情勢視察、国際郵便電信電話労組連合大会出席、同34年国際自由労連大会出席、アジア、アラブ諸国視察○(著)「ヨーロッパの労働事情」「会議のあり方」○当選(参)2回(35)

永末英一　京都府選出　民主社会党

大正7年1月生、福岡県出身、昭和16年東京帝国大学法学部卒、ハーバード大学留学○満鉄入社、海軍主計科士官として南太平洋海域の戦闘に参加、戦後、新聞出版用紙割当委員、同志社大学講師、京都市会議員(2期)、同府会議員(1期)、永末世論研究所長、永末書店経営、日本社会党中央委員、京都府連書記長、民主社会党京都府連会長、イギリス・フェビアン協会員、日本世論調査協会理事、日本政治学会員、日本新聞学会員等となる○国際青年社会主義同盟IUSY執行委員として世界各国歴訪(2回)○当選(参)1回(5)

永野護　広島県選出　自由民主党

明治23年9月生、広島県出身、大正4年東京帝国大学独法科卒○(株)横浜取引所理事、(株)東京米穀取引所常務理事、山叶証券(株)専務取締役、帝国人造絹糸(株)取締役等となり、その後銀行、鉄道、ガス、鉱業、貿易、船舶、海運、証券等各会社の事業に関係、衆議院議員当選、日比賠償全権委員、第2次岸内閣の運輸大臣等歴任、また弁護士、(株)関東レース倶楽部取締役、東洋パルプ(株)相談役、(株)ラジオ中国相談役、(社)アジア協会常務理事等となる○(著)「灰色の壁」「敗戦真相記」○当選(衆)2回(21 25)(参)1回(4)

長島銀藏　全国選出　自由民主党

明治34年11月生、静岡県出身○大正7年長島化学製品所に勤務、のち同所主となり、その後清水商工会議所議員(3期)、維新工業(株)、(株)清水栄寿座、

清水塗装(株)、長島商事(株)、横浜瓦斯化学工業(株)各社長、日本海獣化学工業(有)代表取締役、長島石油(株)取締役会長、貴族院議員、静岡県遺族会長、日本遺族厚生連盟会長、長島化学工業(株)取締役会長、(財)日本遺族会理事等となる○在任(貴)(昭21・5―22・5)当選(参)1回(2)

鍋島直紹(なべしまなおつぐ)　佐賀県選出　自由民主党

明治45年5月生、佐賀県出身、昭和11年九州帝国大学農学部卒○同年農林技手、同18年農林技師となり、同19年退官、その後佐賀県教育委員、同森林組合(連)会長、佐賀県知事(同26年から同34年まで2期)等歴任、また東京電気機械KK社長となる○知事在職中第12回国連総会出席及び南米移民の状況視察のため米国、中南米に出張、同34年欧州各国ソ連等視察○(著)「とのさま」「肥前陶磁史」「鍋島藩窯の研究」「古伊万里」「ソ連ヨーロッパの旅」等○当選(参)1回(5)

成田一郎(なりたいちろう)　兵庫県選出　自由民主党

明治27年11月生、宮城県出身、大正9年京都帝国大学法学部卒○同年内務省に入り、その後人事課長、社会局労働部長、厚生省労働局長、石川県知事、内務省土木、同国土、同地方各局長、兵庫県知事、台湾総督府総務長官等歴任、また東和海運(株)社長、神戸港港湾審議会委員、兵庫県弓道連盟会長等となる○在官中国際労働会議のため欧米に出張○当選(参)1回(4)○昭和34年7月4日死去

成瀬幡治(なるせばんじ)　愛知県選出　日本社会党

明治43年12月生、愛知県出身、昭和12年愛知第一師範学校専攻科卒○名古屋市内各小中学校に奉職後円上中学校教頭を経て愛知県教員組合委員長(4期)となり、この間学生生活協同組合理事長、共闘会議議長等歴任、議員当選後参議院法務委員長、国土総合開発審議会委員、基地対策事務局長、社会党文教政策委員長、同党政策審議会副会長等となる○この間アジア社会党会議に出席、インド、ビルマ、タイ等視察、同34年親善使節議員団としてチェコスロバキア訪問○当選(参)2回(2・4)

に　の部

仁田竹一(にだたけいち)　広島県選出　自由民主党

明治27年2月生、広島県出身、同45年呉中学校卒○呉商工会議所副会頭、広島県会議員、同副議長、広島県大柿町長、広島県教育委員長、広島関税協会副会長、全日本観光連盟中国支部長、中国ヨット連盟、中国操縦協会、広島県観光連盟各会長、瀬戸内海汽船(株)、広島緑地建設(株)各社長、広島湾海運(株)会長、日本経営者団体連盟常任理事、日本定期船協会長、因島運輸(株)等の社長、ラジオ中国(株)取締役等となる○当選(参)1回(2)

丹羽五郎(にわごろう)　全国選出　各派に属しない議員

明治23年7月生、三重県出身、岩手水産学校漁撈科修○大阪海事(株)取締役、泰和洋行船舶部長、東明銀行取締役、日本索道(株)常務取締役、丹羽船舶部社長、大阪機帆船海運組合理事、日本海獣(株)、大阪機帆船運送、日本近海汽船(株)各取締役、日本海運協会小型船委員会委員、(株)丸三商店取締役、尼崎船渠(株)、中央産業(株)、(株)海上交通社(大阪)各社長、近畿造船(連)副会長等となる○当選(参)1回(1)

西岡ハル(にしおかはる)　全国選出　自由民主党

明治38年12月生、長崎県出身、大正12年長崎市玉木高等女学校卒○夕刊ナガサキ新聞社代表取締役、(株)長崎民友新聞社、九州商事(株)各社長、(株)ラジオ長崎取締役、自由民主党幹事、参議院会計監督等となる○昭和32年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)1回(3)

西川甚五郎(にしかわじんごろう)　滋賀県選出　自由民主党

明治35年10月生、滋賀県出身、大正13年早稲田大学専門部商科卒、アメリカ・コーネル大学及びニューヨーク大学修○議員当選後、第3次吉田内閣の大蔵政務次官、参議院決算委員長、自民党総務、自由党政務調査会副会長、自由党滋賀県連合支部長、池田内閣の国務大臣(北海道開発庁長官)等となり、また中華リネル(株)取締役、日本蚊張工業組合(連)理事長、同組合理事長、日本蚊張統制組合理事長、満州西川織工(株)社長、日本漁業(株)取締役、西川産業(株)、近江蚊張製造(株)、(株)滋賀ビルディング各社長、(株)滋賀銀行取締役、日本輸入落綿協会理事長等となる○当選(参)3回(1補2・4)

西川昌夫(にしかわまさお)　東京都選出　民主自由党

明治39年2月生、東京都出身、昭和4年東京商科大学卒○西川製糸常務取締役、西川工業(株)、東京紡績(株)、高木製糸(株)、花輪製糸(株)各専務取締役、昭和町会議員、東京府製糸業組合副組合長、全国製糸業組合(連)評議員、東京府製糸業組合副組合長、全国(株)代表取締役、東亜産業(株)専務取締役、(株)多摩川製作所社長、東京復興産業(株)代表取締役、南州肥料(株)監査役、東京商工会議所議員、三多摩工業(連)会長、立川専門学校理事、日本獣医畜産専門学校理事等となる○当選(参)1回(1)

西田信一(にしだしんいち)　北海道選出　自由民主党

明治35年10月生、北海道出身、大正13年札幌工業大学卒○苫小牧工業学校教諭、苫小牧町土木課長、電気課長、助役、町長等歴任、北海道議会議員当選(2期)、昭和31年参議院議員当選、この間自由党道連幹事長、副会長、道氷上競技連盟会長、道体育協会副会長、道国民健康保険団体(連)理事長、同中央会各会社社長取締役等となる○同11年、同25年、同27年欧州各国出張、同34年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)1回(4)

西田隆男(にしだたかお)　福岡県選出　自由民主党

明治34年10月生、福岡県出身、大正13年早稲田大学法学部卒○秋山鉱業所坑長兼経理部長、西田鉱業第二筑前炭坑経営、互助会石炭(株)監査役、北九州石炭統制(株)監査役、北九州石炭統制組合監事、同評議員、日本石炭鉱業会理事、九州石炭鉱業会理事、日本産業協議会評議員、炭鉱文化協会理事、日本石炭鉱業連盟理事、石炭復興会議全国委員会監事、衆議院議員等歴任、参議院議員当選、最高裁判所裁判官国民審査管理委員、第1次鳩山内閣の国務大臣(自治庁長官兼行政管理庁長官)、第2次鳩山内閣の労働大臣、自由民主党相談役となる○当選(衆)1回(23)(参)2回(2・4)

西田天香(にしだてんこう)　全国選出　緑風会

明治5年2月生、京都府出身○同25年より北海道開墾事業に従事し、その後、一燈園生活を創始、昭和4年(財)懺悔奉仕光泉林を設立、理事長に就任、また参議院図書館運営委員長となる○当選(参)1回(1)

西山亀七(にしやまかめしち)　高知県選出　自由党

明治15年5月生、高知県出身、同31年高知市実業学校卒○大正8年西山(名)代表社員となり、その後高知県物産貿易(株)、土佐食糧工業(株)、高知トヨダ自動車(株)、四国証券(株)各社長、宇治電化学工業(株)取締役、高知県食糧営団、同県精麦工業協同組合各理事長、高知商工会議所副会頭、高知県倉庫運送(株)社長、(資)四国水飴工業所、西山製材所各出資社員、高知県商工会議所顧問、自由党高知県支部

顧問等となる○当選(参)1回(1)

の の部

野上元（のがみげん） 全国選出 日本社会党

大正4年1月生、大分県出身、大連逓信講習所卒○関東逓信局、満州国郵政総局に入り、終戦の翌年日本内地に引き揚げ千葉郵便局に勤務、全逓千葉県委員長、全逓中央本部副委員長、同執行委員長等となる○国際郵便電信電話労組総会に日本代表として出席、欧州各国の労働事情視察○当選(参)1回(5)

野上進（のがみすすむ） 熊本県選出 自由民主党

明治34年1月生、熊本県出身、大正12年明治大学専門部政経科卒○関東庁警察部を経て熊本県刑事課長、警防課長歴任、熊本市交通局長、熊本電気軌道(株)社長、九州産業交通(株)社長6回重任ののち会長、熊本観光(株)社長、ラジオ熊本取締役、熊本振興(株)取締役、熊本交通安全協会、同県バス協会、同トラック協会各会長、日本乗合自動車協会理事、日本トラック協会常任理事、観光事業審議会委員、熊本県会議員(4期)、自由民主党熊本県支部(連)会長等となる○当選(参)1回(5補)

野坂参三（のざかさんぞう） 東京都選出 日本共産党

明治25年3月生、兵庫県出身、大正6年慶応義塾大学理財科卒○同2年友愛会に入り、以来労働運動、社会運動に専念、また労働運動視察のためイギリスに渡りイギリス共産党に入党、同11年日本共産党創立に参加、昭和6年同党中央委員、同年モスクワに渡りコミンテルン執行委員会幹部会員となり、同15年から中国にて活動、終戦後帰国、衆議院議員当選、同25年マッカーサーにより追放され、同30年党中央委員会第一書記、同33年中央委員会議長等となる○当選(衆)3回(22 23 24)(参)1回(4)

野田卯一（のだういち） 全国選出 自由党

明治36年9月生、岐阜県出身、昭和2年東京帝国大学法学部英法科卒○同年大蔵省に入り、その後財務官付(米、英、仏駐在)、浜松、松戸各税務署長、銀行検査官、大蔵省為替局、総務局、興亜院経済部の各課長、大蔵省調査官、門司海運局次長、大蔵省金融局次長兼日本銀行監理官、同省外資局長、主計局長、専売局長官、大蔵次官、日本専売公社副総裁等歴任、議員当選後、第3次吉田内閣の建設大臣、北海道開発庁長官等となる、昭和28年以降衆議院議員当選○(著)財務経済に関し著書数種○当選(衆)3回(26 27 28)(参)1回(2)

野田俊作（のだしゅんさく） 福岡県選出 自由民主党

明治21年5月生、福岡県出身、大正2年東京帝国大学法学部経済学科卒○同3年南満州鉄道(株)社員となり、同13年以降衆議院議員に当選、その間簡易生命保険積立金運用委員、鉄道参与官、広田内閣の司法政務次官、朝鮮紡織(株)、満州製麻(株)、(株)日本電報通信社各取締役、(株)西日本新聞社監査役、福岡県知事等歴任、昭和21年貴族院議員となり、参議院議員当選後参議院外務委員長、自民党相談役等となり、また西日本新聞社相談役、テレビ西日本顧問等となる○同31年永年在職議員として表彰○在任(貴)(昭21・3―22・5)当選(衆)6回(15―20)(参)3回(135)

野溝勝（のみぞまさる） 全国選出 日本社会党

明治31年11月生、長野県出身、法政大学修○社会民衆党、全国労農大衆党、社会大衆党等の本部役員となり、戦後日本社会党創立結成に参加、初代代議士会長、書記長等歴任、顧問となる、また大正12年日本農民組合を結成本部役員となり、その後各種農民組織を統一し、全日本農民組合(連)会長となる、昭和6年長野県会議員、同12年衆議院議員に当選、衆議院農林委員長、芦田内閣の国務大臣等歴任、地方財政及び農林行政に協力○同30年国民外交使節議員団団長としてソビェト訪問、同33年親善使節議員団として訪豪○当選(衆)3回(20 22 23)(参)2回(24)

野村吉三郎（のむらきちさぶろう） 和歌山県選出 自由民主党

明治10年12月生、和歌山県出身、同29年海軍兵学校卒○英国出張、日露戦役に出征、オーストリア、独国駐在(3年)、米国大使館付武官(3年9カ月)、第1次大戦講和会議全権随員、ワシントン会議全権随員、東宮職御用掛、遣外艦隊司令官(シナ)、海軍省教育局長、海軍軍令部次長、練習艦隊司令官(東亜及び北米巡航)、呉鎮守府、横須賀鎮守府各司令長官、第三艦隊司令長官として上海事変に従軍、再度横須賀鎮守府司令長官、軍事参議官等歴任、昭和12年退役、学習院長、阿部内閣の外務大臣、駐米大使、枢密顧問官等を経て自民党参議院議員会長、党顧問、日本ビクター(株)社長等となる○当選(参)2回(3補5)

野本品吉（のもとしなきち） 全国選出 自由民主党

明治26年3月生、群馬県出身、大正2年群馬師範本科二部卒○県内小学校長、青年学校長、県視学等歴任の後、衆議院議員当選、また参議院自民党政策審議会副会長、政調文教副部長、党紀委員、党全国組織委員会副委員長、文教調査会副会長、参議院法務委員長、裁判官訴追委員、日本退職公務員連盟会長等となる○昭和34年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(衆)2回(22 23)(参)2回(35)

は の部

羽仁五郎（はにごろう） 全国選出 無所属クラブ

明治34年3月生、東京都出身、昭和2年東京帝国大学文学部史学科卒、欧州留学○同年東京帝国大学文学部史料編纂所嘱託となり、その後自由学園教授、同評議員、日本大学教授、日本YWCA講師、全日本教員組合中央執行委員長、歴史学研究会委員長、参議院図書館運営委員長等となる○(著)「明治維新」「東洋における資本主義の形成」「ミケルアンヂェロ」「日本における近代思想の前提」「日本人民の歴史」等○当選(参)2回(12)

羽生三七（はにゅうさんしち） 長野県選出 日本社会党

明治37年1月生、長野県出身、松濤義塾卒○社会運動に入り、労働農民党以来日本社会党に至るまで党の役職を歴任、県会議員、村長、町村長会長等を勤め、この間東京において政治経済の研究機関に関係し、また参議院農林委員長、日本社会党政策審議会副会長、同参議院議員会長、同中央執行委員等となる○昭和28年欧米各国の議院運営の実情等視察○当選(参)3回(135)

長谷部廣子　愛知県選出　無所属クラブ

明治31年7月生、山形県出身、大正10年東京女子高等師範学校卒○同年三重県立飯南高等女学校教諭となり、その後名古屋市立第一高等女学校教諭、椙山女子専門学校、同女学園大学各教授、愛知県教育委員、名古屋市婦人団体連絡協議会副会長、名古屋家庭裁判所調停委員、同委員会委員、全日本婦人団体(連)副会長、日中友好協会常任理事等となる○昭和29年訪中婦人代表団副団長として中共視察、同31年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)1回(3)

長谷山行毅　秋田県選出　自由民主党

明治41年3月生、秋田県出身、昭和7年慶応義塾大学法学部卒、同大学院修○同12年検事となり東京、札幌等の各地裁検事局勤務、戦後帰郷して村長、秋田県町村会副会長となり、議員当選後、参議院自由党副幹事長、裁判官弾劾裁判員、同代理裁判長、第5次吉田内閣の法務政務次官等歴任、また弁護士、秋田県指導農業協同組合(連)会長、全国指導農協(連)、全国新聞情報農協(連)各理事、羽後交通(株)取締役等となる○当選(参)1回(2)

波多野鼎　福岡県選出　日本社会党

明治29年3月生、福岡県出身、大正9年東京帝国大学法科卒、欧米留学、経済学博士○大正11年同志社大教授となり、その後九州帝大教授を経て参議院議員当選、片山内閣の農林大臣、参議院予算委員長等となる○(著)「価値学説史三巻」「景気学説批判」「経済学入門」「経済学説史概論」「国際経済入門」等○当選(参)1回(1)

波多野林一　京都府選出　緑風会

明治19年12月生、京都府出身、同43年早稲田大学商科卒○郡是製糸(株)常務取締役等を経て同社社長となるほか朝日化学肥料(株)、朝日化学工業(株)、近江絹糸紡績(株)、日本副蚕糸統制(株)、帝国蚕糸(株)、帝国蚕糸倉庫(株)、近江航空工業(株)、電元工業(株)各取締役、グンゼ・シルク・コーポレーション副社長、郡是産業(株)、昭和紡績(株)、会津ベニヤ工業(株)、中野飾絹(株)、日東精工(株)、郡莫工業(株)各社長、京都府蚕糸業会理事会長、京都商工会議所副会頭、常議員等となる○当選(参)1回(1)

橋上保　福岡県選出　民主党

明治22年7月生、東京都出身○昭和6年以降橋上鉱業(株)社長となり、その後北九州石炭統制組合評議員、日本炭業(株)、宝珠山鉱業(株)各社長、九州石炭鉱業会、九州石炭鉱業連盟各理事、北九州石炭(株)顧問等となる○当選(参)1回(1)○昭和24年11月26日死去

橋本萬右衛門　福島県選出　自由党

明治25年6月生、福島県出身、福島県立安積中学校修、欧米各国留学○昭和10年以降(資)開成社、東北土地証券(株)等の社長、郡山木材(株)取締役会長、郡山ロータリー倶楽部、郡山風光協会各会長、日本実業協会評議員、福島少年保護協会理事、福島県商工経済会顧問、郡山商工会議所会頭、福島地方裁判所調停委員、澁澤青淵記念財団竜門社、(社)日本赤十字社各評議員等となり、その間貴族院議員となる○在任(貴)(昭21・9―22・5)当選(参)2回(12)○昭和25年12月27日死去

服部教一　奈良県選出　緑風会

明治5年7月生、奈良県出身、明治32年東京高等師範学校卒○同34年文部省に入り、視学官、鹿児島、広島各県及び北海道内務部長、衆議院議員等となる○当選(衆)2回(17 19)(参)1回(1)

濱田寅藏　福岡県選出　各派に属しない議員

明治39年8月生、福岡県出身○福岡県炭鉱労働組合協議会議長、九州石炭復興会議副議長等となる○当選(参)1回(1)

早川愼一　全国選出　緑風会

明治29年3月生、東京都出身、大正9年東京帝国大学法学部英法学科卒○同年鉄道省に入り、その後在外研究員、鉄道書記官、鉄道局長を経て鉄道会議議員、日本通運(株)理事、同社長、全日本産業安全(連)、日本自動車会議所各会長、大洋自動車(株)、(株)国際観光会館、日本ホテル(株)、朝日生命保険(相)各取締役、ICC本部及び日本国内道路輸送委員等となり、また緑風会議員総会副議長、参議院経済安定、建設各委員長等となる○当選(参)2回(13)

林了　全国選出　緑風会

明治41年3月生、東京都出身、昭和4年日本大学歯科卒、医学博士○同年歯科医師となり歯科医院開業、城西病院歯科部長、日大歯科医学校長、日本歯科医師会理事、同常務理事、同事務局長、同税制対策委員長、日本歯科医師政治連盟理事長、臨時診療報酬調査会、臨時医療保険審議会各委員、社会保険診療報酬支払基金理事、(財)軽井沢会理事長、軽井沢国際観光協会、八欧無線(株)各顧問等となる○当選(参)1回(3)○昭和28年12月20日死去

林田正治　熊本県選出　自由民主党

明治25年8月生、熊本県出身、大正6年東京帝国大学法学部政治学科卒○同7年福島県属となり、その後、秋田県、滋賀県、静岡県の各課長を経て、鳥取県学務部長、大分県、神奈川県、京都府の各警察部長、台南州内務部長、澎湖庁長、新竹州知事、熊本県食糧営団理事長、衆議院議員、熊本市長、熊本県郷友(連)理事長、同県自由文教人連盟会長等となる○昭和2年朝鮮、満州、北、中シナ出張、同16年南シナ視察、同31年西独政府の招きにより同国青少年運動及び欧州各国視察○当選(衆)1回(22)(参)1回(4)

林屋亀次郎　石川県選出　自由民主党

明治19年6月生、石川県出身、県立金沢商業学校修○丸越百貨店を創立、大和百貨店会長、北陸鉄道(株)社長、石川県商工会議所会頭等となり、参議院議員当選、参議院民主党議員会長、第4次吉田内閣の国務大臣等歴任、また丸越百貨店会長、北日本紡績会長、大機ゴム工業(株)社長、川崎明発工業(株)会長、国立近代美術館評議員、石川県遺族(連)会長、日本遺族会副会長等となる○当選(参)2回(14)

原虎一　全国選出　日本社会党

明治30年11月生、岡山県出身、早稲田工手学校修○大正11年日本労働総同盟に入り、その後中央執行委員、総主事、社会民衆党本部役員、東京市会議員、同参事会員、東京地方裁判所借地借家調停委員、日本労働組合総同盟総主事、同中央委員、中央労働委員、鉄道会議議員、日本社会党中央執行委員、同党埼玉県(連)会長、参議院労働委員長等となる○昭和10年第19回国際労働総会出席(ジュネーブ)、昭和27年列国議会同盟会議に出席及び欧米各国の議会制度視察○当選(参)1回(1)

原口忠次郎　兵庫県選出　各派に属しない議員

明治22年11月生、東京都出身、大正5年京都帝国大学土木工学科卒、工学博士○同8年内務省に入り、その後満国国々道局技正、同土木局第二工務処長、同交通部技正、神戸土木出張所長、中国、四国土木出張所長、神戸市復興本部副本部長、同本部長、同市助役等となる○当選(参)1回(1)

原島宏治　全国選出　無所属クラブ

明治42年12月生、東京都出身、昭和4年東京府立青山師範学校卒、同8年同専攻科卒○卒業後西多摩郡氷川小学校奉職(3年間)、世田谷区中里小学校、大田区南蒲小学校、相生小学校勤務、同30年大田区議会議員等となる○当選(参)1回(5)

ひの部

東浦庄治　全国選出　緑風会

明治31年4月生、三重県出身、大正12年東京帝国大学経済学部卒○帝国農会参事、幹事長、産業組合中央会主事、企画院委員、実業教育振興委員会幹事、食料品物価専門委員会委員、東京農大、東京帝大農学部各講師、農地開発営団監事、中央農業会理事、全国農業会常任理事、地方制度調査会、警察制度審議会、中央農地委員会、肥料審議会各委員等となる○当選(参)1回(1)○昭和24年9月2日死去

久松定武　愛媛県選出　緑風会

明治32年4月生、愛媛県出身、大正12年東京帝国大学経済学部卒○同13年三菱銀行に入り、その後同行駒込支店預金係長、同行本店預金係長、同行板橋支店長代理、四国農産興業(株)社長、(財)比律賓協会評議員、貴族院議員等となる○銀行業務及び農業政策視察のため欧米旅行○在任(貴)(昭19・12―22・5)(参)1回(1)

一松定吉　全国選出　自由民主党

明治8年3月生、大分県出身、同35年明治法律学校卒○判事、検事就職、大正9年大審院検事を辞し弁護士開業、大阪市会議員当選、昭和3年以降衆議院議員当選、その間国務、逓信、厚生各大臣、建設院総裁、建設大臣等歴任、同25年参議院議員当選参議院懲罰委員長、弾劾裁判所裁判長となる、党にあつては総務、幹事長、総務会長、最高顧問、中央常任委員会議長等を経て自民党顧問、両院議員総会長、憲法調査会委員等となる○厚生政務次官当時朝鮮中国等に出張、昭和12年列国議会同盟会議に日本議員団長として出席、同29年議員団長として欧米各国の議院運営の実情等視察○同31年永年在職議員として表彰○当選(衆)8回(16―23)(参)2回(2・4)

一松政二　大分県選出　自由民主党

明治26年9月生、東京都出身、大正5年東京高等商業学校卒○同年久原鉱業に入り、その後久原商事ニューヨーク支店長、日本鉱業(株)運輸部長、日産汽船、樺太汽船(株)、(株)中山製鋼所各取締役、東京油脂(株)社長等となり、また参議院商業、懲罰各委員長、第3次吉田内閣の行政管理政務次官、自由党渉外部長、同常任総務等となる○昭和29年欧米各国の議院運営の実情視察○当選(参)2回(1・2)

姫井伊介　山口県選出　日本社会党

明治14年4月生、山口県出身、同33年下関商業学校卒、愛知県瀬戸陶器学校修○本山陶器信用購買利用組合長、山口県陶磁器工業統制組合、(財)労道社各理事長、山口県社会事業、(財)中央融和事業協会各嘱託、日本社会事業連盟、(財)同和奉公会山口県本部、(財)山口県厚生事業協会各理事、山口県会議員等となる○当選(参)1回(1)

平井太郎　香川県選出　自由民主党

明治38年7月生、香川県出身、昭和3年明治大学商科卒○高松商工会議所会頭、四国商工会議所(連)、四国経営者協会各会長等となり、また第3次吉田内閣の電気通信政務次官、同保安政務次官、参議院自由党幹事長、同自由民主党幹事長、石橋内閣の郵政大臣、第1次岸内閣の郵政大臣等歴任、参議院副議長となるほか、四国新聞社社長、西日本放送(株)会長、瀬戸内航空(株)社長、四国電力(株)取締役、香川県信用保証協会会長、松沢炭鉱社長、香川県遺族厚生(連)会長、高松女子商業高等学校理事長等となる○当選2回(2・4)

平岡市三　静岡県選出　自由党

明治31年12月生、静岡県出身、大正12年日本大学商学部卒、米国留学、経済学博士○岳南商事(株)取締役、岳南工業(株)監査役、米国加州ガダループ日本人会書記長兼日本語学校長、日大専門部、同経済学

部各教授、同大学監事、日本女子経済専門学校教授、日本女子高等商業学校講師、教授、東京市立第五実業学校高等科講師、静岡県田子浦高等学校長、(財)嘉悦学園理事、第2次吉田内閣の大蔵政務次官等となる○当選(参)2回(1・2)○昭和27年3月20日死去

平島敏夫　宮崎県選出　自由民主党

明治24年11月生、宮崎県出身、大正7年東京帝国大学法科卒、欧米留学(大正12年―同14年)○内務属、長崎県理事官、明治神宮造営局書記官、内務書記官、満鉄参事、同理事、同副総裁、台湾総督秘書官、司法大臣秘書官、弁護士、満州電業理事長、電源開発理事等となり、その間衆議院議員当選、また(財)満蒙同胞援護会会長、大東文化大学学長、教授、自民党宮崎県連会長、参議院運輸委員長等となる、終戦当時長春及び全満州日本人会会長となる○当選(衆)1回(18)(参)1回(4)

平沼彌太郎　埼玉県選出　自由党

明治25年6月生、埼玉県出身、同45年東京華中学校卒○昭和5年平沼材木店代表社員となり、その後飯能銀行会長、埼玉銀行頭取、全国銀行協会理事、名栗水電(株)、埼玉県木材(株)各社長、埼玉県山林会副会長、全国山林会(連)常任幹事、埼玉県森林組合(連)会長、中央林業協会、経済団体(連)各理事、名栗村長、埼玉県会議員、参議院大蔵委員長等となる○当選(参)1回(1)

平野成子　山梨県選出　各派に属しない議員

明治32年5月生、山梨県出身、東京女子美術学校修○農村社会運動に従事○当選(参)1回(1)

平野善治郎　青森県選出　国民民主党

明治35年3月生、青森県出身○平野木材(株)社長、青森県木材(株)常務取締役、青森県造船(株)社長、芦田内閣の農林政務次官等となる○当選(参)1回(1)

平林太一　山梨県選出　無所属クラブ

明治30年1月生、山梨県出身○昭和10年から同25年まで山梨県会議員となり、その間県参事会員、地方森林会委員、県議会副議長、同議長、全国都道府県議長会常任理事、中央線電化及び甲府駅国電乗入期成同盟会長、自由党山梨県支部幹事長、同甲府市及び南巨摩郡支部長等となり、また山梨土木工業(株)会長、参議院人事委員長等となる○昭和29年東南アジア各国の政治経済事情等視察○(著)「故郷の父母へ」「日本のあけぼの(英、和文)」○当選(参)1回(2)

平林剛　全国選出　日本社会党

大正10年10月生、長野県出身、専検合格○昭和11年専売局板橋製作所に入り、終戦後労働組合の結成につとめ書記長となり、その後全専売労働組合初代中央執行委員長(以来8選)、その間日本社会党中央執行委員、東京労働金庫理事、全大蔵労働組合協議会議長歴任、また専売事業政治連盟会長、全専売労働組合顧問等となる○同33年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)2回(3再4)

廣瀬久忠　山梨県選出　自由民主党

明治22年1月生、山梨県出身、大正3年東京帝国大学法科大学政治学科卒○三重県、埼玉県各知事、内務省土木局長、同社会局長官、内務、厚生各次官、平沼内閣の厚生大臣、法制局長官、貴族院議員、産業設備営団総裁、小磯内閣の厚生大臣、同国務大臣兼内閣書記官長、関東信越地方総監兼東京都長官、公安審査委員会委員等歴任、また山梨県人会(連)、緑風会政務調査会、自主憲法期成議員同盟各会長、参議院大蔵委員長等となる○大正10年欧米各国へ出張○在任(貴)(昭15・7―21・2)当選(参)1回(3)

廣瀬與兵衛　全国選出　自由党

明治24年1月生、東京都出身、中央大学修○東京都

燃料卸商業組合、同燃料配給統制組合各理事長、全国燃料団体(連)会長、日本薪炭(株)、中野木材工業(株)等の社長、東京燃料林産(株)、千代田製鉄(株)各取締役会長、中央倉庫(株)取締役、神田錦町町会長、東京商工会議所議員、商工組合中央会理事、同中央金庫評議員等となり、また参議院自由党副会長、国会対策委員、参議院建設委員長、第4次吉田内閣の文部政務次官等歴任○昭和26年講和会議調印状況視察○当選(参)1回(1)

ふの部

深川榮左エ門(ふかがわえいざえもん)　佐賀県選出　改進党

明治29年10月生、佐賀県出身、大正9年早稲田大学商科卒○有田合同運送(株)、有田信用無尽(株)、香蘭碍子販売(株)、香蘭社、西松浦通運(株)各社長、佐賀興業銀行取締役、有田陶磁器工業組合(連)理事、佐賀県陶磁器工業協同組合相談役、(社)窯業協会常議員等となり、また参議院通商産業委員長となる○欧米諸国視察○当選(参)1回(1)○昭和35年3月2日死去

深川タマヱ(ふかがわたまえ)　東京都選出　自由民主党

明治36年7月生、佐賀県出身、昭和8年九州帝国大学経済科卒○東京都物価審議会、日本銀行通貨審議会各理事、民主党婦人部、同遊説部各副部長、党政務調査会副会長、党総務、党国会対策委員、党参議院副会長、改進党都連副会長兼婦人部長、参議院懲罰、建設各委員長等歴任、また全国戦災都市復興国会議員連盟、母子福祉対策議員連盟各理事、ユネスコ議員連盟幹事等となる○当選(参)2回(12)

深水六郎(ふかみろくろう)　熊本県選出　自由民主党

明治34年11月生、熊本県出身、大正14年東京帝国大学法学部政治学科卒○佐賀郵便局長、逓信局及び本省各課長、仙台逓信局長、参議院通信委員長、第5次吉田内閣の経済審議政務次官等歴任、また熊本県海岸堤防強化促進協議会会長、日本自由党熊本県支部政務調査会長、自由党熊本県支部総務会長、同党議員総会副会長、同党総務等となる○昭和27年列国議会同盟会議に出席及び欧米各国の議会制度視察○当選(参)2回(12)

藤井新一(ふじいしんいち)　全国選出　自由党

明治25年8月生、静岡県出身○アメリカ合衆国南加州大学、ボストン大学、ニューヨーク、コロンビヤ大学の大学院、オリエンタル大学修、マスター・オブ・アーツ、ドクトル・オブ・ローズ○帰朝後早大講師、同専門部教授、同専門学校、同第二高等学院、法大法学部各講師、法大専門部、同法学部各教授、日大政治学科及び法学科、早大各専任講師、駒沢大教授等となる○(著)「社会学的政治学論評」「米国憲法論」「日本憲法論」等○当選(参)1回(1)

藤井丙午(ふじいへいご)　全国選出　緑風会

明治39年2月生、岐阜県出身、昭和6年早稲田大学政治経済学部卒○同年東京朝日新聞社に入り、その後日本製鉄(株)参事、金属回収統制(株)監査役、日本鉄鋼協議会事務局長、石油配給(株)参与、鉄鋼販売統制(株)、鉄鋼原料統制(株)各監査役、銑鉄協議会監事、石炭対策委員会幹事、鉄鋼販売(株)社長、日本輸出品用原材料(株)取締役、金属回収(株)取締役、芦田内閣の経済安定政務次官等となる○当選(参)1回(1)　昭和55、12、14、死去　ヲナオ

藤枝昭信(ふじえだしょうしん)　奈良県選出　日本社会党

明治40年2月生、奈良県出身○昭和13年奈良県運動具工業組合(連)理事長となり、その後日本靴工業組合(連)大阪事務所長、日本靴配給(株)重役、奈良県運動具統制組合、同県ゴム被服類統制組合各理事長、奈良県磯城郡三宅村長、(株)藤枝冷凍製氷所社長、藤枝産業(株)社長等となる○当選(参)1回(1補)

藤田進(ふじたすすむ)　広島県選出　日本社会党

大正2年2月生、広島県出身、昭和7年大阪工業大学卒、経済学博士○同年広島県庁、のち中国電力、呉海軍施設部に勤務、広島県地方労働委員会委員、中央労働委員会委員、電産中央委員長、総評議長、党選対本部事務局長、党と労組協力会議議長、参議院議員総会副会長、国会対策副委員長、参議院内閣委員長、国土総合開発審議会委員等歴任○同29年列国議会同盟会議出席、欧米及び東南アジア各国の政治経済調査○(著)「基幹産業社会化の動向」○(参)当選2回(35)

藤田藤太郎(ふじたとうたろう)　京都府選出　日本社会党

明治43年9月生、京都府出身、立命館大学修○昭和3年京阪神急行電鉄(株)に入社、その後、同労組委員長、私鉄総連委員長、総評議長、中央労働委員会、中央賃金審議会、人口問題審議会、選挙制度調査会各委員、内閣失業対策審議会常任委員、日本ILO協会、日中友好協会各副会長、日本社会党参議院議員副会長、党国会共闘委員会議長、同政審労働部長、私鉄総連、京都地評、党府連各顧問等となる○同28年ILO総会日本代表として出席(ドイツ、イギリス)、同30年アジア労組会議参列(ビルマ)○当選(参)1回(4)

藤田芳雄(ふじたよしお)　新潟県選出　各派に属しない議員

明治31年3月生、新潟県出身、大正7年新潟師範学校卒○同年新潟市山之下小学校の訓導となり、その後同市山之下工業補習学校、万代青年学校各助教諭、新潟県南蒲原郡下条村下条国民学校長、同村立青年学校助教諭兼校長、新潟市栄国民学校長等となる○当選(参)1回(1)○昭和26年2月3日死去

藤野繁雄(ふじのしげお)　長崎県選出　自由民主党

明治18年4月生、長崎県出身、同40年東京高等農学校(現東京農大)卒○長崎県農林主事、同県産業組合(連)会長、産業組合中央金庫評議員、長崎県生活物資配給統制組合(連)、同県農業会、同県指導農業協同組合(連)各会長、全国農業会監事、家の光協会理事、全国指導農業協同組合(連)理事及び監事、全国土地改良協会理事及び監事、全国農業協同組合監事協議会会長等歴任、第2次吉田内閣の地方自治政務次官、自治政務次官、長崎県農業協同組合中央会会長、同県農林統計協会会長、参議院農林水産委員長等となる○昭和29年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)3回(135)

藤森眞治(ふじもりしんじ)　兵庫県選出　緑風会

明治24年8月生、兵庫県出身、大正2年岡山医学専門学校卒、ベルン大学卒、医学博士○姫路市会議員、兵庫県医師会姫路市支部長、姫路市公職適否審査委員、藤森病院長、参議院厚生委員長等となる○当選(参)1回(1)○昭和32年5月17日死去

藤原道子(ふじわらみちこ)　全国選出　日本社会党

明治33年5月生、静岡県出身○全国農民組合静岡県婦人部長、無産者婦人同盟静岡県組織部長、沼津市

民館を開設、方面委員、家事審判所制度調査委員、中央社会事業委員、婦人少年問題審議委員、衆議院議員、参議院労働、法務各委員長、社会保障制度審議会委員、売春対策審議会委員、日本社会党婦人部長、中央執行委員、婦人対策委員長、くらしの会全国会長、城北幼稚園園長等となる○党代表として昭和27年ヨーロッパ12カ国、同32年北中南米等訪問、同35年日本婦人代表の団長として中国訪問○（著）「婦人代議士の手記」○当選（衆）2回（22 23）（参）2回（24）

二見甚郷　宮崎県選出　自由民主党

明治21年10月生、宮崎県出身、大正4年東京帝国大学法科大学政治学科卒○同年領事官補となり、その後外交官補、公使館三等書記官、公使館二等書記官、特命全権公使等歴任、その間衆議院議員、宮崎市長、宮崎県知事等となる○欧米各国遊歴（6回）○当選（衆）1回（16）（参）1回（5）

ほの部

帆足計　東京都選出　緑風会

明治38年9月生、大分県出身、昭和6年東京帝国大学経済学部卒○同14年日本経済連盟調査課長となり、その後重要産業協議会事務局長、商工省及び経済安定本部参与、日本産業協議会常務理事、経済団体連合会評議員、経済復興会議幹事長、石炭並びに硫安復興会議全国委員、石炭協力会常任委員、自由人権協会常任理事、住文化協会理事長、農業機械化協会副会長、民主外交協会理事、自由懇話会常任理事等となる、昭和27年以降衆議院議員当選○（著）「日本経済復興への道」等○当選（衆）4回（25 26 27 28）（参）1回（1）

平成元年二月三日死

穂積眞六郎　全国選出　緑風会

明治22年6月生、東京都出身、大正2年東京帝国大学法科大学政治学科卒○同3年朝鮮総督府事務官となり、その後同税関長、同殖産局長、京城商工会議所会頭、京城電気（株）社長、日本商工会議所常議員、朝鮮興業（株）社長、朝鮮商工経済会会頭、朝鮮無煙炭（株）理事、元山北港（株）社長、朝鮮引揚同胞世話会会長、引揚者団体全国（連）副委員長等となる○当選（参）1回（1）

北條秀一　全国選出　緑風会

明治37年5月生、兵庫県出身、昭和5年東京商科大学卒○同12年（株）興中公司総務課長となり、その後南満州鉄道（株）鉄道総局附業局拓殖課長、同調査局総務課長、大同炭礦（株）総務部総務処長、奉天市日本人居留民会秘書処長、引揚者団体全国（連）事務局次長、東京都連合婦人更生会顧問等となる、昭和33年衆議院議員当選○当選（衆）1回（28）（参）1回（1）

北條雋八　全国選出　無所属クラブ

明治24年5月生、東京都出身、大正5年東京帝国大学農学部林学科卒○同年帝室林野局技師となり、その後貴族院議員、農林参与官、（社）霞会館理事、（宗）日蓮正宗創価学会文化部参与となる○在任（貴）（昭14・4―22・5）当選（参）1回（4）

星一　全国選出　国民民主党

明治6年12月生、福島県出身、同34年ニューヨーク市コロンビヤ大学政治経済科卒○同44年星製薬（株）社長となり、その後ホスケンホシ（株）取締役、星製薬商業学校長、（財）星薬学専門学校理事長等となる○当選（参）1回（1）○昭和26年1月19日死去

（衆）4回（10 20 21 22）

星野芳樹　全国選出　労働者農民党

明治42年3月生、東京都出身、静岡高等学校修○昭和15年上海自然科学研究所員となり、その後上海容海語学校、上海容海小学校、同中学校を設立、在外同胞帰還促進全国協議会顧問等となる○当選（参）1回（1）

細川嘉六　全国選出　日本共産党

明治21年9月生、東京都出身、大正6年東京帝国大学政治科卒○大原社会問題研究所所員として国際問題、植民地問題、労働問題を研究、昭和17年筆禍事件のため拘禁される○（著）論文「世界史の動向と日本」○当選（参）2回（12）

堀末治　北海道選出　自由民主党

明治19年9月生、北海道出身、庁立小樽中学校卒○合同酒精（株）社長、会長、旭川商工会議所会頭、日商理事等となり、議員当選後第3次吉田内閣の地方財政政務次官、参議院文部、運輸、農林水産各委員長、同公職選挙法改正特別委員長、参議院自由党副会長、自民党全国組織委員会副委員長、同総務、北海道総合開発審議会委員等歴任、また合同酒精（株）相談役、北海道銀行取締役等となる○昭和26年地方制度調査のため渡米、同30年中華人民共和国国慶節に招かれ訪中○当選（参）3回（135）

堀眞琴　東京都選出　無所属クラブ

明治31年5月生、宮城県出身、大正12年東京帝国大学法学部政治学科卒、同大学院で政治学研究○同14年慶大法学部講師となり、その後法大法学部教授、東京帝大講師、上智大新聞科講師、高等試験委員、東京鉄道教習所講師、日本学術会議会員、中央労働学園理事、世界経済研究所理事、労働者農民党中央執行委員等となる○当選（参）2回（12）

昭和55.1.16死去 81才

堀内到　熊本県選出　日本社会党

明治19年7月生、熊本県出身○同43年台湾総督府書記となり、その後新興建築（株）常務取締役、九州木材（株）監査役、九州汽船（株）取締役、（株）三和組顧問等となる○当選（参）1回（1）○昭和22年12月21日死去

堀木鎌三　全国選出　自由民主党

明治31年3月生、三重県出身、大正11年東京帝国大学法学部卒○同年鉄道省に入り、鉄道大臣秘書官、名古屋鉄道局長、運輸省需品、業務各局長、同省鉄道総局長官となり、退官後（財）鉄道弘済会理事長、中央労働委員、公共企業体仲裁委員、中央身体障害者福祉審議会委員、東京商工会議所理財委員長等歴任、議員当選後改進党顧問、民主党総務、参議院建設委員長、参議院自由民主党政策審議会会長、ブラジル国特派大使、第1次岸内閣の厚生大臣、参議院予算委員長等となる○在官中在外研究員として米、独出張（2年）、昭和28年欧米各国の議院運営の実情等視察○当選（参）2回（24）

堀越儀郎　全国選出　緑風会

明治24年8月生、大阪府出身、大正6年東京帝国大学文科大学（心理学）卒○同年天理中学校教頭となり、その後天理外国語学校教授、天理教信徒部長、同文教部長、天理教総務、（財）天理教いちれつ会理事長、（財）天理大理事長、天理大学長、参議院文部委員長等となる○当選（参）1回（1）

堀本宜実　愛媛県選出　自由民主党

明治33年3月生、愛媛県出身、大正7年麻布獣医畜産専門学校（現麻布獣医大）卒○温泉郡立岩村長、同郡北条町長、愛媛県会議員（4期）、全国農業会議所、愛媛県農業会議、同県畜産農業協同組合（連）、同県獣医師会、全国農地集団化協議会、施肥合理化中央協議会各会長、日本獣医師会顧問、自由民主党愛媛県支部（連）会長、参議院自由民主党政策審議会農林水産部長、自由民主党政務調査会果実小委員長、参議院農林水産委員長等となる○昭和35年東南アジ

ア各国の政治経済事情等視察○当選(参)1回(4)

本多市郎　全国選出　自由民主党

明治28年11月生、長崎県出身、大正14年中央大学法学部卒○東京市会議員、衆議院議員、第3次、第4次吉田内閣の国務大臣（行政管理庁長官、地方自治庁長官、自治庁長官）歴任、引揚援護院参与、日本自由党創立委員、同党総務、民主自由党常任総務、衆議院商工委員長、自由党常任総務、代議士会長、参議院地方行政委員長等となり、また中大評議員会議長、全国道路利用者会議会長、東京神田青果(株)社長等となる○昭和6年欧米各国視察、衆議院議員在職中東南アジア各国視察○(著)「最近の世界を巡りて」○当選(衆)6回(21—26)(参)1回(4)○昭和34年4月5日死去

ま の部

前田佳都男　和歌山県選出　自由民主党

明治43年11月生、和歌山県出身、昭和9年東京帝国大学法学部政治科卒、英米仏独等に留学、航空輸送を研究○逓信省に入り小倉郵便局長、東京はじめ各逓信局部長、郵政省各局の課長、郵務局次長、大阪郵政局長、郵政審議会委員、小磯内閣当時前田米蔵運輸通信大臣秘書官等歴任、議員当選後、参議院自由民主党副幹事長、第2次岸内閣の大蔵政務次官等となり、また和歌山放送社長となる○同32年仏国上院議長の招きにより仏国はじめ各国議会訪問○(著)「平凡社百科辞典」執筆、「郵便物運送法解説」等○当選(参)1回(4)

前田久吉　全国選出　自由民主党

明治26年4月生、大阪府出身○産経新聞(株)、大阪新聞(株)、関西テレビ放送(株)、大阪放送(株)、産業会館ビル(株)各会長、日本電波塔（東京タワー）(株)、日東航空(株)各社長、自由国民連合、大阪電気通信学園各理事長等となり、また参議院大蔵委員長等となる○当選(参)2回(35)

前田穰　三重県選出　緑風会

明治20年10月生、三重県出身、大正2年東京帝国大学法学部卒○鉄道省に入り大阪、門司鉄道局の各課長、運輸局総務課長、大臣官房人事課長、大阪、仙台鉄道局長、本省運輸、監督各局長歴任、阪和電鉄監査役、南海電鉄常任監査役、都市計画三重地方委員、三重県労働調停委員、三重交通社長、ユネスコ三重協力会、三重県経営者協会、三重県社会福祉協議会各会長、参議院運輸委員長等となる○大正13、14年欧米各国視察○当選(参)1回(2)○昭和30年6月28日死去

前之園喜一郎　鹿児島県選出　国民民主党

明治23年12月生、鹿児島県出身、日本大学法科及び明治大学高等研究科修○大正12年弁護士となり、その後東邦断熱工業(株)専務取締役、鹿児島弁護士会長、同会常議員、鹿児島県地方労働委員、日本弁護士(連)理事、同中央法廷委員、鹿児島市会議員、同市会議長、日本進歩党鹿児島県支部総務、民主党総務、同鹿児島県支部長、参議院決算委員長等となる○当選(参)1回(1補)

増原恵吉　愛媛県選出　自由民主党

明治36年1月生、愛媛県出身、昭和3年東京帝国大学法学部卒○同年内務省に入り京都府属、和歌山、北海道、兵庫、警視庁、山形、千葉、大阪各府県の課長及び部長、香川県知事、同公選知事、警察予備隊本部長官、保安庁次長、防衛庁次長等歴任、議員当選後自由民主党国防部長、税制調査会、選挙調査会、政務調査会、国民の祝日に関する調査会各副会長、治安対策特別委員会副委員長、参議院自由民主党政策審議会副会長、参議院地方行政委員長等となり、また西日本放送(株)取締役となる○日米安全保障条約調印議員団として渡米○当選(参)2回(3補5)

町村敬貴　北海道選出　緑風会

明治15年12月生、東京都出身、大正元年北米ウイスコンシス州立農科大学酪農科卒○帰朝後種畜酪農業を経営、農林省中央酪農協議会委員、同省農産物価形成委員、科学技術審議会専門委員、貴族院議員等となる○在任（貴）(昭21・8—22・5)当選（参）1回(1)

松井道夫　全国選出　緑風会

明治39年11月生、新潟県出身、昭和4年東京帝国大学法学部英法科卒○同年弁護士となり、その後長野、千葉、松山、甲府各地方裁判所判事、ハルピン地方法院、牡丹江高等法院各審判官、佳木斯地方法院次長、甲府地方裁判所部長、新政日本党幹事、(社)明治神宮昭和会幹事、新潟法令研究部主査委員、新潟県政治刷新同盟総務委員長等となる○当選(参)1回(1)

松浦定義　北海道選出　無所属クラブ

明治37年8月生、北海道出身、大正13年岐阜県横蔵村農業補習学校卒○昭和4年北海道に移住農牧業に従事、川西村農業会理事、同農業調整委員会長、十勝農村建設連盟を創設、同理事長、十勝振興委員会委員、同地区農民同盟執行委員長、北海道食糧調整委員、同農民同盟副執行委員長、同顧問、全国農民連盟中央委員、国土総合開発審議会委員、改進党組織部長、同党常務副委員長、同党食糧対策委員会副委員長等となる、昭和33年衆議院議員当選○当選(衆)1回(28)(参)1回(2)

松浦清一　兵庫県選出　民主社会党

明治35年12月生、兵庫県出身、小学卒○船員となり、大正10年日本海員組合を創立、同15年社民党の結成に参画、戦後の全日本海員組合、日本社会党の創立に参画、海運総局参与、船員中央労働委員、人権擁護委員、選挙制度調査会委員、中央社会保険診療協議会委員、日本社会党中央執行委員、漁民部長、交通運輸政策委員長等を兼ね、また昭和35年民主社会党の結成に当り、統制委員、参議院議員団副会長、参議院人事委員長等となる○(著)「船内細胞組織論」○当選(参)2回(24)

松岡平市　佐賀県選出　自由民主党

明治34年5月生、佐賀県出身、大正14年東京帝国大学法学部英法科卒○昭和2年警視庁警視となり、その後満州国民政部司法科長、北支派遣軍嘱託、大日本製紙原料統制組合専務理事、参議院両院法規委員長、自由党国会対策副委員長、参議院地方行政委員長等となる○当選(参)1回(3)

松澤兼人　兵庫県選出　日本社会党

明治31年1月生、新潟県出身、大正10年東京帝国大学法学部卒○大阪市社会部、大阪労働学校主事兼講師、同12年関西学院教授(勤続20年)となり、神戸市会議員(4期)、兵庫県会議員、衆議院議員当選、また政治研究会神戸支部、日本労農党、社会大衆党各役員、日本社会党中央執行委員、政策審議会副会長、参議院商工委員長等歴任、党国会対策副委員長、党兵庫県連会長、新潟短大学長等となる○欧州、アジア各国歴訪(3回)、昭和35年欧米各国における議院運営の実情等視察○(著)「労働組合主義の基礎知識」「産業別労働組合主義(翻訳)」「近代資本主義発展史論(共訳)」「マルクス、エンゲルス全集(共訳)」等○当選(衆)3回(22 23 24)(参)2回(35)

松澤靖介　山形県選出　日本社会党

明治32年4月生、山形県出身、大正15年北海道帝国大学医学部卒、医学博士○同年同大学附属病院に入り、その後山形県保険医指導委員長、山形県社会保険審査会審査委員長、日本医師会代議員、同理事、山形県山形市各医師会長、秋田鉄道医会副会長、山形県医療機関整備審議会長、国民健康保険審査会委員長、山形県教育委員長、都道府県教育委員会連絡協議会副会長、山形市至誠堂病院長、山形県打毬会長等となる○当選(参)1回(4)○昭和34年6月8日死去

松下松治郎　福井県選出　日本社会党

明治29年2月生、福井県出身○昭和3年福井県水産会議員となり、その後敦賀郡水産会長、敦賀商工会議所議員、帝国水産会議員、大進石綿盤工業(株)、敦賀漁業(株)各取締役、越前化学製油肥料(株)取締役会長、敦賀税務署所得税調査員、敦賀商工会議所会頭、福井県商工政治協議会副会長等となる○当選(参)1回(1)

松嶋喜作　全国選出　自由党

明治25年10月生、神奈川県出身、大正7年京都帝国大学政治経済科卒○日本興業銀行名古屋支店長等を経て同行理事となり、また共益不動産(株)、(株)池貝鉄工所各取締役、興亜院嘱託、重要産業協議会常務委員評議員、セメント整備実施委員会、中央物価統制協力会議金融委員会、セメント業対策委員会各委員、共立(株)監査役、陸軍航空本部整備部嘱託、日本蚕糸統制(株)、化学工業統制会各参与、大和証券(株)取締役会長、参議院副議長等となる○当選(参)1回(1)

松平勇雄　福島県選出　自由党

明治40年6月生、東京都出身、昭和8年早稲田大学商学部卒○石橋内閣及び第1次岸内閣の法務政務次官、参議院通信委員長、ユネスコ国内委員、裁判官弾劾裁判所裁判員、自由民主党政策審議会副会長等となり、また日東鉄工(株)、東洋鋼管(株)各社長、宝商(株)、日本小型車両工業会各会長、川崎鉄鋼(株)、原(株)、東京スポーツマンクラブ(株)各取締役等となる○同33年欧米各国の議院運営の実情等視察○当選(参)2回(2補4)

松平恒雄　福島県選出　緑風会

明治10年4月生、東京都出身、同33年東京帝国大学法科大学政治学科卒○同年外交官補となり、その後大使館三等書記官、同二等書記官、公使館二等書記官、天津総領事、ウラジオ派遣軍政務部長、外務省欧米局長、ワシントン海軍会議事務総長、外務次官、特命全権大使(米国、英国)、国際連盟総会第10回、第11回臨時会議帝国代表、ロンドン海軍会議、ジュネーブ一般軍縮会議、ロンドン国際経済会議等の全権委員、宮内大臣、枢密顧問官等歴任、参議院議長となる○当選(参)1回(1)○昭和24年11月14日死去

松永忠二　静岡県選出　日本社会党

明治41年9月生、静岡県出身、昭和4年静岡師範学校専攻科卒○小、中、高校教員として勤務しその後静岡県教職員組合委員長、静岡県官公労議長等となる○中国教育視察団として中国視察○(著)「若い国古い国」○当選(参)1回(4)

松永義雄　埼玉県選出　日本社会党

明治24年7月生、愛知県出身、大正6年東京帝国大学独法科卒○同年弁護士開業その後社会民衆党、社会大衆党、日本社会党、日本農民組合、全国農民組合各幹部、東京市会議員、衆議院議員当選、衆議院司法委員長、芦田内閣の法務政務次官等歴任、参議院補助金等の臨時特例に関する特別委員長等となる○(著)「商業信用状論」「労働組合法とは何ぞや」「英国労働組合法論」「国家財政論」「地方財政論」等○当選(衆)3回(20 22 23)(参)1回(2)○昭和30年4月16日死去

松野喜内　全国選出　自由党

明治12年9月生、東京都出身、大正9年アメリカ・コロンビア大学経済科卒○同年慶大教授となり、その後東京高等工芸、立大、武蔵高等工業各講師、聖徳学園保姆養成所長、日米文化りばてい塾長、東京市会議員、同都議会議員、参議院電気通信委員長等となる○当選(参)1回(1)○昭和29年10月30日死去

松野孝一　秋田県選出　自由民主党

明治38年3月生、秋田県出身、昭和3年東京帝国大学法学部法律学科卒○同年台湾総督府属となり、その後台北州海山郡守、台中州勧業課長、台湾総督府米穀、水産、農務、特産各課長、米穀局業務課長、食糧、逓信各部長となり終戦後引揚げ、農林省開拓局第一部長、東京、仙台各農地事務局長等歴任、弁護士、秋田県農業会議副会長、自民党秋田県連副会長等となる○当選(衆)1回(25)(参)2回(3補5)

松野鶴平　熊本県選出　自由民主党

明治16年12月生、熊本県出身○大正9年以来衆議院議員(当選7回)、犬養内閣の内務次官、米内内閣の鉄道大臣歴任、その間神社制度調査会、議会制度審議会その他各種委員となり、また立憲政友会幹事長(再度)、同総務、自由党筆頭総務、自由党総務、参議院自由党顧問、同議員会長、自由民主党代行委員、参議院自民主党議員会長、参議院議長(当選3回)、熊本電気鉄道(株)、熊本製粉(株)、熊本倉庫(株)、東洋樟脳(株)、(株)泗水社各社長等となる○昭和32年欧米各国の議院運営の実情等視察○同31年永年在職議員として表彰○当選(衆)7回(14 16 17 18 19 20 21)(参)3回(1補3 5)

松原一彦　全国選出　自由民主党

明治14年4月生、大分県出身、同35年大分県師範学校卒○大分県及び関東州旅順にて小学校長となり、南満州教育会を創設、同常任理事、東京府視学、同社会教育主事、(財)日本青年館及び大日本連合青年団主事、同部長、選挙粛正中央連盟幹事、同理事、大分県勤労訓練所長等となり衆議院議員当選、国民協同党代議士会長、衆議院決算委員長等歴任、参議院議員当選、参議院懲罰委員長、第3次鳩山内閣の法務政務次官等歴任、弁護士、秋田県農業会議副会長、自民党秋田県連副会長等となる○当選(衆)1回(25)(参)2回(3補5)

松野鶴平　熊本県選出　自由民主党

明治16年12月生、熊本県出身○大正9年以来衆議院議員(当選7回)、犬養内閣の内務次官、米内内閣の鉄道大臣歴任、その間神社制度調査会、議会制度審議会その他各種委員となり、また立憲政友会幹事長(再度)、同総務、自由党筆頭総務、自由党総務、参議院自由党顧問、同議員会長、自由民主党代行委員、参議院自民主党議員会長、参議院議長(当選3回)、熊本電気鉄道(株)、熊本製粉(株)、熊本倉庫(株)、東洋樟脳(株)、(株)泗水社各社長等となる○昭和32年欧米各国の議院運営の実情等視察○同31年永年在職議員として表彰○当選(衆)7回(14 16 17 18 19 20 21)(参)3回(1補3 5)

松原一彦　全国選出　自由民主党

明治14年4月生、大分県出身、同35年大分県師範学校卒○大分県及び関東州旅順にて小学校長となり、南満州教育会を創設、同常任理事、東京府視学、同社会教育主事、(財)日本青年館及び大日本連合青年団主事、同部長、選挙粛正中央連盟幹事、同理事、大分県勤労訓練所長等となり衆議院議員当選、国民協同党代議士会長、衆議院決算委員長等歴任、参議院議員当選、参議院懲罰委員長、第3次鳩山内閣の法務政務次官等歴任、弁護士、秋田県農業会議副会長、自民党秋田県連副会長等となる○当選(衆)1回(25)(参)2回(3補5)

松村秀逸　全国選出　自由民主党

明治33年3月生、熊本県出身、昭和3年陸軍大学校卒○陸軍少将となり、その間野戦砲兵学校教官、陸軍省新聞班員、関東軍、大本営陸軍部各参謀、大本営陸軍部報道部長(2回)、内閣情報局新聞課長、同第二部長、同第一部長、大本営陸海軍部報道部長、中国軍管区参謀長等歴任、終戦後復員、旧軍人関係恩給権擁護全国連会長、同顧問、日本郷友会顧問、参議院法務委員長等となる○(著)「日本の進路」「近代戦争史略」「大本営発表」「三宅坂」「報道部長日記」等○当選(参)1回(4)

松村眞一郎　全国選出　緑風会

明治13年1月生、東京都出身、同39年東京帝国大学法科大学法律学科卒○農商務属兼農商務大臣秘書官等を経て法制局参事官、同書記官、内閣恩給局審査官、行政裁判所評定官、農商務省畜産、商務各局長、農林省水産、農務各局長、農林次官等歴任、また日本競馬会監事、馬政局参与、農林省米穀局顧問、日本米穀(株)理事長、食糧管理局顧問、日本馬事会副会頭、日本輸出農産物(株)社長、ワシントン会議の全権委員随員、貴族院議員、中央馬事会長等となる○在任(貴)(昭8・12―22・5)当選(参)1回(1)

松本治一郎　全国選出　日本社会党

明治20年6月生、福岡県出身、同40年中華民国において民情及び語学研究○全国水平社中央委員長、日本社会党顧問、衆議院議員、初代参議院副議長、日本中国友好協会会長、アジア大平洋地域平和連絡委員会副主席、アジア連帯委員会代表委員、部落解放

全国同盟中央委員長等歴任○昭和29年国会議員使節団として中華人民共和国国慶節に出席、同30年デリーにおけるアジア諸国会議に日本代表団長として出席、その他前後5回にわたり欧州、中近東、アフリカ、アジア各国視察○当選(衆)3回(19 20 21)○(参)3回(1 3 5)

松本 昇 のぼる　全国区選出　自由党

明治19年5月生、神奈川県出身、同42年ニューヨーク大学商科卒、BCSの学位を受ける○ニューヨーク市シンプソンクロフォード商会勤務、帰国後、資生堂支配人、専務を経て同社社長となり、その間日本中小企業連盟副会長、(財)日本粧業会理事長、(財)東京社会保険協会長、(社)全国社会保険協会(連)会長等となる○昭和28年欧米各国の議院運営の実情等視察○(著)「伸びゆくチェーン・ストア」○当選(参)1回(2)○昭和29年6月9日死去

み の部

三浦 辰雄 うらたつお　全国選出　緑風会

明治33年11月生、福島県出身、大正14年東京帝国大学農学部林学科卒○営林局技師、農林技師等となりのち林野局長官、林野庁長官等歴任、緑風会建設部会部長、同風水害対策特別委員会委員長、全国木炭協会、日本漆協会各会長、日本林業協会、全森連、日本林道協会、大日本山林会各副会長、農林中金、林総協、福島県森連各理事等となる○昭和25年FAOアジア太平洋林業大会出席、同28年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)1回(2)
平成元年、三月十七日死

三浦 義男 みうらよしお　全国選出　自由民主党

明治28年1月生、宮城県出身、大正9年東京帝国大学工学部土木科卒○同年鉄道省に入り、その後名鉄局静岡保線事務所長、在外研究員(欧米)、新鉄局工務部長、本省工務局改良、計画各課長、同工務局長、鉄道青英会評議員、興亜技術委員会委員、台湾総督府国土局顧問、鉄道会議幹事、運輸省施設局長、科学技術審議会委員、特別調達庁監事、(財)交通協力会、(社)土木学会各会長、地下鉄、京阪電鉄顧問、参議院決算委員長等となる○当選(参)1回(3)

三木 治朗 みきじろう　神奈川県選出　日本社会党

明治18年4月生、神奈川県出身○海軍工廠、池貝鉄工所、室蘭日本製鋼所等の工員、青島守備軍鉄道部員、東京瓦斯(株)淀橋研究所員、日本労働総同盟製鋼労働組合長、総同盟中央委員、同神奈川県(連)会長、神奈川労働学校長、第3次健康保険審査員、川崎市会議員、中央公職適否審査委員、参議院図書館運営委員長、参議院副議長等歴任、また日本社会党、同党神奈川県(連)、日本労働総同盟神奈川県(連)各顧問等となる○第12回国際労働総会に労働代表随員として参列(ジュネーブ)○当選(参)2回(1 3)

三木與吉郎 みきよきちろう　徳島県選出　自由民主党

明治35年12月生、徳島県出身、大正15年慶応義塾大学高等部卒○衆議院議員、徳島県農業会長、裁判官訴追委員、参議院通信委員長、自由民主党会計監督等歴任、自由民主党徳島支部(連)会長、参議院運輸委員長となるほか、三木産業(株)、徳島バス(株)、阿波製紙(株)、吉野川電線(株)各社長、日本急行バス(株)、南海ゴム(株)各取締役、(財)康楽会理事長等となる○当選(衆)1回(21)(参)2回(3 5)

三島 通陽 みしまみちはる　全国選出　緑風会

明治30年1月生、栃木県出身、学習院修○少年団日本連盟副事長、文部省嘱託、東京連合少年団理事長、大礼使典儀官等歴任、昭和4年以降貴族院議員となり、その間著作権審査委員会委員、映画委員会委員、日本医療団評議員、厚生省委員、文部参与官、宗教方策委員会臨時委員、大東亜省行政委員、国語審議会委員、地方分与税委員会委員、幣原内閣の文部政務次官等となる○在任(貴)(昭4・12―22・5)当選(参)1回(1)

三橋八次郎 みつはしはちじろう　愛媛県選出　日本社会党

明治31年10月生、青森県出身、大正13年東京農業大学高等科卒○同年愛媛県産業技手として県立農事試験場勤務、その後農林技師、農事試験場長、農業改良課長兼農事試験場長、農事講習所長等となる○昭和29年欧米各国の議院運営の実情等視察○(著)「麦類の銹病の防除に関する試験研究」「三橋作物病害論集」等○当選(参)1回(2)

三好 始 みよしはじめ　香川県選出　改進党

大正5年1月生、香川県出身、昭和8年香川県立木田農業学校卒○香川県立飯山農業学校教諭、同香川農業学校教諭、香川青年師範学校教官等となり、その後国民協同党政務調査会副会長、国民民主党政務調査会副会長、三好農村問題研究所長、参議院経済安定委員長等となる○当選(参)1回(1)

三好 英之 みよしひでゆき　鳥取県選出　自由民主党

明治18年8月生、鳥取県出身、同39年早稲田大学政治経済科卒○山陰日日新聞社社長、日本海新聞社創立、同社相談役、山陰実業銀行創立、同行頭取等となり、衆議院議員当選、米内内閣の陸軍政務次官、民政党の党役員、翼賛政治会総務、同会衆議院部長等歴任、また日本再建連盟理事長、第1次鳩山内閣の国務大臣等となる○当選(衆)6回(15 16 17 19 20 21)(参)1回(3)○昭和31年2月14日死去

三輪 貞治 みわさだはる　宮崎県選出　日本社会党

大正2年9月生、宮崎県出身、県立高鍋農学校、宮崎青年師範学校卒○大東亜省嘱託、満州国興農部、満州拓殖公社勤務、開拓団長、宮崎県農民連盟書記長、同委員長、同県農地委員、同県会議員、日本社会党宮崎県(連)会長、党中央執行委員、会計部長、参議院商工委員長等となる○中国、タイ、インドネシア、ビルマ、パキスタン、インド等に外遊○当選(参)1回(2)
昭和63・1・31・死

水久保甚作 みずくぼじんさく　全国選出　自由党

明治17年6月生、宮崎県出身、同38年明治大学法学部卒○同40年裁判所書記となり、その後税務署属、岩川、都城税務署各庶務課長、都城税務署管内酒類販売業組合長、同署管内所得税調委員、都城市農会総代、同市会議員、同市農地委員、大蔵省貯蓄奨励事務嘱託、都市計画委員、衆議院議員、参議院郵政委員長等となる○当選(衆)2回(16 18)(参)1回(1)

水橋藤作 みずはしとうさく　全国選出　労働者農民党

明治28年7月生、東京都出身○大正10年郵便集配員となり、その後逓信事務官、全逓中央執行委員、産別会議中央執行委員、芦田内閣の労働政務次官等となる○当選(参)1回(1)

溝口三郎 みぞぐちさぶろう　全国選出　緑風会

明治26年11月生、長野県出身、大正9年東京帝国大学農学部卒、農学博士○新潟県技師となり、その後青森県耕地課長、農林技師、三本木原開墾国営事務所長、田沢疏水開墾国営事務所長、農林省耕地課長、開拓局第二部長、建設部長、東大講師、第3次吉田内閣の労働政務次官、(財)農業土木研究所理事長、全国農業土木技術連盟顧問等となる○(著)「開拓論」「灌漑排水」「土地改良」等○当選(参)1回(2)

溝渕春次 みぞぶちしゅんじ　大阪府選出　自由党

明治36年6月生、香川県出身、立命館大学法科修○同13年弁護士となり、その後大阪府会議員、自由党大阪府(連)幹事長、同(連)選挙対策委員長、参議院

電気通信委員長等となる○当選(参)1回(1補)

光村甚助　全国選出　日本社会党

明治38年2月生、鹿児島県出身(本籍大阪府)、昭和6年関西大学専門部法科卒○逓信省大阪逓信局に入り、その後郵政事務官、全日本産業別労働組合会議副議長、全逓信従業員組合大阪地区委員長、同近畿地方本部委員長、全逓信従業員組合副委員長、中央物資活用委員会委員等となる○同30年アメリカ国務省の招きにより3カ月間アメリカの社会施設、労働組合等視察、同33年スイス、フランス、イギリス、西ドイツ、イタリア等視察、同35年欧南米諸国における議院運営の実情及び政治経済事情等視察○当選(参)1回(4)

宮城タマヨ　全国選出　緑風会

明治25年2月生、東京都出身、同42年奈良女子高等師範学校博物家事部卒○大原社会問題研究所で社会事業研究、日本婦人協力会委員長、大学婦人協会奨学金委員長、中央青少年問題、売春対策、更正保護各審議会委員、司法保護協会、二葉保育園、日本女子社会教育会各理事、共立女子大評議員、参議院図書館運営委員長等となる○社会教育、少年保護事業研究のため渡米、矯正保護に関する会議(アメリカ)、犯罪予防に関する世界会議(スイス)出席、昭和32年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)2回(1・3)○昭和35年11月19日死去

宮澤喜一　広島県選出　自由民主党

大正8年10月生、広島県出身、昭和16年東京帝国大学法学部卒○同年大蔵省に入り、その後税務署長、大蔵事務官、大蔵、通商産業各大臣秘書官等歴任、参議院議員当選、第2次岸内閣の文部政務次官等となる○対日講和会議、吉田・アイゼンハワー会談、池田・ロバートソン会談、コロンボ会議、同33年列国議会同盟春季会議出席等欧米出張(9回)○当選(参)2回(3・5)

宮田重文　茨城県選出　自由民主党

明治31年3月生、茨城県出身、大正10年早稲田大学政治経済科卒○(株)明治屋丸の内支店次長、太田町長、茨城県町村会長、全国町村会常任理事、第4次吉田内閣の首都建設政務次官、地方制度調査会委員、参議院自由党副幹事長、自由民主党副幹事長、裁判官弾劾裁判所裁判員、栄典制度審議会委員、参議院通信委員長等歴任、また太田水道、関東住宅等各会社の社長、(恩)済生会茨城県会長、早大商議員等となる○昭和31年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察○当選(参)2回(1補・3)

宮本邦彦　全国選出　自由民主党

明治32年9月生、長野県出身、昭和3年九州帝国大学農学部農学科卒○高知県、宮城県各農林技師、興亜院技師、農林技師、矢吹原開墾国営事務所長、農商技師、関東開拓事務所長、農林省東京農地事務局事業部長、同建設部長、全国土地改良協会理事、農業土木学会理事等となる○昭和29年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)1回(2)

武藤常介　茨城県選出　自由民主党

明治23年3月生、茨城県出身、大正2年県立師範学校卒○同県太田町長、同県町村長会長、日本進歩党民情部副部長、改進党副幹事長、同参議院幹事長、日本民主党副幹事長、同参議院幹事長、労働政務次官、自民党総務、副幹事長、国会対策副委員長、両院議員総会副会長、国土総合開発審議会、日本ユネスコ国内委員会各委員、全国木材組合(連)副会長、茨城県林業協会長、同建設協会顧問、同木材協同組合(連)会長、久慈川改修期成同盟会長、武藤建設(株)社長等となる○昭和30年中華民国訪問、同32年欧米各国の議院運営の実情等視察○(著)「労働問題と労働行政」「欧米旅日記」○当選(衆)1回(22)(参)2回(3・5)

向井長年　全国選出　民主社会党

明治43年11月生、奈良県出身、昭和7年日本大学法科卒○同年東邦電力奈良支店入社その後関西電力奈良支店資材課副長、関西地方本部執行委員長、県労組総評議会議長、全国電力労働組合(連)会長、社会党県連顧問等歴任、民主社会党労働対策副委員長、政策審議会産業貿易、原子力各委員長、院内幹事、国会対策委員、同党奈良県連執行委員長等となる○昭和32年第40回ILO総会日本労働代表顧問としてジュネーブ会議出席欧州各国視察、同年AFL、CIO第2回大会に招かれ渡米○当選(参)1回(4補)

村尾重雄　大阪府選出　民主社会党

明治34年10月生、大阪府出身○大正9年友愛会に入り同10年同会大阪支部常任書記、労働農民党、社会民衆党、社会大衆党の各党員、大阪府会、大阪市会各議員、昭和22年議員当選後、参議院人事委員長となり、同34年日本社会党を脱党、民主社会党に入り同大阪府連顧問、全労大阪会議議長、日本労働組合総同盟副会長、全国化学産業労働組合同盟会長、関西労働銀行理事等となる○同29年東南アジア各国の政治経済事情等視察、同32年米国視察○当選(参)3回(1・2・5)

村上義一　滋賀県選出　参議院同志会

明治18年11月生、滋賀県出身、明治45年東京帝国大学独法科卒○大阪鉄道局長、満鉄理事、貴族院議員、幣原内閣及び第3次吉田内閣の運輸大臣、参議院議員運営委員長、皇居造営審議会委員等歴任、憲法調査会委員となる、また私鉄経営者協会、日本自動車会議所各会長、日本通運(株)、近畿日本鉄道(株)各社長、三菱銀行、日本航空(株)各取締役等歴任、日本通運(株)相談役、ラジオ東京、ニューエンパイヤモータース(株)、三愛石油(株)各取締役、日本交通協会副会長、経団連、日本交通公社、日野自動車工業(株)、(株)国際観光会館、大阪商工会議所各顧問、東京滋賀県人会会長等となる○在任(貴)(昭21・6―22・5)当選(参)3回(1・3・5)

村上春藏　大分県選出　自由民主党

明治38年4月生、大分県出身、京城府京城簡易商業学校修○実父経営の土木建築業に入り以来30数年一貫して建築事業に従事、村上建設(株)社長、(社)電力建設協力会理事、(株)白雲山荘、中央工機産業(株)、村上物産(株)各社長、(株)ラジオ大分取締役等となり、また日本自由党大分県支部(連)幹事長、同支部長、自由民主党大分県支部常任顧問等となる○当選(参)1回(5)

村松久義　宮城県選出　自由民主党

明治38年7月生、宮城県出身、大正12年東京帝国大学法学部、同14年経済学部卒○名古屋地方裁判所判事を経て衆議院議員に当選、衆議院農林水産委員長、自由民主党総務、日本民主党政務調査会副会長、同厚生部長、自由民主党基本問題調査会第三部長、米価審議委員会委員、日ソ漁業対策協議会会長、

長、アジア農業技術交流協会会長、積雪寒冷単作地帯振興対策審議会委員等となる○当選(衆)6回(18 19 20 21 25 27)(参)1回(5)

村山道雄 山形県選出 自由民主党

明治35年3月生、山形県出身、大正14年東京帝国大学法学部政治学科卒○朝鮮総督府事務官、拓務事務官、企画院書記官、内閣参事官、関東信越総監府参事官、山形県知事(官選)等歴任、また同県知事当選(2回)、東北7県知事会会長、国土総合開発審議会、食糧対策審議会、人口問題審議会、東北開発審議会各委員、山形県柔道連盟会長等となる○知事代表としてアメリカ合衆国を視察○(著)「歌集山形」「私はアメリカ合衆国旅行で何を学んだか」(英文)○当選(参)1回(5)

昭和56、12、10、死去 79才

もの部

最上英子 群馬県選出 自由民主党

明治35年12月生、長野県出身(本籍群馬県)、大正8年和洋女子大学旧専科卒○昭和21年以降衆議院議員、同28年以降参議院議員当選、その間群馬県婦人厚生協会会長、内閣中央社会事業委員、改進党郵政部長、同参議院議員総会副会長、裁判官弾劾裁判所裁判員予備員、日本民主党婦人局次長、同通信部長、同政務調査会副会長、自由民主党婦人局長(2回)、同参議院副幹事長、同社会部副部長、群馬県総合開発審議会、同県観光協会各顧問、第1次岸内閣の郵政政務次官等歴任、また蚕糸業振興審議会委員となる○当選(衆)2回(~~21~~ 22 23)(参)2回(35)

基政七 全国選出 民主社会党

明治36年2月生、福岡県出身○大正6年三菱神戸造船所に入社、戦後同所労働組合結成と同時に委員長となり、その後三菱重工労働組合(連)委員長、昭和25年中日本(新三菱)重工業の設立と同時に同労働組合委員長、兵庫県地方労働委員会委員、中央労働委員会委員(2期)、中央賃金審議会委員(2期)、全国造船労働組合総連合委員長、同34年総同盟会長、新三菱重工労働組合委員長となり同年同組合辞任後顧問となる○同30年英国政府の招きにより渡英、英国及び欧州諸国の労働事情視察、同32年生産性派米団長として米国労働事情視察○当選(参)1回(5)

昭和40 61、3、9、死去 83才

森元治郎 茨城県選出 日本社会党

明治40年2月生、茨城県出身、昭和5年青山学院英語師範科卒○同年新聞連合社に入りついで同盟通信社政治部記者として専ら外交軍事面を担当、ポーランド国ワルソー支局長、ヨーロッパ特派員、編集局整理部、政治部各次長、航空部長、外務省嘱託、終戦後同盟通信社解散に伴い共同通信社論説委員となり、その後日本社会党水戸支部長、片山首相秘書官、時事通信社社友、日本社会党茨城県連会長、日波協会会長等となる○昭和35年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)1回(4)

森八三一 全国選出 参議院同志会

明治32年8月生、愛知県出身、大正6年愛知県立安城農林学校卒○栃木県、長野県各産業組合課長、全購販連農産課長、全国農業会農産局長、資材局長、全国販売農業協同組合(連)参事等歴任、議員当選後、参議院農林委員長となり、また日本藁工品統制(株)常勤理事、愛知県農業協同組合中央会会長、全国農業協同組合中央会理事、米価審議会委員、緑風会総務委員、選挙対策委員長、参議院同志会政務部長等となる○昭和30年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察○当選(参)2回(24)

森崎隆 香川県選出 日本社会党

明治37年2月生、香川県出身、昭和4年京都帝国大学文学部英文科卒○同年香川県女子師範教諭となり、その後同県立坂出高等学校、同県高松第一中学校各教諭、同校長事務取扱、高松市立高等女学校長、高松第二高等学校長、高松市教育部長、香川県教職員組合中央執行委員長、日本社会党香川県支部(連)会長、参議院水産委員長等となる○当選(参)1回(2)

森下政一 大阪府選出 日本社会党

明治28年3月生、大阪府出身、大正5年早稲田大学商科卒、米国留学○同14年関西大学講師となり、その後、同教授、大阪市財務部長、同市助役、芦田内閣の大蔵政務次官、日本社会党大阪府支部(連)委員長、大阪ダイハツ(株)相談役等となる○昭和31年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察○当選(参)2回(13) 昭和32年3月5日死去

森田豊壽 静岡県選出 自由民主党

明治28年2月生、静岡県出身、大正5年千葉高等園芸学校卒○沼津市農会長、県信用組合(連)会長、沼津市信用組合長、全国乾繭組合(連)常務理事、県信用販売購買利用組合(連)、県農業会、沼津市農業会、全国農業会、日本茶業協会、県農業協同組合協会各会長、沼津市会議長、衆議院議員、自由党静岡県支部長、経済審議政務次官、自由党静岡県支部選挙対策委員長等歴任のほか農林中金理事、沼津市農協組合長その他農林関係各種団体の役員、静岡県蚕糸(株)社長等となる○当選(衆)1回(22)(参)2回(13)

森田義衛 全国選出 自由民主党

明治36年11月生、東京都出身、昭和4年京都帝国大学経済学部卒○同年鉄道省に入り、その後、岡崎駅長、下関運輸事務所長、札幌鉄道局業務部長、企画院書記官、運輸通信省企画局課長、東京鉄道局業務部長、運輸省配車課長、新潟鉄道局長、日本国有鉄道運輸支配人、東京鉄道管理局長、日本国有鉄道理事、関東総支配人、鉄道建設審議会委員、日本交通文化協会理事、参議院建設委員長等となる○同31年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察○当選(参)1回(3)

昭和57、10、24、78才

森中守義 熊本県選出 日本社会党

大正8年10月生、熊本県出身、昭和13年逓信講習所卒○逓信局書記補、同書記、同事務官、郵政事務官となり無線検査、放送、監督等に従事、また文官として海軍に従軍、同31年退官、戦後労働運動に参加、全逓中央執行委員、産別常任幹事、全逓熊本地区委員長、熊本県総評議長等に選任され、議員当選後、離島振興審議会委員等歴任、また党院内幹事、国会対策委員、政審逓信部長、沖縄対策副委員長、水俣病対策委員会事務局長等となる○同34年米、英をはじめ西欧諸国視察○当選(参)1回(4)

やの部

八木幸吉　全国選出　第十七控室

明治28年2月生、大阪府出身、大正6年慶応義塾大学理財科卒○鐘淵紡績(株)入社、その後実業同志会理事、衆議院議員となり、また時事新報社の経営に協力、鐘紡兵庫工場長、南米拓殖(株)監査役、大日本蚕糸会評議員、全国製糸業組合(連)製糸業更生特別委員、日本中央蚕糸会生糸格付委員、兵庫県工業会副理事長、同労働委員長、(株)八木商店顧問、(社)国民会館理事等となる○大正8年中国の綿業視察、第1回国際労働会議傍主側代表武藤山治秘書として渡米、同10年欧米の絹業、社会福祉施設視察○当選(衆)1回(17)(参)2回(13)

八木秀次　全国選出　緑風会

明治19年1月生、京都府出身、同42年東京帝国大学電気工学科卒、独英米各国留学、工学博士○東北帝大、大阪帝大各教授、東京工業大学長、技術院総裁、大阪帝大総長、大阪大学名誉教授、日本学術会議、日本学士院各会員等歴任、日本発明ブール(株)、八木アンテナ(株)各社長、民主社会主義連盟会長等となる○学術会議出席のため外遊(3回)、昭和30年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察○同30年文化勲章受章○(著)随筆集2○当選(参)2回(2補3再)

矢嶋三義　全国選出　日本社会党

明治44年11月生、大分県出身、昭和8年九州帝国大学附設教員養成所数学科卒○下野、宇都宮、八女、長崎、熊本各中学、熊本高校等勤務、熊本県教組委員長、熊本県教育会会長等歴任、参議院水害地緊急対策特別委員長、台風常襲地帯対策、畑地農業改良促進対策、離島振興対策各審議会委員、社会党統制委員、党政審内閣文教決算各部長、朝鮮問題対策特別委員会副委員長、党熊本県(連)顧問、日政連幹事等となる○同29年東南アジア各国視察、同30年列国議会同盟会議出席、欧米各国視察○当選(参)2回(24)

矢野酉雄　全国選出　緑風会

明治30年10月生、福岡県出身、大正6年福岡師範学校卒、中央大学法科、日本大学高等師範科修○同年福岡県三池郡下各尋常小学校訓導となり、その後、沖縄県女子師範学校教諭兼訓導兼同県立高等女学校教諭、鹿児島県第二師範学校教諭兼訓導、福岡県立嘉穂中学校教諭、同県実業補習学校視学員、全国教育用品協会理事長、真生活国民運動本部理事長、第2次吉田内閣厚生政務次官等となる○当選(参)1回(1)

谷村貞治　岩手県選出　自由民主党

明治29年3月生、岩手県出身、大正5年神田電気学校卒○昭和12年蒲田区に新興製作所創立、同20年戦災により工場焼失し岩手県花巻市に工場疎開、同27年渡米、米国ウエスタン・エレクトリック会社と技術協定、電気通信機器及び装置を製造販売、谷村学院及び谷村学院高等学校経営、岩手県政顧問、県総合開発審議会委員、県経営者協会長、県体育協会長、県神社総代会長、県遺族会名誉会長、県消防協会、県社会福祉協議会各顧問、花巻商工会議所会頭、岩手医大理事等となる○(著)「白秩荘随談」○当選(参)1回(5)

安井謙　東京都選出　自由民主党

明治44年3月生、岡山県出身、昭和10年京都帝国大学経済学部卒○満鉄参事、大蔵省主計局嘱託、東京都知事秘書役を経て参議院議員当選、自由党副幹事長、第5次吉田内閣の労働政務次官、自由民主党総務、首都圏整備委員、参議院議院運営委員長等歴任、参議院自由民主党幹事長、自由民主党東京都支部(連)副会長、東京都国民健康保険団体(連)理事長、日本教育テレビ、東京タワー各取締役、東京都相撲連盟、東京自転車競技連盟各会長、東京都食品協会等各種団体役員等となる○同27年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察○当選(参)2回(24)

安田敏雄　山梨県選出　日本社会党

明治42年8月生、山梨県出身、昭和2年都留中学校卒○谷村町町営電気部入所(以後東電となる)以来関東配電労組大月分会委員長、南都留労協委員長、東電労組県支部執行委員等労働運動に専念、同5年社会運動研究会「黎人荘」を創設、主幹となり、その後社会大衆党、日本社会党に入り同22年山梨県会議員(2期)、同県会副議長、社会党県連政審会長、同県連書記長(5選)、同顧問、山梨県産業教育審議会長、同県人権擁護委員会常任理事等歴任、またノンプロ柱倶楽部主将(球歴25年)、山梨県ノンプロ野球協会副会長等となる○当選(参)1回(5)

柳川宗左衛門　全国選出　緑風会

明治28年7月生、茨城県出身、大正2年東京都京北中学校卒○大正6年柳川信購販買組合(連)に入り、その後、茨城県購買組合(連)副会長、全国購買組合(連)理事、同専務理事、全国農業会長、農林中央金庫理事等となる○当選(衆)1回(1)(参)1回(21補)

山県勝見　兵庫県選出　自由民主党

明治35年2月生、兵庫県出身、大正14年東京帝国大学法学部卒○辰馬汽船取締役、辰馬海上火災社長となり、その後参議院議員当選、第3次吉田内閣の厚生各大臣歴任、新日本汽船(株)社長、興亜海上火災運送保険(株)会長、日本産業協会、日本経営者団体連盟、経済団体(連)各役員、海事協会、海上保安協会、日本貿易協会、辰馬育英会、甲陽学院各理事、海事文化研究所理事長、神戸商工会議所顧問、参議院運輸委員長等となる○昭和30年列国議会同盟会議出席及び欧米各国の議会制度視察○当選(参)1回(2)

山川良一　全国選出　緑風会

明治24年6月生、長崎県出身、大正4年九州帝国大学工科大学採鉱学科卒○同年三井鉱山(株)に入り、その後山野鉱業所長、砂川鉱業所長を経て同社常務取締役、同社長となりその間日本石炭協会会長、全国炭鉱管理委員会委員、経済団体(連)、日本経営者団体連盟各理事、東京商工会議所議員、日本石炭協会顧問、参議院外務委員長等となる○当選(参)1回(2)

山口重彦　全国選出　日本社会党

明治27年9月生、東京都出身、東京府立工芸学校精密機械科卒○ダット自動車工場技師を経て、大正3年墨田区吾嬬町に山口自転車工場を創設、東京自転車工業組合理事、東京市少年職業委員、全国自転車業組合(連)、東京市工業指導所各評議員、協調会中小企業講座講師、厚生省労務管理調査委員、日本自転車工業会顧問、(株)山口自転車工場取締役社長等となる○二回にわたり米、英、仏、独、伊、ソ連等十カ国視察し、工場管理事情を調査研究○(著)「中小企業の組織化と近代化」「日本自転車工業の将来」「日本の生きる道」○当選(参)2回(35)

山崎恒　千葉県選出　改進党

明治34年7月生、千葉県出身、大正8年茂原農学校卒○匝瑳村農業会長、同村産業組合長、千葉県農会議員、同県信用販売購買(連)専務理事、同県食糧営団理事、同県農業会長、全国販売農業協同組合(連)会長、中央蚕糸協会理事、全国乾繭協同組合(連)副会長、全国農業共済協会、農民教育協会、千葉県農業協同組合(連)各理事、同県農業共済保険組合(連)会長、東邦海運(株)、共栄海上火災保険(相)、関東いすず自動車販売(株)各取締役、いすず産業(株)社長、参議院農林委員長等となる○当選(参)1回(1)

山下義信　広島県選出　日本社会党

明治27年3月生、広島県出身、昭和12年真宗学寮卒、学階授与○本願寺僧籍に入り後戦災児育成所設立、参議院厚生委員長、最高裁判所裁判官国民審査管理委員長、社会保障制度審議会総合委員長等歴任、また社会党統制委員、海外戦没者慰霊委員会副委員長、遺族援護会副会長、生活改善協会顧問、原爆遺児後援会長、童心寺住職等となる○米国の社会保障制度視察のため渡米、昭和32年東南アジア各国の政治経済事情等視察○当選(参)2回(13)

山田佐一　愛知県選出　自由党

明治19年7月生、愛知県出身○大正8年知多郡会議員となり、その後同参事会員、愛知県会議員、同参事会員、知多白木綿同業組合長、知多綿布工業組合顧問、半田商工会議所議員、日本織物中央会副会頭、日本小巾白生地工業組合(連)会長等となり、また半田市会議員、同市会議長、衆議院議員等歴任、参議院議員当選後、第3次吉田内閣の賠償政務次官、参議院郵政、予算、議院運営各委員長等となる○当選(衆)2回(18・19)(参)1回(1)○昭和35年4月2日死去

山田節男　広島県選出　民主社会党

明治31年12月生、広島県出身、大正12年東京帝国大学経済科卒、昭和5年オックスフォード大学政経科卒○国際労働機関(ILO)調査官、東京市社会局及び電気局嘱託、日本女大、明治学院講師、陸軍司政官、日本労働総同盟副会長兼国際局長、日本社会党本部国際局長、全駐留軍労働組合会長、参議院労働、決算各委員長、日英文化協会、日本ユースホステル協会、世界連邦日本国会委員会事務総長、日本ユネスコ国内委員会委員、民社党政策審議会副会長、同県連会長等となる○列国議会同盟等国際諸会議に国会及び党代表として参列、欧、南北米、ソ連中共、東南アジア外遊13回○(著)「貧苦の人々を護りて」等○当選(参)3回(124)

山内卓郎　愛知県選出　緑風会

明治31年4月生、愛知県出身、慶応義塾大学理財科修○三河セメント(株)社長、セメント(連)理事、セメント販売統制会比率委員長、セメント改善委員会委員長等歴任、東海セメント、南海炭鉱、南海汽船、南海興業、南方セメント工業、台湾重工業等の諸会社創立各代表取締役、セメント共販(株)監査役、華北洋炭股份有限公司董事、中部軽合金、大豊炭鉱、富士セメント、東洋産業、浜名湖観光汽船、中部不動産各会社社長等となる○当選(参)1回(1)

山花秀雄　全国選出　日本社会党

明治37年3月生、兵庫県出身○大福ゴム工業所、阪東式調帯(資)等のゴムネリロール職工となり、後労働農民党常任中央執行委員、日本労働組合総評議会常任中央執行委員、全国労働大衆党国際部長、日本労働組合全国評議会書記長、日本無産党本部常任委員、日本労働組合総同盟副会長、日本社会党労働部長、衆議院議員、総同盟中央執行委員、政治部長、全国化学産業労働組合同盟会長等となる、昭和27年以降衆議院議員当選○セイロンにおけるILOアジア地域会議に日本労働者代表として出席○当選(衆)6回(22補・23・25・26・27・28)(参)1回(1補)

山本伊三郎　全国選出　日本社会党

明治39年1月生、大阪府出身、昭和10年関西大学専門部卒○同21年以降大阪市職委員長(9期)、同30年以降全日本自治団体労働組合中央執行委員長(3期)、日中友好協会理事、大阪労組生協理事長、大阪労金理事、自治労中央執行委員長等となる○同29年中華人民共和国を視察○当選(参)1回(5)

山本杉　全国選出　自由民主党

明治35年8月生、石川県出身(本籍新潟県)、大正12年東京女子医学専門学校卒、医学博士○医師開業のかたわら慶大医学部助手、結核研究所員等を経て婦人運動、青少年指導等社会教育に挿身、宝仙短大教授、中央教育、人口問題各審議会委員、全日本母性

連盟会長、日本女医会理事、全日本仏教会常務理事、全日本仏教婦人連盟理事長等となる○世界仏教徒会議に日本代表としてインド、ビルマ、タイ、ネパール、バンコック等へ、英国医師会の招きにより原爆被害講演のため渡欧○(著)「性の指向するもの」「純潔教育」「私に夫を」「母のねがい」○当選(参)1回(5)

山本經勝　福岡県選出　日本社会党

明治37年11月生、愛媛県出身、日吉村高等小学校卒○昭和3年全国農民組合愛媛県南予地方協議会青年部長となり、その後農民運動に従事、その間治安維持法違反として5年間投獄され、同12年福岡県遠賀郡日本炭鉱遠賀鉱業所に坑内夫として入所、終戦後、日炭高松炭鉱労働組合書記長、日本炭鉱労働組合福岡地方本部執行委員長、同労組九州地方本部執行委員長、福岡地方労働委員会委員、日本炭鉱労働組合政治局員等となる○当選(参)2回(2補・4)昭和33年7月8日死去

山本利壽　島根県選出　自由民主党

明治29年11月生、島根県出身、大正12年関西学院文学部卒、同13年米国留学、加州大、南メソジスト大、コロンビア大学院各卒○昭和4年帰朝、関西学院大講師、同18年陸軍司政官マレー軍政監部付、同24年、31年衆議院議員当選、民主党渉外部長、改進党総務、代議士会副会長、自民党外交部長、総務等歴任、同33年参議院議員当選、同院商工委員長、自民党政策審議会商工部長等となる○同32年衆議院議員当選○同34年岸首相に随行、中南米諸国訪問○当選(衆)2回(24・27)(参)1回(4補)

山本勇造　全国選出　緑風会

明治20年9月生、東京都出身、大正4年東京帝国大学ドイツ文科卒○大正12年早大講師となり、その後明大文芸課長、内務省著作権審査委員、文部省日本語教科用図書調査会委員、臨時中央協力会議職域代表議員、帝国芸術院会員、軍事保護院専門委員、文部省委員、文部省国語審議会委員、貴族院議員等歴任、参議院文化、文部各委員長等となる○在任(貴)(昭21・5―22・5)当選(参)1回(1)

山本米治　愛知県選出　自由民主党

明治35年2月生、愛知県出身、大正15年東京帝国大学法学部卒○同年日本銀行入行、滞欧2回満8年、日銀総裁代理としてバーゼル国際決済銀行理事、昭和20年ベルリン郊外にてソ連占領下に入り、シベリア経由帰国、日銀調査局長、同名古屋支店長、同理事、経済安定本部副長官等歴任、第4次吉田内閣の大蔵政務次官、参議院法務委員長等となる○同32年コロンボ会議に政府代表顧問として出席、同33年欧米各国の議院運営の実情等視察、同35年列国議会同盟会議出席○(著)「為替管理論」等、金融経済関係の著書数種○当選(参)2回(24)

大和与一　群馬県選出　日本社会党

明治41年12月生、石川県出身、昭和9年早稲田大学専門部卒○朝鮮総督府鉄道局勤務、同20年終戦により引き揚げ、日本国有鉄道高崎鉄道管理局勤務、同22年より労働組合運動に挺身、国鉄労組高崎支部委員長、同高崎地方本部委員長、同中央執行副委員長、同中央執行委員長、群馬県労働委員、労働基準委員、報道委員、経済安定審議会委員、群馬地方労働組合評議会議長等歴任、日本社会党群馬県支部(連)会長、同党中央執行委員、労働部長、参議院運輸委員長、国鉄労働組合顧問、全日本農民組合国会議員団幹事等となる○欧州、中国、ソ連、東欧視察○当選(参)2回(35)

昭和六十三年四月二十九日記之
毎日新聞は、ヨシズとオナアリ
朝日新聞は、ヨイチ。

ゆの部

油井賢太郎　福島県選出　自由党

明治39年3月生、福島県出身、大正14年横浜商業学校卒○同年横浜正金銀行に入り、その後福島栄町郵便局長、(株)九篭機業場監査役、福島絹織物元配給(株)常務取締役、福島絹人絹織物元配給(株)常務取締役、福島県繊維品価格査定委員会第一部長、(株)油井商店、(株)不二各取締役、福島県織物元配給(株)社長、信夫精器(株)、福島絹業(株)各取締役、中央防火塗装(株)社長等となり、また参議院地方行政委員長となる○当選(参)1回(1)

湯澤三千男　栃木県選出　自由民主党

明治21年5月生、栃木県出身、同45年東京帝国大学法科卒○同年内務省に入り、その後同省衛生局保健課長、社会局保険、労働各部長、同省土木局長、宮城、広島、兵庫各県知事、内務次官(2回)、東条内閣の内務大臣、貴族院議員等歴任、日本体育協会副会長、大日本産業報国会理事長、能楽協会会長、中央社会保険医療協議会会長、国立競技場運営委員、新市町村建設促進中央審議会会長、明治神宮復興奉讃会理事長等となる○在官中、衛生事情及び健康保険制度調査並びに国際労働会議政府代表として欧米出張(2回)○(著)「支那に在りて思ふ」「天井を瞰る」「出入無事」○在任(貴)(昭18・4―21・2)当選(参)1回(5)

湯山　勇　愛媛県選出　日本社会党

明治45年1月生、愛媛県出身、昭和6年愛媛県師範学校卒○同年小学校教員となり、その後高等女学校、中学校各教員、愛媛県視学員、高等学校教員、愛媛県教員組合中央執行委員長、愛媛全官公労働組合連絡協議会会長、愛媛地方労働組合評議会会長、愛媛学校体育会会長、参議院文教委員長等となる○同31年欧米各国の議院運営の実情等視察○当選(参)1回(3)

結城安次　茨城県選出　緑風会

明治17年10月生、茨城県出身、同44年東京帝国大学法科大学法律科卒○同年三井物産会社に入り、その後逓信大臣秘書官、議会制度審議会委員、貴族院議員等歴任、参議院逓商産業委員長となり、また東京電力(株)常務取締役、大井川鉄道会社、自動車鋳物会社各社長、石炭増産協力会副委員長等となる○第9回国際連盟総会帝国使節団員としてジュネーブに派遣される○当選(参)1回(4)

横川正市　全国選出　日本社会党

大正4年1月生、北海道出身、昭和4年旭川師範附属小学校卒○郵政省事務官、全逓旭川郵便局支部支部長、全逓北海道地区本部副委員長、全逓中央本部書記長、副委員長、中央執行委員長、日本官公庁労働組合協議会議長、PTT評議員等歴任、全逓、全電通労組顧問等となる○同28年及び30年郵便、電信電話、ラジオ連合の国際会議出席のため欧州に出張、各国の労働経済事情視察○(著)「五つの大陸をつなぐ」○当選(参)1回(4)

横川信夫　全国選出　自由民主党

明治34年8月生、栃木県出身、大正14年東京帝国大学農学部林学科卒○同年営林局技手となり、その後営林署長、農林技師、満州国林野局技正、営林局長、林野総局林産処長、東満総省林政庁長、林野庁指導部長、林野庁長官、議員当選後第1次岸内閣の法務政務次官等歴任、栃木県自由民主党県連副会長、全国木炭協会副会長、全国森林組合(連)、治山治水協会各顧問等となる○昭和31年欧米各国の議院運営の実情等視察○当選(参)1回(3)

横山フク　全国選出　自由民主党

明治40年2月生、東京都出身、昭和31年日本大学法学部卒○東京都板橋区に助産婦開業、板橋区議会議員、保健婦助産婦看護婦審議会委員、議員当選後、第2次岸内閣の科学技術政務次官等歴任、日本助産婦会会長、東京都国民健康保険組合(連)副理事長等となる○同29年及び32年ICM総会に出席後、欧州各地の保健衛生施設等視察、同33年欧米各国の議院運営の実情等視察○当選(参)2回(35)

吉江勝保　山梨県選出　自由民主党

明治33年4月生、山梨県出身、昭和2年東京帝国大学法学部卒○同年内務省に入り、その後内務省大臣官房勤務としてジャワに派遣され、ジヤカルタ特別市長、ケデリ州長官等歴任、終戦とともに収容され、同21年内地帰還、同22年初代公選山梨県知事、同27年衆議院議員当選、自民党全国組織委員会副委員長兼労働局長、自民党総務、広報委員会副委員長、文教調査会副会長、対外経済援助特別委員会副委員長、山梨県連最高委員、参議院内閣委員長等となる○同33年日本インドネシア平和条約の調印式に外務大臣顧問として渡イ○当選(衆)1回(25)(参)1回(4)

吉川末次郎　東京都選出　日本社会党

明治25年12月生、京都府出身、大正7年同志社大学政治科卒、アメリカ・コロンビア大学政経部大学院修、ドイツ留学○ロイテル通信記者、日米時報主筆、帝都復興院嘱託、東京市政調査会研究員等となり、以来社会運動に従事、参議院治安及び地方制度委員長等となる○(著)「マルクス主義と社会主義」「民衆外交論」「住宅政策研究」「国家論及世界政策」「国家論及世界政策」等○当選(参)1回(1)

吉田萬次　全国選出　無所属クラブ

明治25年3月生、愛知県出身、大正6年愛知県立医学専門学校卒、医学博士○同10年一宮市会議員当選、同市会議長、愛知県会議員、同県会議長、一宮市長、一宮女子学園園長、一宮短期大学学長等となる○当選(参)1回(3)昭和33年12月21日死去

吉田法晴　福岡県選出　日本社会党

明治41年3月生、福岡県出身、昭和11年同志社大学法学部法律学科卒○同年日本炭礦(株)高松炭礦入社、のち福岡県会議員、日本社会党福岡県連組織局長、(左派)社会党福岡県連委員長、党中央執行委員、党軍事基地反対闘争委員長、党日中国交回復特別委員会副委員長、日本社会党中央執行委員、日中友好協会副理事長、部落解放同盟中央委員、参議院人事委員長等となる○同28年アジア諸国民会議、AA会議臨席、中国訪問(3回)、同32年中国国慶節に招かれ、日中国交回復共同コミュニケに調印、同34年列国議会同盟会議出席及び欧米各国議会制度視察○(著)「鉱業法概説」「珪肺法」○当選(参)3回(1補35)

吉武恵市　山口県選出　自由民主党

明治36年2月生、山口県出身、昭和3年東京帝国大学卒○同年内務省に入り、その後厚生省勤労局庶務課長、東京都人事課長、富山県知事、厚生省労政局長を経て同22年労働省設立とともに労働事務次官となり、翌年退官し自由党に入党、衆議院議員当選、自由党政務調査会長、第3次吉田内閣の労働大臣、厚生大臣、参議院社会労働委員長等となる、また日本労働研究所長、全国無煙炭鉱協議会会長、大嶺無煙炭鉱(株)社長等となる

○同13年ジュネーブにおける第24回国際労働総会に政府顧問として渡欧、同26年サンフランシスコにおける講和会議に全権代理として出席○当選(衆)3回(24・25・26)(参)1回(5)

吉野信次（よしのしんじ）　宮城県選出　自由民主党

明治21年9月生、宮城県出身、大正2年東京帝国大学法科卒○同年農商務属となり、その後商工省工務局長、商工次官、東北興業総裁、東北振興電力社長、第1次近衛内閣の商工大臣、満州重工業開発副総裁、満州軽金属理事長、満州国顧問、愛知県知事、商工省顧問、貴族院議員等歴任、参議院議員当選後、参議院商工委員長、第3次鳩山内閣の運輸大臣等となり、また日本団体生命、東北放送取締役会長等となる○欧米出張○(著)「労働法制講話」「我国産業の合理化」「日本工業政策」等○在任(貴)(昭13・12―21・2)当選(参)1回(3)

吉松喬（よしまつたかし）　全国選出　緑風会

明治30年5月生、福岡県出身、大正11年東京帝国大学法学部法律学科卒○同年鉄道省に入り、その後各課長、札幌鉄道局長、東京鉄道局長、陸運総局長、全国自動車運送事業組合(連)会長等となる○当選(参)1回(1)

米倉龍也（よねくらたつや）　長野県選出　国民民主党

明治18年8月生、長野県出身○長野県信用組合(連)会長となり、後衆議院議員、協同民主党中央常任委員等歴任のほか、長野県購買販売利用組合(連)、同県農業会各会長、同県食糧営団、同県繊維産業協会、同県衣料製品統制組合、同県農業保険組合(連)各理事、同県組合金融協会副会長、同県物産販売協会、同県織物統制組合等の監事、故藁工品統制協会、長野県青果物出荷組合(連)等の会長、新興産業(株)、長野県衣料製品(有)各監査役、農山漁村文化協会長野県支部長、長野県実業教育振興会副会長等となる○北海道教職員組合委員長在職中、日本教育視察団として新中国視察○当選(参)1回(5)

米田勲（よねたいさお）　北海道選出　日本社会党

大正3年3月生、北海道出身、北海道空知郡栗沢南小学校校卒○北海道小学校、三笠中央中学校に勤務、敗戦後結成された北海道教職員組合本部役員として引き続き専従、その後北教組中央執行委員長(3期)、全北海道労働組合協議会議長(2期)等歴任、道炭労準政治局員、日本社会党北海道(連)組織部長、同選挙対策事務局長、同顧問、日本社会党組織副部長等となる○北海道教職員組合委員長在職中、日本教育視察団として新中国視察○当選(参)1回(5)

米田正文（よねだまさふみ）　全国選出　自由民主党

明治37年8月生、福岡県出身、昭和3年九州帝国大学工学部土木科卒、工学博士○内務技師、安東省建設庁長、奉天省交通庁長、建設省近畿地方建設局長、河川局長、建設技監、建設事務次官、国際連合アジア極東経済委員会第11回総会日本政府代表代理、エカフェ道路研究会議長、国土総合開発、鉄道建設、首都圏整備、科学技術等各種審議会委員、学術会議会員、土木学会会長、国土建設研究所所長等となる○国際灌漑排水委員会出席及び視察のため北阿、欧州各国に出張、エカフェ内陸運輸委員会出席及び視察並びに技術協力のため東南アジア各国歴訪○当選(参)1回(5)

昭和59・6・20・死去・79才

わの部

和田博雄（わだひろお）　全国選出　日本社会党

明治36年2月生、京都府出身、大正14年東京帝国大学法学部英法科○同15年農林属となり、その後農林事務官、内閣調査局調査官、対満事務局、企画庁調査官、企画院書記官、農林書記官、大臣官房調査課長、企画院事務官、対満事務局事務官、興亜院事務官、農林省農政局長、第1次吉田内閣の農林大臣等歴任、参議院議員当選、片山内閣の国務大臣、経済安定本部総務長官、参議院予算委員長、中央農地委員会委員等となる、昭和27年以降衆議院議員当選○当選(衆)4回(25・26・27・28)(参)1回(1)

若木勝蔵（わかきかつぞう）　北海道選出　日本社会党

明治30年1月生、北海道出身、大正5年札幌師範学校本科第一部卒○同年北海道訓導となり、その後札幌師範学校訓導、小樽市潮見台小学校長、札幌市中央創成小学校長、同西創成小学校長、北海道教員組合中央執行委員長、北海道教育会副会長、参議院文部委員長、北海道総合開発審議会委員、北海教育評論社取締役会長等となる○昭和30年欧米各国の議院運営の実情等視察○当選(参)2回(1・2)

渡邊甚吉（わたなべじんきち）　岐阜県選出　緑風会

明治39年12月生、岐阜県出身、昭和5年東京商科大学本科卒○岐阜市学務委員、農商省民情委員、貴族院議員等歴任のほか、岐阜信託(株)、(株)岐阜貯蓄銀行、(株)十六銀行、港北土地(株)、西武鉄道(株)各取締役、有隣生命保険(株)、金城工業(株)各社長、岐阜商工会議所会頭、(株)朝比奈鉄工所監査役、岐阜県農業会長、大日本教育会岐阜県支部顧問、(株)浩栄社社長、日東化学工業(株)取締役、日本観光(株)監査役等となる○在任(貴)(昭14・9―22・5)(参)1回(1)

索

引

貴族院議員名鑑索引

皇族議員

嘉仁親王……一
裕仁親王……一
雍仁親王……一
宣仁親王……一
崇仁親王……一
爗仁親王……一
晃親王……一
彰仁親王……一
貞愛親王……二
朝彦親王……二
能久親王……二
威仁親王……二
載仁親王……二
依仁親王……二
邦憲王……二
菊麿王……二
邦彦王……二
守正王……三
多嘉王……三
博恭王……三
邦芳王……三
恒久王……三
成久王……三
裁仁王……三
鳩彦王……三
稔彦王……三
輝久王……四
博義王……四
武彦王……四
正憲王……四
芳麿王……四
朝融王……四
博忠王……四
邦久王……四
春仁王……五
藤麿王……五
博信王……五
萩麿王……五
茂麿王……五
恒徳王……五
永久王……五
邦英王……五
博英王……五
孚彦王……五
盛厚王……五
家彦王……六
彰常王……六
邦壽王……六
徳彦王……六
治憲王……六

公爵議員

伊藤博邦……六
伊藤博文……六
伊藤博精……六
一條實孝……七
一條實輝……七
岩倉具定……七
岩倉具榮……七
大山巖……七
大山柏……七
桂太郎……七
桂廣太郎……七
九條通實……八
九條道孝……八
九條道秀……八
近衞篤麿……八
近衞文麿……八
毛利元道……八
毛利元德……八
毛利元昭……八
松方正義……八
松方巖……九
二條基弘……九
二條弼基……九
二條厚基……九
德大寺實則……九
德大寺實厚……九
德大寺公弘……九
德川慶光……九
德川慶久……九
德川慶喜……一〇
德川圀順……一〇
德川家正……一〇
德川家達……一〇
鷹司熙通……一〇
鷹司信輔……一〇

侯爵議員

山縣伊三郎……一一
山縣有朋……一一
毛利元道……一一
毛利元德……一一
毛利元昭……一一
松方正義……一一
二條基弘……一一
二條弼基……一一
二條厚基……一一
德大寺實則……一一
德大寺實厚……一一
德大寺公弘……一一
德川慶光……一一
德川慶久……一一
德川慶喜……一二
德川圀順……一二
德川家正……一二
德川家達……一二
鷹司熙通……一二
鷹司信輔……一二
淺野長勳……一三
淺野長武……一三
淺野長之……一三
井上馨……一三
井上勝之助……一三

井上三郎……一三
伊藤博文……一三
池田章政……一三
池田仲博……一三
池田宣政……一三
池田詮政……一三
大炊御門幾麿……一三
大炊御門經輝……一三
大久保利謙……一三
大久保利武……一三
大久保利和……一三
大隈重信……一三
大隈信常……一三
大隈信幸……一三
大山巖……一四
音羽正彥……一四
花山院親家……一四
華頂博信……一四
桂太郎……一四
木戸幸一……一四
木戸孝正……一四
菊亭公長……一四
菊亭修季……一四
久邇邦久……一四
黒田長成……一五
黒田長禮……一五
久我通顯……一五
久我常通……一五
久我通久……一五

小松輝久……一五
小村欣一……一五
小村捷治……一五
小村壽太郎……一五
佐佐木高行……一六
佐佐木行忠……一六
佐竹義榮……一六
佐竹義生……一六
佐竹義春……一六
嵯峨公勝……一六
嵯峨實勝……一六
西園寺公望……一六
西郷吉之助……一六
西郷從德……一六
西郷從道……一六
西郷寅太郎……一七
四條高謌……一七
四條隆愛……一七
四條隆德……一七
尚昌泰……一七
尚典……一七
伊達宗彰……一七
伊達宗德……一七
伊達宗陳……一七
勸修寺顯允……一七
勸修寺經雄……一八
筑波藤麿……一八
醍醐忠重……一八
醍醐忠順……一八
東郷彪……一八

東郷平八郎……一八
德川篤敬……一八
德川圀順……一八
德川茂承……一八
德川義禮……一八
德川義親……一八
德川賴貞……一八
德川賴倫……一九
德大寺實則……一九
中御門經明……一九
中御門經恭……一九
中山輔親……一九
中山孝麿……一九
鍋島直大……一九
鍋島直映……一九
鍋島直泰……一九
野津鎭之助……一九
野津道貫……一〇
蜂須賀正韶……一〇
蜂須賀茂韶……一〇
蜂須賀正氏……一〇
廣幡忠禮……一〇
廣幡忠隆……一〇
廣幡忠朝……一〇
細川護成……一〇
細川護立……一〇
細川護久……一一
前田利建……一一
前田利嗣……一一

前田利爲……一一
松方正義……一一
松平康莊……一一
松平康昌……一一
山縣有朋……一一
山階芳麿……一一
山內豐景……一二

有馬賴寧……一二
井伊直憲……一二
伊藤博文……一二
上杉茂憲……一二
小笠原忠忱……一二
小笠原長幹……一二
大木遠吉……一二
大木喜福……一二
大原重明……一二
大原重朝……一二
大村純雄……一三
奧平昌恭……一三
正親町實正……一三
川村鐵太郎……一三
樺山愛輔……一三
金子武麿……一三
今城定政……一三
入江爲守……一三
入江爲常……一三
岩城隆德……一四
岩倉具正……一四
岩下方平……一四
上原七之助……一四
植松雅俊……一四
植村家治……一四
內田正學……一四
梅小路定行……一四
梅園篤彥……一四
梅溪通虎……一五
裏松良光……一五
裏松友光……一五
榎本武憲……一五
小笠原一勁……一五
小笠原壽長……一五
小倉英季……一五
大給近孝……一五
大給恒……一五
大浦兼一……一五
大岡忠綱……一五

板倉勝達……一三
板倉勝憲……一三
石川成秀……一三
池田政銀……一三
伊東二郎丸……一三
伊東祐淳……一三
伊東祐弘……一三
伊東祐麿……一三
伊集院兼寬……一三
伊集院兼知……一三
伊集院兼高……一三
井上勝……一三
井上巨四郎……一三
井上勝英……一三
井上勝純……一三
井伊直安……一三
井伊直方……一三
安藤信昭……一三
有馬賴之……一三
綾小路護……一三
秋元春朝……一三
秋月種英……一三
秋田重季……一三
秋田映季……一三
青木幸宜……一三
青木信光……一三
青木周藏……一三
青木重夫……一三
青木重仲……一三
阿部正敬……一三

二荒芳德……一七
坊城俊章……一七
堀田正恒……一七
前田利男……一七
松浦詮……一七
松浦厚……一七
松方正義……一七
松木宗隆……一七
松平直亮……一七
松平直之……一七
松平賴壽……一七
萬里小路通房……一七
壬生基修……一七
壬生基泰……一七
室町公大……一七
溝口直亮……一七
武志……一七
宗重望……一七
清閑寺良貞……一七
清閑寺經房……一七
島津忠麿……一七
島津忠亮……一七
酒井忠道……一七
酒井忠正……一七
酒井忠克……一七
後藤猛太郎……一七
後藤一藏……一七
兒玉秀雄……一七
黑田清……一七

廣橋賢光……一七
廣澤金次郎……一七
久松定武……一七
東久世通忠……一七
日野資秀……一七
林博太郎……一七
橋本實斐……一七
南部利英……一七
中川久成……一七
中川久任……一七
德川達孝……一七
德川宗敬……一七
寺島誠一郎……一七
津輕英麿……一七
立花寬治……一七
副島道正……一七
宗武志……一七
宗重望……一七
清閑寺良貞……一七
清閑寺經房……一七
島津忠麿……一七
島津忠亮……一七
酒井忠道……一七
酒井忠正……一七
酒井忠克……一七
後藤猛太郎……一七
後藤一藏……一七
兒玉秀雄……一七
黑田清……一七

伯爵議員

子爵議員

大久保忠順……二六
大久保立……二六
大久保敦尚……二六
大河内輝耕……二六
大河内正質……二六
大河内正敏……二六
大島陸太郎……二六
大迫貞清……二七
大田原一清……二七
大宮以季……二七
大村純雄……二七
織田信恒……二七
岡部長景……二七
岡部長職……二七
加藤泰秋……二七
加藤泰通……二七
加納久宜……二七
海江田信義……二八
勘解由小路資承……二八
勘解由小路資生……二八
片桐貞央……二八
交野政邁……二八
唐橋在正……二八
河瀬眞……二八
河田景與……二八
河鰭實文……二八
北小路三郎……二八
清岡公張……二八
清岡長言……二九
京極高厚……二九
京極高修……二九
京極高鋭……二九
京極高徳……二九
京極高典……二九
京極高光……二九
京極高備……二九
京極高義……二九
久世通章……二九
久留島通簡……二九
櫛笥隆督……二九
朽木綱貞……二九
朽木綱博……二九
黒田清綱……二九
黒田清輝……二九
黒田長敬……二九
黒田和志……二九
米田國臣……二九
近衛秀麿……二九
五島盛光……二九
五條爲榮……二九
五條爲功……二九
伏原宣足……二九
藤谷爲寛……二九
藤井行徳……二九
藤井兼誼……二九
福羽美静……二九
平松時厚……二九
酒井忠彰……二九
酒井忠英……二九
獅原政春……二九
實吉純郎……二九
持明院基哲……二九
宍戸功……二九
宍戸璣……二九
七條光明……二九
澁澤敬三……二九
島津忠亮……二九
白川資長……二九
新庄直知……二九
新莊直陳……二九
關博直……二九
仙石久英……二九
仙石政固……二九
仙石政敬……二九
曾我祐準……二九
曾我祐邦……二九
田中光顯……二九
田沼意知……二九
高木正得……二九
高倉永則……二九
高倉篤麿……二九
高倉善……二九
高野宗順……二九
高橋是賢……二九
瀧脇宏光……二九
竹內惟忠……二九
竹屋春光……二九
立花種恭……二九
立花種忠……二九
立見豐丸……二九
谷干城……二九
谷儀一……二九
千種有梁……二九
津輕承叙……二九
土御門晴榮……二九
土御門晴善……二九
土屋直……二九
堤功長……二九
堤雄長……二九
土井利章……二九
土岐章……二九
戸澤正亡……二九
戸田忠行……二九
戸田忠庸……二九
戸田忠義……二九
外山光庸……二九
富小路隆直……二九
豐岡圭資……二九
鳥居忠博……二九
鳥居忠文……二九
鳥尾小彌太……二九
內藤政共……二九
內藤政光……二九
永井直邦……二九
中院通富……二九
中御門經恭……二九
中山孝親……二九
中山孝麿……二九
中山孝敬……二九
中山孝同……二九
中山孝柄……二九
中山孝祗……二九
中山孝親……二九
中山孝建……二九
中山孝肇……二九
中山孝麗……二九
中山孝讓……二九
中山孝禮……二九
中山孝繼……二九
中山孝麿

渡邊千冬……三毛
渡邊昇……三毛

男爵議員

足立豐……三六
安保清種……三六
安藤直雄……三六
安藤直行……三六
相浦紀道……三六
青山貞……三六
青山元……三六
赤松範一……三六
赤松則良……三六
明石元長……三六
淺田良逸……三六
淺野守夫……三六
有地品之允……三六
有地藤三郎……三六
井田磐楠……三六
井上清純……三六
伊江朝助……三六
伊丹春雄……三六
伊東義五郎……三六
伊藤一郎……三六
伊藤文吉……三六
伊藤安吉……三六
生駒親忠……三六
飯田精太郎……三六
池田長康……三六
石田英吉……三六
稻田昌植……三六
茨木惟昭……三六
今枝直規……三六
今園國貞……三六
今園國映……三六
岩倉道俱……三六
岩佐新……三六
岩村通俊……三六
宇佐川一正……三六
上田兵吉……三六
太秦康……三六
內田敏雄……三六
內田正敏……三六
內海忠勝……三六
內海忠勝二……三六
瓜生外吉……三六
小野尊光……三六
小畑大太郎……三六
小原謙吉……三六
小原適……三六
尾崎麟太郎……三六
大井成元……三六
大倉喜七郎……三六
大倉公望……三六
大寺純藏……三六
大鳥富士太郎……三六
岡俊二……三六
沖貞男……三六
沖光孚……三六
奥田剛郎……三六
加藤定吉……三六
加藤照麿……三六
加藤成之……三六
楫取素彥……三六
鹿野勇之進……三六
金子有郷……三六
金子有道……三六
上村從義……三六
川口武定……三六
河邊博長……三六
神田乃武……三六
木越安綱……三六
紀俊秀……三六
紀俊忠……三六
菊池武夫……三六
菊池武臣……三六
北大路實信……三六
北大路信明……三六
北河原公平……三六
北島孝……三六
北島貴孝……三六
北畠治房……三六
北條氏恭……三六
吉川重吉……三六
肝付兼英……三六
肝付兼行……三七
久保田敬一……三七
眞田幸世……三七
櫻井忠弘……三七
酒井武雄……三七
坂本俊篤……三七
坂本大造……三七
阪谷芳郎……三七
阪井重季……三七
佐野延勝……三七
佐藤達次郎……三七
佐竹義履……三七
佐竹義準……三七
近藤廉平……三七
近藤滋彌……三七
鄉誠之助……三七
神山郡昭……三七
神山郡爵……三七
神山嘉瑞……三七
小松行正……三七
小早川四郎……三七
小池正直……三七
小池正晃……三七
黑田長和……三七
黑瀨義門……三七
黑川幹太郎……三七
倉富勇……三七
楠本正敏……三七
沖原光孚……三七
奥田剛郎……三七
加藤定吉……三七
加藤照麿……三七
加藤成之……三七
楫取素彥……三七
鹿野勇之進……三七
金子有郷……三七
金子有道……三七
上村從義……三七
川口武定……三七
河邊博長……三七
神田乃武……三七
木越安綱……三七
紀俊秀……三七
紀俊忠……三七
菊池武夫……三七
菊池武臣……三七
北大路實信……三七
北大路信明……三七
北河原公平……三七
北島孝……三七
北島貴孝……三七
北畠治房……三七
北條氏恭……三七
吉川重吉……三七
肝付兼英……三七

四條隆英……三七
清水資治……三七
斯波忠三郎……三七
斯波正夫……三七
鹿園實博……三七
柴山昌生……三七
島津珍彥……三七
島津健之助……三七
島津忠彥……三七
島津忠欽……三七
島津長丸……三七
島津隼彥……三七
島津久賢……三七
尚順……三七
尚琳……三七
勝田四方藏……三七
白根專一……三七
白根松介……三七
末松謙澄……三七
周布兼道……三七
杉溪言長……三七
杉溪由言……三七
關義壽……三七
千家尊福……三七
千秋季隆……三七
千田嘉平……三七
千田貞暁……三七
園田武彥……三七
園田安賢……三七
多久龍三郎……三七
伊達宗敦……三七
伊達宗曜……三七
田中龍夫……三七
高木喜寬……三七
高崎五六……三七
高崎安彥……三七
高崎弓彥……三七
高千穗宣麿……三七
高橋新八……三七
竹腰正己……三七
立花小一郎……三七
玉松眞幸……三七
團伊能……三七
調所恒德……三七
長基連……三七
津田弘道……三七
辻健介……三七
辻太郎……三七
土屋光金……三七
堤正誼……三七
坪井九八郎……三七
鶴殿勝……三七
鶴殿忠善……三七
鶴見祐輔……三七
出羽重芳……三七
寺島敏三……三七
東郷安……三七
藤堂高成……三七
德川厚……三七
德川喜翰……三七
德川誠……三七
德川義寬……三七
名和長憲……三七
中川良長……三七
中川興長……三七
中島久萬吉……三七
中島錫胤……三七
中御門經民……三七
中御門經隆……三七
中溝德太郎……三七
中村貫之……三七
中村謙一……三七
中村徹雄……三七
永山武敏……三七
永山盛興……三七
長岡護美……三七
長松篤棐……三七
梨羽時起……三七
鍋島直明……三七
南部光臣……三七
二條正麿……三七
西紳六郎……三七
西酉乙……三七
西五辻文仲……三七
西村精一……三七
新田忠純……三七
若王子文健……三七
若王子遠文……三七
野田籲喜……三七
野田豁通……三七
橋本正輝……三七
原田熊雄……三七
原口兼濟……三七
林忠一……三七
東久世秀雄……三七
平野長祥……三七
平山洋三郎……三七
深尾隆太郎……三七
福原俊丸……三七
藤井包總……三七
藤枝雅之……三七
藤大路親春……三七
藤田平太郎……三七
藤村義朗……三七
船越光之丞……三七
古市六三……三七
本田親雄……三七
本田親濟……三七
本多副元……三七
本多政樹……三七
本多政以……三七
眞木長義……三七
眞鍋斌……三七
前島勘一郎……三七
前島密……三七
前田勇……三七

槇村正直……八一
益田太郎……八一
松尾義夫……八一
松岡均平……八一
松田正之……八一
松平外與曆……八二
松平齊光……八二
松本鼎一……八二
松本本松……八二
三須精一……八二
水谷川忠麿……八二
南光利……八二
南岩倉具威……八二
宮原旭……八二
宮原二郎……八二
向山均……八三
村田保定……八三
毛利五郎……八三
毛利元良……八三
八代五郎造……八三
矢吹省三……八三
安川敬一郎……八三
安場末喜……八三
安場保健……八三
山川建……八四
山名義鶴……八四
山中信儀……八四
山中秀二郎……八四

勅選議員

山根健男……八四
山根武亮……八四
山内長人……八四
山内豐政……八四
横山隆俊……八五
渡邊清……八五
渡邊修二……八五
渡邊汀……八五
安宅彌吉……八五
安立綱之……八五
安倍能成……八五
安藤紀三郎……八六
安藤則命……八六
安樂兼道……八六
阿部信行……八六
阿部浩……八六
阿部房次郎……八六
阿部美樹志……八六
鮎川義介……八六
藍澤彌八……八七
今村和郎……八七
今井田清德……八七
今井五介……八七
犬塚勝太郎……八七
乾政彥……八七
稻畑勝太郎……八七
一木喜德郎……八七
市來乙彥……八七
板倉卓造……八七
板谷順助……八七
赤池濃……八七
赤木正雄……八七
秋月新太郎……八七
秋月種樹……八七
淺井清……八八
淺田德則……八八
荒井賢太郎……八八
荒川文六……八八
荒川義太郎……八八
有田八郎……八八
有馬忠三郎……八八
有松英義……八八
有吉忠一……八八
有賀光豐……八八
有賀忠雄……八八
伊藤述史……八九
伊藤雋吉……八九
伊東巳代治……八九
伊丹重賢……八九
伊瀨知好成……八九
伊澤多喜男……八九
伊澤修二……八九
井上通泰……八九
井上篤太郎……八九
井上準之助……八九
井坂孝……八九
井川忠雄……八九
磯部四郎……八九
磯邊包義……八九
磯村豐太郎……八九
石川一郎……九〇
石黑五十二……九〇
石黑忠篤……九〇
石塚英藏……九〇
石原健三……九〇
石丸重美……九一
石渡敏一……九一
石渡莊太郎……九一
石井菊次郎……九一
石井省一郎……九一
石井忠恭……九一
岩永裕吉……九一
岩崎小二郎……九一
岩崎彌之助……九一
岩淵辰雄……九一

岩村兼善……九五
岩村定高……九六
岩村高俊……九六
岩村通俊……九六
巖谷修……九六
巖谷榮德……九六
尹宇勝夫……九六
宇佐美勝夫……九六
鵜澤總明……九七
潮惠之輔……九七
內田嘉吉……九七
內田重成……九七
內田信也……九七
內田康哉……九七
內海忠勝……九七
馬屋原彰……九七
馬屋原二郎……九八
江木千之……九八
江木翼……九八
江原素六……九八
江口定條……九八
遠藤柳作……九八
小倉正恒……九八
小澤武雄……九九
小野崎通亮……九九
小野田元熙……九九
小野寺長治郎……九九
小畑美稻……九九
小幡篤次郎……九九
小幡酉吉……九九
小汀利得……九九
小原重哉……一〇〇
小原直……一〇〇
尾崎三良……一〇〇
緒方竹虎……一〇〇
織田萬……一〇〇
大浦兼武……一〇〇
大川平三郎……一〇〇
大木操……一〇一
大久保利武……一〇一
大澤謙二……一〇一
大島健一……一〇一
大平駒槌……一〇一
大竹貫一……一〇一
大谷尊由……一〇一
大津淳一郎……一〇一
大塚惟精……一〇一
大野綠一郎……一〇一
大野良藏……一〇一
大橋新太郎……一〇一
大橋八郎……一〇一
大村清一……一〇一
大森鐘一……一〇一
大谷正男……一〇一
大谷靖……一〇一
大山綱昌……一〇一
太田耕造……一〇一
太田半六……一〇一
太田政弘……一〇二
種田虎雄……一〇三
岡喜七郎……一〇三
岡內重俊……一〇四
岡崎邦輔……一〇四
岡田文次……一〇四
岡田良平……一〇四
岡野敬次郎……一〇四
沖守固……一〇四
奧田義人……一〇四
奧山政敬……一〇五
押川則吉……一〇五
折田彥市……一〇五
折田平內……一〇五
加藤敬三郎……一〇五
加藤高明……一〇五
加藤恒忠……一〇五
加藤弘之……一〇五
加藤政之助……一〇六
加太邦憲……一〇六
何禮之……一〇六
各務鎌吉……一〇六
鹿島精一……一〇六
鹿子木小五郎……一〇六
賀川豐彥……一〇六
賀屋興宣……一〇七
嘉納治五郎……一〇七
籠手田安定……一〇七
笠井信一……一〇七
片岡利和……一〇七
片岡直輝……一〇七
片岡直溫……一〇七
片岡直方……一〇八
片野幾之進……一〇八
門野重九郎……一〇八
金井之恭……一〇八
金杉英五郎……一〇八
金森德次郎……一〇八
金子堅太郎……一〇八
樺山資英……一〇九
鎌田榮吉……一〇九
上山滿之進……一〇九
神野勝之助……一〇九
神田孝平……一〇九
龜井英三郎……一〇九
萱野長知……一〇九
唐澤俊樹……一一〇
川上嘉市……一一〇
川崎卓吉……一一〇
川崎守之助……一一〇
川崎祐名……一一〇
川田小一郎……一一〇
川田剛……一一〇
川村竹治……一一一
川井彌八……一一一
賀川豐彥……一一一
賀屋興宣……一一一
嘉納治五郎……一一一
河合良成……一一一
河島醇……一一一
河田烈……一一一
河端作兵衞……一一二

河村讓三郎……一一
河村善益……一一
河原田稼吉……一一
木內四郎……一一
木內重四郎……一一
木梨精一郎……一一
木下鎌次郎……一一
木下廣次……一一
木村尙達……一一
木村清四郎……一一
菊池武夫……一一
菊池大麓……一一
菊池恭三……一一
北里柴三郎……一一
北垣國道……一一
岸本彥衞……一一
岸清一……一一
清浦奎吾……一一
九鬼隆一……一一
久保田讓……一一
國司順正……一一
倉井敏麿……一一
倉知鐵吉……一一
倉富勇三郎……一一
栗栖赳夫……一一
吳文炳……一一
黑岡帶刀……一一
黑崎定三……一一
黑田英雄……一一

桑木嚴翼……一一
桑山鐵男……一一
慶松勝左衞門……一一
小池靖一……一一
小泉親彥……一一
小泉又次郎……一一
小久保喜七……一一
小中村清矩……一一
小林一三……一一
小林次郎……一一
小林躋造……一一
小日山直登……一一
小牧昌業……一一
小松謙次郎……一一
小松原英太郎……一一
小室信夫……一一
小山完吾……一一
小山健三……一一
小山松吉……一一
木場貞長……一一
古賀廉造……一一
古島一雄……一一
兒玉謙次……一一
兒玉淳一郎……一一
兒玉少介……一一
兒玉利國……一一
寧顯榮……一一
伍堂卓雄……一一

後藤新平……一一
後藤文夫……一一
鄕純造……一一
河野秀男……一一
近藤鎭次……一一
左近司政三……一一
佐々木駒之助……一一
佐々木惣一……一一
佐竹三吾……一一
佐藤三吉……一一
佐藤鐵太郎……一一
齋藤千秋……一一
坂口康藏……一一
坂田幹太……一一
坂本彭之助……一一
作間耕逸……一一
櫻井錠二……一一
迫水久常……一一
寶吉安純……一一
鮫島武之助……一一
澤簡德……一一
澤田牛麿……一一
澤柳政太郎……一一
志佐小一郎……一一
志水源太郎……一一
重野安繹……一一

重光葵……一一
重宗雄三……一一
幣原喜重郎……一一
柴田家門……一一
柴田善三郎……一一
柴原和……一一
澁澤榮一……一一
島田勝之助……一一
清水由松……一一
下條正雄……一一
下條康麿……一一
下村宏……一一
霜山精一……一一
正田貞一郎……一一
正力松太郎……一一
勝田主計……一一
白澤保美……一一
白根竹介……一一
周布公平……一一
末延道成……一一
菅原通敬……一一
杉田定一……一一
鈴木喜三郎……一一
鈴木大亮……一一
鈴木貞一……一一
瀨古保次……一一
關清英……一一
關直彥……一一
關一……一一

關義臣……一一七
關屋貞三郎……一一八
膳桂之助……一一八
千石興太郎……一一八
仙石貢……一一八
曾彌荒助……一一八
副島千八……一一八
添田壽一……一一八
田口卯吉……一一九
田澤義鋪……一一九
田所美治……一一九
田尻稻次郎……一一九
田島道治……一一九
田島正雄……一一九
田中義一……一一九
田中耕太郎……一二〇
田中武雄……一二〇
田中綱常……一二〇
田中都吉……一二〇
田中穗積……一二〇
田中芳男……一二〇
田邊輝實……一二〇
田邊治通……一二一
田健治郎……一二一
高木兼寬……一二一
高木豐三……一二一
高木八尺……一二一
高崎親章……一二一
高島信茂……一二一
高田早苗……一二一

高橋是清……一二一
高橋作衞……一二一
高橋新吉……一二一
高橋琢也……一二一
高橋龍太郎……一二二
高平小五郎……一二二
高柳賢三……一二二
瀧正雄……一二二
竹內可吉……一二二
竹越與三郎……一二二
竹中藤右衞門……一二三
武井守正……一二三
武富時敏……一二三
建部遯吾……一二四
谷森眞男……一二四
玉利喜造……一二四
千阪高雅……一二四
千頭清臣……一二四
長世吉……一二四
長所謙……一二四
津島壽一……一二五
津田眞道……一二五
津田出……一二五
都築馨六……一二五
塚本清治……一二五
次田大三郎……一二五
辻新次……一二五
出淵勝次……一二六
寺尾博……一二六

寺島健……一二六
寺島秋介……一二六
寺田甚吉……一二六
寺田榮……一二六
寺原長輝……一二六
田健治郎……一二七
田孫太郎……一二七
外山正一……一二七
外松茂德……一二七
道家齊……一二七
東鄕平八郎……一二七
得能通昌……一二七
時任爲基……一二七
德田昻平……一二八
德富猪一郎……一二八
德久恒範……一二八
栃內曾次郎……一二八
栃木嘉一郎……一二八
栃尾敬明……一二八
富井政章……一二八
富岡健治……一二八
富田鐵之助……一二八
富谷鉎太郎……一二九
豐川良平……一二九
豐田貞次郎……一二九
名取和作……一二九
名村泰藏……一二九
奈良原繁……一二九
內藤久寬……一三〇
中井弘……一三〇

中川健藏……一三〇
中川小十郎……一三〇
中川望……一三〇
中島德松……一三〇
中島永元……一三〇
中島信行……一三〇
中田薰……一三一
中根貞彥……一三一
中部幾次郎……一三一
中村是公……一三一
中村博愛……一三一
中村正直……一三一
中村元雄……一三一
中村雄次郎……一三一
中村藤兵衞……一三一
中村純九郎……一三一
中山壽彥……一三一
永井松三……一三一
永田仁助……一三一
永田秀次郎……一三一
永山武四郎……一三一
永山盛輝……一三一
仲小路廉……一三一
長岡隆一郎……一三一
長松幹……一三一
長與專齋……一三一
鍋島桂次郎……一三一
鍋島幹……一三一
成川尙義……一三一

南郷茂光……一四四
南原繁……一四四
仁井田益太郎……一四四
仁尾惟茂……一四四
丹羽彪吉……一四四
新渡戸稲造……一四四
西周……一四五
西久保弘道……一四五
西野元……一四五
西村茂樹……一四五
西村亮吉……一四五
根津嘉一郎……一四五
野崎啓造……一四五
野田俊作……一四六
野村嘉六……一四六
野村淳治……一四六
野村徳七……一四六
野村素介……一四六
野村貞雄……一四六
長谷川萬次郎……一四六
長谷部辰連……一四六
波多野敬直……一四七
馬場恒吾……一四七
馬場鍈一……一四七
橋口兼三……一四七
橋本圭三郎……一四七
橋本清之助……一四七
橋本綱常……一四七
畠山一清……一四八
八田嘉明……一四八
服部一三……一四八
服部金太郎……一四八
花井卓蔵……一四八
羽田亨……一四八
濱尾新……一四八
早川千吉郎……一四九
林春雄……一四九
林賴三郎……一四九
原泰一……一四九
原保太郎……一四九
原口初太郎……一四九
原田一道……一四九
原田讓二……一五〇
春木義彰……一五〇
坂西利八郎……一五〇
東久世通禧……一五〇
土方久徴……一五〇
土方寧……一五〇
平井晴二郎……一五〇
平生釟三郎……一五一
平田東助……一五一
平塚廣義……一五一
平沼騏一郎……一五一
平山成信……一五一
平山靖彦……一五一
廣瀬久忠……一五一
廣田弘毅……一五一
深井英五……一五二
深野一三……一五二
福永吉之助……一五二
福原實……一五二
福原鐐二郎……一五二
藤澤幾之輔……一五二
藤田謙一……一五二
藤田四郎……一五二
藤波言忠……一五三
藤沼庄平……一五三
藤村紫朗……一五三
藤山雷太……一五三
藤原銀次郎……一五三
二上兵治……一五四
船越衛……一五四
古市公威……一五四
古垣鐵郎……一五四
古澤滋……一五四
古莊嘉門……一五四
古野伊之助……一五四
穂積陳重……一五五
穂積八束……一五五
北條時敬……一五五
朴泳孝……一五五
星野直樹……一五五
細川潤次郎……一五五
堀啓次郎……一五五
堀眞五郎……一五五
堀基……一五六
堀江季雄……一五六
堀切善次郎……一五六
堀切善兵衛……一五六
馬越恭平……一五六
眞野文二……一五六
前田獻吉……一五六
前田多門……一五六
前田正名……一五六
牧野英一……一五六
牧野伸顯……一五六
増田繁幸……一五六
町村敬貴……一五六
松井慶四郎……一五六
松井茂……一五六
松井春生……一五六
松浦鎮次郎……一五六
松尾國松……一五六
松尾臣善……一五七
松岡康毅……一五七
松阪廣政……一五七
松島鹿夫……一五七
松平正直……一五七
松村義一……一五七
松村眞一郎……一五七
松室致……一五七
松本學……一五八
松本健次郎……一五八
松本剛吉……一五八
松本順……一五八
松本烝治……一五八
丸山作楽……一五八
丸山鶴吉……一五八
三浦安……一五八
三崎龜之助……一五八
三田昇馬……一五八
三井清一郎……一五八
三土忠造……一五八
三宅正太郎……一五八
三宅秀……一五九
三好退藏……一五九
美濃部達吉……一五九
箕作麟祥……一五九
水上長次郎……一五九
水野遵……一五九
水野錬太郎……一五九
光永星郎……一五九
光行次郎……一五九
南次郎……一五九
南弘……一五九
宮尾舜治……一五九
宮城長五郎……一五九
宮澤俊義……一五九
宮島誠一郎……一五九
宮田光雄……一五九
宮本小一……一五九
牟田口元學……一五九
武者小路實篤……一五九
宗像政……一五九
村上義一……一六〇
村上恭一……一六〇
村上敬次郎……一六〇
村上巧兒……一六〇
村木雅美……一六〇
村瀬直養……一六〇
村田省藏……一六〇
村田保……一六〇
村田經芳……一六〇
村野常右衛門……一六〇
村山龍平……一六〇
室田義文……一六〇
目賀田種太郎……一六〇
本山彦一……一六〇
森賢吾……一六〇
森正隆……一六〇
森岡昌純……一六〇
森山銳一……一六〇
森山茂……一六〇
諸橋襄……一六〇
矢野二郎……一六一
安井英二……一六一
安田伊左衛門……一六一
安田定則……一六一
安場保和……一六一
安廣伴一郎……一六一
柳楢悦……一六一
山岡萬之助……一六一
山縣伊三郎……一六一
山川健次郎……一六一
山川端夫……一六一
山川浩……一六一
山口尚芳……一六一
山崎延吉……一六一
山地土佐太郎……一六一
山田爲暄……一六一
山田春三……一六一
山田孝雄……一六一
山内萬壽治……一六一
山之内一次……一六一
山本條太郎……一六一
山本達雄……一六二
山本勇造……一六二
山脇玄……一六二
湯淺倉平……一六二
湯川寛吉……一六二
湯澤三千男……一六二
湯地公平……一六二
湯地定監……一六二
湯池定基……一六二
結城豐太郎……一六二
横山助成……一六二
吉田茂……一六二
吉田茂……一六二
吉田久……一六二
吉野信次……一六二
芳澤謙吉……一六二
米山梅吉……一六二
李家軫鎬……一六三
和田維四郎……一六三
和田豐治……一六三
和田彦次郎……一六三
若尾璋八……一六三
若槻禮次郎……一六三
若林賚藏……一六三
我妻榮……一六三
渡部信……一六三
渡邊洪基……一六三
渡邊三郎……一六三
渡邊驥……一六四
渡邊千秋……一六四
渡邊千代三郎……一六四
渡邊暢……一六四
渡邊廉吉……一六四

帝国学士院会員議員

姉崎正治……一六五
井上哲次郎……一六五
上田萬年……一六五
小野塚喜平次……一六五
田中館愛橘……一六五
長岡半太郎……一六五
藤澤利喜太郎……一六五
三上參次……一六六
山田三良……一六六

多額納税者議員

阿部賢吉……一五六
阿部秀逸……一五六
阿由葉吟次郎……一五六
青木才次郎……一五六
赤澤伊太郎……一五六
秋田三一……一五六
秋山源兵衛……一五六
淺野長太郎……一五七
麻生太吉……一五七
麻生益良……一五七
朝田又七……一五七
熱海孫十郎……一五七
尼崎伊三郎……一五七
天春文衛……一五七
網藏平輔……一五七
網野善右衛門……一五七
荒井泰治……一五七
五十嵐敬止……一五七
五十嵐甚藏……一五七
五十嵐甚藏……一五七
井狩彌左衛門……一五七
井芹典太……一五七
井芹康也……一五七
井上清治……一五七
伊澤平左衛門……一五七
伊澤平藏……一五七
伊澤平馬……一五七
伊丹彌太郎……一五七
伊藤儀兵衛……一五七
伊藤次郎左衛門……一五七
伊藤長次郎……一五七
伊藤傳七……一五七
伊藤傳七……一五七
伊藤豐次……一五七
伊藤由太郎……一五七
飯尾麒太郎……一五七
飯島雷輔……一五七
飯塚知信……一五七
飯淵七三郎……一五七
池田甚之助……一五七
諫早家崇……一五七
諫早一學……一五八
石井虎之助……一五八
石川三郎……一五八
石谷傳四郎……一五八
石橋謹二……一五八
磯貝浩……一五八
磯野庸幸……一五八
板谷宮吉……一五八
市川文藏……一五八
市島德治郎……一五八
出光佐三……一五八
絲原武太郎……一五八
絲原武太郎……一五八
今井五介……一五八
色部義太夫……一五八
岩崎清行……一五八
岩田三史……一五八
岩月直彥……一五八
岩波茂雄……一五八
岩見顯始……一五八
岩元信兵衛……一五八
岩元達一……一五八
鵜澤宇八……一五八
宇田友四郎……一五八
宇野清左衛門……一五八
宇野勇作……一五八
植竹三右衛門……一五八
上野喜左衛門……一五八
上野松次郎……一五八
上松泰造……一五八
氏家清吉……一五八
臼井儀兵衛……一五八
梅津喜八……一五八
梅原修平……一五八
江口文雄……一五八
江角柳四郎……一五八
江原芳平……一五八
遠藤嘉右衛門……一五八
小川貞一……一五八
小栗冨治郎……一五八
小田清兵衛……一五八
小野耕一……一五八
小野光景……一五八
尾崎元次郎……一五八
大阪金助……一五八
大澤德太郎……一五八
大城兼義……一五八
大寶陣……一五八
大谷嘉兵衛……一五八
大塚永藏……一五八
大西虎之助……一五八
大野木秀次郎……一五八
大庭長九郎……一五八
大橋理祐……一五八
大村彥太郎……一五八
大森慶次郎……一五八
大矢馬太郎……一五八
大谷五平……一五八
大家七平……一五八
大藪守治……一五八
大和田健三郎……一五八
大田清藏……一五八
大田平次……一五八
岡崎藤吉……一五八
岡田太平治……一五八
岡野是保……一五八
岡部勇作……一五八
岡村喜萬太……一五八
岡本榮吉……一五八
岡谷惣助……一五八
奥主一郎……一五八
奥田榮之進……一五八
奥田龜藏……一五八
奥村嘉藏……一五八
加藤宇兵衛……一五八
加藤正惠……一五八
河西豐太郎……一五八
河路重平……一五八
河田與惣左衛門……一五八
海江田準一郎……一五八
海江田平治……一五八
鹿毛信盛……一五八
風間八左衛門……一五八
片倉兼太郎……一五八
勝田銀次郎……一五八
金岡又左衛門……一五八
金子元三郎……一五八
金澤松右衛門……一五八
金須松三郎……一五八
金成通……一五八
蟹江史郎……一五八
鏑木忠正……一五八
鎌田勝太郎……一五八
神野金之助……一五八
神戸政次……一五八
川崎正藏……一五九
川本泉……一五九
木村誓太郎……一五九
木村利右衛門……一五九
木本源吉……一五九
菊地三郎……一五九
菊池長四郎……一五九
岸本豐太郎……一五九
北村宗四郎……一五九
清末新郎治……一五九
清瀨善三……一五九
工藤八之助……一五九
工藤寬得……一五九
久保市三郎……一五九
久保田眞吾……一五九
久米唯次……一五九
久米田新太郎……一五九
熊谷三太郎……一五九
栗林德一……一五九
黑澤富次郎……一五九
桑田熊藏……一五九
桑田藤十郎……一五九
桑原善吉……一五九
見目清……一五九
小暮英三郎……一五九
小坂梅吉……一五九
小坂順造……一五九
小鹽八郎右衛門……一五九
小林嘉平治……一五九
小林小太郎……一五九
小林暢……一五九
小林八右衛門……一五九
五藤正形……一五九
上郎清助……一五九
合田健吉……一五九
坂野鐵次郎……一五九
坂本理一郎……一五九
櫻井伊兵衛……一五九
櫻井伊兵衛……一五九
櫻井三郎右衛門……一五九
櫻木嘉右衛門……一五九
澤田喜彥……一五九
澤原精一……一五九
澤原爲綱……一五九
澤原俊雄……一五九
澤山精八郎……一五九
斯波與七郎……一五九
鹽田團平……一五九
柴垣伴三……一五九
柴田兵一郎……一五九
澁澤金藏……一五九
島定治郎……一五九
島內武重……一五九
島津珍彥……一五九
下出民義……一五九
下鄉傳平……一五九
下鄉傳平……一五九
下田幸三郎……一五九
下村辰右衛門……一五九
白勢春三……一五九
菅澤重雄……一五九
菅野傳右衛門……一五九
杉下太郎右衛門……一五九
杉山茂……一五九
荒野由次郎……一五九
左右田喜一郎……一五九
左右田金作……一五九
佐々木嘉太郎……一五九
佐々木嘉太郎……一五九
佐々木志賀二……一五九
佐々木長治……一五九
佐々木八十八……一五九
佐々田懋……一五九
佐藤伊左衛門……一五九
佐藤龜八郎……一五九
佐藤喜八郎……一五九
佐藤國彥……一五九
佐藤源藏……一五九
佐藤信古……一五九
佐藤助九郎……一五九
佐藤助九郎……一五九
佐藤清右衛門……一五九
佐藤惣之助……一五九
佐藤傳兵衛……一五九
佐藤友右衛門……一五九
佐藤秀藏……一五九
佐藤安之助……一五九
相良安之助……一五九
齋藤喜十郎……一五九
齋藤善八……一五九
齋藤萬壽雄……一五九
齋藤安雄……一五九
坂口平兵衛……一五九
坂田貞……一五九

鈴木幸作……一九七
鈴木周三郎……一九八
鈴木穂兵衛……一九八
鈴木傳五郎……一九八
鈴木興平……一九八
住友吉左衛門……一九八
瀬川彌右衛門……一九八
瀬谷勇次郎……一九八
關口彌五……一九八
關田可通……一九八
相馬哲平……一九八
田嶋竹之助……一九九
田代保之……一九九
田中清文……一九九
田中源太郎……一九九
田中德兵衛……一九九
田中一馬……一九九
田部長右衛門……一九九
田村耕平……一九九
田村駒治郎……一九九
田村新吉……一九九
多木久米次郎……二〇〇
多勢龜五郎……二〇〇
高倉虎……二〇〇
高崎三重郎……二〇〇
高鳥順作……二〇〇
高橋喜惣治……二〇〇
高橋源次郎……一〇〇
高橋德右衛門……一〇〇
高橋直治……一〇〇
高橋隆一……一〇一
高廣次平……一〇一
高廣次平……一〇一
高谷豐之助……一〇一
高柳淳之助……一〇一
瀧兵右衛門……一〇一
瀧川儀作……一〇一
瀧川辨三……一〇一
瀧口吉良……一〇一
瀧澤喜平治……一〇一
竹内權兵衛……一〇一
竹下豐次……一〇一
竹村與右衛門……一〇一
武井覺太郎……一〇一
武石橘次……一〇一
橘清治郎……一〇一
辰巳橘太郎……一〇一
谷新助……一〇一
谷口良一……一〇一
近岡理三郎……一〇二
津久居彥七……一〇二
津島源右衛門……一〇二
津村紀陵……一〇二
津村重舍……一〇二
辻兵吉……一〇二
土田萬助……一〇三
角田林兵衛……一〇三
土居通博……一〇三
戸口米次郎……一〇三
道源權治……一〇四
當間重民……一〇四
鳴嶋文吉……一〇四
飛嶋文吉……一〇四
富永猿雄……一〇四
富安保太郎……一〇四
鳥越貞敏……一〇四
名古屋三吉……一〇四
名取忠愛……一〇四
內藤宇兵衛……一〇四
中島德太郎……一〇四
中田清兵衛……一〇四
中西光三郎……一〇五
中野敏雄……一〇五
中村圓一郎……一〇五
中村雅眞……一〇五
中村治兵衛……一〇五
中村良謙……一〇五
中山嘉兵衛……一〇五
中山太一……一〇五
中山文樹……一〇五
仲田博之……一〇五
仲村清榮……一〇六
永澤清之助……一〇六
永瀨寅吉……一〇六
長尾四郎右衛門……一〇六
長尾元太郎……一〇六
長島銀藏……一〇六
長野忠次……一〇六
並木和一……一〇六
成清信愛……一〇六
鳴海周次郎……一〇六
二階堂三郎左衛門……一〇七
二瓶泰次郎……一〇七
西川甚五郎……一〇七
西野嘉右衛門……一〇七
西宗元次郎……一〇七
西本健次郎……一〇七
根岸武香……一〇七
根津啓吉……一〇七
根本祐太郎……一〇七
野口毅……一〇七
野崎武吉郎……一〇七
野田六左衛門……一〇八
野々村久次郎……一〇八
野村恒造……一〇八
野村治三郎……一〇八
野村茂馬……一〇八
芳賀茂元……一〇八
馬場道久……一〇八
長谷川赳夫……一〇八
長谷川直則……一〇八
橋本吉兵衛……一〇八
橋本辰二郎……一〇八
橋本萬右衛門……一〇九
橋本雄造……一〇九
八馬兼介……一〇九
濱平右衛門……一〇九
濱口吉右衛門……一〇九
濱口儀兵衛……一〇九
早川周造……一〇九
林七六……一〇九
林宗右衛門……一一〇
林平四郎……一一〇
林田登……一一〇
原善三郎……一一〇
原忠順……一一〇
原田佐治郎……一一〇
日向三右衛門……一一〇
日高榮三郎……一一〇
久恒貞雄……一一〇
平井六右衛門……一一〇
平尾喜一……一一一
平尾喜三郎……一一一
平田吉胤……一一一
平沼專藏……一一一
平沼亮三……一一一
平山浪三郎……一一一
廣海二三郎……一一一
廣瀨滿正……一一一
廣瀨和育……一一一
深田武雄……一一一
福島文右衛門……一一二
藤武喜助……一一二
藤本閑作……一一二
藤安辰次郎……一一二
古莊健次郎……一一二
保坂潤治……一一三
星島謹一郎……一一三
細田安兵衛……一一三
細谷巖太郎……一一三
堀正一……一一三
堀內半三郎……一一三
堀之內庄右衛門……一一三
本多政樹……一一三
本間金之助……一一三
本間千代吉……一一三
本間千代吉……一一三
前田謙祐……一一三
松井貞太郎……一一三
松尾嘉右ヱ門……一一三
松尾廣吉……一一三
松岡潤吉……一一三
松本彥右衛門……一一三
松澤清次郎……一一三
松永安彥……一一三
松原芳太郎……一一四
松村脩平……一一四
松村時次……一一四
松本勝太郎……一一四
松本眞平……一一四
三浦新七……一一四
三木順治……一一四
三木與吉郎……一一四
三田義正……一一四
三橋四郎次……一一五
三橋彌……一一五
三山近六……一一五
美馬儀一郎……一一五
御木本幸吉……一一五
水野甚次郎……一一五
水之江浩……一一五
溝手保太郎……一一五
宮川久一郎……一一五
宮坂作衛……一一五
宮崎喜久太郎……一一五
宮崎總五……一一五
宮本甚兵衛……一一六
宮本谷藏……一一六
村井彌兵衛……一一六
村岡淺右衛門……一一六
村上桂策……一一六
最上廣胖……一一六
森廣三郎……一一六
森平兵衛……一一六
森田庄兵衛……一一六
森田福市……一一六
森本善七……一一六
諸橋久太郎……一一七
八木久兵衛……一一七
八木春樹……一一七
八坂甚八……一一七
八田德三郎……一一七
矢口長右衛門……一一七
矢島榮助……一一七
安田善三郎……一一七
山內左五兵衛……一一七
山口玄洞……一一七
山隈康……一一七
山崎龜吉……一一八
山崎愼三……一一八
山下喜兵衛……一一八
山田敏……一一八
山田義三郎……一一八
山田惠一……一一八
山田純精……一一八
山田仙之助……一一八
山田莊左衛門……一一八
山田卓介……一一八
山田穰……一一九
山中幸義……一一九
山上岩二……一一九
山本忠秀……一一九
山本米三……一一九
谷井勘藏……一一九
弓削和三……一一九
油井德藏……一一九
結城城安次……一一九
横尾彌一……一一九
横山章……一一九

横山久太郎……三三〇
由雄元太郎……三三〇
吉田三右衛門……三三〇
吉田羊治郎……三三〇
吉野周太郎……三三〇
吉野周太郎……三三〇
吉原正隆……三三〇
吉村角次郎……三三〇
吉村友之進……三三〇
米谷半平……三三〇
米原章三……三三〇
依田仙右衛門……三三一
若尾幾造……三三一
若尾逸平……三三一
若尾謹之助……三三一
渡邊覺造……三三一
渡邊治右衛門……三三一
渡邊甚吉……三三一
渡邊甚吉……三三一
渡邊福三郎……三三一

朝鮮・台湾勅選議員

伊東致昊……三三一
金田明……三三一
韓相龍……三三一
許丙……三三一
野田鐘憲……三三一
朴澤相駿……三三一
朴忠重陽……三三一
綠野竹二郎……三三一
李埼鎔……三三一
林獻堂……三三一

参議院議員名鑑索引

あの部

安達良助……三三三
安部キミ子……三三三
安部清美……三三三
安部定登……三三三
阿久根登……三三三
阿竹齋次郎……三三三
阿部竹松……三三三
相澤重明……三三三
愛知揆一……三三四
鮎川金次郎……三三四
鮎川義介……三三四
青木一男……三三四
青田源太郎……三三四
青柳秀夫……三三四
青山正一……三三五
赤木正雄……三三五
赤澤與仁……三三五
赤間文三……三三五
赤松常子……三三五
秋山俊一郎……三三五
秋山長造……三三五
浅井一郎……三三六
浅岡信夫……三三六
東隆……三三六
天田勝正……三三六
天埜良吉……三三六
雨森常夫……三三六
荒井八郎……三三六
荒木正三郎……三三七
有馬英二……三三七
井川伊平……三三七
井野碩哉……三三七
井上知治……三三八
井上清一……三三八
井上なつゑ……三三八
井村徳二……三三八
伊東隆治……三三八
伊藤顕道……三三八
伊藤保平……三三九
伊藤修……三三九
伊能芳雄……三三九
伊能繁次郎……三三九
猪飼清六……三三九
飯島連次郎……三三九
飯田精太郎……三三九
池田宇右衛門……三三〇
池田七郎兵衛……三三〇
池田恒雄……三三〇
石井桂……三三〇
石川栄一……三三〇
石川一衛……三三〇
石川準吉……三三〇
石川清一……三三一
石黒忠篤……三三一
石坂豊一……三三一
石田次男……三三一
石谷憲男……三三一
石原幹市郎……三三一
石村幸作……三三一
泉山三六……三三一
板野勝次……三三一
板谷順助……三三一
市川房枝……三三一
市来乙彦……三三一
稲浦鹿藏……三三一
稲垣平太郎……三三一
今泉政喜……三三一
入交太藏……三三一
岩男仁藏……三三一
岩木哲夫……三三一
岩崎正三郎……三三一
岩沢忠恭……三三一
岩間正男……三三一
岩本月洲……三三一

うの部

宇垣一成……三三四
宇都宮登……三三四
上野喜左衛門……三三四
上原正吉……三三四
植垣弥一郎……三三四
植竹春彦……三三五
牛田寛……三三五
内村清次……三三五
梅津錦一……三三五
梅原眞隆……三三五
占部秀男……三三五
海野三朗……三三五

えの部

江熊哲翁……三三六
江田三郎……三三六
江藤智……三三六
遠藤柳作……三三六

おの部

小笠原二三男……三三七
小川友三……三三七
小川久義……三三七
小串清一……三三七
小沢久太郎……三三七
小野哲……三三七
小野光洋……三三七
小野義夫……三三八
小幡治和……三三八
尾形六郎兵衛……三三八
尾崎行輝……三三八
尾山三郎……三三八
大川光三……三三八
大河原一次……三三八
大隈信幸……三三九
大倉精一……三三九
大沢雄一……三三九
大島定吉……三三九
大隅憲二……三三九
大竹平八郎……三三九
大達茂雄……三三九
大谷瑩潤……三三九
大谷贇雄……三四〇
大谷藤之助……三四〇
大西十寸男……三四〇
大野幸一……三四〇
大野木秀次郎……三四〇
大畠農夫雄……三四〇
大森創造……三四〇
大矢正……三四一
大矢半次郎……三四一
大屋晋三……三四一
大山郁夫……三四一
大山安……三四一
太田敏兄……三四一
太田正孝……三四一

かの部

カニエ邦彦……三四一
加賀操……三四二
加賀山之雄……三四二
加瀬完……三四二
加藤シヅエ……三四二
加藤常太郎……三四二
加藤武徳……三四三
加藤正人……三四五
加納金助……三四五
鹿島俊雄……三四五
鹿島守之助……三四五
柏木庫治……三四五
柏原ヤス……三四五
梶原茂嘉……三四五
片岡文重……三四六
片柳真吉……三四六
勝俣稔……三四六
門田定藏……三四六
門屋盛一……三四六
金丸冨夫……三四六
金子洋文……三四七
兼岩傳一……三四七
鎌田逸郎……三四七
上條愛一……三四七
上林忠次……三四七
亀田得治……三四七
川上嘉市……三四七
川上為治……三四八
川口為之助……三四八
川村松助……三四八
河井彌八……三四八
河合義一……三四八
河崎ナツ……三四八
木内キヤウ……三四九
木内四郎……三四九
木島虎藏……三四九
木下源吾……三四九
木下辰雄……三四九
木下盛雄……三四九
木下友敬……三四九
木村禧八郎……三五〇

木村篤太郎……二五四
木村守江……二五四
菊川孝夫……二五四
菊田七平……二五四
岸良一……二五四
岸田幸雄……二五四
岸野牧夫……二五四
北勝太郎……二五四
北畠教真……二五四
北村一男……二五四
北村暢……二五四
清澤俊英……二五四

くの部

九鬼紋十郎……二五三
工藤鉄男……二五三
久保等……二五三
草葉隆圓……二五三
楠瀬常猪……二五三
楠見義男……二五三
國井淳一……二五三
栗山良夫……二五三
栗栖赳夫……二五三
来馬琢道……二五三
黒川武雄……二五三
黒田英雄……二五三

けの部

慶松勝左衛門……二五四

この部

小泉秀吉……二五四
小酒井義男……二五四
小杉イ子……二五四
小杉繁安……二五四
小平芳平……二五四
小滝彬……二五五
小西英雄……二五五
小畑勇三……二五五
小林英三……二五五
小林勝馬……二五五
小林孝平……二五五
小林武治……二五五
小林政夫……二五六
小林亦治……二五六
小林米三郎……二五六
小松正雄……二五六
小宮山常吉……二五六
小柳勇……二五六
小柳牧衛……二五六
小山邦太郎……二五七
木暮武太夫……二五七
木檜三四郎……二五七
古池信三……二五七
後藤文夫……二五七
後藤義隆……二五七
河野謙三……二五七
河野正夫……二五七
紅露みつ……二五七
高良とみ（富子）……二五七
郡祐一……二五七
駒井藤平……二五七
近藤信一……二五八
近藤鶴代……二五八

さの部

左藤義詮……二五八
佐伯卯四郎……二五八
佐伯弘雄……二五八
佐々木鹿藏……二五八
佐々木良作……二五八
佐多忠隆……二五九
佐藤清一郎……二五九
佐藤尚武……二五九
佐藤芳男……二五九
佐野廣……二五九
西園寺公一……二五九
西川彌平治……二五九
西郷吉之助……二六〇
齋藤昇……二六〇
齋藤武雄……二六〇
酒井利雄……二六〇
坂本昭……二六〇
境野清雄……二六〇
榊原亨……二六〇
櫻井三郎……二六〇
櫻井志郎……二六一
櫻内辰郎……二六一
櫻内義雄……二六一
迫水久常……二六一
笹森順造……二六一

しの部

清水武夫……二六二
椎井康雄……二六二
塩見俊二……二六二
重成格……二六二
重政庸徳……二六二
重宗雄三……二六三
重盛壽治……二六三
柴田栄……二六三
柴田政次……二六三
柴野和喜夫……二六三
柴谷要……二六三
島清……二六四
島田千壽……二六四
島津忠彦……二六四
島村軍次……二六四
下條恭兵……二六四
下條康麿……二六四
下村定……二六四
宿谷榮一……二六四
城義臣……二六四
白井勇……二六四
白川一雄……二六四
白木義一郎……二六六
白波瀬米吉……二六六
新谷寅三郎……二六六

すの部

須藤五郎……二六七
杉浦武雄……二六七
杉原荒太……二六七
杉山昌作……二六七
鈴木恭一……二六七
鈴木強平……二六七
鈴木憲一……二六八
鈴木順一……二六八
鈴木清一……二六八
鈴木壽一……二六八
鈴木直人……二六八
鈴木強……二六八
鈴木文四郎……二六八
鈴木万平……二六八
鈴木安孝……二六九

せの部

関根久藏……二六九

その部

曽祢益……二六九
相馬助治……二六九

たの部

田方進……二七〇
田上松衛……二七〇
田口政五郎……二七〇
田中啓一……二七〇
田中耕太郎……二七〇
田中茂穂……二七一
田中清一……二七一
田中利勝……二七一
田中信儀……二七一
田中一……二七一
田畑金光……二七一
田村文吉……二七一
伊達源一郎……二七二
高木正夫……二七二
高瀬荘太郎……二七二
高田寛……二七二
高田なほ子……二七二
高野一夫……二七二
高橋啓……二七三
高橋進太郎……二七三
高橋衛……二七三
高橋道男……二七三
高橋龍太郎……二七三
滝井治三郎……二七三
竹腰徳藏……二七三
竹下豐次……二七四
竹中勝男……二七四
竹中七郎……二七四
竹中恒夫……二七四
武内五郎……二七四
館哲二……二七四
棚橋小虎……二七五
谷口慶吉……二七五
玉置弥三郎……二七五
玉屋喜章……二七五
玉柳実……二七五
団伊能……二七五

ちの部

千田正……二七六
千葉千代世……二七六
千葉信……二七六
中馬猪之吉……二七六

つの部

津島壽一……二七六
塚本重藏……二七六
辻武壽……二七七
辻政信……二七七
土田國太郎……二七七
土屋俊三……二七七
常岡一郎……二七七
椿繁夫……二七七
鶴園哲夫……二七八
鶴見祐輔……二七八
手島栄……二七八
出淵勝次……二七八
寺尾博……二七八
寺尾豊……二七八
寺本廣作……二七八
天坊裕彦……二七九
戸叶武……二七九
堂森芳夫……二七九
遠山丙市……二七九
徳川宗敬……二七九
徳川頼貞……二七九
徳永正利……二八〇
殿岡利助……二八〇
苫米地義三……二八〇
苫米地英俊……二八〇
鳥畠徳次郎……二八〇
豐瀬禎一……二八〇
豐田雅孝……二八〇

なの部

中井光次……二八一
中尾辰義……二八一
中川幸平……二八一
中川以良……二八一
中田吉雄……二八二

中西功……二八三
中野重治……二八三
中野文門……二八三
中平常太郎……二八三
中村順造……二八三
中村正雄……二八三
中山壽彦……二八三
中山福藏……二八三
仲子隆一……二八三
仲原善一……二八三
永井純一郎……二八三
永岡光治……二八三
永末英一……二八三
永野護……二八三
長島銀藏……二八三
鍋島直紹……二八四
成田一郎……二八四
成瀬幡治……二八四

に の部

仁田竹一……二八四
丹羽五郎……二八四
西岡ハル……二八五
西川甚五郎……二八五
西田信一……二八五
西田隆男……二八五
西山亀七……二八五

の の部

野上元……二八六
野上進……二八六
野坂参三……二八六
野田卯一……二八六
野田俊作……二八六
野溝勝……二八七
野村吉三郎……二八七
野本品吉……二八七

は の部

羽仁五郎……二八七
羽生三七……二八七
長谷部廣子……二八八
長谷山行毅……二八八
波多野鼎……二八八
波多野林一……二八八
橋上保……二八八
橋本萬右衛門……二八八
服部教一……二八八
濱田寅藏……二八八
早川慎一……二八九
林了治……二八九
林田正治……二八九
林屋亀次郎……二八九
原虎一……二八九
原口忠次郎……二八九
原島宏治……二八九
藤森眞治……二九三
藤原道子……二九三
二見甚郷……二九四

ほ の部

帆足計……二九四
穂積眞六郎……二九四
北條秀一……二九四
北條雋八……二九四
星一……二九四
星野芳樹……二九五
細川嘉六……二九五
堀末治……二九五
堀眞琴……二九五
堀内一雄……二九五
堀木鎌三……二九五
堀越儀郎……二九五
堀本宜実……二九五
本多市郎……二九六

ま の部

前田佳都男……二九六
前田久吉……二九六
前田穣……二九六
前之園喜一郎……二九六
増原惠吉……二九六
町村敬貴……二九七
松井道夫……二九七
松浦定義……二九七
松浦清一……二九七
松岡平市……二九七
松澤兼人……二九七
松澤靖介……二九八
松下松治郎……二九八
松嶋喜作……二九八
松平勇雄……二九八
松平恒雄……二九八
松永忠二……二九八
松永義雄……二九八
松野喜内……二九九
松野孝一……二九九
松野鶴平……二九九
松原一彦……二九九
松村秀逸……二九九
松村眞一郎……二九九
松本治一郎……二九九
松本昇……三〇〇

み の部

三浦辰雄……三〇〇
三浦義男……三〇〇
三木治朗……三〇〇
三木興吉郎……三〇〇
三島通陽……三〇〇
三橋八次郎……三〇一
三好始……三〇一
三好英之……三〇一
三輪貞治……三〇一
水久保甚作……三〇一
水橋藤作……三〇一
溝口三郎……三〇一
溝淵春次……三〇一
光村甚助……三〇二
宮城タマヨ……三〇二
宮澤喜一……三〇二
宮田重文……三〇二
宮本邦彦……三〇三

む の部

武藤常介……三〇三
向井長年……三〇三
村尾重雄……三〇三
村上義一……三〇三
村上春藏……三〇三
村松久義……三〇三
村山道雄……三〇四

も の部

最上英子……三〇四
基政七……三〇四
森元治郎……三〇四
森八三一……三〇四
森崎隆……三〇五
森下政一……三〇五
森田豊壽……三〇五
森田義衛……三〇五
森中守義……三〇五

や の部

八木幸吉……三〇六
八木秀次……三〇六
矢嶋三義……三〇六
矢野酉雄……三〇六
谷村貞治……三〇六
安井謙……三〇六
安田敏雄……三〇七
柳川宗左衛門……三〇七
山県勝見……三〇七
山川良一……三〇七
山口重彦……三〇七
山崎恒……三〇七
山下義信……三〇八
山田佐一……三〇八
山田節男……三〇八
山内卓郎……三〇八
山花秀雄……三〇八
山本伊三郎……三〇八
山本杉……三〇八
山本經勝……三〇九
山本利壽……三〇九
山本勇造……三〇九
山本米治……三〇九
大和与一……三〇九

ゆ の部

油井賢太郎……三一〇
湯澤三千男……三一〇
湯山勇……三一〇
結城安次……三一〇

よ の部

横尾龍……三一〇
横川正市……三一〇
横川信夫……三一〇
横山フク……三一一
吉江勝保……三一一
吉川末次郎……三一一
吉田萬次……三一一
吉田法晴……三一一
吉武惠市……三一一
吉野信次……三一二
吉松喬……三一二
米倉龍也……三一二
米田勲……三一二
米田正文……三一二

わ の部

和田博雄……三一三
若木勝藏……三一三
渡邊甚吉……三一三

議会制度七十年史
貴族院・参議院議員名鑑

昭和三十五年十二月印刷
昭和三十五年十二月発行

編集 衆議院
参議院

印刷 大蔵省印刷局

議会制度七十年史　貴族院・参議院議員名鑑　正誤表

頁	段	行	誤	正
一一六	下	（小泉又次郎議員の項中）	七	（衆）10回（10－19）
一二四	下	（幣原喜重郎議員の項中）	一	1回（23）
一二七	中	（開清英議員の項中）	四	○在任（明39・1－昭2・1）
一三三	上	（湯正雄議員の項中）	七	○当選（衆）6回（13 14 16 17 18 19）
一四五	上	（西尾議員の氏名中）		にし　あまね
一六三	下	（宮田光雄議員の項中）	一	明治11年
一六九	下	（山本條太郎議員の氏名中）		山本條太郎
一七〇	下	（湯地公平議員の氏名中）		湯地幸平
一九三	上	（佐々田懋議員の氏名中）		ささだ　つとむ
二二六	中	（東隆議員の項中）	一一	○当選（衆）1回（23）
二三七	中	（小川久義議員の項中）	八	○当選（参）2回（1補）
二三九	下	（大谷尭潤議員の項中）	一	大正5年
二八五	下	（西田隆男議員の項中）	八	○当選（衆）1回（23）
二九四	下	（星一議員の項中）	五	○当選（参）1回（1）
二九七	下	（松岡平市議員の項中）		○当選（参）1回（3）
二九八	下	（松永義雄議員の項中）	九	4月16日
三〇三	下	（村松久義議員の項中）	一	明治32年
三〇四	中	（最上英子議員の項中）	一一	○当選（衆）2回（21 22）
三〇七	上	（柳川宗左衛門議員の項中）	五	○当選（参）1回（1）
				（衆）12回（10－21）
				2回（23 24）
				○当選（衆）1回（7）在任（衆）（明39・1－昭2・1）
				○当選（衆）7回（13 14 16 17 18 19 20）
				にし　あまね
				明治9年
				山本条太郎
				湯地幸平
				ささだ　すすむ
				○当選（衆）1回（22）
				○当選（参）2回（1 1補）
				大正4年
				○当選（衆）1回（23）
				○当選（衆）4回（10 20 21 22）（参）1回（1）
				○当選（衆）1回（21）（参）1回（3）
				4月14日
				明治31年
				○当選（衆）2回（22 23）
				○当選（衆）1回（21補）（参）1回（1）